

授 業 計 画

平成 29 年 度



福祉学部 福祉心理学科

福 島 学 院 大 学



福島学院大学の教育

I. 建学の精神

本学は学則第1条に、『教育基本法、学校教育法に則り、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づきSincerity（真心）とHospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを目的とする』とうたっています。

「真心」を身につけた学生を育成することが、本学の創立者故菅野慶助先生・菅野八千代先生の建学の理想だったのです。

(1) 真心

真心とはいうまでもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心。」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」、また、「人に対して親切にして欺かぬこと」と記しています。

このように、真心はまず、自己に対していつわりのないこと。すなわち「自らの良心の声に聞いて恥じないこと」を意味しています。

また、他人に対しては、自己に対するいつわりのない心で接し、その人の身になって考える思いやりがあり、他人を決して欺かないことを意味しています。

(2) すべてのすべて

以上のような意味の「真心」こそは、人間の行為のすべてを貫くものでなければならぬのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べているのはこのことを指しています。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。この二つの意味を込めて「すべてのすべて」と言っているのです。

(3) 信念のことは

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それは先ず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは種々です。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求め、さらに、世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

II. 教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

(1) 真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。

真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。

心のこもった対応や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。

(2) 夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。

夢をもって生きること、ロマンを求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。

(3) 的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。

的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。

自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成につとめます。

(4) 国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。

情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを考えることのできる人間の育成につとめます。

(5) 感銘と感動を素直に表現できるひとを育てます。

感銘と感動のある人生ほど素晴らしいものではありません。

一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうした「ひとを育てる教育」でありたいと思います。

こうした学生を育成することを建学の精神として掲げ、本学はこれを学是としています。

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、目標、各回の授業内容、到達目標・評価方法などが記載されています。

また、それぞれの授業の事前・事後の学修についても明記されていますので、予習・復習（授業時間以外の必要な学修時間）を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが、授業を学ぶための基本的な資料になりますので、熟読して自分の履修計画を立ててください。

I. 福祉学部福祉心理学科の教育

1. 入学者受入、教育課程の編成及び学位授与の方針

(1) 入学者受入方針（アドミッションポリシー）

福祉心理学科は、広く社会の福祉に貢献したいと希望する人、なかでも心理的対人援助活動に関心を持つ人を歓迎しています。近年日本でも、生活保護や社会からの孤立、いじめ、虐待、引きこもり、学習障害などが社会問題として注目されています。このような問題に対応するため、社会福祉や精神保健福祉分野に心理的側面からアプローチできる人材のニーズは高まっています。福祉心理学科では、社会福祉と精神保健福祉、臨床心理を学ぶための科目群を用意しており、これらを積極的に学ぶ学生を求めています。

福祉心理学科を希望されるみなさんは、入学前に人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力（「現代文」）を身につけてください。

また、あわせて、新たな知識を獲得するために力となる英語など語学能力を身につける学習をするよう希望します。

(2) 教育課程の編成方法（カリキュラムポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮します。

福祉心理学科の教育課程は、教養教育課程と専門教育課程からなり、さらに各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成しています。

1. 学生・社会人としての基礎教育を重視した教養教育科目と、目標とする専門性に特化した専門教育科目で編成します。
2. 教育課程の編成は、福祉心理という今日の社会福祉領域で、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を育成するため、「専門基礎科目」「心理関連科目」「社会福祉関連科目」の科目群で構成しています。

「福祉」と「心理」の分野から所定の単位を修得することを卒業要件とし、心のケアができる人材を育てる教育課程を編成しています。

(3) 学位授与方針（ディプロマポリシー）

次の要件を全て満たす福祉心理学科の学生について、学長は教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（福祉心理学）」の学位を授与します。

1. 学則に定める年数以上在学した者
2. 所定の授業科目について、次の必要単位を修得した者
教養教育科目/28単位以上
専門教育科目/96単位以上
3. 成績評定平均点（GPA）が70点以上の者
4. 福祉心理学科の教育目的と人材育成の目的に適い、かつ学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有していると福祉心理学科会議で判定された者
5. 所定の学費を納入した者

2. 学生の努力目標

- 本学の学是である“真心こそすべてのすべて”の精神にもとづき、福祉と心理を学ぶ本学の学生としての「真心」と「専門職者意識」を高めるように努めましょう。
- 卒業後の社会生活・職業生活を支える基盤をつくるために、専門的立場から、物事を多角的に判断し、実践できるような教養を身につけましょう。

- 対人援助に必要な知識と技能を身につけるように努めましょう。
- 各種のボランティア活動を体験し、他者理解や対人援助について能動的に考え、自らの福祉に関する興味関心を深めましょう。
- 授業のなかで、実際に福祉・心理の現場で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘します。教科書だけでは学ぶことのできない生きた知識を吸収し、さらに積極的な姿勢で自分の問題意識を高めましょう。
- 実習後には、事後指導の一環として、実習事後指導(実習反省会)を実施します。自分が体験したことをまとめて人に伝えることは、さらなる気付きのきっかけとなります。また、後輩の実習意欲を喚起する役割も兼ねていますので頑張って取り組みましょう。
- 大学開講科目で学ぶ基礎知識をさらに専門的な知識・技術として習得するために大学が地域貢献として開催するセミナーなどへの参加に努めましょう。
- 福祉・心理は人や社会と切り離しては考えられない学問です。常に地域社会の現状に関心を持ち、将来、地域社会と連携して活躍できる専門家を目指して日々の授業や課題に取り組ましましょう。

II . 教育課程と履修の方法

1. 教育課程 (カリキュラム)

(1) 基本的な考え方

開講される授業は「教育課程表」のとおりです。

教育課程(カリキュラム)は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。

そして科目ごとに、授業の方法(講義・演習・実習)、履修できる学年、科目の種類(必修・選択)単位数が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修にはいくつかの約束事もありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目(授業)を受講して、学期末の試験(筆記試験、レポート試験等)に合格すると「単位」が認定されます。「単位」については、下記に取り上げていますが、卒業や資格取得への目安になる「数」を示します。

(2) 履修方法

4年間で学ぶ全ての授業科目は、教育課程にまとめられています。この中から卒業および資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する科目を決めていきます。

(3) 科目の種類

科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

卒業までに必ず取得しなければならないのが「必修科目」であり、どちらかを選択して必ず取得しなければならないのが、「選択必修科目」です。それ以外の科目が「選択科目」となっています。

「必修科目」と「選択必修科目」は皆さんが、取得する必要がある科目であり、この科目が卒業時までにも一つでも取得できていなければ、卒業することができません。

(4) 単位

大学では、皆さんが自分で履修した科目で、試験などに合格すると「その科目の単位」が与えられます。

単位は「ポイント数」だと理解してください。単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて学則に定められており、次の基準により計算します。

①講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

②実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

(5) 卒業に必要な単位数

「単位」は決められただけの数を取っていないと卒業できません。

福祉心理学科の「卒業に必要な単位数」は、次の通りです。

最低必要単位数					
科目別	必修		選択必修	選択	卒業
教養教育科目	15単位		7単位(情報機器操作 I 履修者は9単位)	6単位以上(情報機器操作 I 履修者は4単位)	28単位以上
専門教育科目	心理系(P系) 8単位	福祉系(W系) 10単位		78単位以上(うち、P系科目22単位以上、W系科目20単位以上を含む)	96単位以上
合 計					124単位以上

(6)科目ごとの授業期間

授業期間は、「通年科目」と「半期科目」があり、科目ごとに定められています。

「通年科目」とは、1年間を通じて授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2.履修の方法

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず提出してください。大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修登録を完了しなければなりません。

履修届の記入方法、その他の注意事項等は、入学前オリエンテーションで説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修することができません。また、教員や教務課員が早く出すよう一人ひとりに指示をしたりはしません。全て自分の責任で届出を行い、履修登録を完了させるようにしてください。

3.履修の制限

履修には制限のある場合があります。

(1) 履修科目の制限 福島学院大学履修規定第16条

実習に出るためには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとり取っておくことが大切です。1、2年次の必修科目を落としてしまうと、3、4年次で実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

(2) 履修科目登録の上限 福島学院大学学則第34条

取得しようとする1年間の単位数は、資格取得に必要な単位数や一人ひとりの能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり授業科目を適切に履修するため、1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位としています。

4.国家資格・認定資格の取得

福祉心理学科において指定された単位を取得すると、次の資格が取得できます。

詳しくは、資格取得の方法をよく読んでください。

- (1)社会福祉士(国家試験受験資格)
- (2)精神保健福祉士(国家試験受験資格)
- (3)社会福祉主事任用資格
- (4)認定心理士

Ⅲ.科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数え、授業時間は1コマ90分です。

福島駅前キャンパス授業時間割

時 限	1	2	昼休み	3	4	5
時 間	9:40～11:10	11:20～12:50	12:50～13:40	13:40～15:10	15:20～16:50	17:00～18:30

宮代キャンパス授業時間割

時 限	1	2	昼休み	3	4	5
時 間	8:50～10:20	10:30～12:00	12:00～12:50	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

2. 成績評価と単位認定

本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をともに、本学独自のGPA (Grade Point Average:成績評定平均点)を算出する方法を取っています。

(1) 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。

成績は6段階となっており、評価点ごとのグレードは次の通りとなっています。

A+ (100～90点)	A (89～80点)	B (79～70点)
C (69～60点)	D (59～50点)	F (50点未満)

※GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

(2) 本学独自のGPAの算出方法は、単位取得科目の成績評価点(素点)に単位数を掛けた数値を全単位取得科目について合計し、さらにそれを総取得単位数で割った点数です。合格した科目の1単位当たりの平均点となります。不合格科目は計算に入れません。また、検定試験等により単位認定を受けた科目も計算外となります。

(3) 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件をそなえた者に対して行います。

※詳しくは、福島学院大学履修規定第9条をご覧ください。

①履修届を提出し、履修確認手続(本人が履修確認を行い、署名した「履修科目確認表」を教務課に提出)が完了した者。

②通常の授業科目については、必要な時数として定められた時数の3分の2以上出席した者。

・定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして、単位認定は行われず「欠格」となります。実習や病気などのやむを得ない場合を除き、欠席はしないようにしてください。

(遅刻や早退については、30分以上を欠席とし、30分未満の場合は、3回で1回の欠席とみなされますので、欠席回数を計算するときは、これを加えることも忘れないでください)

③学外実習を伴う実習科目(海外における演習科目を含む)については、事前・事後指導時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習について定められた全ての日数および時数を出席した者。ただし、現地実習において病気、忌引等ややむを得ない事情により欠席した場合は、実習期間の延長が可能な場合について、当該欠席日数分を延長して補充することができます。

・5分の1を超える時数を欠席した場合、および当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。また、海外研修における現地研修についても、5分の1を超える時数を欠席した場合、当該科目は「欠格」となります。

④授業科目における試験等の結果を総合判定して学習成績の評価が60点以上の者。

⑤所定の学費等を納入した者。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

補足的な措置として、次のような例があげられます。詳しくはp.3をよく読んでください。

1. 授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

・注意1回につき1点減点

※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置が取られます。

2. 遅刻・早退・欠席

・遅刻・早退1回につき1点減点 ・欠席1回につき3点減点

※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書(書式自由)で提出してください。

①学内外における本学所定の実習を実施する場合

②学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合

③裁判員制度による裁判員に選任された場合

④就職試験(面接を含む)を受験する場合

⑤公共交通機関の遅延や運休による場合

⑥悪天候または事故等により、やむを得ない場合

⑦親族の不幸等やむを得ない場合

3.欠格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、上記の2.①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は、「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- ①コート類、小物類(マフラー、帽子等)着用の教室入室、及び受講
- ②授業の進行を妨げるような私語
- ③携帯電話等の送信や受信
- ④飲食や喫煙行為
- ⑤授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- ⑥授業に関係のない荷物(バッグ・紙袋など)を机の上に置くこと
- ⑦授業中の教室への無断入退室

3.文章演習

2年次の文章演習は指定者必修科目です。1年次に履修する国語表現の成績が69点以下だった学生は必ず履修してください。この単位は、教養教育科目の選択の単位に含みます。

4.科目「情報機器操作」

情報機器操作はⅠ～Ⅱまであり、入学時の能力検定により履修レベルを決定します。

科目名	レベル	開講年次	単位
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	2単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1・2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としますが、初級レベルの情報操作機器Ⅰの履修者は、中級レベルの情報操作機器Ⅱまで計4単位以上を必修とします。

- ・1年次に初級レベルである「情報機器操作Ⅰ」を指定された人
「情報機器操作Ⅰ」を履修して2単位を取得した後、「情報機器操作Ⅱ」も履修して2単位を取得してください。
この4単位は教養教育科目の選択必修科目の単位に入ります。
- ・1年次に中級レベルの「情報機器操作Ⅱ」を指定された人
「情報機器操作Ⅱ」の2単位を取得してください。
※「情報機器操作Ⅲ」は平成27年度までです。

Ⅳ.資格取得の方法

1.社会福祉士

(1)社会福祉士とは

社会福祉士とは、昭和62年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく国家資格であり、平成19年12月「社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律」の改正により、「社会福祉士及び介護福祉士法」が改正されました。社会福祉士制度の施行から現在に至るまでの間に、介護保険制度の施行等による措置制度から契約制度への転換など、社会福祉士を取り巻く状況は大きく変化しており、今後の社会福祉士に求められる役割としては、①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割、②利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割、③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割、これらを適切に果たしていくことが求められています。

この社会福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るためには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

社会福祉士及び介護福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は26科目履修する必要があります。

「◎」のついた2科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法律では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

「A2」のついた科目について、法律では「3科目のうち1科目を履修する」となっていますので、「A2」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

社会福祉士 指定科目表

法令指定科目	本学開講科目	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	医学一般	A1	1・2	4
心理学理論と心理的支援	心理学	◎ A1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A1	3・4	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
社会調査の基礎	社会調査法	○	3	2
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職	○	2	4
相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	○	3	4
	社会福祉援助技術論Ⅱ	○	4	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	3・4	2
	コミュニティソーシャルワーク	○	3・4	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3・4	2
福祉サービスの組織と経営	社会福祉運営管理	○	3・4	2
社会保障	社会保障	○	2	4
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者に対する支援と介護保険制度	○	1・2	4
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3・4	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3・4	2
就労支援サービス	就労支援	A2	3・4	1
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	A2	3・4	2
更生保護制度	更生保護制度	A2	3・4	1
相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	○	2	1
	相談援助演習Ⅱ	○	3	2
	相談援助演習Ⅲ	○	4	2
相談援助実習指導	相談援助実習指導	○	3・4	3
相談援助実習	相談援助実習	○	3・4	4

(3) 科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」

①科目の内容

「相談援助実習」は、社会福祉士の受験資格のため「180時間以上」の配属実習を学外(集中)で行うものです。これまで学んできた社会福祉援助に関する倫理、専門知識や専門技術について自らの体験を通じて主体的に学び、社会福祉専門職として基本的な態度を学びます。

「相談援助実習指導」では、年間45コマ(前期30コマ、後期15コマ)の授業を開講し、前期(実習事前学習)は、実習の意義と目的を学び、実習施設の理解を深めるとともに、実習に向けての「実習計画書」の作成を行います。後期(実習事後学習)は、「実習日誌」「実習全体のまとめ」から実習を振り返り、実習報告書の作成と実習反省会での発表を行います。

②履修制限

a. 福島学院大学履修規程第16条のとおり、「相談援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。

b. 「相談援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

※3年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、2年次末までに単位を取得する必要のある科目は次の9科目です。

①「医学一般」 ②「心理学」 ③「社会福祉原論」 ④「相談援助の基盤と専門職」

⑤「社会保障」 ⑥「高齢者に対する支援と介護保険制度」

⑦「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」 ⑧「児童・家庭福祉」 ⑨「相談援助演習Ⅰ」

※4年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、3年次末までに単位を取得する必要のある科目は上記9科目を含む、次の3科目です。

①「社会福祉援助技術論Ⅰ」 ②「社会調査法」 ③「相談援助演習Ⅱ」

c. 履修制限の解除

履修規程第17条のとおり、第16条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次のいずれかに該当する場合には、次の学期以降に「相談援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPA70点以上になったとき

2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

2. 精神保健福祉士

(1) 精神保健福祉士とは

平成9年(1997年)に制定された「精神保健福祉士法」に基づく国家資格です。精神保健福祉士法が改正され、平成24年4月から新カリキュラムが施行されています。

精神保健福祉士の仕事の内容は、精神障がい者の退院促進を支援し、精神障がい者が地域でその人らしく生きるための生活課題に取り組み地域生活の維持・継続ができるよう相談援助を行う仕事です。また、国民の心の健康と心にやさしい環境づくりにも取り組みます。

この精神保健福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るためには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

精神保健福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は24科目履修する必要があります。

「◎」のついた3科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法令では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

精神保健福祉士 指定科目表

指定科目等の名称	開講科目の名称	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	医学一般	A1	1・2	4
心理学理論と心理的支援	心理学	◎A1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A1	3・4	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	3・4	2
	コミュニティーソーシャルワーク	○	3・4	2
社会保障	社会保障	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3・4	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3・4	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3・4	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	○	3・4	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
精神疾患とその治療	精神医学	◎	1・2	4
精神保健の課題と支援	精神保健学	○	1・2	4
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	○	2	2
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	○	2	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	○	3・4	4
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	○	3・4	4
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	○	2	4
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	○	2	2
精神保健福祉援助演習（基礎）	精神保健福祉援助演習（基礎）	○	2	1
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習（専門）	○	3	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導	○	4	3
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	○	4	5

(3) 科目「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」

①科目の内容

「精神保健福祉援助実習指導」では、年間45コマの授業があります。前期の実習事前指導30コマは、当事者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術などの専門的援助技術を学ぶとともに、専門職としての自覚に基づいた行動ができるよう学習を行います。後期の実習事後指導15コマは、実習の振り返りを個別やグループで行い、実習事後指導（実習反省会）で発表し、それらを報告書にまとめます。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「精神保健福祉援助実習」（210時間、27日以上）では、①90時間以上の医療保健福祉関係機関での実習が法律上必修になっています。②また医療機関の他に必ず福祉サービス事業施設等での現場実習を行う必要があります。現場実習を通して精神保健福祉士の役割と業務の理解や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びます。

②履修制限

- a. 福島学院大学履修規程第16条のとおり「精神保健福祉援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。
- b. 「精神保健福祉援助実習」を履修する前までに履修する必要がある科目の単位が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

※3年次末（実習を履修する前年度末）までに単位取得する必要がある科目は次の12科目です。

- ①「医学一般」 ②「心理学」 ③「社会福祉原論」 ④「社会保障」 ⑤「精神医学」
- ⑥「精神保健学」 ⑦「精神保健福祉に関する制度とサービス」 ⑧「精神障害者の生活支援システム」
- ⑨「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」 ⑩「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」
- ⑪「精神保健福祉援助演習（基礎）」 ⑫「精神保健福祉援助演習（専門）」

c. 履修制限の解除

履修規程第17条のとおり、第16条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次のいずれかに該当する場合には、次の学期以降に「精神保健福祉援助実習」の履修制限が解除されます。

1.GPAが70点以上になったとき

2.当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

3. 社会福祉主事任用資格

(1) 社会福祉主事とは

「社会福祉主事」とは社会福祉法第19条に認定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。

つまり卒業して地方公務員試験を受けて地方自治体職員に採用され、福祉事務所に配属になったときに初めて名乗れる資格といえます。

しかし一般的に社会福祉の領域では、「社会福祉に関する業務を行うのに、最低限必要な資格」と位置づけられています。卒業後に社会福祉施設などで働く者にとって、最低限必要な資格といえるでしょう。

(2) 指定科目

社会福祉法では指定科目を34科目規定しており、「指定科目を3科目以上履修した者」は、その単位が認定されれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」が与えられます。

本学では必修科目である「社会福祉原論」「心理学」「精神医学」が指定科目ですので、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」を有することになります。

※「社会福祉主事任用資格」は大学で付与する資格ではありません。資格を有することについては、本学の卒業証明書と成績証明書の2点をもって証明できます。

4. 認定心理士

(1) 認定心理士とは

認定心理士(日本心理学会認定心理士)とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な、「最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と日本心理学会が認定した者のことです。

つまり、学会が認定している「認定資格」と呼ばれるもので、国家資格ではありません。心理学を専門に学ぶ者が、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性を向上していくために作られた制度です。

認定心理士の資格を取得するためには、定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して、卒業しなければなりません。この条件を満たして初めて、資格認定の申請を行うことができます。

申請後、資格認定委員会の審査を経て認められた場合、「認定心理士」の資格を取得することができます。

(2) 指定科目

認定心理士の資格を取得するには、日本心理学会が定める「指定科目」を履修し、36単位以上修得することが必要です。「指定科目」は基礎科目と選択科目に分かれています。

基礎科目はさらにA・B・Cの3領域に分かれ、それぞれの領域から3単位以上、合わせて12単位以上修得する必要があります。

また選択科目はDからHまでの5領域に分かれています。そのうち3領域以上から各3単位以上修得し、合わせて16単位以上修得しなければなりません。残りの8単位はA～Hの領域にある残りの科目から任意に選択して履修することとなります。

これらの「指定科目」を本学のカリキュラムにあてはめたのが次の表です。「認定心理士」の資格を取得したい学生は、この表を参考に履修科目を決めてください。

認定心理士 指定科目表

	領域	本学授業科目	必修	単位	標準履修年次	履修方法
基礎科目	A	心理学	◎	4	1	I 基礎科目 基礎科目にある5科目は全て修得すること。
	B	心理学研究法	○	2	3・4	
		心理統計学	○	2	3・4	
	C	心理学実験	○	2	3・4	
心理診断法実習		○	2	3・4		
選択科目	D	認知心理学	☆	4	3・4	II 選択必修科目及び選択科目 ①◎と○は必ず修得する。 ②☆から必ず4単位修得する。 ③その他の科目から12単位以上修得する。
	E	(該当科目なし)				
	F	発達心理学	◎	4	1	
		子どもの心理		2	2	
		青年の心理		2	3・4	
	G	臨床心理学	○	4	2	
		カウンセリング概論		4	2	
		人格心理学		4	3・4	
		カウンセリング演習		2	3・4	
	H	社会心理学	☆	4	3・4	
職場の心理			2	3・4		

※基礎科目と選択科目の合計単位数が36単位以上になること。

※H26年度以前の入学生に対し開講されている「障害者への心理援助」は選択科目Gです。

平成29年度 福祉学部福祉心理学科授業計画 目次

平成29年度 福祉学部福祉心理学科 授業計画のみかた	1
成績評価への補足的対応措置	3
教育課程表 H28・H29年度入学生用	4
" H27年度入学生用	8
" H26年度入学生用	12
単位互換科目	18

教養教育科目

本学の教育	小松由美／遠藤貞子	19
国語表現	佐藤晴雄	22
文章演習	佐藤晴雄	26
会話演習	藤間久子	28
情報機器操作Ⅰ	河野 毅	30
情報機器操作Ⅱ(1年次向け)	河野 毅	33
情報機器操作Ⅱ	菅井道子	36
情報機器操作Ⅲ	鈴木忠雄	39
生活教養	遠藤貞子	42
生活教養Ⅱ	遠藤貞子	45
地域ボランティア活動	遠藤寿海／日下輝美	48
地域振興活動	遠藤寿海／日下輝美	50
音楽演習	ブルース・ヒューバナー	52
美術演習	古畑雅規	55
心理学	内藤哲雄	58
法学	中里 真	61
社会学	高橋嘉代	63
女性と保健	織田正昭	65
食生活と健康	井間真理子	68
英語リーディング	高橋了治	71
英会話Ⅰ	ブルース・ヒューバナー	74
英会話Ⅱ	ロナルド・ブレント・スコット	78
中国語会話Ⅰ	呂 学如	81
中国語会話Ⅱ	呂 学如	84
国際理解論	中里明彦	87
国際理解演習(シンガポール)	中丸一志／呂 学如	89
国際理解演習(バリ島)	佐藤敦子	91
体育実技Ⅰ	藤本 要／島田貴広	94
バレーボールⅡ	島田貴広	97
ボディ・コンディショニングⅡ	島田貴広	99

専門教育科目

福祉心理学	星野仁彦／千葉喜弘	101
発達心理学	西村 學	104
臨床心理学	渡部敦子	107
社会福祉原論	齊籐隆之	110
福祉キャリア研究	藤原正子／杉山雅彦／日下輝美／黒津康司／北本明日香／遠藤 潔	112
コミュニケーション演習	渡部敦子／木村泰博	114
医学一般	茂木積雄	117
精神医学	星野仁彦	120
精神薬理学	茂木積雄	122
心理学研究法	阿部恒之	125
人格心理学	田辺 稔	127
認知心理学	和田裕一	131
子どもの心理	渡部敦子	134
青年の心理	渡部敦子	136
老いの心理	岩佐 一	138
職場の心理	内藤哲雄	140
心理診断法	木村泰博	142
心理診断法実習	木村泰博	144
心理統計学	和田裕一	146
カウンセリング概論	杉山雅彦	148

カウンセリング演習	杉山雅彦	151
心理学実験	梅宮れいか	154
社会心理学	内藤哲雄	157
障害児・者への心理援助	佐藤佑貴	160
障害児への心理援助	板垣健太郎	163
障害者への心理援助	板垣健太郎	165
犯罪行動と心理	黒津康司	167
犯罪行動と心理演習	黒津康司	169
映画・ドラマにみる行動と心理分析	岸 良範	173
癒しと心	梅宮れいか	175
育児ストレス	織田正昭	177
心理療法	星野仁彦	179
医療福祉論	本田ルミ子	181
社会調査法	高橋嘉代	183
相談援助の基盤と専門職	島野光正	185
社会福祉援助技術論Ⅰ	齊藤隆之	189
社会福祉援助技術論Ⅱ	本田ルミ子	192
地域福祉論	日下輝美	194
コミュニティーソーシャルワーク	日下輝美	197
福祉行財政と福祉計画	日下輝美	199
社会福祉運営管理	山村達夫	202
社会保障	森田慎二郎	204
高齢者に対する支援と介護保険制度	遠藤寿海	207
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	齊藤隆之	210
児童・家庭福祉	加藤とよ	212
低所得者に対する支援と生活保護制度	小淵高志	215
保健医療サービス	本田ルミ子	218
就労支援	三浦 剛	220
権利擁護と成年後見制度	富田 哲	222
更生保護制度	新村繁文	224
相談援助演習Ⅰ	舟山信悟	226
相談援助演習Ⅱ	遠藤寿海／日下輝美	229
相談援助演習Ⅲ	遠藤寿海	233
相談援助実習指導	遠藤寿海／日下輝美	237
相談援助実習	遠藤寿海／日下輝美	241
精神保健学	星野仁彦	243
精神保健福祉に関する制度とサービス	北本明日香	245
精神障害者の生活支援システム	藤原正子	248
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	藤原正子	250
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	北本明日香	252
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	北本明日香	254
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	藤原正子	257
精神保健福祉援助演習(基礎)	藤原正子／北本明日香	260
精神保健福祉援助演習(専門)	藤原正子／北本明日香	262
精神保健福祉援助実習指導	藤原正子／北本明日香	265
精神保健福祉援助実習	藤原正子／北本明日香	269
母子保健Ⅰ	織田正昭	272
母子保健Ⅱ	織田正昭	274
福祉住環境演習	中丸一志	277
保育相談支援	野崎美紀子	280
施設防犯防災対策	山村 達夫	282
施設実習Ⅱ	遠藤寿海	284
特別研究Ⅰ「ソーシャルワーク研究」	遠藤寿海	286
特別研究「ソーシャルワーク研究」	遠藤寿海	289
特別研究「臨床心理学研究」	杉山雅彦／木村泰博	292
特別研究Ⅰ／特別研究「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」	藤原正子	294
特別研究Ⅰ／特別研究(バリ島)	佐藤敦子	297
特別研究Ⅰ／特別研究(シンガポール)	中丸一志／呂 学如	300
平成29年度福祉学部福祉心理学科前期学事・行事日程		302
平成29年度福祉学部福祉心理学科後期学事・行事日程		303

平成29年度 福祉学部福祉心理学科 シラバス 授業計画のみかた

この授業計画は、福祉心理学科で学ぶ全学生のために作成されています。構成は教育課程表と各授業の内容とになっています。まずは教育課程表にきちんと目を通し、とらなければならない「必修」科目を確認しましょう。次に興味をかき立てられる授業を探します。どのような授業が開かれ、どのような内容で勉強するのかを知るために、この授業計画を使います。
 ＊注意 教育課程表は「入学年度別」に3種類あります。まずは自分の入学年度を確認してください。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

授 業 科 目 名	①	授業形態・単位数	②	・ 単位
		開 講 年 次	③	年次
担 当 教 員	職名:	開 講 期	④	
	氏名:	授 業 回 数	⑤	回
	本務先: 職名:	期 末 試 験 の 有 無	⑥	
開講キャンパス	⑧	授業時間以外の必要な学修時間	⑦	
オフィスアワー・メールアドレス等	⑩			
卒業・資格・免許 ⑨	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		

- ①「科目名」 教育課程表に基づく科目の名称です。
- ②「授業形態・単位数」 「講義」「演習」「実習」「実技」があります。取得できる単位数が記入されています。
- ③「開講年次」 教育課程表の標準履修年次が書かれています。
- ④「開講期」 「前期」「後期」「通年」「集中」「時間割外」があります。
- ⑤「授業回数」
- ⑥「期末試験の有無」
- ⑦「授業時間以外の必要な学修時間」
- ⑧「開講キャンパス」 授業は基本的に、福島駅前キャンパスにて開講されますが、一部宮代キャンパス開講のものがあります。
- ⑨「卒業要件資格指定科目」
 - ・ 卒業：卒業に「必修」か「選択必修」かが記載されています。
 - ・ 資格：資格取得のための指定内容が書かれています。目指す資格を取得するために、その科目が「必修」なのか、「選択必修」なのかをきちんと確認の上、履修するようにしてください。
- ⑩「オフィスアワー・メールアドレス等」 授業外の学生の質問受け付け方法等が書かれています。
- ⑪「授業の概要」 授業で取り上げる内容のあらましや考え方が記されています。
- ⑫「授業の概要との対応項目」 授業の概要に対応して本科目を受講することによりどのような知識や理解に結びつくのか、A～Lに該当する項目に○がついています。

A	知識	内容について知ること、理解すること
B	技術・技能	物事を巧みに(能率的に)行うわざ、それを巧みに(見事に)してのけることができる
C	論理的思考力	理路整然とした論理構成で話すこと、書くことができる力
D	文章表現力	まとまった考え・感情を洗練された文章や言葉選びで豊かに表現することができる力
E	表情及び身体表現力	自分の内面から出る豊かな表情と動作で表すことができる力
F	感性及び感動表現力	与えられた情報を様々な角度から捉え、自分の心で深く考え、心で感じて表すことができる力
G	協働能力	主体性を持って多様な人々と関わり、協働することができる力
H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	真実、誠意ある心、純粹に親切な心から現し出すことができる力、夢の実現に向かって努力することができる力
I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	進んで発言し、発言によって誰かに何かを伝え、納得させる力
J	多様性への理解力、応用力	色々なことを考えながら、知識を生かし、実際の事柄にあてはめて利用することができる力
K	課題対処力	与えられる主題や解決しなければならない問題に対し、適切な対応・処置をとることができる力
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	人間関係を円滑にし、構築できる力、人との対話ができる力

- ⑬「授業の到達目標」 この授業を受けることでどのような力が身につくのか、授業の具体的な到達目標が書かれています。
- ⑭「授業の概要・到達目標との対応項目」 受講することによりどのような力が得られるのか到達目標A～Lの対応項目が示されています。

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
⑮	⑯	⑰	⑱

内容の欄には、⑮各回に、⑯どんな内容を、⑰どのような方法で授業が実施されるかが明示されています。その授業を的確に理解するための予習復習や授業時間以外での学修が⑱に記載されています。

なお、授業計画については、授業の進度などによって多少の変更や回の入替えが生じる場合があります。

到達度の評価 評価をする観点とその比重が明示されています。
詳しくは次頁の「成績評価への補足的対応措置」を確認してください。

教科書 授業の指定教科書が明示されています。指定の販売日に必ず購入してください。

参考書 授業をよりよく、そしてより深く理解するために、是非読んでほしい文献や、手引き書などが書かれています。購入の義務はありませんが、勉強する上で参考にする価値がある文献です。

その他の補足事項 履修する上で必要なことが記載されています。

成績評価への補足的対応措置

成績評価において、遅刻、早退、欠席、および授業中の態度等に関わる減点については、次の事項をご参照ください。

1. 授業内容に関係のない私語、もしくは授業の流れを阻害する学生の私語
注意学生1回につき1点減点、同一学生の注意が3回以降は1回につき2点減点とする。ただし、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置をとるものとする。
2. 遅刻・早退・欠席
遅刻・早退1回につき1点減点、欠席1回につき3点減点とする。
ただし、遅刻・早退3回で1回の欠席とされた者の場合は、その欠席とした分については減点しない。
ただし、次の場合の遅刻または欠席は減点の対象とはしない。なお、該当学生は該当項について「事由書」を文書(書式自由)で、事前に判明した場合は事前に、当該授業後の場合は事後に各授業担当教員に提出するものとする。
 - ①学内外における本学所定の実習に参加する場合
 - ②学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
 - ③裁判員制度による裁判員に選任された場合
 - ④就職試験や面接を受験する場合
 - ⑤公共交通機関の遅延や運休による場合
 - ⑥悪天候または事故等によりやむを得ない場合
 - ⑦親族の不幸等やむを得ない場合
3. 欠格
定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、前号①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席を認めず、単位認定は行わないものとする。
4. 質問応答
指名応答
指名した学生が質問に適切に回答したと認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～2点加点とする。質問に不適切な回答をしたと認めるとき、または質問に答えられなかったとき、1回につき1点減点とする。
自発的応答
教員の質問に対して自ら挙手するなど学生が自発的に適切に回答したと教員が認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～3点加点とする。また、学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、教員の質問に対し学生が自発的応答を1回もしなかったとき、5点減点とする。
5. 小論文(宿題)
未提出の小論文1件につき2点減点とする。また、教員が小論文を優良と評価したとき、小論文1件につき内容の優良さに応じ1～3点加点とする。
6. 小テスト
授業の理解度を計る小テストについて教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点加点とする。
7. 期末試験としてのレポート提出を課す場合
レポートは原則として試験期間開始前に提出させるものとし、教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は期限後1日(土曜、日曜、祝日を含む。)あたり2点減点とし、また、提出がない場合のレポート評価は零点とする。教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点するものとする。字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様とする。

H28・H29年度 入学生用

福祉学部福祉心理学科 教育課程表

授業科目		科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士	精神保健福祉士	認定心理士	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考	
					必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	通年	半期					
教育方針 表現方向上分野 情報教育分野 人間関係分野 人文社会及び健康教育分野 国際理解分野 体育実技分野 専門教育科目(必修18単位を含む96単位以上履修)	本学の教育		講義	1	2						○		15			
	国語表現		講義/演習	1	4					○			30			
	文章演習		演習	2		1					○		15		指定者必修	
	情報機器操作Ⅰ		演習	1	2単位以上選択必修	2					○			30		備考A
	情報機器操作Ⅱ		演習	1・2		2					○			30		
	生活教養		講義/演習	1	2							○		15		
	生活教養Ⅱ		講義/演習	3・4		2							○	15		
	地域ボランティア活動		実習	1・2 3・4	1単位以上選択必修	1						時間割外	45時間		認定	
	地域振興活動		実習	1・2 3・4		1							時間割外	45時間		認定
	音楽演習		演習	1・2		2					○			30		
	美術演習		演習	1・2		2					○			30		
	心理学		講義	1	4		A	A	基礎A		○			30		
	法学		講義	3・4		2						○		15		
	社会学		講義	3・4		2	A1	A1				○		15		
	女性と保健		講義	1・2		2						○		15		
	食生活と健康		講義	1・2		2						○		15		
	英会話Ⅰ		演習	1・2	2科目4単位以上必修	2					○			30		
	英会話Ⅱ		演習	2		2					○			30		
	中国語会話Ⅰ		演習	1・2		2					○			30		
	中国語会話Ⅱ		演習	2		2					○			30		
	国際理解論		講義	1	2							○		15		
国際理解演習		演習	1・2 3・4		2						時間割外			認定		
体育実技Ⅰ		実習	1・2	1							○		23			
体育実技Ⅱ		実習	2		1						○		23			
福祉心理学	P	講義	3	4						○			30			
発達心理学	P	講義	1	4				選択F		○			30			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択				通年	半期					
専門基礎科目 (P系およびW系科目)	臨床心理学	P	講義	2		4			選択G	○		30			
	社会福祉原論	W	講義	2	4		◎	◎		○		30			
	福祉キャリア研究	W	演習	2	2					○		15	認定		
	コミュニケーション演習	P	演習	1・2		4				○		30			
	社会的養護	W	講義	1		2					○	15			
	医学一般	W	講義	1・2		4	A1	A1		○		30			
	精神医学	W	講義	1・2	4			◎		○		30			
専門教育科目 (必修18単位を含め96単位以上履修)	心理関連科目 (P系科目)	心理学研究法	P	演習	3・4		2			基礎B	○		30		
		人格心理学	P	講義	3・4		4			選択G	○		30		
		認知心理学	P	講義	3・4		4			選択D	○		30		
		子どもの心理	P	講義	2		2			選択F		○	15		
		青年の心理	P	講義	3・4		2			選択F		○	15		
		老いの心理	P	講義	2		2					○	15		
		職場の心理	P	講義	3・4		2			選択H		○	15		
		心理診断法実習	P	実習	3・4		2			基礎C	○		30		
		心理統計学	P	講義	3・4		2			基礎B		○	15		
		カウンセリング概論	P	講義	2		4			選択G	○		30		
	カウンセリング演習	P	演習	3・4		2			選択G	○		30			
	心理学実験	P	実習	3・4		2			基礎C	○	60時間	30			
	社会心理学	P	講義	3・4		4			選択H	○		30			
	障害児・者への心理援助	P	講義	3・4		2					○	15			
	犯罪行動と心理	P	講義	1		2					○	15			
	犯罪行動と心理演習	P	演習	2		2				○		30			
	癒しと心	P	講義	3・4		2					○	15			
	育児ストレス	P	講義	1・2		2					○	15			
	心理療法	P	講義	2		2					○	15			
	社会福祉関連科目 (W系科目)	医療福祉論	W	講義	3・4		2				○		15		
社会調査法		W	講義	3		2	◎			○		15			
相談援助の基盤と専門職		W	講義	2		4	◎			○		30			
社会福祉援助技術論Ⅰ		W	講義	3		4	◎			○		30			
社会福祉援助技術論Ⅱ		W	講義	4		4	◎			○		30			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
地域福祉論	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
コミュニティー ソーシャルワーク	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
福祉行財政 と福祉計画	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
社会福祉 運営管理	W	講義	3・4		2	◎				○		15		
社会保障	W	講義	2		4	◎	◎		○			30		
高齢者に対する支援 と介護保険制度	W	講義	1・2		4	◎			○			30		
障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	W	講義	2		2	◎	◎			○		15		
児童・家庭 福祉	W	講義	2		4	◎			○			30		
低所得者に対する 支援と生活保護制度	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
保健医療 サービス	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
就労支援	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
権利擁護と 成年後見制度	W	講義	3・4		2	A2	◎			○		15		
更生保護制度	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
相談援助演習Ⅰ	W	演習	2		1	◎				○		15		
相談援助演習Ⅱ	W	演習	3		2	◎			○			30		
相談援助演習Ⅲ	W	演習	4		2	◎			○			30		
相談援助実習指導	W	演習	3・4		3	◎			○			45		
相談援助実習	W	実習	3・4		4	◎				時間割外	180時間以上			
精神保健学	W	講義	1・2		4		◎		○			30		
精神保健福祉に関する 制度とサービス	W	講義	2		4		◎		○			30		
精神障害者の生活 支援システム	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉 援助演習(基礎)	W	演習	2		1		◎			○		15		
精神保健福祉 援助演習(専門)	W	演習	3		2		◎		○			30		
精神保健福祉 援助実習指導	W	演習	4		3		◎		○			45		
精神保健福祉 援助実習	W	実習	4		5		◎			時間割外	210時間以上			
母子保健Ⅰ	—	講義	1・2		2					○		15		
母子保健Ⅱ	—	講義	1・2		2					○		15		

専門教育科目(必修18単位を含め96単位以上履修)
 社会福祉関連科目(W系科目)

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
<small>上記の専門的基礎的単位の修得を目的とする科目</small> 系連科目(福祉系)へW関	福祉住環境演習	W	演習	3・4		2				○		30		
	特別研究Ⅰ	—	演習	3・4		2				○		30		
	特別研究Ⅱ	—	演習	4		2				○		30		

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」について、入学時の能力検査により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としていますが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とします。
- ④ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。
- ⑤ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」(Aは本学では必修科目です)のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら3科目全てについて試験が実施されますので、3科目全て履修することが望まれます。
- ⑥ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Hは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

上記の⑤～⑥についての詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	28単位以上	必修	15単位	合計124単位以上
		選択必修	7単位 (情報機器操作Ⅰ履修者は9単位)	
		選択	6単位以上 (情報機器操作Ⅰ履修者は4単位)	
専門教育科目	96単位以上	必修	心理系 (P系) 8単位	
			福祉系 (W系) 10単位	
		選択	78単位以上 (うちP系科目22単位以上、W系科目20単位以上を含む。)	

H27年度 入学生用

福祉学部福祉心理学科 教育課程表

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
教育方針	本学の教育	講義	1	2						○		15		
表現力向上分野	国語表現	講義/演習	1	4						○		30		
	文章演習	演習	2		1					○		15		指定者必修
	会話演習	演習	2		1					○		15		指定者必修
	情報教育分野	情報機器操作Ⅰ	演習	1	2単位以上選択必修	2					○		30	
情報機器操作Ⅱ		演習	1・2	2						○		30		
情報機器操作Ⅲ		演習	2・3	2						○		30		
人間関係分野	生活教養	講義/演習	1	2						○		15		
	生活教養Ⅱ	講義/演習	3・4		2					○		15		
	地域ボランティア活動	実習	1・2 3・4	1単位以上選択必修	1					時間割外	45時間		認定	
	地域振興活動	実習	1・2 3・4		1					時間割外	45時間		認定	
人文社会及び健康教育分野	音楽演習	演習	1・2		2					○		30		
	美術演習	演習	1・2		2					○		30		
	心理学	講義	1	4		A	A	基礎A		○		30		
	法学	講義	3・4		2					○		15		
	社会学	講義	3・4		2	A1	A1			○		15		
	女性と保健	講義	1・2		2					○		15		
	食生活と健康	講義	1・2		2					○		15		
国際理解分野	英語リーディング	演習	3・4	2科目4単位以上必修	2					○		30		
	英会話Ⅰ	演習	1・2		2					○		30		
	英会話Ⅱ	演習	2		2					○		30		
	中国語会話Ⅰ	演習	1・2		2					○		30		
	中国語会話Ⅱ	演習	2		2					○		30		
	国際理解論	講義	1	2						○		15		
	国際理解演習	演習	1・2 3・4		2					時間割外			認定	
体育実技分野	体育実技Ⅰ	実習	1・2	1						○		23		
	体育実技Ⅱ	実習	2		1					○		23		
専門教育科目(必修15単位を含む28単位以上履修)	福祉心理学	P 講義	3	4						○		30		
	発達心理学	P 講義	1	4				選択F		○		30		

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択				通年	半期					
専門基礎科目 (P系およびW系科目)	臨床心理学	P	講義	2		4			選択G	○		30			
	社会福祉原論	W	講義	2	4		◎	◎		○		30			
	福祉キャリア研究	W	演習	2	2					○		15	認定		
	コミュニケーション演習	P	演習	1・2		4				○		30			
	社会的養護	W	講義	1		2					○	15			
	医学一般	W	講義	1・2		4	A1	A1		○		30			
	精神医学	W	講義	1・2	4			◎		○		30			
専門教育科目 (必修18単位を含め96単位以上履修)	心理関連科目 (P系科目)	心理学研究法	P	演習	3・4		2			基礎B	○		30		
		人格心理学	P	講義	3・4		4			選択G	○		30		
		認知心理学	P	講義	3・4		4			選択D	○		30		
		子どもの心理	P	講義	2		2			選択F		○	15		
		青年の心理	P	講義	3・4		2			選択F		○	15		
		老いの心理	P	講義	2		2					○	15		
		職場の心理	P	講義	3・4		2			選択H		○	15		
		心理診断法実習	P	実習	3・4		2			基礎C	○		30		
		心理統計学	P	講義	3・4		2			基礎B		○	15		
		カウンセリング概論	P	講義	2		4			選択G	○		30		
	カウンセリング演習	P	演習	3・4		2			選択G	○		30			
	心理学実験	P	実習	3・4		2			基礎C	○	60時間	30			
	社会心理学	P	講義	3・4		4			選択H	○		30			
	障害児・者への心理援助	P	講義	3・4		2					○	15			
	犯罪行動と心理	P	講義	1		2					○	15			
	犯罪行動と心理演習	P	演習	2		2				○		30			
	癒しと心	P	講義	3・4		2					○	15			
	育児ストレス	P	講義	1・2		2					○	15			
	心理療法	P	講義	2		2					○	15			
	社会福祉関連科目 (W系科目)	医療福祉論	W	講義	3・4		2				○		15		
社会調査法		W	講義	3		2	◎			○		15			
相談援助の基盤と専門職		W	講義	2		4	◎			○		30			
社会福祉援助技術論Ⅰ		W	講義	3		4	◎			○		30			
社会福祉援助技術論Ⅱ		W	講義	4		4	◎			○		30			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
地域福祉論	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
コミュニティー ソーシャルワーク	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
福祉行財政 と福祉計画	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
社会福祉 運営管理	W	講義	3・4		2	◎				○		15		
社会保障	W	講義	2		4	◎	◎		○			30		
高齢者に対する支援 と介護保険制度	W	講義	1・2		4	◎			○			30		
障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	W	講義	2		2	◎	◎			○		15		
児童・家庭 福祉	W	講義	2		4	◎			○			30		
低所得者に対する 支援と生活保護制度	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
保健医療 サービス	W	講義	3・4		2	◎	◎			○		15		
就労支援	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
権利擁護と 成年後見制度	W	講義	3・4		2	A2	◎			○		15		
更生保護制度	W	講義	3・4		1	A2					8コマ	8		
相談援助演習Ⅰ	W	演習	2		1	◎				○		15		
相談援助演習Ⅱ	W	演習	3		2	◎			○			30		
相談援助演習Ⅲ	W	演習	4		2	◎			○			30		
相談援助実習指導	W	演習	3・4		3	◎			○			45		
相談援助実習	W	実習	3・4		4	◎				時間割外	180時間以上			
精神保健学	W	講義	1・2		4		◎		○			30		
精神保健福祉に関する 制度とサービス	W	講義	2		4		◎		○			30		
精神障害者の生活 支援システム	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉相談 援助の基盤(専門)	W	講義	2		2		◎			○		15		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3・4		4		◎		○			30		
精神保健福祉 援助演習(基礎)	W	演習	2		1		◎			○		15		
精神保健福祉 援助演習(専門)	W	演習	3		2		◎		○			30		
精神保健福祉 援助実習指導	W	演習	4		3		◎		○			45		
精神保健福祉 援助実習	W	実習	4		5		◎			時間割外	210時間以上			
母子保健Ⅰ	—	講義	1・2		2					○		15		
母子保健Ⅱ	—	講義	1・2		2					○		15		

専門教育科目(必修18単位を含め96単位以上履修)

社会福祉関連科目(W系科目)

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業		社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	授業期間		実習時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択				通年	半期				
上野専門短期大学 福祉系科目 演習科目 福祉系科目 W系	福祉住環境演習	W	演習	3・4		2				○		30		
	特別研究 I	—	演習	3・4		2				○		30		
	特別研究 II	—	演習	4		2				○		30		

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」について、入学時の能力検査により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としていますが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とします。
- ④ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。
- ⑤ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」(Aは本学では必修科目です)のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら3科目全てについて試験が実施されますので、3科目全て履修することが望まれます。
- ⑥ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Hは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

上記の⑤～⑥についての詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	28単位以上	必修	15単位	合計124単位以上
		選択必修	7単位 (情報機器操作Ⅰ履修者は9単位)	
		選択	6単位以上 (情報機器操作Ⅰ履修者は4単位)	
専門教育科目	96単位以上	必修	心理系 (P系) 8単位	
			福祉系 (W系) 10単位	
		選択	78単位以上 (うちP系科目22単位以上、W系科目20単位以上を含む。)	

H26年度 入学生用

福祉学部福祉心理学科 教育課程表

授 業 科 目	科目 区分	授業 の 方法	標準 履修 年次	科目の種類		社会 福祉士	精神保健 福祉士	保育士	カウンセ リング 士	認定 心理士	園芸 療法士	授業期間		実習 時間 数 (日数)	回数	評価	備考		
				必修	選択	指定 科目	指定 科目	指定 科目	指定 科目	指定 科目	指定 科目	通年	半期						
教 養 教 育 科 目 (必修15単位を含め28単位以上履修)	教育方針	本学の教育	講義	1	2								○		15				
	表現力向上分野	国語表現	講義/演習	1	4				○					○		30			
		文章演習	演習	2		1								○		15		指定者必修	
		会話演習	演習	2		1								○		15		指定者必修	
	情報教育分野	情報機器操作Ⅰ	演習	1	2単位以上選択必修	2								○		30		備考A	
		情報機器操作Ⅱ	演習	1・2		2								○		30			
		情報機器操作Ⅲ	演習	2・3		2								○		30			
	人間関係分野	生活教養	講義/演習	1	2									○		15			
		生活教養Ⅱ	講義/演習	3・4		2								○		15			
		地域ボランティア活動	実習	1・2 3・4	1単位以上選択必修	1								時間割外	45時間		認定		
		地域振興活動	実習	1・2 3・4		1									45時間		認定		
	人文社会及び健康教養分野	音楽演習	演習	1・2		2								○		30			
		美術演習	演習	1・2		2								○		30			
		文学演習	演習	1・2		2								○		30			
		心理学	講義	1	4		A	A			基礎A			○		30			
		法 学	講義	3・4		2								○		15			
		社会学	講義	3・4		2	A1	A1						○		15			
		女性と保健	講義	1・2		2								○		15			
		食生活と健康	講義	1・2		2								○		15			
	国際理解分野	英語リーディング	演習	3・4	2科目4単位以上必修	2								○		30			
		英会話Ⅰ	演習	1・2		2				○				○		30			
		英会話Ⅱ	演習	2		2								○		30			
		中国語会話Ⅰ	演習	1・2		2								○		30			
		中国語会話Ⅱ	演習	2		2								○		30			
		ロシア語会話	演習	1・2		2								○		30			
		韓国語会話	演習	1・2		2								○		30			
		国際理解論	講義	1		2									○		15		
		国際理解演習	演習	1・2 3・4			2								時間割外			認定	
体育分野	体育講義	講義	1・2		1			○					8 コマ	8					

授 業 科 目	科目 区分	授業 の 方法	標準 履修 年次	科目の種類		社会 福祉士	精神保健 福祉士	保育士	カウンセ リング実務士	認定 心理士	園芸 療法士	授業期間		実習 時間 数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択	指定 科目	指定 科目	指定 科目	指定 科目	指定 科目	指定 科目	通年	半期					
必修25単位以上履修 を要する科目(必修単位)	体育分野	体育実技Ⅰ	実習	1・2	1			◎				○			23			
	体育実技Ⅱ	実習	2		1							○			23			
専門基礎科目(P系及びW系科目)	福祉心理学	P 講義	3	4								○			30			
	発達心理学	P 講義	1	4			◎	○	選択F			○			30			
	臨床心理学	P 講義	2		4				○	選択G		○			30			
	社会福祉原論	W 講義	2	4		◎	◎	◎				○			30			
	福祉キャリア ア 研 究	W 演習	2	2								○			15	認定		
	コミュニケーション 演習	P 演習	1・2		4							○			30			
	社会的養護	W 講義	1		2			◎					○		15			
	医学一般	W 講義	1・2		4	A1	A1					○			30			
	精神医学	W 講義	1・2	4			◎		◎		○	○			30			
	精神薬理学	— 講義	3・4		4							○			30			
	専門教育科目(必修18単位を含め96単位以上履修)	心理学研究法	P 演習	3・4		2					基礎B		○			30		
		人格心理学	P 講義	3・4		4				○	選択G		○			30		
		認知心理学	P 講義	3・4		4					選択D		○			30		
		子どもの心理	P 演習	2		1			◎		選択F	○		○		15		
		青年の心理	P 講義	3・4		2				○	選択F			○		15		
		老いの心理	P 講義	2		2				○		○		○		15		
		職場の心理	P 講義	3・4		2				○	選択H			○		15		
		心理診断法	P 講義	3・4		4				○	基礎B		○			30		
		心理統計学	P 講義	3・4		2					基礎B			○		15		
		カウンセリング概論	P 講義	2		4			B1	◎	選択G		○			30		
カウンセリング演習		P 演習	3・4		2			B1	◎	選択G	○	○			30			
カウンセリング実習		P 実習	3・4		2				◎			○		学内60時間 学外5時間	45			
心理学実験		P 実習	3・4		2					基礎C		○		60時間	30			
社会心理学		P 講義	3・4		4				○	選択H		○			30			
社会心理学 実 験 実 習		P 実習	3・4		1					基礎C			○	30時間	15			
障害者への 心 理 援 助		P 演習	3・4		2					選択G	○		○		15			
障害児への 心 理 援 助	P 演習	3・4		2			B1	◎		○		○		15				
犯罪行動と心理	P 講義	1		2								○		15				
犯罪行動と 心 理 演 習	P 演習	2		2							○			30				

授 業 科 目	科目区分	授業の方法	標準履修年次	科目の種類		社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	カウンセリング実務士	認定心理士	園芸療法士	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	指定科目	指定科目	指定科目	通年	半期					
心理関連科目 (P系科目)	映画・ドラマにみる行動と心理分析	P	講義	3・4		2							○		15			
	癒しと心	P	講義	3・4		2					○		○		15			
	育児ストレス	P	講義	1・2		2							○		15			
	心理療法	P	講義	2		2		B1	○				○		15			
専門教育科目 (必修18単位を含め96単位以上履修)	社会福祉関連科目 (W系科目)	社会福祉施設	W	講義	3・4		2						○		15			
		医療福祉論	W	講義	3・4		2				○		○		15			
		社会調査法	W	講義	3		2	◎						○		15		
		相談援助の基盤と専門職	W	講義	2		4	◎					○		30			
		社会福祉援助技術論Ⅰ	W	講義	3		4	◎		B1				○		30		
		社会福祉援助技術論Ⅱ	W	講義	4		4	◎						○		30		
		地域福祉論	W	講義	3・4		2	◎	◎	B1			○		○	15		
		コミュニティーソーシャルワーク	W	講義	3・4		2	◎	◎						○	15		
		福祉行財政と福祉計画	W	講義	3・4		2	◎	◎						○	15		
		社会福祉運営管理	W	講義	3・4		2	◎							○	15		
		社会保障	W	講義	2		4	◎	◎					○		30		
		社会福祉関連科目 (W系科目)	高齢者に対する支援と介護保険制度	W	講義	1・2		4	◎					○	○		30	
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度		W	講義	2		2	◎	◎					○		15		
	児童・家庭福祉		W	講義	2		4	◎		◎				○		30		
	低所得者に対する支援と生活保護制度		W	講義	3・4		2	◎	◎					○		15		
	保健医療サービス		W	講義	3・4		2	◎	◎					○		15		
	就労支援		W	講義	3・4		1	A2						8コマ		8		
	権利擁護と成年後見制度		W	講義	3・4		2	A2	◎						○	15		
	更生保護制度		W	講義	3・4		1	A2							8コマ	8		
	相談援助演習Ⅰ		W	演習	2		1	◎							○	15		
	相談援助演習Ⅱ		W	演習	3		2	◎							○	30		
	相談援助演習Ⅲ		W	演習	4		2	◎							○	30		
	相談援助実習指導		W	演習	3・4		3	◎							○	45		
	相談援助実習	W	実習	3・4		4	◎						時間割外	180時間以上				
精神保健学	W	講義	1・2		4		◎				○	○		30				
精神保健福祉に関する制度とサービス	W	講義	2		4		◎					○		30				
精神障害者の生活支援システム	W	講義	2		2		◎						○	15				

授 業 科 目	科目 区分	授業 の 方法	標準 履修 年次	科目の種類		社会 福祉士 指定 科目	精神保健 福祉士 指定 科目	保育士 指定 科目	カウンセ リング実 務士 指定 科目	認定 心理士 指定 科目	園芸 療法士 指定 科目	授業期間		実習 時間 数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択							通年	半期				
社会福祉関連科目（W系科目）	精神保健福祉相談 援助の基盤（基礎）	W	講義	2			◎						○		15		
	精神保健福祉相談 援助の基盤（専門）	W	講義	2			◎						○		15		
	精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3・4			◎						○		30		
	精神保健福祉の理論 と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3・4			◎						○		30		
	精神保健福祉 援助演習（基礎）	W	演習	2			◎							○	15		
	精神保健福祉 援助演習（専門）	W	演習	3			◎							○	30		
	精神保健福祉 援助実習指導	W	演習	4			◎							○	45		
	精神保健福祉 援助実習	W	実習	4			◎						時間割外	210時間 以上			
	NPO起業論	W	講義	3・4										○	30		
	母子保健Ⅰ	—	講義	1・2										○	15		
	母子保健Ⅱ	—	講義	1・2										○	15		
	福祉住環境演習	W	演習	3・4										○	30		
専門教育科目（必修18単位を含め96単位以上履修）	児童福祉関連科目	現代家庭・ 子ども事情	W	講義	1・2				B1					○	15		
		子育て支援政策	W	講義	3				B1					○	15		
		保育原理	W	講義	1				◎					○	15		
		保育者論	W	講義	2				◎					○	15		
		保育相談援助	W	演習	2				◎					○	15		
		教育原理	—	講義	3				◎					○	15		
		子どもの保健Ⅰ	—	講義	1・2				◎					○	30		
		子どもの保健Ⅱ	—	演習	1・2				◎					○	15		
		子どもの食 と栄養	—	演習	3				◎					○	30		
	家庭支援論	W	講義	3				◎					○	15			
	保育課程論	W	講義	1				◎					○	15			
	保育内容総論	W	演習	1				◎					○	15			
	保育内容演習 健康	W	演習	1・2				◎					○	15			
	保育内容演習 人間関係	W	演習	1・2				◎					○	15			
	保育内容演習 環境	W	演習	1・2				◎					○	15			
	保育内容演習 言葉	W	演習	1・2				◎					○	15			
	保育内容演習 表現	W	演習	1・2				◎					○	15			
	乳児保育	W	演習	2				◎					○	30			
障害児保育	W	演習	2				◎					○	30				

授 業 科 目	科目 区分	授業 の 方法	標準 履修 年次	科目の種類		社会 福祉士 指定 科目	精神保健 福祉士 指定 科目	保育士 指定 科目	カウンセ リング実 務士 指定 科目	認定 心理士 指定 科目	園芸 療法士 指定 科目	授業期間		実習 時間 数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択							通年	半期				
専門教育科目 (必修18単位を含め96単位以上履修) 児童福祉関連科目	社会的養育 内	W	演習	2	1			◎					○		15		
	保育相談支援	W	演習	3・4	1			◎					○		15		
	保育の表現技術 (幼児音楽)	—	演習	1	2			◎					○		30		
	保育の表現技術 (幼児体育)	—	演習	1	2			◎					○		30		
	保育の表現技術 (図画工作)	—	演習	1	2			◎					○		30		
	保育の表現技術 (ピアノ演習)	—	演習	1・2	2			B1					○		30		いずれか1科 目選択必修
	保育の表現技術 (器楽演習)	—	演習	1・2	2			B1					○		30		
	保育所・施設実 習Ⅰ実習指導	W	演習	2	2			◎					○		30	認定	
	保育所実習Ⅰ	W	実習	2	2			◎					○	10日間			
	施設実習Ⅰ	W	実習	2	2			◎					○	10日間			
	保育所実習 Ⅱ実習指導	W	演習	3・4	1			B2					○		15	認定	いずれか必修
	保育所実習Ⅱ	W	実習	3・4	2								○	10日間			
	施設実習Ⅱ 実習指導	W	演習	3・4	1			B2					○		15	認定	
	施設実習Ⅱ	W	実習	3・4	2								○	10日間			
	保育実践演習	W	演習	3	2			◎					○		30		
	施設防犯 防災対策	—	講義	3	1									8 コマ	8		
	学童保育	W	講義	3・4	1			B1						8 コマ	8		
	特別研究	—	演習	3・4	2								○		30		

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「◎」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」(Aは本学では必修科目です)のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら3科目全てについて試験が実施されますので、3科目全て履修することが望まれます。
- ③ 「保育士」欄の「◎」は、必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「B1」のついた11科目25単位のうち、いずれか6単位以上選択必修です。ただし、「保育の表現技術(ピアノ演習)」と「保育の表現技術(器楽演習)」のいずれか1科目は必ず履修しなければなりません。
「B2」のついた科目は、「保育所実習Ⅱ実習指導と保育所実習Ⅱ」のセットか「施設実習Ⅱ実習指導と施設実習Ⅱ」のセットの、どちらか3単位分が必修となります。
- ④ 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ⑤ 「カウンセリング実務士」欄の「◎」は必修科目です。
「園芸療法士」の必修科目は、全て公開特設科目として開講され、園芸療法士養成講座の単位として認定されますが、卒業単位には算入されません。
- ⑥ 「カウンセリング実務士」「園芸療法士」欄の「○」は、選択科目です。
- ⑦ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Hは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。
- ⑧ 備考欄の「備考A」について、入学時の能力検査により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としていますが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで計4単位以上を必修とします。
- ⑨ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。

上記の②～⑦についての詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	28単位以上	必修	15単位	合計124単位以上
		選択必修	7単位（情報機器操作Ⅰ履修者は9単位）	
		選択	6単位以上（情報機器操作Ⅰ履修者は4単位）	
専門教育科目	96単位以上	必修	心理系（P系）8単位	
			福祉系（W系）10単位	
		選択	78単位以上 （うちP系科目22単位以上、W系科目20単位以上を含む。）	

平成29年度 福島学院大学が他大学・短期大学に開放する科目

学科名	区分	科目名	授業形態	単位	開講時期
福祉学部 福祉心理学科	教養教育科目	心理学	講義	4	通年
		法学	講義	2	後期
		社会学	講義	2	前期
		女性と保健	講義	2	前期
		食生活と健康	講義	2	後期
		国際理解論	講義	2	前期
	専門教育科目	福祉心理学	講義	4	通年
		発達心理学	講義	4	通年
		臨床心理学	講義	4	通年
		社会福祉原論	講義	4	通年
		医学一般	講義	4	通年
		精神医学	講義	4	通年
		精神薬理学	講義	4	通年
		人格心理学	講義	4	通年
		認知心理学	講義	4	通年
		青年の心理	講義	2	前期
		老いの心理	講義	2	後期
		職場の心理	講義	2	前期
		心理診断法	講義	4	通年
		心理統計学	講義	2	前期
		カウンセリング概論	講義	4	通年
		社会心理学	講義	4	通年
		犯罪行動と心理	講義	2	前期
		映画・ドラマにみる行動と心理分析	講義	2	後期
		癒しと心	講義	2	後期
		育児ストレス	講義	2	前期
		心理療法	講義	2	前期
		医療福祉論	講義	2	前期
		社会調査法	講義	2	後期
		相談援助の基盤と専門職	講義	4	通年
		社会福祉援助技術論Ⅰ	講義	4	通年
		社会福祉援助技術論Ⅱ	講義	4	通年
		地域福祉論	講義	2	前期
コミュニティーソーシャルワーク	講義	2	後期		
福祉行財政と福祉計画	講義	2	後期		
社会福祉運営管理	講義	2	後期		
社会保障	講義	4	通年		
高齢者に対する支援と介護保険制度	講義	4	通年		
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	2	前期		
児童・家庭福祉	講義	4	通年		
低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2	前期		
保健医療サービス	講義	2	後期		
就労支援	講義	1	後期		
権利擁護と成年後見制度	講義	2	前期		
更生保護制度	講義	1	後期		
精神保健学	講義	4	通年		
精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	4	通年		
精神障害者の生活支援システム	講義	2	前期		
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	講義	2	前期		
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	講義	2	後期		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	講義	4	通年		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	講義	4	通年		
母子保健Ⅰ	講義	2	前期		
母子保健Ⅱ	講義	2	後期		
施設防犯防災対策	講義	1	後期		

※授業の内容は授業計画をご覧ください。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	本学の教育	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 職名:非常勤講師 氏名:小松 由美 氏名:遠藤 貞子 本務先:ウィリング・マナー・コンシェルジュ 職名:代表講師	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>建学の精神と本学の教育について、映像やパワーポイントを活用して説明し、学生の理解に役立てる。</p> <p>本学学生としてのエチケット、マナーを身に付けるとともに、充実した学生生活を送る上でさまざまな立場の方からのアドバイスを聞く機会を設け、本学における学生生活の土台を作る。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	
①建学の精神及び本学の教育理念や教育について理解することができる。		目標 H
②本学学生としての振る舞いとマナーが体现できる。		目標 E L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等) ①本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ②まごころの実践	学生便覧 パワーポイント及び映像 利用	学生便覧の該当部分を復習する。
2	本学の教育① あいさつ ～まごころの始まり～ ①大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ②学生らしい服装 ③学生のボランティア活動、社会貢献活動 ④学習スタイルの構築	学生便覧 映像資料視聴	学生便覧の該当部分を復習する。

3	校歌の練習 第一校歌、第二校歌	校歌映像視聴 学生便覧参照	校歌の歌詞を事前に見ておく。CDを聴き、自分で校歌を口ずさみ予習しておく。
4	本学の教育② ～魅力ある授業を目指して～ ①大学での学び、アクティブラーニング ②学生受講規程の説明と投書制度 ③学生の授業評価制度 ④シラバスと成績評価 ⑤本学独自のGPAと学生の表彰	学生便覧	学生便覧の該当部分を復習する。
5	本学の教育③ ～学生生活における決まりごと～ ①セルフディフェンス ②キャリア支援	学生便覧 資料配布	学生便覧の該当部分を復習する。
6	夢を求めた先輩からのアドバイス 卒業生からのプレゼンテーション及びビデオレター	プレゼンテーション及びビデオレター	レポート作成を始める。(レポート提出は6月23日まで)
7	第一校歌斉唱 教員からのアドバイス	映像利用及び資料配布	
8	第二校歌斉唱 レポート発表 ①学生のプレゼンテーション ②レポート総評		
9	学生生活のマナー 授業内容について説明 マナーとは？マナーはなぜ必要か？(話し合いと確認) 学生便覧「学生のマナー」の確認	授業計画 学生便覧	学生便覧の大学での生活「学生生活のマナー」と諸規程集「学生受講規程」を読む
10	学生生活のマナー ①第一印象の大切さ(表情・身だしなみ・挨拶)	プリント「第一印象を磨く」 映像資料 ※スーツ着用 ※小テスト① 実施	第一印象の大切な理由について考える
11	学生生活のマナー ①第一印象を磨く(挨拶・立ち居振る舞い・お辞儀)	プリント「挨拶」 実技演習 ※スーツ着用 ※小テスト② 実施	プリント「第一印象を磨く」の復習
12	学生生活のマナー ①好感を持たれる言葉遣い ②敬語の遣い方	プリント「言葉遣い」 ※小テスト③ 実施	敬語の種類、遣い方を予習する
13	学生生活のマナー ①コミュニケーション力を高める ②良好な人間関係を築く(好感を持たれる話し方、聞き方) ③他者へのインタビュー実施 ④次回テスト「他己紹介」の説明	プリント「話し方、聞き方」 グループワーク	コミュニケーションに必要な要素を考える
14	学生生活のマナー ①コミュニケーション力を高める ②他者を尊重し、快適環境は自分で作る ③他己紹介発表(実技テスト)	プリント「話し方、聞き方」 ※実技小テスト④実施	前回の授業で行ったグループワークの内容を、発表に向けてまとめる
15	学生生活のマナー ①振り返りと今後に向けて(質疑応答) ②大学での生活「学生生活のマナー」確認	学生便覧	学生便覧 大学での生活「学生生活のマナー」を確認する

到達度の評価（評価方法・基準）

レポートの評価(60%)及び小テスト4回分の評価(1回10%×4回=40%)

レポート(1,000字以上1,200字以内)は、次のいずれかのテーマで作成し、6月23日(金)13:00までに教務課(駅前キャンパスは5階事務室)へ提出のこと(自筆、パソコンいずれも可)。誤字・脱字の多いもの、内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求める。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とする。

<レポートのテーマ>

- ①私の夢
②私のキャリアデザイン } 2つのうちのいずれかを選択

教科書

書名:学生便覧「福島学院大学CampusLife2017」 発行所:福島学院大学※入学時配布されたものを使用

その他補足事項

1. 毎回の授業で次の授業の内容と進め方について説明する。
2. 必要に応じ、服装(スーツ着用)の指示を行う。その際に指示された服装以外で出席している場合は減点対象とすることがある。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	国語表現	授業形態・単位数	講義/演習・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{はるお} 晴雄	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>国語表現力は、社会人として必要なコミュニケーション能力を高める。</p> <p>社会人に求められる文章作成の基本を身に付けるための講義と演習を展開する。漢字小テストの実施、小論文の提出もある。</p> <p>会話力をアップするため、敬語の使い方や面接での対応なども説明する。</p> <p>また、国語力向上を目指し、統一テスト（「文字成語」「小論文」「対話」の三テスト）を実施し、それらの成績を加味して授業の成績評価を行う。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
簡潔で分かりやすい文章を書くための基本事項を習得することができる。手紙・はがきの書き方、ビジネス文書の作り方など、さまざまな実用文にも対応した国語表現力の基礎を身に付けることができる。	目標	A D
社会人としての会話に必要な基本を身に付けることができる。面接での対応の仕方なども習得することができる。	目標	I L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1.授業の概要と目標(授業内容) 2.評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	漢字学修 新聞を読む 教材予習
2	新聞を読もう 知識が増え、文章力もつく	授業ノート プリント配布 教科書朗読	漢字学修 新聞を読む 教材予習
3	文章を書く① 主語と述語	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習

4	文章を書く② 文は短く分かりやすく	小テスト①(漢字) 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
5	文章を書く③ 句読点、段落	小テスト①指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト①復習 漢字学修 プリント復習 教材予習 小論文①作成
6	文章を書く④ 修飾語は近くに	小論文①提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
7	文章を書く⑤ 「ら」を抜かない	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
8	文章を書く⑥ 常用漢字を使う	小論文①指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小論文①復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
9	文章を書く⑦ 話し言葉は使わない	小テスト②(漢字) 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
10	小論文を書く① 作文と小論文の違い	小テスト②指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト②復習 漢字学修 プリント復習 教材予習 小論文②作成
11	小論文を書く② 人間性が分かる	小論文②提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
12	小論文を書く③ 起承転結	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
13	小論文を書く④ 結論を先に書く	小論文②指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小論文②復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
14	小論文を書く⑤ 実例で学ぶ	小テスト③(漢字) 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
15	小論文を書く⑥ タブー	小テスト③指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小テスト③復習 漢字学修 プリント復習 教材予習 小論文③作成
16	注意を払う① 誤字	小論文③提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習

17	注意を払う② 接続詞は多用しない	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
18	会話に慣れる① 明るく、はきはきと	小論文③指導 授業ノート 教材朗読	小論文③復習 漢字学修 教材予習
19	会話に慣れる② 社会人との会話、敬語	小テスト④(漢字) 授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習
20	会話に慣れる③ 面接	小テスト④指導 授業ノート 教材朗読	小テスト④復習 漢字学修 教材予習 小論文④作成
21	実用文① 手紙	小論文④提出 授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習 ワークシート作成
22	実用文② はがき、年賀はがき	ワークシート提出 授業ノート 教材朗読	漢字学修 教材予習 ワークシート作成
23	履歴書	小論文④指導 ワークシート提出 授業ノート 教材朗読	小論文④復習 漢字学修 教材予習 ワークシート作成
24	ビジネス文書① 文章の基本	ワークシート提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習 小論文⑤作成
25	ビジネス文書② 社内文書	小論文⑤提出 授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
26	ビジネス文書③ 社外文書	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
27	ビジネス文書④ ビジネス文書作成	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
28	小論文作成のまとめ	小論文⑤指導 授業ノート プリント記述 教材朗読	小論文⑤復習 漢字学修 プリント復習 教材予習
29	メール、FAX	授業ノート プリント記述 教材朗読	漢字学修 プリント復習 教材予習
30	まとめ	授業ノート プリント記述	漢字学修 プリント復習
期末 試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
①統一テスト20%（文字・成語10%、小論文5%、対話5%） ②後期末試験20% ③授業への取り組み60% ④詳細は初回授業時に説明する。
教科書
書名：就職に役立つ日本語表現法 著者名：田上貞一郎 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）
その他補足事項
国語表現の成績がC評価（69点）以下の場合、翌年「文章演習」を指定者必修で履修することになります。

授 業 科 目 名	文章演習	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{はるお} 晴雄	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	指定者必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会人として必要とされる、論理的で分かりやすい文章を書く能力を高めるため、文章力の基本を身に付ける。さまざまな文例を挙げながら、簡潔で分かりやすい文章を習得する。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
小論文を含む学術的な文章のほか、ビジネス文書、報告書など実用的な文章にも対応できるようになる。	目標	A D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標を説明	授業計画 プリント演習	教材予習 プリント復習
2	短く書く	教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習 小論文①作成
3	主語と述語	小論文①提出 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
4	「に」「を」を正しく使う	小論文①個別指導 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
5	話し言葉は避ける	教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習

6	主張を明確にする	教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習 小論文②作成
7	分かりやすく書く	小論文②提出 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
8	「これ」「それ」に注意	小論文②個別指導 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
9	「ことで」「という」でつながない	教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
10	簡潔に書く	教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習 小論文③作成
11	余分な「つなぎ語」を削る	小論文③提出 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
12	具体的に書く	小論文③個別指導 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
13	共感を呼ぶ書き方	教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習 小論文④作成
14	正しい表記	小論文④提出 教材朗読 プリント演習	教材予習 プリント復習
15	まとめ	小論文④個別指導 プリント演習	プリント復習
期末試験	小論文作成・提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
①期末試験20% ②提出小論文30% ③授業への取り組み50% 詳細は初回授業時に説明する。			
教科書			
書名:文章力の基本 著者名:阿部紘久 発行所:日本実業出版社 価格:1,300円(税別)			
その他補足事項			
国語表現の成績がC評価(69点)以下の場合、指定者必修として「文章演習」を履修してください。			

授 業 科 目 名	会 話 演 習	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 1 単 位
		開 講 年 次	2 年 次 (平成27年度入学生まで)
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{ふじま} 藤間 ^{ひさこ} 久子	開 講 期	前 期
		授 業 回 数	15 回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	15 時 間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	教 養 教 育 科 目	指 定 者 必 修	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
<p>本科目では日常会話からビジネスの場に至るまでのコミュニケーション能力を向上させるための「話し言葉」についての実践的な演習を行う。</p> <p>話し方の基礎や「話し言葉」に対する感覚を磨き、表現技術を習得する。</p> <p>また、言葉によって事実を的確に伝えたり、自分の意見を整然と主張する訓練をすることにより、論理的な思考に支えられた明確な表現力を養うことを目的とする。</p> <p>さらに円滑な人間関係を築くための会話法について学んでいく。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
K	課題対処力	
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 基礎的な音声表現のトレーニングにより会話のイメージアップを図ることができる。	目標	I L
② 社会の様々な状況の中で協調していくための適切な会話表現ができるようになる。	目標	I L
③ 論理的思考と表現の工夫により説得力のある話し方のスキルアップを目指すことができる。	目標	I
④ コミュニケーションを深めるための会話術を磨くことができる。	目標	H L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション ①授業の概要と目標 ②評価方法と本科目の留意点 自己紹介(1)	授業計画 個別指導	
2	自己紹介(2) 話の基本技術(1) 適切な会話のための音声表現について	発表(VTR収録)	復習:VTR チェック(レポート)
3	話の基本技術(2) 発音・発声・アクセント・イントネーションなど	プリント	復習:プリントの練習

4	話の基本技術(3) 社会生活における適切な会話について ～会話の目的と組み立て方	グループ演習	復習:補助挨拶について
5	話の基本技術(4) 「書き言葉」と「話し言葉」の違いについて ～聞いて分かりやすい話すための原稿作成	プリント 発表	課題:以降授業内で ニュース、トピックス の発表
6	論理的思考に基づく表現力(1)～ディベート 論理的な話をするための話のまとめ方について	プリント	予習:テーマ設定 復習:フローシート の作成
7	論理的思考に基づく表現力(2)～ディベート 聞き上手になるためのポイント	グループ討議	復習:フローシート の作成
8	論理的思考に基づく表現力(3)～ディベート ディスカッションなどでの司会の方法	グループ討議	復習:授業内容の再 確認
9	敬語表現(1) 敬語の必要性和表現方法について	プリント	復習:プリント内容 の確認
10	敬語表現(2) 間違いやすい敬語用法について	プリント	復習:プリント内容 の確認
11	敬語表現(3) 様々な状況での会話、電話応対について	ロールプレイング	予習:シナリオの設定
12	パブリックスピーキング(1) 公の場でのスピーチ原稿の作り方	個別指導	復習:原稿のチェッ クと下読み
13	パブリックスピーキング(2) 好感の持てる話し方について	発表(VTR収録)	課題:VTRチェック (レポート)
14	コミュニケーションを高める会話法(1) 円滑な会話のための表現技法	ロールプレイング	復習:テーマの設定
15	コミュニケーションを高める会話法(2) 会話における自己表現	発表	予習:原稿のチェック
期末 試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価 (評価方法・基準)			
期末試験(筆記)	30%		
課題スピーチなど表現力を総合した評価	50%		
レポートなどの提出状況	10%		
授業態度	10%		
※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により欠席、遅刻・早退による減点を行う。			
教科書		参考書	
なし		なし	

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅰ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:特任教授 氏名: ^{こうの} 河野 ^{たけし} 毅	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>初回に情報機器操作スキルの習熟度判定テストを受け、初級レベルと判定された学生が受講する科目である。</p> <p>本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、文字入力のためのタッチタイピング、Windowsシステムの使い方、Wordを使った文書作成の方法、Excelを使った表計算方法、PowerPointを使った効果的なプレゼンテーション方法など基礎的な知識・技能を学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得できる。	目標	A B
タッチタイピングによる文字入力を習得できる。	目標	B
Word、Excel、PowerPointなど基本的ツールの基礎的知識・技能を習得できる。	目標	A B I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション:本学コンピュータ・ネットワークシステムの理解。 情報機器操作スキルの習熟度判定	コンピュータを利用	
2	本学コンピュータ・ネットワークシステムのデータ保存方法を学ぶ。 日本語の入力方法を学ぶ。	コンピュータを利用	日本語入力の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
3	タイピングの基本方法を学ぶ。 Windowsの仕組み理解と基本操作	コンピュータを利用	Windowsの基本操作を繰り返し、身につける。
4	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(文字の入力編集)	コンピュータを利用	文字編集の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習

5	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(書式設定)	コンピュータを利用	書式設定の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
6	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(表、罫線)	コンピュータを利用	表、罫線の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
7	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(画像を利用した文書)	コンピュータを利用	画像利用の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
8	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(図形の作成)	コンピュータを利用	図形作成の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
9	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(地図の作成)	コンピュータを利用	地図作成の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
10	タイピング練習。 インターネットの仕組み、インターネット検索	コンピュータを利用	インターネット検索の基本操作を繰り返し、身につける。
11	タイピング練習。 インターネット(Webページの活用)	コンピュータを利用	Webページ活用の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
12	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(箇条書き)	コンピュータを利用	箇条書きの基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
13	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(印刷)	コンピュータを利用	印刷の基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
14	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(便利なツール)	コンピュータを利用	Wordに関するすべての操作を繰り返す
15	前期末試験(Wordのまとめ)	コンピュータを利用	Wordに関するすべての操作を繰り返す
16	Wordのまとめの復習。 表計算ソフトExcelの操作(セルのデータ入力編集)	コンピュータを利用	データ入力の基本操作を繰り返し、身につける。
17	表計算ソフトExcelの操作(計算式の利用)	コンピュータを利用	計算式の基本操作を繰り返し、身につける。
18	表計算ソフトExcelの操作(関数の利用方法)	コンピュータを利用	関数の基本操作を繰り返し、身につける
19	表計算ソフトExcelの操作(表の編集、罫線の作成)	コンピュータを利用	表、罫線の基本操作を繰り返し、身につける
20	表計算ソフトExcelの操作(IF関数の利用方法)	コンピュータを利用	IF関数の基本操作を繰り返し、身につける
21	表計算ソフトExcelの操作(IF関数による判定問題)	コンピュータを利用	IF関数による判定を繰り返し、身につける
22	表計算ソフトExcelの操作(オートフィルタ)	コンピュータを利用	フィルタの基本操作を繰り返し、身につける
23	表計算ソフトExcelの操作(グラフ作成)	コンピュータを利用	グラフ作成の基本操作を繰り返し、身につける

24	表計算ソフトExcelの操作 (Wordとの連携)	コンピュータを利用	Word連携の方法を繰り返す、身につける
25	表計算ソフトExcelのまとめ試験	コンピュータを利用	Excelの操作を復習
26	Excelのまとめ試験の復習、PowerPointの操作	コンピュータを利用	PowerPointの基本操作を繰り返す、身につける
27	PowerPointの操作	コンピュータを利用	PowerPointの基本操作を繰り返す、身につける
28	PowerPointを利用したプレゼンテーションの作成	コンピュータを利用	プレゼンテーションを作成する
29	PowerPointを利用したプレゼンテーションの作成	コンピュータを利用	プレゼンテーションを作成する
30	後期のまとめ (PowerPointを利用したプレゼンテーションの課題提出と発表)	コンピュータを利用	コンピュータを利用し発表
到達度の評価 (評価方法・基準)			
(1) Wordまとめ試験35点満点 (2) Excelまとめ試験35点満点 (3) PowerPoint提出課題20点満点 (4) タッチタイピング目標達成10点満点			
教科書		参考書	
書名:30時間でマスターWindows8対応 Office2013 著者名:実教出版編修部 発行所:実教出版 価格:1,000円(税別)		なし(補足資料を配付する)	
その他補足事項			
・USBフラッシュメモリを各自用意すること(仕様は第1回授業で説明する)。 ・授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参すること。 ・本科目履修し合格後、卒業までに「情報機器操作II」以上の1科目を単位取得する必要がある。			

授 業 科 目 名	情報機器操作 II (1年次向け)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:特任教授 氏名: <small>こうの</small> 河野 <small>たけし</small> 毅	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>入学時に情報機器操作スキルの習熟度判定テストを受け、初級修了レベル以上と判定された学生が受講する科目である。</p> <p>中級レベルのスキルを習得するため、コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、情報機器操作を学ぶ。本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、Word、Excel、Powerpoint、インターネットを現実の問題解決に適用する。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得できる。	目標	A B
タッチタイピングによる文字入力を習得できる。	目標	B
Word、Excel、PowerPointなど基本的ツールを応用した課題解決力を習得できる。	目標	A B I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション: 本学のネットワークシステムの理解。情報機器操作スキルの習熟度判定	コンピュータを利用	
2	コンピュータ、基本ソフトの仕組み理解。本学のネットワークシステムのデータ保存方法。タイピング練習	コンピュータを利用	ネットワークの基本操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
3	タイピング練習。文章の構成と体裁	コンピュータを利用	文章の構造を理解。タイピング練習

4	タイピング練習。 日本語ワープロソフトWordの操作、文書の作成(文字の入力、段落の配置)	コンピュータを利用	文字と段落の編集操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
5	タイピング練習。 Wordの操作(表作成、表の編集その1)	コンピュータを利用	表の作成編集を繰り返し、身につける。タイピング練習
6	タイピング練習。 Wordの操作(表作成、表の編集その2)	コンピュータを利用	表、罫線の応用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
7	タイピング練習。 Wordの操作(ワードアート、図形の挿入編集その1)	コンピュータを利用	画像利用の応用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
8	タイピング練習。 Wordの操作(ワードアート、図形の挿入編集その2)	コンピュータを利用	図形作成の応用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
9	タイピング練習。 Wordの操作(箇条書き、文書の印刷)	コンピュータを利用	箇条書き、印刷操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
10	タイピング練習。 インターネットの仕組み、インターネット検索	コンピュータを利用	インターネット検索を繰り返し、身につける。タイピング練習
11	タイピング練習。 インターネット(Webページの活用)	コンピュータを利用	Webページ活用操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
12	タイピング練習。表計算ソフトExcelの操作(データ入力)	コンピュータを利用	Excelのデータ入力操作を繰り返し、身につける。タイピング練習
13	タイピング練習。 Excelの操作(計算式)	コンピュータを利用	Excelの計算式の作成を繰り返し、身につける。タイピング練習
14	タイピング練習。Excelの操作(関数の利用:合計、平均、最大値、最小値)	コンピュータを利用	Excelの関数の利用方法を繰り返し、身につける。タイピング練習
15	前期末試験(Wordまとめ試験)	コンピュータを利用	前期のまとめ
16	前期末試験の反省	コンピュータを利用	試験結果の見直し
17	Excelの操作(関数の利用:構成比、順位)	コンピュータを利用	関数の利用を繰り返し、身につける
18	Excelの操作(関数の利用:IF)	コンピュータを利用	IF関数の応用操作を繰り返し、身につける
19	Excelの操作(関数の利用:AND、OR、VLOOKUP)	コンピュータを利用	重要な関数の利用を繰り返し、身につける
20	Excelの操作(グラフ:その1)	コンピュータを利用	グラフ作成操作を繰り返し、身につける
21	Excelの操作(グラフ:その2)	コンピュータを利用	グラフ作成操作を繰り返し、身につける
22	Excelの操作(データベース:その1)	コンピュータを利用	データベース機能を繰り返し、身につける
23	Excelの操作(データベース:その2)	コンピュータを利用	データベース機能を繰り返し、身につける
24	Excelの操作(集計)	コンピュータを利用	集計機能を繰り返し、身につける

25	Excelの操作 (Wordとの連携、印刷)	コンピュータを利用	Word連携の方法を繰り返す、身につける
26	Excelの操作 (Wordとの連携、印刷)	コンピュータを利用	Excelのまとめ
27	Excelのまとめ試験の復習 PowerPointを利用したプレゼンテーション方法	コンピュータを利用	プレゼンテーションのあり方を身につける
28	PowerPointの操作 (テンプレート、図、表)	コンピュータを利用	図表の操作方法を身につける
29	PowerPointを利用したプレゼンテーションの作成	コンピュータを利用	プレゼンテーションを作成する
30	PowerPointを利用したプレゼンテーションの課題提出と発表	コンピュータを利用	コンピュータを利用し発表
到達度の評価 (評価方法・基準)			
(1) Wordまとめ試験35点満点 (2) Excelまとめ試験35点満点 (3) PowerPoint提出課題20点満点 (4) タッチタイピング目標達成10点満点			
教科書		参考書	
書名: 実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 著者名: noa出版 発行所: noa出版 価格: 1,155円(税別)		なし(補足資料を配付する)	
その他補足事項			
・USBフラッシュメモリを各自用意すること(仕様は第1回授業で説明する)。 ・授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参すること。			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{すがい} 菅井 ^{みちこ} 道子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問を受け付けます。 初回授業時に説明いたします。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>情報機器操作Ⅰで習得した基本的知識と情報機器操作スキルを基にして、中級レベルの情報機器操作スキルを習得するための科目である。</p> <p>具体的には、Word、Excel、PowerPoint等を使用した実習や、ショートムービーの作成、簡単なコンピュータプログラミングを通じて中級レベルの情報機器操作スキルを習得する。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1) 中級レベルの情報機器操作スキルを習得する。	目標	B I K
2) データ分析に関する基礎的なスキルを習得する。	目標	B K
3) 情報モラルや情報セキュリティの基本的な概念を理解する。	目標	K
4) 画像や音楽などのマルチメディア情報を活用できる。	目標	B I
5) プログラミングに関する基礎的なスキルを習得する。	目標	B C I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション Wordの基本操作の復習(1) ・ビジネス文書の作成	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
2	Wordの基本操作の復習(2) ・図や表が入った文書の作成	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
3	Excelの基本操作の復習 ・基本操作 ・オートSUM ・グラフの作成	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成

4	表とグラフが入った文書の作成	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
5	Excel (1) ・数式の基本 ・セル名を使った計算式	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
6	Excel (2) ・関数の基本 ・簡単な統計処理 (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
7	Excel (3) ・簡単な統計処理 (2) ・絶対参照・相対参照	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
8	Excel (4) ・様々な関数 (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
9	Excel (5) ・様々な関数 (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
10	Excel (6) ・様々な関数 (3)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
11	Excel (7) ・分析ツール (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
12	Excel (8) ・分析ツール (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
13	Excel (9) ・分析ツール (3)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
14	Excel (10) ・ピボットテーブル ・ピボットグラフ	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
15	前期のまとめ	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
16	コンピュータプログラミング入門 (1) ・JavaScript (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
17	コンピュータプログラミング入門 (2) ・JavaScript (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
18	コンピュータプログラミング入門 (3) ・JavaScript (3)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
19	コンピュータプログラミング入門 (4) ・作品制作 (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
20	コンピュータプログラミング入門 (5) ・作品制作 (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
21	コンピュータプログラミング入門 (6) ・作品発表会	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
22	情報モラルと情報セキュリティ (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
23	情報モラルと情報セキュリティ (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
24	ショートムービーの作成 (1) ・動画編集ソフトの基本操作	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
25	ショートムービーの作成 (2) ・作品制作 (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
26	ショートムービーの作成 (3) ・作品制作 (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
27	PowerPoint (1) ・基本操作 ・スライド作成のポイント ・プレゼンテーション資料の作成 (1)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成

28	PowerPoint (2) ・プレゼンテーション資料の作成 (2)	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
29	PowerPoint (3) ・作品発表会	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
30	後期のまとめ	パソコンを使って演習を行う。教材はプリントを使用。	授業内容の復習 課題作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
前期まとめ (25%)、後期まとめ (25%)、課題の提出状況・完成度 (50%) で評価する。欠席、遅刻、授業中の態度等に関わる減点については規程 (学生便覧に記載) に沿う。なお、欠席が11回以上に及ぶ場合、単位認定は行わないものとする。詳細については第1回の授業のときに説明する。			
教科書			
使用しない。必要に応じてプリントや参考資料を配付する。			
その他補足事項			
USBフラッシュメモリを各自用意すること。 授業内容は、授業の進行状況や履修者の理解度・要望に応じて変更する場合がある。			

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅲ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2・3年次 (平成27年度入学生まで)
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名:鈴木 忠雄 <small>すずき ただお</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>これまでに学んだ情報処理技術をベースに、社会の現場で活用される文書作成スキル、大量のデータを正確に、速く処理し、結果を出すデータ分析スキルを学ぶ。現在、社会で最も多く利用されている文書処理ソフト Microsoft Word (以下、Word) と表計算ソフト Microsoft Excel (以下、Excel) を自由自在に活用できるスキル習得を目指す。特に、Excel を用いた高度なデータ分手法を詳しく解説する。そして、実用的な問題に対し自分で解決法を見出し、解を導く演習を行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
Word を用いた長文・論文編集ができる。	目標	A B K
Excel における数式を応用した集計技術が身につく。	目標	B J K
Excel におけるビジネス分析手法を実行し、結果をグラフで表現できる。	目標	A B J K
Excel におけるピボットテーブルを使ったデータ分析ができる。	目標	B J K
Excel を用いて作業効率を上げる手法が身につく。	目標	B K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の進め方・評価方法、ビジネスにおける問題とは、Word・Excelの実力診断	シラバス説明 Word、Excelの動作確認、OneNoteの準備	PC、Word、Excel、OneNoteの動作確認
2	Wordのスタイル適用 スタイルの基本、スタイルを用いた文書形式の統一	Word、教科書、OneNote	課題(スタイル適用)に取り組む
3	Wordを用いた長文の編集 アウトライン機能、表紙・目次の自動作成、参照機能	Word、教科書、OneNote	課題(アウトライン機能、長文編集)に取り組む

4	Excel基礎 Excel基礎(絶対参照、印刷、データベース機能)	Excel、教科書、OneNote	課題(Excel基礎)に取り組む
5	Excel関数(1) IF関数、AND関数、OR関数	Excel、教科書、OneNote	課題(IF関数等)に取り組む
6	Excel関数(2) VLOOKUP関数、HLOOKUP関数 COUNTIF関数、SUMIF関数等	Excel、教科書、OneNote	課題(VLOOKUP関数等)に取り組む
7	Excel外部データの取り込み 外部テキストデータ、Webデータ、Accessデータ	Excel、教科書、OneNote	課題(外部テキストデータ等)に取り組む
8	Excel データ分析の基本テクニック(1) オートフィルタ、集計	Excel、教科書、OneNote	課題(オートフィルタ、集計)に取り組む
9	Excel データ分析の基本テクニック(2) アウトライン機能、テーブル機能	Excel、教科書、OneNote	課題(アウトライン機能、テーブル機能)に取り組む
10	Excel 数式を使った集計テクニック(1) 比率、累計、オートフィルタで自動集計	Excel、教科書、OneNote	課題(比率、累計、オートフィルタで自動集計)に取り組む
11	Excel 数式を使った集計テクニック(2) 分類別の集計、データ件数、最大・最小値等	Excel、教科書、OneNote	課題(分類別の集計、データ件数、最大・最小値等)に取り組む
12	Excel 数式を使った集計テクニック(3) 分散と標準偏差	Excel、教科書、OneNote	課題(分散と標準偏差)に取り組む
13	Excel 数式を使った集計テクニック(4) 複数シートのデータ集計	Excel、教科書、OneNote	課題(複数シートのデータ集計)に取り組む
14	Excel グラフ作成の基本テクニック(1) グラフ要素の追加、グラフの位置やサイズ変更、軸やメモリの設定	Excel、教科書、OneNote	課題(グラフ要素の追加等)に取り組む
15	Excel グラフ作成の基本テクニック(2) データ強調、テンプレートの活用、グラフの見栄え調整	Excel、教科書、OneNote	課題(データ強調等)に取り組む
16	前期末試験	Word、Excel、教科書、OneNote	
17	前期末試験結果の返却と解説	Excel、教科書、OneNote	試験問題の復習をする
18	Excelピボットテーブル(1) 並び替え	Excel、教科書、OneNote	課題(ピボットテーブル(1))に取り組む
19	Excelピボットテーブル(2) 比率、集計	Excel、教科書、OneNote	課題(ピボットテーブル(2))に取り組む
20	Excelピボットグラフ	アンケート調査事例を分析・グラフ化	課題(ピボットグラフ)に取り組む
21	Excelゴールシーク(1) 基本機能	Excel、教科書、OneNote	課題(ゴールシークの基本機能)に取り組む
22	Excelゴールシーク(2) 損益分岐点の計算、その他演習問題	Excel、教科書、OneNote	課題(損益分岐点)に取り組む
23	ExcelによるABC分析 パレートの法則	Excel、教科書、OneNote	課題(ABC分析)に取り組む
24	ExcelによるZチャートの作成と分析	Excel、教科書、OneNote	課題(Zチャート)に取り組む
25	Excel・バブルチャートの作成と分析	Excel、教科書、OneNote	課題(バブルチャート)に取り組む
26	Excel近似直線・近似曲線と予測	Excel、教科書、OneNote	課題(近似曲線)に取り組む
27	Excel回帰分析 単回帰分析、相関分析	Excel、教科書、OneNote	課題(回帰分析)に取り組む

28	Excel統計分析 統計分析の基礎	Excel、教科書、OneNote	課題(統計分析)に 取り組む
29	Excel統計分析 事例研究	事前準備した事例を分析	自分の統計事例を探 し分析する
30	Excelを用いた分析法まとめ	Excel、教科書、OneNote	Excel分析法の復習 をする
期末 試験	後期末試験	Excel、教科書	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
全演習課題、前後期末定期試験、出席率を勘案して評価する。具体的な割合は、全演習課題が約40%、前後期末定期試験が約60%（各期30%）とする。			
教科書			
書 名:仕事に役立つ分析・グラフワザ!Excel2013対応 著者名:間久保恭子 発行所:日経BP社 価 格:1,600円(税別)			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・各自持参のパソコン(Windows7以上、Office については授業で説明する)を毎回使用する。 ・駅前キャンパスのネットワークに接続し、共通フォルダとの間でデータアクセスを行う。 ・授業内で完了しなかった課題は、次回までに授業外で作成し共通フォルダに保存すること。 ・短期大学部情報ビジネス学科の「コンピュータ応用演習」と合同授業である。 			

授 業 科 目 名	生活教養	授業形態・単位数	講義・演習2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{えんどう さだこ} 遠藤 貞子 本務先:ウイリング・マナー・コンシェルジュ 職名:代表講師	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
日常生活や社会生活における基本的なマナーと、社会に出てすぐ役立つビジネスマナーを、実技演習を通して学ぶ。「気づき、実践、継続」を主眼とし、大切なことは、繰り返し実技演習を行うことにより体得できるようにする。また、マナーの知識やスキルだけではなく「他者への配慮、思いやり、心遣いを身に付けるために大切な考える力を養う」訓練の場とする。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
マナーの基本的な考え方を理解できるようになる。	目標	G H L
良好な人間関係を作るための考え方と表現方法の両面を兼ね備えたマナーの実践者になる。	目標	E G H L
どのような場面に於いても自信を持って自分を発揮できるようになる。	目標	E G H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と到達目標、評価方法、その他、等の確認 ・協力関係を作る	授業計画	授業計画の本科目を確認しておく
2	マナーについて ・「マナーとは?私が大切だと思うマナー、それはなぜ大切なのか?」 ・それぞれの目標を立てる	グループディスカッション ※レポート提出① テーマ「私の目標」	マナーとは何か? なぜ大切なのかを考える
3	印象力を磨く ・挨拶 ・日常生活の様々な立ち居振る舞い	教科書 映像資料 実技演習※スーツ着用	・教科書P1～11
4	言葉遣い ・敬語の遣い分け ・丁寧な言葉遣い	プリント「言葉遣い①」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P54～68予習

5	言葉遣い ・言葉によるコミュニケーション ・感じの良い話し方、好感を持たれる聞き方	プリント「言葉遣い②」 映像資料 教科書 実技演習	・教科書P54～68 予習、復習 ・プリント「言葉遣い②」
6	携帯電話のマナー ・事前に作成した「携帯電話のマナー」を基にグループディスカッションと発表 ・携帯電話のトラブル	プリント「携帯電話のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P84～86 予習 ・事前配布の「携帯電話のマナー」を作成してくる
7	電話対応のマナー ・電話を掛ける時、受ける時のマナー ・基本と応用のロールプレイ	プリント「接遇用語、クッション言葉」「電話のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P70～81 予習
8	訪問のマナー ・事前準備 ・訪問から辞去までのマナー ・席次のマナー ・飲み物をいただく時のマナー	プリント「訪問のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P25～37 予習
9	来客対応のマナー ・事前準備 ・おもてなし ・お見送り	プリント「来客対応のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P38～48 予習
10	冠婚葬祭のマナー ・結婚披露宴に招待された時のマナー	プリント「招待状の返信」「慶事のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P156～157、P172～174 予習
11	冠婚葬祭のマナー ・弔事の心得	プリント「弔事のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P166～170予習 P172～174復習
12	食事のマナー ・日本料理の基本とマナー ・箸使いのマナー ・中国料理の基本とマナー	プリント「日本料理、中国料理のマナー」 教科書 映像資料 実技演習※箸を持参	・教科書P112～120、P124～127 予習
13	食事のマナー ・西洋の基本とマナー	プリント「西洋料理のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P128～136予習
14	旅行のマナー(国内、海外) ・準備、乗り物、宿泊施設、観光地、ショッピングのマナー ・海外でのタブー	プリント「旅行のマナー」 教科書 映像資料	・教科書P140～154予習
15	「授業のまとめ」「振り返り」 ・各自の成果と課題を発表 ・期末テストの説明	配布した全てのプリント 教科書※レポート提出② テーマ「今後に向けて」	・教科書の復習 ・配布したプリントの復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1	期末試験（筆記試験）	60%	
2	レポート提出2回（20%×2回）	40%	
※詳細は1回目の授業で説明する。			

教科書
書名:新生活教養 社会人としての基本マナー 著者名:近喰晴子・三村善美・工藤しのぶ・渡辺雅子・小松由美 発行所:建帛社 価格:本体2,000円(税別)
その他補足事項
1 必要に応じて記載した以外の服装(スーツ着用)を指示する。その際、指定された服装以外で出席している場合は減点の対象とすることがある。 2 授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。 3 授業内容に応じて教室を変更することがある。 4 記載した以外にも授業の内容に応じて資料プリントを配布する。 5 記載した以外にも映像資料視聴を必要に応じて実施する。 6 記載した以外の「授業時間以外の必要な学修」については、授業内で説明する。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	生活教養Ⅱ	授業形態・単位数	講義・演習2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{えんどう さだこ} 遠藤 貞子 本務先:ウイリング・マナー・コンシェルジュ 職名:代表講師	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
日常生活や社会生活における基本的なマナーと、社会に出てすぐ役立つビジネスマナーを、実技演習を通して学ぶ。「気づき、実践、継続」を主眼とし、大切なことは、繰り返し実技演習を行うことにより体得できるようにする。また、マナーの知識やスキルだけではなく「他者への配慮、思いやり、心遣いを身に付けるために大切な考える力を養う」訓練の場とする。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
マナーの基本的な考え方を理解できるようになる。	目標	G H L
良好な人間関係を作るための考え方と表現方法の両面を兼ね備えたマナーの実践者になる。	目標	E G H L
どのような場面に於いても自信を持って自分を発揮できるようになる。	目標	E G H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と到達目標、評価方法、その他、等の確認 ・協力関係を作る ・グループディスカッション「私が大切にしているマナー、それはなぜ大切なのか」 ・それぞれの目標を立てる	授業計画 グループディスカッション ※レポート提出① 「身につけたいマナー」	・授業計画の本科目を確認しておく ・マナーが大切な理由を考える
2	第一印象の大切さ ・表情 ・身だしなみ ・挨拶	プリント「第一印象を磨く」 教科書 映像資料 実技演習	・心に残る人はどのような人かを考える ・教科書P18 P50～52

3	印象力を磨く ・立ち姿、お辞儀 ・礼儀正しい立ち居振る舞い ・日常生活の様々な立ち居振る舞い	プリント「挨拶」 教科書 実技演習※スーツ着用	・教科書P50～52 復習 P1～11予習
4	日本人の礼儀と国際儀礼(プロトコール) ・国際儀礼とは ・江戸しぐさから学ぶ礼儀	プリント「プロトコール」 「江戸しぐさ」 映像資料	・「プロトコール」 「江戸しぐさ」を調べる
5	言葉遣いのマナー ・人間関係を良くするための言葉遣い ・敬語の遣い方	プリント「言葉遣い」 教科書 実技演習	・教科書P54～68 予習
6	言葉遣いのマナー ・社会人として身に付けたい言葉遣い(接遇用語・クッション言葉) ・間違いやすい言葉遣い	プリント「接遇用語・クッション言葉」 教科書 実技演習※小テスト①	・プリント「言葉遣い」復習 ・教科書P54～68 予習、復習
7	コミュニケーション力を磨く ・感じの良い話し方、好感を持たれる聞き方 ・グループワーク、2人1組になり互いの強み弱みを探り出し、それを基に自己アピールを作成し発表	プリント「コミュニケーション」 教科書 実技演習	・教科書P53予習 ・自己の強みと弱みを考える
8	電話対応のマナー ・固定電話のマナー(電話のかけ方、受け方) ・携帯電話のマナー(グループディスカッション)	プリント「電話のマナー」 「携帯電話のマナー」 教科書 実技演習	・教科書P70～86 予習 ・事前配布のプリント「携帯電話のマナー」を作成する
9	電話対応のマナー「基本と応用」 ・敬語、接遇用語、クッション言葉を遣いながらロールプレイ	プリント「電話対応基本と応用」 教科書 実技演習	・教科書P70～86 予習、復習
10	手紙・はがきのマナー ・はがきのマナー ・手紙のマナー ・手紙の書き方	プリント「はがき、封筒の表書き」	・教科書P88～96 予習
11	訪問のマナー ・事前準備～辞去まで ・席次のマナー ・名刺交換	プリント「訪問のマナー」 教科書 映像資料 実技演習	・教科書P20～23 P25～48予習
12	冠婚葬祭のマナー ・慶事のマナー ・弔事のマナー	プリント「慶事・弔事のマナー」 教科書 実技演習	・教科書P156、157 P166～174予習
13	食事のマナー ・箸の使い方 ・日本料理、中国料理、西洋料理のマナー	プリント「和、洋、中のマナー」 教科書 映像資料 ※箸を持参 ※テスト②	・教科書P112～136
14	自己管理 マネーとマナー ・生活の中の自己管理 ・社会生活のマナー	ゲストスピーカー予定 ※スーツ着用※感想文提出	暮らしの中の自己管理について考える
15	授業のまとめと振り返り ・各自の成果と課題(事前に立てた目標は達成できたか)		
到達度の評価 (評価方法・基準)			
1	小テスト2回	30%×2回(小テスト実施日に欠席した場合はレポート提出とする)	
2	レポート提出2回	20%×2回	
※詳細は1回目の授業で説明する。			

教科書
1年次「生活教養」の授業で使用した教科書 書名:新生活教養 社会人としての基本マナー 著者名:近喰晴子・三村善美・工藤しのぶ・渡辺雅子・小松由美 発行所:建帛社 価格:本体2,000円(税別)
その他補足事項
1 必要に応じて記載した以外の服装(スーツ着用)を指示する。その際、指定された服装以外で出席している場合は減点の対象とすることがある。 2 授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。 3 授業内容に応じて教室を変更することがある。 4 記載した以外にも授業の内容に応じて資料プリントを配布する。 5 記載した以外にも映像資料視聴を必要に応じて実施する。 6 記載した以外の「授業時間以外の必要な学修」については、授業内で説明する。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	地域ボランティア活動	授業形態・単位数	実習・1単位
		開講年次	1・2・3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名:遠藤 ^{えんどう} 寿海 ^{としみ} 氏名:日下 ^{くさか} 輝美 ^{てるみ}	開講期	時間割外
		授業回数	時間割外
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
社会福祉の現状と課題を踏まえ、地域福祉への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的なボランティア活動を実践する。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①社会福祉施設、地域、在宅及びボランティア団体での実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。		目標 G J K L
②ボランティア活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。		目標 I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について ボランティアの基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習:福島市内や出身市町村の社会福祉施設の概要について調べる。
2	実際のボランティア・NPO事例紹介 (社会福祉施設、地域、在宅、災害時等におけるボランティア・NPO活動)	演習	予習・復習:ボランティア、NPO活動の実践例のまとめ
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法)	演習	

	社会福祉施設、地域活動でのボランティア (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで		
4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会:平成29年8月10日(木)予定) 実習事後指導		復習:ボランティア 活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、 実践上の課題等を 整理する。
5	実習事後指導		実習のまとめ レポート提出
到達度の評価 (評価方法・基準)			
実習出勤簿等のボランティア実践を証するもの、実習日誌、まとめレポートの提出により単位認定する。			
教科書		参考書	
使用しない。適宜、レジュメ及び資料を配布する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。 クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。			

授 業 科 目 名	地域振興活動	授業形態・単位数	実習・1単位
		開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 職名:教授 氏名:日下 輝美	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	時間割外
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>福島県内の歴史や文化、行事（イベント）の現状と課題を踏まえ、地域活性化への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的な活動を行う。</p> <p>実習にあたっては、特に、福島市の中心市街地で開催される行事（イベント）および、福島県、福島市、福島市本町商店街振興組合、中小企業同友会、青年会議所等団体（NPO含む）が企画する行事（イベント）に関わり、企画立案等の実体験を通して地域振興活動について学ぶ。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。	目標	G J K L
②地域振興活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。	目標	I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について 地域振興活動と実習に当たっての基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習:福島市内の行事について調べる。
2	ゲストスピーカーの招聘 福島市中心市街地、福島県内で開催される行事(イベント)や伝承、観光、まちづくり活動について	演習	予習・復習:実習内容選定
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法)	演習	
	地域振興活動(NPO活動等を含む) (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで		

4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会:平成29年8月10日(木)予定) 実習事後指導		復習:活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、 実践上の課題等を 整理する。
5	実習事後指導		実習のまとめ レポート提出
到達度の評価 (評価方法・基準)			
実習出勤簿等のボランティア実践を証するもの、実習日誌、まとめレポートの提出により単位認定する。			
教科書		参考書	
使用しない。適宜、レジュメ及び資料を配布する。		必要に応じて紹介する。	
その他補足事項			
年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。 クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。			

授 業 科 目 名	音 楽 演 習	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	1 ・ 2 年 次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:ブルース・ヒューバナー	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授 業 科 目 区 分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本授業は、音楽が人格形成に欠かせないものであることを前提としている。</p> <p>すなわち社会、家族、自らのアイデンティティ、身体および精神の両方が、音楽に依り質の高いものへ向上し、人生の全てを左右されることさえあることを学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
音楽・音に対し知性的な考察ができ、かつ、洗練された鑑賞力と選択力を養うことを目指す。それにより音楽を楽しみ、豊かな感性を育むことを目標とする。	目標	A E F J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1章 音楽的な生活 パート1-私の音楽生活の瞬間 自己紹介	リスニングセッション 音楽を聴く方法 音楽の記述 レクチャー/デモンストレーション	
2	パート2-音楽的な生活とは?	リスニングセッション 小泉文夫『子守唄の社会学』 レクチャー/デモンストレーション	プリントについての準備、まとめ

3	パート3-根と枝 伝統と革新 音楽のパトロン 音楽を経済的にどのように支えたか?	リスニングセッション 小泉文夫『わらべうたと 民族性』 映画:アマデウス	プリントについての 準備、まとめ
4	パート4-音楽制作の現場 楽譜	リスニングセッション Comparison of World Notation Systems, 映画:アマデウス	
5	パート4-音楽制作の現場 アンサンブル	リスニングセッション DVD 映画:アマデウス	プリントについての 準備、まとめ
6	2章 音楽と空間	リスニングセッション 小泉文夫『人はなぜ歌を うたうか:音楽の場』 映画:アマデウス	プリントについての 準備、まとめ
7	パート1-音楽の進化 自然界の音	リスニングセッション CD/youTube	
8	パート2-「アーティスト」と素材 世界の楽器について	リスニングセッション 音楽と自然:尺八 自然と文化の先端につい て:尺八の作り方	
9	パート3-「アーティスト」と素材 建築と音楽の平行進化	リスニングセッション TedTalk 音楽と建築 DVD	学生研究発表:音楽 環境検査 準備
10	3章 音楽の力	リスニングセッション 小泉文夫ア『ジアの音楽・ ヨーロッパの音楽』 ゲストレクチャー DVD	学生研究発表:音楽 環境検査 準備
11	パート1-音楽と世代 1960's;ヒップホップ	リスニングセッション 映画:『ウッドストック』 CD/youTube	学生研究発表:音楽 環境検査 準備
12	パート2-政治的運動と音楽 ボブ・マーリー;ジョン・レノン	リスニングセッション ドキュメント『ボブ・マー リー』 CD/youTube	学生研究発表:音楽 環境検査 準備
13	パート3-宗教音楽	リスニングセッション 小泉文夫『仏教音楽から 学ぶもの』 CD/youTube	学生研究発表:音楽 環境検査 準備
14	Survey of Sound Environment 学生研究発表:音楽環境検査	リスニングセッション	
15	Survey of Sound Environment 学生研究発表:音楽環境検査	リスニングセッション	
16	4章 音楽は言語 パート1-言語の学習と音楽の学習	リスニングセッション	
17	パート2-音楽でストーリーを伝える 手法	リスニングセッション Case Study: 山田流箏 曲『竹生島』 レクチャー/デモンスト レーション	
18	パート2-音楽でストーリーを伝える 緊張と解放 音楽形式	リスニングセッション レクチャー/デモンスト レーション	

19	パート3-即興	リスニングセッション DVD CD/youTube	プリントについての準備、まとめ
20	5章 ジャズ パート1-ジャズの本質 L.アームストロングとジャズソロ	リスニングセッション Film:Ken Burns Documentary The History of Jazz レクチャー/デモン ストレーション	プリントについての準備、まとめ
21	パート2-アメリカの芸術形式? ジャズの歴史	リスニングセッション Film:Ken Burns Documentary The History of Jazz ゲストレクチャー	プリントについての準備、まとめ
22	パート3-世界におけるジャズの影響	リスニングセッション Film:Ken Burns Documentary The History of Jazz DVD CD/youTube	プリントについての準備、まとめ
23	6章 三つの窓:音楽家、楽器、ジャンル	リスニングセッション	
24	パート1-ひとりの音楽家:レナード・バーンスタイン 指揮者として	リスニングセッション DVD CD/youTube	プリントについての準備、まとめ
25	レナード・バーンスタイン 作曲家として	リスニングセッション DVD	プリントについての準備、まとめ
26	レナード・バーンスタイン 教育者として	リスニングセッション DVD CD/youTube	プリントについての準備、まとめ
27	パート2-ひとつの楽器:スチールパン トリニダードから世界へ	リスニングセッション ゲストレクチャー	
28	パート3-ひとつのジャンル:ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD/youTube	
29	パート3-ひとつのジャンル:ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD/youTube DVD	プリントについての準備、まとめ
30	被災地と音楽	リスニングセッション ゲストレクチャー	
到達度の評価 (評価方法・基準)			
研究レポート提出 (60%)、レポート発表 (40%)、また、欠席、遅刻、授業中の態度等に関わる減点等については、初回授業時に説明する。			
その他補足事項			
教材としてCD、DVD、youTube 等使用。プリントを配布する。			

授 業 科 目 名	美術演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:兼担教授 氏名: <small>ふるはた</small> 古畑 <small>まさのり</small> 雅規	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけでなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1.作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学べる。	目標	B
2.さまざまなアイデアを出し合い、工夫できる。	目標	B
3.意欲をもって自身が楽しく授業に臨むことができる。	目標	F J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1.授業の概要と目標 2.授業内容と評価方法 3.その他(本科目の留意点)	授業計画	
2	動物の絵画の制作 構図を考え下描きをする	イラストボード エンピツ など	描きたい動物の資料を用意する
3	動物の絵画の制作 背景を考えながら下描きをする	イラストボード エンピツ など	身近な動植物の観察
4	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えながら下描きをする	エンピツ、ペン など	身近な動植物の観察

5	動物の絵画の制作 絵具を使って着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
6	動物の絵画の制作 陰影を考えて着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
7	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えて仕上げ	定着スプレー	身近な動植物の観察
8	動物のオブジェの制作 土台づくり	板、粘土 など	制作する対象の資料 を用意する
9	動物のオブジェの制作 基礎の形づくり	アルミハク、粘土 など	制作する対象の資料 を用意する
10	動物のオブジェの制作 骨格を正確に制作する	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
11	動物のオブジェの制作 少しずつ肉付けをする	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
12	動物のオブジェの制作 ボリューム感をだす	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
13	動物のオブジェの制作 背景も同時に制作する	アルミハク、粘土 など	身近にある物の色の 観察
14	色鉛筆の使い方の学習 力の加減による色の変化を見る	色鉛筆	身近にある物の色の 観察
15	色鉛筆の使い方の学習 グラデーションの学習	色鉛筆	身近な動植物の観察
16	オブジェの制作の続き	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
17	動物のオブジェの制作 形を完成させる	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
18	動物のオブジェの制作 絵具を使って着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
19	動物のオブジェの制作 グラデーションをとり入れる	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
20	動物のオブジェの制作 全体のバランスを整え仕上げ	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
21	粘土を素材とする立体の風景の制作 下描き	スケッチブック、エンピツ など	制作する対象の資料 を用意する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 絵画と立体の部分を分けて考える	スケッチブック、エンピツ など	制作する対象の資料 を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 土台づくり	粘土 など	制作する対象の資料 を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 立体になる部分の制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用 意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 質感なども考えて制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用 意する
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 背景を考える	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用 意する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 水彩、アクリル絵具で着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観 察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ボリューム感を出す	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観 察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 全体の色のバランスを考えて着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観 察する
30	粘土を素材とする立体の風景の制作 仕上げ 一年間のまとめ	水彩、アクリル絵具、 定着材 など	

到達度の評価（評価方法・基準）	
1. 作品評価	70% (制作時間に見合った達成度、工夫、ボリューム)
2. 授業態度	30% (作品への意欲で評価)
教科書	
その都度、資料を配布する。	
その他補足事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・材料費として2,700円を徴収する。 ・授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ないとう} 内藤 ^{てつお} 哲雄	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	
社会福祉士	〃	選択必修	
精神保健福祉士	〃	選択必修	
認定心理士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>心理学は、人間理解の学問としてその重要性がますます高まってきている。本講義では、古典から最新に至るまでの各心理学領域の諸研究から明らかとなった基本事項を、日常生活の中でみられるありふれた現象に関連づけながら概説していく。また、心理学のそれぞれの理論を福祉の現場でどのように応用することが可能かを、具体例を挙げて説明していく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心理学での基本事項について理解が深まるようになる。	目標	A J L
日常生活を数量的、科学的に捉える考え方になじめるようになる。	目標	C K L
日常生活を心理学的に考える、すなわち「心理学する」感覚を体験する。	目標	J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1章 心理学の視点	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	
2	心理学の方法	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p3～13を読んでおく

3	行動研究と心理学	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p14～18を 読んでおく
4	2章 行動の基本様式	ディスカッションを加える	教科書p19～21を 読んでおく
5	感覚支配的行動と習得行動	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p21～33を 読んでおく
6	意識と行動	ディスカッションを加える	教科書p33～45を 読んでおく
7	3章 発達／遺伝と環境	ディスカッションを加える	教科書p47～51を 読んでおく
8	発達の变化／発達障害	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p51～61を 読んでおく
9	4章 学習・記憶／条件づけ・技能学習	ディスカッションを加える	教科書p65～78を 読んでおく
10	社会的学習	ディスカッションを加える	教科書p78～80を 読んでおく
11	記憶／学習・記憶の神経学的基礎	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p80～100を 読んでおく
12	5章 感覚・知覚／感覚の分化と統合	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p101～110 を 読んでおく
13	視知覚	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p110～150 を 読んでおく
14	聴知覚	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p150～159 を 読んでおく
15	触覚	ディスカッションを加える	教科書p159～163 を 読んでおく
16	6章 思考・言語／問題解決・問題解決と認知機能	ディスカッションを加える	教科書p165～173 を 読んでおく
17	知識	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p173～179 を 読んでおく
18	推論と発見	ディスカッションを加える	教科書p179～186 を 読んでおく
19	コミュニケーションと言語の特性	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p187～200 を 読んでおく
20	脳損傷と高次機能の障害	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p200～208 を 読んでおく
21	7章 動機づけ・情動／食と性の動機づけ	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p209～215 を 読んでおく
22	基本的情動／親和動機づけ、活動と探索の動機づけ	ディスカッションを加える	教科書p215～225 を 読んでおく
23	達成と自己実現の動機づけ	ディスカッションを加える	教科書p226～228 を 読んでおく
24	フラストレーションとコンフリクト	ディスカッションを加える	教科書p228～234 を 読んでおく

25	8章 個人差／知能・性格	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p235～251を読んでおく
26	パーソナリティの発達要因と不適応・障害	ディスカッションを加える	教科書p251～262を読んでおく
27	9章 社会行動／社会行動の発達	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p265～270を読んでおく
28	社会的認知／態度と説得・社会的影響・対人魅力と対人関係	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p270～282を読んでおく
29	集団の中の個人・社会的脳	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p284～294を読んでおく
30	第10章 心理学の歴史	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p297～328を読んでおく
期末試験	期末筆記試験	筆記試験	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
「授業アンケートカード」での授業への感想やコメント(20%)と試験(80%)によって評価する。			
教科書			
書名:心理学[第5版]		著者名:鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編)	
発行所:東京大学出版会		価格:2,400円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	法学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{なかざと} 中里 ^{まこと} 真 本務先:福島大学 職名:准教授	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
市民的養護として法学を修得し、市民社会の中で遭遇する法的紛争に対する問題解決能力を養えるようになることが目標である。具体的には以下の到達目標それぞれについて理解することが求められる。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①日常生活に法がどのように関与しているか理解できる	目標	A
②私法・公法の役割は何の違いについて理解できる	目標	A J K
③契約とは何かについて理解できる	目標	A C K
④家族と法の関係について理解できる	目標	A J
⑤紛争の解決方法について理解できる	目標	A K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス ・授業内容と評価方法 ・学生生活と法	授業計画案内	
2	イントロダクション ・社会生活と法	レジュメ配布	教科書序章を事前に読む
3	公法と私法	レジュメ配布	教科書7章、11章を事前に読む
4	裁判と法	レジュメ配布	教科書12章を事前に読む

5	裁判員制度の理解を求める	DVD視聴	第4回授業で扱った内容を復習する
6	人間の生死と法 ・親子関係に関する法	レジュメ配布	教科書第1章、第14章を事前に読む
7	子どもと法 ・親子関係に関する法	レジュメ配布	教科書第1章、第2章を事前に読む
8	高齢者と法 ・高齢者を取り巻く法的問題	グループ・ディスカッション(冒頭20分) (レジュメ配布)	教科書第13章を事前に読む
9	住居と法 ・戸建て住宅と共同住宅	レジュメ配布	教科書第6章を事前に読む
10	契約と法 ・契約の成立と拘束力	レジュメ配布	教科書第5章を読む
11	消費生活と法① ・消費者方という考え方	レジュメ配布	教科書第5章を事前に読む
12	消費生活と法② ・食の安全と製造物責任法	レジュメ配布 (指名しての意見聴取を含む)	第10回、第11回の授業内容を復習する
13	労働と法の関係 ・職場と法	レジュメ配布 学生の身近な事例を紹介してもらう	教科書第3章を読んでくる
14	情報と法	レジュメ配布	教科書第8章を事前に読む
15	まとめ	レジュメ配布	これまでに配布した資料に目を通す
期末試験	期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
筆記試験で成績判定を行う。基準は 上記「到達目標」の①②③④⑤に照らして、下記の通りとする。			
80点以上:全ての項目が極めて高い水準に達している 79～70点:全ての項目が高い水準に達している 69～60点:全体的にのぞましい水準に達している 59点以下:不合格			
なお、レポートや確認小テストを課した場合、それらも成績判定の一部(最大30点)を構成する。 詳細は、授業初回に指示する。			
教科書		参考書	
書名:市民生活と法【第4版】 著者名:中川淳(編集) 発行所:法律文化社 価格:2,300円(税別)		書名:ポケット六法 平成30年版 (平成29年10月刊行予定) 著者名:山下友信、山口厚(編集代表) 発行所:有斐閣 価格:1,852円(税別)(未刊行のため価格は参考)	
その他補足事項			
授業中、条文に触れる機会が多いため、参考書に挙げたポケット六法(有斐閣)やデイリー六法(三省堂)など小型の六法を手元に用意することが望ましい。なお、教室を巡回し、条文の読み上げをしてもらうことがあるほか、上記に示した回以外にも指名して意見を挙げてもらうこともあるため、その準備をしておくこと。			

授 業 科 目 名	社会学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{かよ} 嘉代	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問を受け付けます。Eメールでの質問も可。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	
精神保健福祉士	〃	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
急変する社会情勢のなかで、福祉系の専門職においては様々な集団・組織の構成原理の変化と、人々の生き方やニーズの変化とを的確に関連づける姿勢が求められている。受講生はこの点を常に念頭に置きつつ、社会学の基礎概念を理解し、現代社会における様々な課題への関心と分析力を身につけられたい。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
国家試験合格に必要な知識を身につける。	目標	A B C K
保健・医療・福祉分野の専門職に必要な社会的な分析力を身につける。	目標	A B C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の概要と目標および評価方法・授業進め方の留意点) 社会システム(テキスト序章・第1章第1節:p1-p31) T.パーソンズの社会理論	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第2週実施の小テスト対策
2	法と社会システム(テキスト第1章第2節:p32-p44) 合法的支配の仕組みとしての「官僚制」 ※小テスト1:第1週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	総務省統計局のWebサイトを確認しておくこと。
3	経済と社会システム(テキスト第1章第3節:p45-p57)市場のメカニズム・わが国の労働市場の特徴・「格差」について	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第4週実施の小テスト対策

4	社会変動(テキスト第1章第4節:p58-p71) 社会変動についての諸理論・ポスト工業社会・グローバリゼーションの光と影 ※小テスト2:第2週・第3週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	近年の『国勢調査報告』『人口動態統計』を確認しておくこと。
5	人口からみた社会変動(テキスト第1章第5節:p72-p90) 「人口」の基礎概念、世界の人口・日本の人口	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第6週実施の小テスト対策
6	生活のとらえ方(テキスト第2章第1節:p91-p104) 生活様式とは、生活構造について ※小テスト3:第4週・第5週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	近年の『社会生活基本調査』を見ておくこと。
7	家族(テキスト第2章第2節:p105-p119) 家族の種類、家族の機能についての諸説、家族の機能の変化についての諸説	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第8週実施の小テスト対策
8	地域(テキスト第2章第3節:p120-p135) 地域の基礎概念、シカゴ学派の都市研究、日本の論者の都市研究 ※小テスト4:第6週・第7週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	『国勢調査報告』等から家族類型別割合の推移を確認しておくこと。
9	社会的行為(テキスト第3章第1節:p137-p150) デュルケム・ヴェーバー・パーソンズの議論、習慣としての行為	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第10週実施の小テスト対策
10	社会的役割(テキスト第3章第2節:p151-p163) 「自己」と「他者」、地位と役割 ※小テスト5:第8週・第9週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	社会集団の概念・官僚制についての論者や用語をチェックしておくこと。
11	社会集団と組織、社会的ジレンマ(テキスト第3章第3節・第4節:p164-p186) 集団の分類と議論、合理的選択理論と社会的ジレンマ	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第12週実施の小テスト対策
12	社会関係資本と社会的連帯(テキスト第3章第5節:p187-p197) 社会関係資本の理論、大衆社会論 ※小テスト6:第10週・第11週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	社会問題についての諸理論について調べておくこと。
13	社会問題のとらえ方(テキスト第4章第1節:p199-p210) 逸脱とラベリング	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第14週実施の小テスト対策
14	日本社会と社会問題(テキスト第4章第2節:p211-p225) SSM調査にみる戦後の日本社会、新しい格差 ※小テスト7:第12週・第13週の範囲から出題	教員作成の資料配布およびスライド上映。	わが国における「生存権」「社会権」について調べておくこと。
15	共生社会と権利(テキスト第4章第3節:p226-p237) 近代初期の社会的混乱、自由権・生存権・社会権	教員作成の資料配布およびスライド上映。	期末試験に向けて配布物・小テストを再度確認しておくこと。
期末試験	50点満点(1問1点×50問)の期末試験を実施。 試験は○×式、第1回～第7回の小テストを中心に出题予定。		期末試験の復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評についてオフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
評価は加点式(第1回授業開始時点での持ち点は0点とする)。課題(15点満点:奇数回目の授業時に授業に関する簡単な課題を課す。初回時のみ1点、以後1回2点。8回実施)・小テスト(35点満点:偶数回目の授業時に実施。5点満点、7回実施)・期末試験(50点満点)の総ての合計点をもって最終的な評価とする。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。			
教科書		参考書	
書名:新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価格:2,200円(税別)		特に指定しない。	
その他補足事項			
・期末試験の問題の大半を小テストから出題するので、小テストの復習を必ず行うこと。 ・成績処理終了後、模範解答添付の上で期末試験の答案を返却する。知識の定着のために是非活用されたい。			

授 業 科 目 名	女性と保健	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: <small>おだ まさあき</small> 織田 正昭	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回講義時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
女性の健康と疾患について、生まれる前（胎児）から乳幼児期に始まり、高齢期にいたるまでの女性のライフサイクルに合わせて教科書をもとにして学ぶ。併せて関連スライドとビデオ視聴により理解を深める。講義を通じて母性としての自己の健康状態を把握し、正しい知識を習得する。授業内では女性の保健に関わる社会的なトピックスをもとに受講者間で討論を行う。おおむね5回ごとに確認のためにミニテストを行う。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1) 女性として、また近未来の親として知っておくべき母性に関する基礎知識を習得できる。	目標	A C
2) ライフサイクルの立場から女性の一生にわたる保健、健康問題を理解することができる。特に、月経、妊娠、出産に始まり、乳幼児期、学童期、思春期、成熟期、更年期、老年期と、時期ごとに生じる様々な健康に関する身体的・生理的、心理的、社会的特性と機能を、母性の立場から考えることができる。	目標	A K
3) 母子の健康に関する社会的トピックスに対して積極的に関心を持ち、それらに対して自分の意見や考えを述べられるようになる。	目標	L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1.オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 2.授業内容 女性の健康の概念と歴史 女性のライフサイクル 生殖生理総論		

2	女性の身体特性(1) ～生殖器の構造と機能 ～女性と先天異常	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
3	女性の身体特性(2) ～乳房の構造と機能を中心に ～異常の発見	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
4	月経の生理とホルモンの生化学、月経異常と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
5	妊娠の成立と維持、分娩の生理 ～生理・生化学的变化の理解 ～男性の生殖生理	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
6	避妊と人工妊娠中絶	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
7	女性の疾患 ～気になる症状の理解 ～産後うつ	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
8	女性の疾患 ～子宮がん、卵巣がん ～子宮内膜症、子宮筋腫ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
9	女性の疾患 ～乳がんを中心に	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
10	性感染症 ～HPV、AIDSなどのSTDの現状と対応	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
11	女性と予防接種 ～HPV、風疹などを中心に	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
12	更年期の健康、働く女性と高齢出産 ～先天異常 ～骨粗しょう症ほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。

13	不妊治療 ～生殖医療(代理出産)	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
14	女性に関する先端医療の現状 女性の性をめぐる社会問題 ～性暴力、DVほか	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
15	まとめ ～女性の保健をめぐる総合討論 ～女性の健康のための法律・制度	スライドを用いながら、テキスト内容に沿って講義・解説する。関連ビデオを視聴し、受講者間で意見を述べあう。	予習よりも前回の復習に重点を置いて講義に臨んでほしい。視聴ビデオの意見・感想を作成しておく。
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う。		
(2) 課題発表	テキストをもとにあらかじめ割り振った課題の発表を評価する。		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義4～5回ごとにミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。		
(4) 授業態度	知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。		
最終的に	(1) 60%	(2) 10%	(3) 20% (4) 10%の割合で総合評価する。
教科書		参考書	
書名:女性のライフサイクルとナーシング 著者名:高橋真理、村本淳子(編) 発行所:ヌーベルヒロカワ 価格:2,200円(税別)		書名:ウイメンズヘルスナーシング概論 著者名:村本淳子、高橋真理(編) 発行所:ヌーベルヒロカワ 価格:1,900円(税別)	
その他補足事項			
提示した参考書は教科書と対を成すものであり、できれば購入を勧めたい。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	食生活と健康	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:兼任講師 氏名:井間 真理子 <small>い ま ま り こ</small>	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>現代社会においては、健康維持・増進に抗う複雑で困難な問題が表出している。本講義では、栄養を受け摂る人体のしくみや何をどれだけ摂ればよいか等の基本的課題、さらに、食べることを様々な角度から捉え、新しい健康づくりが必要とされる日常生活の中での栄養と健康、栄養と疾病について解説する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
生命維持に必要な栄養素の機能について理解し、日々、摂取している食の内容が適切なものとなっているか判断でき、自分の健康を守るための正しい食行動を実践できるようになる。	目標	A J K
得られた知識を自らの能動的な学びで発展させ、社会の広い場面で健康維持・増進、疾病予防のために応用・実践できるようになる。	目標	A I J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標(授業内容) 評価方法・授業の進め方と留意点 第一章 健康と栄養 栄養とは 栄養の歴史	授業計画 DVD視聴(生体エネルギー 32分) 教科書、パワーポイントを用い説明する	
2	第一章 健康と栄養 健康の概念 健康の三大原則	教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習:教科書p13-20を一読する 復習:練習問題

3	第二章 食品の成分と機能1 炭水化物、脂質、タンパク質	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p21 -29を一読する 復習：練習問題
4	第二章 食品の成分と機能2 ビタミン、ミネラル 水	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p80 -35を一読する 復習：練習問題
5	第二章 食品の成分と機能3 一次機能 二次機能 三次機能	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p36 -38を一読する 復習：練習問題
6	第三章 からだのしくみと栄養素1 細胞、組織器官、ホルモン、酵素 食欲とその調節	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p39 -44を一読する 復習：練習問題
7	第三章 からだのしくみと栄養素2 消化器の機能 消化液の分泌	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p44 -46を一読する 復習：練習問題
8	第三章 からだのしくみと栄養素3 栄養素の消化・吸収 栄養素の輸送・代謝 エネルギー代謝、食品のエネルギー量	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	復習：各回の練習問 題を十分理解して小 テストに備える勉強
9	第五章 栄養状態の評価1 食事調査、生活習慣状況 身体計測、臨床検査	小テスト(範囲:1-8回) 学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：小テストに備 える勉強 復習：練習問題
10	第五章 栄養状態の評価2 日本人の食事摂取基準 食事バランスガイド 健康づくりのための身体活動指針	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p55 -62を一読する 復習：練習問題
11	第六章 ライフステージと栄養 胎児から成長期の栄養 成人期の栄養 高齢期の栄養	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	復習：各回の練習問 題を十分理解して小 テストに備える勉強
12	第七章 日常生活と栄養 ストレスと栄養 免疫と栄養	小テスト(範囲:9-11回) 学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：小テストに備 える勉強 復習：練習問題
13	第八章 生活習慣病と栄養1 生活習慣病の概要 肥満、糖尿病、脂質異常症	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p107 -112を一読する 復習：練習問題
14	第八章 生活習慣病と栄養2 高血圧、動脈硬化 生活習慣病の予防と食生活	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p112 -116を一読する 復習：練習問題
15	第九章 現代社会の食と栄養 食品の安全性 食生活の多様化 まとめ 1-15回の学習内容を振り返る	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書p117 -128を一読する 復習：練習問題
期末 試験	後期末試験		期末試験に向け十 分に勉強する

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
到達度の評価（評価方法・基準）	
(1) 筆記試験 記述方式の後期末試験70点満点 (2) 小テスト 2回(15点満点×2)30点満点 (3) 評価方法・基準に関する詳細は初回授業時に説明する。	
教科書	参考書
書名:健康づくりの栄養学 著者名:小林 修平 編著 発行所:建帛社 価格:2,200円(税別)	なし(授業中に適宜指示)
その他補足事項	
授業内容は進行状況により変更することがある。	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	英語リーディング	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{りょうじ} 了治	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>これまでに培われた英語力の上に立ち、英文読解を通して基本的な英文法を整理し、英単語・構文の習得を図りながら、英語学習の中でも習得困難なリーディング力の向上を目指す。また本文中で使われている表現を応用した英作文の練習も行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発現力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1) 辞書を使用して英文の内容を理解できる。	目標	A C
2) 英文を文法的に分析して正しく解釈できる。	目標	A C
3) 既習の英語表現を応用して英語で簡単な自己表現ができる。	目標	D J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標、授業内容と進め方、その他留意点などについて	授業計画	
2	Unit 1. All You Have to Do is Press a Key Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.2~3本文の意味調べ・音読
3	Unit 1. All You Have to Do is Press a Key Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
4	Unit 2. Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise? Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.6~7本文の意味調べ・音読

5	Unit 2. Why Does It Feel Easier to Run Counter-clockwise? Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
6	Unit 3. Crusaders: Their Influence is Still Felt Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.10～11本文の意味調べ・音読
7	Unit 3. Crusaders: Their Influence is Still Felt Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
8	Unit 4. Beethoven, the First Composer to Keep His Independence Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.14～15本文の意味調べ・音読
9	Unit 4. Beethoven, the First Composer to Keep His Independence Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
10	Unit 5. The Plague Carried by Rats Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.18～19本文の意味調べ・音読
11	Unit 5. The Plague Carried by Rats Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
12	Unit 6. You Could Be a Great Runner Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.22～23本文の意味調べ・音読
13	Unit 6. You Could Be a Great Runner Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
14	Unit 7. The Face That Tells the Truth Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.26～27本文の意味調べ・音読
15	Unit 7. The Face That Tells the Truth Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
16	前期末試験		前期の既修内容を再確認する
17	Unit 8. Character and Blood Type — It's Easy to Trick Ourselves Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.30～31本文の意味調べ・音読
18	Unit 8. Character and Blood Type — It's Easy to Trick Ourselves Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
19	Unit 9. 15-minute Naps Will Make You a Genius Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.34～35本文の意味調べ・音読
20	Unit 9. 15-minute Naps Will Make You a Genius Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
21	Unit 10. If You Didn't Eat So Many Hamburgers Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.38～39本文の意味調べ・音読
22	Unit 10. If You Didn't Eat So Many Hamburgers Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
23	Unit 11. What Happens When You Use a Barcode Reader? Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.42～43本文の意味調べ・音読
24	Unit 11. What Happens When You Use a Barcode Reader? Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
25	Unit 12. You Can't Lie Without Showing It Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.46～47本文の意味調べ・音読
26	Unit 12. You Can't Lie Without Showing It Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
27	Unit 14. Family Names or Given Names: Which are Better? Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.54～55本文の意味調べ・音読

28	Unit 14. Family Names or Given Names: Which are Better? Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	プリントで既修内容を確認する
29	Unit 15. I'll Never Get Rid of My Microwave Skills in Action / Reading Passage (1)	テキスト・CD使用	教科書p.58~59本文の意味調べ・音読
30	Unit 15. I'll Never Get Rid of My Microwave Reading Passage (2) Translation/Comprehension	テキスト・CD・プリント使用	後期の既修内容を再確認する
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<ul style="list-style-type: none"> • 前期、後期末試験(各30%) • 授業への貢献、発表、提出物など(40%) • 無断欠席1回3点減点(忌引きや病欠は除く) • 私語、居眠りなど、学生受講規定に反した場合、注意1回1点減点。 • 定められた授業回数の1/3を超える回数を欠席した場合、単位認定は行わない。 			
教科書			
書名: Power Reading 1 —Reading in Chunks— 著者名: 湯舟英一 発行所: 成美堂 価格: 1,994円			
その他補足事項			
授業には英和辞典を持参すること。(電子辞書可)			

授 業 科 目 名	英会話 I	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:ブルース・ヒューバナー	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー:水曜日 研究室 15:15~16:30		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では実社会のあらゆる場面において不可欠なコミュニケーション力を英語の学習により、言葉による相互理解のスキルの重要性を考え、工夫する力を培うことを目的とする。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
英会話によるコミュニケーション能力をアップすることができる。	目標	B E I
具体的な方法やメソッド、効果的な学習スキルを体験することができる。	目標	E I
日本以外の文化(映画、音楽、スポーツ)について英語で話すことができるようになる。	目標	E I
自分の国の文化を理解した上で、外国人に英語で説明できる、アイデンティティを確立することができる。	目標	B E I
プレゼンテーションでリーダーシップをとり、自分の意見を述べるようになる。	目標	B E I J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション1 About Drills, Reports, Conversation Culture, Clips, Film screenplays, Using smartphones, internet.	講義	
2	オリエンテーション2 Six Steps for language learning. weekly drill:発音の上達(口を開けて、声に出す)速さと抑揚(カタカナ英語排除) スクリーンプレー		Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.

3	オリエンテーション3 英語を学ぶベーシックパターン About Learning English Online Using NHK World, YouTube, New York Times, Japan Times ST, FaceBook, E Mail, Etc.	インターネット ドキュメンタリー: Journeys in Japan ニューヨークタイムズ紙 フェイスブック	Basic Pattern review. Home drill.
4	Using body language (hand shakes, bowing, hand gestures, waving etc.) ボディランゲージ 身振り 英語で挨拶 ジェスチャー	ビデオ: The Many Handshakes (gestures, African- American culture)	Basic Pattern review.
5	Using “One Word Communication” 一単語でコミュニケーション	ビデオ: The Man and the Dog story (no words) “Dude” (one word) ビデオ: Ted Talk	Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.
6	Telling where it Is. どこにありますか? Report: ”My Place”	レポート: 私の家	Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.
7	Telling where it Is. どこにありますか? Report: ”My Place”	レポート: 私の家 リスニング: スクリーンブ レー School of Rock	Basic Pattern review. Home drill. Report preparation.
8	意見を述べる Asserting my opinion, showing off my style 私のファッション Slang: Rock Music	Classroom Conversation My fashion, my style リスニング: スクリーンブ レー School of Rock	
9	Asserting my opinion, showing off my style 私のファッション	Video: New York Times: Intersection リスニング、ウォッチングに より会話の内容を想像する リスニング: スクリーンブ レー School of Rock	
10	Asserting my opinion, showing off my style 私のファッション	Video: New York Times: Intersection リスニング、ウォッチングに より会話の内容を想像する リスニング: スクリーンブ レー Roman Holiday	映像とオーラルプ レゼンテーションや ディスカッションの 準備
11	“What’s he doing?” 何をしているか?	Report “My Favorite Photograph” ビデオ: Polar Bear 私の好きな写真 リスニング: スクリーンブ レー Roman Holiday	映像とオーラルプ レゼンテーションや ディスカッションの 準備
12	“What’s he doing?” 何をしているか?	Report “My Favorite Photograph” 私の好きな写真 ビデオ: Air France リスニング: スクリーンブ レー Roman Holiday	映像とオーラルプ レゼンテーションや ディスカッションの 準備
13	Taking and giving directions. Field trip to Tenjin Bashi	Map and directions リスニング: スクリーンブ レー Wizard of Oz	Self-guided tour の準備

14	Taking and giving directions. Field trip to Tenjin Bashi	Map and directions リスニング:スクリーンプレー Wizard of Oz	Self-guided tour の準備
15	前期ワラップアップ まとめ	リスニング:スクリーンプレー リスニング:スクリーンプレー Wizard of Oz	
16	English all around us. British English	listening to English from many areas. case study: ビデオ Wallace and Gromit "A Day Out" リスニング:スクリーンプレー The King's Speech	各自で英語を探す
17	English all around us. British English	リスニング:スクリーンプレー The King's Speech	各自で英語を探す
18	British English	リスニング:スクリーンプレー The King's Speech	
19	About learning English online Using NHK World, YouTube, New York Times, Japan Times ST	Lecture	
20	Inspiration: who is my hero? Why? 自分の憧れ、ヒーローは誰か? インスピレーション貰える人は?	ビデオ Bjork Interview	映像とオーラルプレ ゼンテーションや ディスカッション
21	Inspiration: who is my hero? Why? 自分の憧れ、ヒーローは誰か?	ビデオ 学生の憧れの人	映像とオーラルプレ ゼンテーションや ディスカッション
22	Inspiration: who is my hero? Why? 自分の憧れ、ヒーローは誰か?	ビデオ 学生の憧れの人	映像とオーラルプレ ゼンテーションや ディスカッション
23	Japanese Culture in English 英語による日本文化 自分の国の文化を理解した上で、外国の方に英語で説明 できる、しっかりしたアイデンティティを確立する	ケーススタディー:尺八 (英語で和楽器を学ぶ) ビデオ Tokyo Ramen,	発表準備 (映像と オーラルプレゼン テーション)
24	レポート:Japanese Culture in English 英語による日本文化	ケーススタディー:尺八 (英語で和楽器を学ぶ) ビデオ"Dreaming of Sushi in New York," "Japanese Swords for The World"	発表準備 (映像と オーラルプレゼン テーション)
25	レポート:Japanese Culture in English 英語による日本文化	ケーススタディー:尺八 (英語で楽器を学ぶ)	発表準備 (映像と オーラルプレゼン テーション)
26	レポート:Japanese Culture in English 英語による日本文化	ケーススタディー:尺八 (英語で楽器を説明)	
27	レポート: My Hometown 自分の故郷	リスニング:スクリーンプレー Stand By Me	
28	レポート: My Hometown 自分の故郷	リスニング:スクリーンプレー Stand By Me	
29	まとめ Wrap up	リスニング:スクリーンプレー Stand By Me	
30	クラスパーティ		

到達度の評価（評価方法・基準）

The students are expected to participate, give reports, engage with each other in reasonable way. The students will be assessed based on the amount and quality of their engagement.

学生は授業中に発表、レポート、会話を自然に行う。

授業中の発言・質問50%、レポート30%、交流・会話のやりとり・質問20%の質と量で評価する。

教科書

参考書

教科書はありません。
教材としてDVD、音楽、CM、ニュースのクリップ
(ニューヨークタイムズビデオ、YouTubeなど) 英語による日本文化和楽器は『悠』(初心者用尺八)を提供。

映画:ディスカッションの材料として映画、スクリーンプレー(映画)を観賞する。
文法のパターン、単語、コンセプトなどのメモNote Bookは各自用意すること。

その他補足事項

毎回の授業の運び方:

Drill (warm up) ドリル、声を出す体操 Today's Pattern 文法のパターン

Talking Point (ニュースや日常生活の話題など)

Report (レポート生の発表)

Screen Play スクリーンプレー(映画)

授 業 科 目 名	英会話 II	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:ロナルド・ブレント・スコット	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問を受けます。 メールアドレス等については初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
During class students will practice having conversations in English. Students will prepare for each class and study assignments. A short quiz will be given once every 3 classes.	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
Build students speaking skills in English and confidence.		目標 A G I
To become a better speaker of English.		目標 C F

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	Unit 1 Pleased to meet you Unit 2 I'm from Nagoya	Makin Friends 1 Using the CD	Review 1 & 2
2	Unit 3 I'm retired now Unit 4 This is my family	Makin Friends 1 Using the CD	Review 3 & 4
3	Unit 5 How are you? Unit 6 Could you say that again, please?	Makin Friends 1 Using the CD	Review 5 & 6
4	Unit 7 I live in an apartment Unit 8 Do you have a garden?	Makin Friends 1 Using the CD	Review 7 & 8
5	Unit 9 Do you have any hobbies? Unit 10 I have rice and miso soup for breakfast	Makin Friends 1 Using the CD	Review 9 & 10
6	Unit 11 Let's go to an Italian restaurant Unit 12 Thank you for the chocolates	Makin Friends 1 Using the CD	Review 11 & 12

7	Unit 13 I like to watch variety shows Unit 14 How was your weekend?	Makin Friends 1 Using the CD	Review 13 & 14
8	Unit 15 These pancakes are delicious! Unit 16 How do you celebrate?	Makin Friends 1 Using the CD	Review 15 & 16
9	Unit 17 How do you keep in shape? Unit 18 How much is this sweater?	Makin Friends 1 Using the CD	Review 17 & 18
10	Unit 19 I'm looking for some souvenirs Unit 20 See you soon!	Makin Friends 1 Using the CD	Review 19 & 20
11	Unit 1 Tell me about your family Unit 2 I like classical music best	Makin Friends 2 Using the CD	Review 1 & 2
12	Unit 3 What blood type are you?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 3
13	Unit 4 What a beautiful coat!	Makin Friends 2 Using the CD	Review 4
14	Unit 5 Would you like to come over for coffee?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 5
15	Unit 6 Are you going to watch the game tonight?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 6
16	前期末筆記試験		
17	Unit 7 Do you have any pets?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 7
18	Unit 8 I'm taking a computer class these days	Makin Friends 2 Using the CD	Review 8
19	Unit 9 I'm going to wash the car	Makin Friends 2 Using the CD	Review 9
20	Unit 10 I'm looking for the subway station	Makin Friends 2 Using the CD	Review 10
21	Unit 11 Do you remember when you were in high school?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 11
22	Unit 12 Would you like to try some Japanese food?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 12
23	Unit 13 We're flying to Singapore	Makin Friends 2 Using the CD	Review 13
24	Unit 14 I like to read novels	Makin Friends 2 Using the CD	Review 14
25	Unit 15 That's wonderful news!	Makin Friends 2 Using the CD	Review 15
26	Unit 16 I have a terrible headache	Makin Friends 2 Using the CD	Review 16
27	Unit 17 I'm scared of snakes	Makin Friends 2 Using the CD	Review 17
28	Unit 18 It's not the same in the U.S.	Makin Friends 2 Using the CD	Review 18
29	Unit 19 Have you tried acupuncture?	Makin Friends 2 Using the CD	Review 19
30	Unit 20 Let's keep in touch!	Makin Friends 2 Using the CD	Review 20
期末 試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
前・後期末筆記試験 test 40% 授業参加態度(与えられた会話練習時間をフルに使って相手と会話する等) participation 40%、小テスト quiz 20%
教科書
書名: Making Friends 1 著者名: D. Williamson & M. Williamson 発行所: MacMillan 価格: 2,300円(税別)
書名: Making Friends 2 著者名: D. Williamson & M. Williamson 発行所: MacMillan 価格: 2,300円(税別)
その他補足事項
Don't worry about your level. For me the most important thing is to try, that is repeating the exercises given by the teacher during practice time. レベルを心配するよりも、担当教員から示された練習課題を時間一杯繰り返し練習することが何よりも重要です。

授 業 科 目 名	中国語会話 I	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名:呂 ^ろ 学 ^{がく} 如 ^{じょ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
同じ漢字なのに、日本語とは発音も違うし、字によっては伝わる意味も異なる中国語。しかし、実は共通しているところも結構ある。「両言語の違いそして共通点はなんだろうか」を理解し、その上で、発音記号やあいさつ、簡単な会話や自己紹介ができるように、教科書「フレッシュ中国語」を使い、リピート練習を通して「読む・話す・書く・訳す」の表現力を身につける。	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/> G	協働能力
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/> K	課題対処力
	<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
中国語の特徴について理解し、日本語との違いや共通点について説明できる。		目標 A B J
発音記号を覚え、発音の法則を習得し、あいさつや会話文の朗読ができる。		目標 A B
簡単な会話文の作成ができ、会話の実演ができる。		目標 A B D
簡単な自己紹介文を作成でき、実際に自己紹介ができる。		目標 A B D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス ①授業の内容及び進め方、評価の方法等について ②中国語の特徴、中国文化について	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・テキストの8ページ:あいさつ用語の予習
2	・あいさつ用語20 ①日常あいさつ・漢字の書き方、発音 ②漢字・略字・発音記号	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・あいさつ用語の復習
3	・発音記号 ①単母音・複合母音・子音 ②発音記号の組み合わせ練習～プリント	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第1課本文の予習

4	・発音記号・声調記号 ①四声の練習 ②あいさつ用語20・第1課:「こんにちは」	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第1課の復習 ・声調記号復習
5	・第1課:「こんにちは」 ①「皆さん、こんにちは!」 ②「お手数かけました!」	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第2課本文の予習
6	・第2課:「私たちはサッカーをする」 ①【誰が何をする】・【人称代名詞】～ ②【動詞】:見る・参加する、【名詞】:試合・兄貴	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第2課の復習 ・本文朗読・暗記
7	・同上 ①第2課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:人称代名詞・動詞・疑問詞など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第2課本文の暗記
8	・同上 ①第2課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ2:聞き取り・漢字の書き方・短文作成・翻訳の練習など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第2課【動詞】の作文練習
9	・同上 ①第2課本文の朗読・暗唱 ②会話練習の発表:2人一組、本文と同じ内容か、独創的に会話文を作るか、発表する。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第3課本文の予習
10	・第3課:「私は学生です」 ①第3課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:【断定・肯定・否定】の表現、【動詞】:帰る、【名詞】:学生・先生・医者・歌手	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第3課本文の朗読
11	・同上 ①第3課本文の朗読・暗唱 ②ポイント3:例文の朗読・意味の理解・漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第3課本文の朗読・暗記 ・チャレンジ3の予習
12	・同上 ①第3課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ3:ヒヤリング・漢字の書き方・短文作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第3課の復習・本文内容の会話練習発表を準備する
13	・同上 ①第3課本文の朗読・暗唱 ②会話練習:2人一組、第3課内容の練習として発表か、または独創的に会話文を作成して発表する。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・おさらい:すべての内容について理解・応用できたか確認
14	・復習 ①発音記号・声調、②あいさつ用語 ③人称代名詞・動詞・名詞・疑問詞 ④誰が、なにをする、否定の表現、質問の仕方など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・質問事項を用意する
15	・同上 ①理解度・習得度を確認する～意見を聞くなど ②練習用プリントの配布～説明、夏休み中に回答	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・夏休み期間中プリントの練習問題を解答する
16	・後期授業開始 ①おさらい:前期授業の内容 ②後期授業の説明や学生諸君の意見等を聞く。 ③中国文化や最新情報等について紹介する。	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第4課本文の予習
17	・第4課:「それは何ですか」 ①第4課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:【指示代名詞】・【動詞】・【副詞】【疑問詞】、③短文作成の練習	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第4課本文の朗読
18	・同上 ①第4課本文の朗読・暗唱 ②ポイント4:例文の朗読・意味の理解・漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第4課本文の暗記

19	・同上 ①第4課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ4:聞き取り・空白を埋める練習～漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・第4課本文内容の発表の準備
20	・同上 ①第4課本文の暗唱 ②会話練習:2人一組、第4課本文の会話発表	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第4課の復習
21	・中国映画の鑑賞 ★現代中国映画:「北京バイオリン」〈前半〉	・DVD	・映画鑑賞後の感想を考える
22	・中国映画の鑑賞 ★現代中国映画:「北京バイオリン」〈後半〉	・DVD	・映画鑑賞後の感想をまとめる
23	・中国文化・中国の最新情報について ★歴史沿革 ★政治体制・経済事情・社会問題など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声 ・プリント配布	・第5課本文の予習
24	・第5課:「どうぞよろしく!」 ①第5課本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:【姓・名の紹介】、【大学名・専攻】、【家の所在】、【家族の構成】、【動詞】、【形容詞】、【接続詞】、【名詞】、など	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第5課本文の朗読・暗記
25	・同上 ①第5課本文の朗読・暗唱 ②ポイント5:例文の朗読・意味の理解・漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・第5課本文の朗読・暗記 ・動詞などの応用練習
26	・同上 ①第5課本文の朗読・暗唱 ②チャレンジ5:ヒヤリング・空白を埋める練習～漢字の書き方・短文の作成・翻訳の練習など……	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト ・プリント配布	・自分の自己紹介文を書く
27	・同上 ①第5課のおさらい:【動詞】→「在」と「有」の違い、「有」と「没有」の使い方、接続詞「可是」について、形容詞について、②自己紹介文の作成	・パワーポイント、板書 ・映像・音声・テキスト	・自分の自己紹介文の作成
28	・発表の準備 ★自己紹介の練習～声を出して	・発音指導	・自己紹介の練習・発表の準備
29	・自己紹介の発表 ★一人ひとり順番に自己紹介を披露する	・全員参加の発表	・総復習に向けて質問事項等考える
30	・総復習 ・期末試験について	・パワーポイント、板書 ・プリント配布	・受験勉強
期末試験	後期末試験	・記述方式のテスト	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	60点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。		
(2) 会話発表	40点満点の採点とする(会話や自己紹介など)。		
(3) その他	配布プリント(練習問題)の解答や授業中の取り組み姿勢も評価の要素に入れる。		
教科書			
書名:「フレッシュ中国語」 著者名:渡辺晴夫 他 発行所:白水社 価格:2,000円(税別)			
その他補足事項			
◇必要に応じてプリントを配布する。 ◇授業の内容は前後することがある。			

授 業 科 目 名	中国語会話Ⅱ	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 氏名:呂 ^ろ 学 ^{がく} 如 ^{じょ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「中国語会話Ⅰ」のテキスト「フレッシュ中国語」を継続使用し、1年次の内容を固めながら、数字や時間、祝祭日、公共施設、乗り物、食事（食べ物、飲み物）、プレゼント、距離の遠近、経験の有無、できるなどというワンランク上の会話表現の習得にチャレンジする。また折を見ては中国映画の鑑賞、中華料理の食事などを通して中国文化に触れる機会を設け、異文化体験もできる授業の展開を図る。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
あいさつや自己紹介ができる	目標	A B I
数字や物の数え方、日付・曜日・時間の量に関する表現ができる	目標	A B I
食べ物・飲み物・乗り物・願望を表す表現ができる	目標	A B I
肯定・否定(有無・できるできずなど)、経験の有無等の表現ができる	目標	A B I
語学を通して中国文化についての理解を深める	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	・ガイダンス ①授業内容 ②授業の進め方 ③評価方法 ④受講規程 ⑤その他	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・動詞や疑問詞など会話文、自己紹介文の復習
2	・第5課までのおさらい ①発音記号・あいさつ ②人称代名詞・動詞・疑問詞・副詞・形容詞・接続詞など ③自己紹介	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課の予習:本文朗読
3	・第6課:「中国語は難しいか」 ①テキスト本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:数字・数え方・量詞など ③応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課本文の暗記及びポイント6の予習

4	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント6の練習:例文の朗読・理解 ③新しい単語の書き方・応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課チャレンジ6の予習
5	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②チャレンジ6の練習:ヒヤリング・書き取りなど	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第6課会話文発表の準備
6	・同上 ①テキストの暗記 ②総合練習:会話の発表(第6課:2人一組で)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課の予習:本文の朗読
7	・第7課:「いまは何時ですか」 ①テキスト本文の朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:新しい単語や文法の説明 ③年月日や曜日、一日の時間帯の表現について	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課本文の暗記・ポイント7の予習
8	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント7の練習:例文朗読・意味の理解 ③文法現象や新しい表現についての説明、応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課チャレンジ7の予習
9	・同上 ①テキストの朗読・暗記 ②チャレンジ7の練習:ヒヤリング・書き取りなど ③総合練習:プリント配布、短文作成、翻訳の練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第7課の復習:疑問質問あるかの確認
10	・同上 ①第6課、第7課の総合練習 ②プリント配布:短文作成・翻訳練習など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第8課の予習:本文の朗読
11	・第8課:「君は何が食べたいか」 ①テキスト本文朗読・意味の理解 ②ポイント:食べ物や飲み物、経験有無の表現 ③新しい語彙や文法現象の説明	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第8課本文の朗読・暗記 ・ポイント8の予習
12	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント8の練習:食べ物・飲み物・経験の有無 ③願望を表す表現など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・チャレンジ8の予習:例文の朗読、意味の理解
13	・同上 ①ポイント8:例文朗読・意味の理解・応用練習 ②チャレンジ8の練習:ヒヤリング、書き取りなど ③短文作成・翻訳の練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第8課本文の暗記・会話文発表の準備
14	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②第8課内容の会話練習と発表(2人一組)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・前期内容の復習:第6課、第7課、第8課
15	・前期復習 ①第6課・第7課・第8課 ②総合練習としてプリントを配布(「夏休みの友」)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・夏休み中の課題(プリント)を解答する
16	・後期授業開始 ①プリント(「夏休みの友」)の正しい解答 ②後期授業の内容や日程等についての説明など	・テキスト ・板書・パワーポイント	・第9課の予習:本文の朗読
17	・第9課:「私は車の運転ができない」 ①テキスト本文の朗読・意味の理解 ②ポイント:名詞(公共施設・乗り物)、乗り方、距離の遠近、かかる時間の量 ③「速い・遅い」、「できる・できない」の表現など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第9課本文の暗記・ポイント9の予習
18	・同上 ①テキストの朗読・暗記 ②ポイント9の練習:例文朗読・意味の理解 ③応用練習	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第9課本文の暗記及びチャレンジ9の予習

19	・同上 ①テキストの暗記 ②チャレンジ9の練習:ヒヤリング・書き取りなど ③短文作成・翻訳の練習など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・本文の暗記 ・会話文の発表練習
20	・同上 ①テキストの暗記 ②第9課本文内容の会話練習 ③発表:2人一組	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・中国文化について調べる
21	・中国映画鑑賞(1) ★映画名:未定	・DVD	・中国文化について調べる
22	・中国映画鑑賞(2) ★映画名:未定	・DVD	・第10課の予習:テキスト本文の朗読
23	・第10課:「私たちは日本語を使って交流した」 ①テキスト本文朗読・意味の理解 ②ポイントの説明:新しい単語や文法現象 ③案内役に関する表現、動詞2つのセンテンスなど ④動作の結果を表す表現や「…ながら」、「…から…まで」の表現など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・第10課本文の朗読・暗記 ・ポイントについて理解
24	・同上 ①テキスト本文の朗読・暗記 ②ポイント10の練習:例文の朗読・理解 ③応用練習:短文作成・翻訳の練習など	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・チャレンジ10の予習
25	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②チャレンジ10の練習:ヒヤリング、書き取り	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・会話文の作成を考え、構想を立てる
26	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②本文内容を参考に会話文作成	・テキスト ・板書・パワーポイント	・会話文発表の準備
27	・同上 ①テキスト本文の暗記 ②会話文のチェック、発表の準備 ③作成された会話文の発表:	・テキスト ・板書・パワーポイント	・おさらい:第9課～第10課の内容について
28	・総復習 ①第6課～第10課を振り返って ②ポイントのおさらい・総合練習 ③「私にとっての中国語会話II」と題して作文する	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・課題の作文を書く
29	・「中国語会話II」の学習を振り返って、まとめ ①中国語とは ②中国文化とは ③質疑応答など	・テキスト ・板書・パワーポイント	・総復習:問題点あるか、質問疑問を用意する
30	・最終授業:「総合練習」 ①期末試験について ②プリント配布(模擬テスト)	・テキスト ・板書・パワーポイント ・映像・音声	・受験勉強
期末試験	後期末試験	・記述方式のテスト	

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

到達度の評価(評価方法・基準)

- (1) 筆記試験 60点満点の記述方式テストを学期末に実施する。
(2) 会話発表 40点満点の採点とする(会話の発表や練習問題の解答など)。
(3) その他 配布プリント(練習問題)の解答や授業中の取り組み姿勢も評価の要素とする。

教科書

書名:「フレッシュ中国語」 著者名:渡辺晴夫ほか 発行所:白水社 価格:2,000円(税別)

その他補足事項

- ◇必要に応じてプリントを配布する。
◇授業の内容は前後することがある。

授 業 科 目 名	国際理解論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:中里 ^{なかざと} 明彦 ^{あきひこ}	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の前後に教室で質問等を受け付ける。電子メールでも対応する。メールアドレスは初回授業時に開示する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>変化の激しい今日の国際社会の状況を、私たちを取り巻く文化的・社会的・経済的状況と関連づけて理解するための基礎的な知識と能力を身に付けることを目標とする。まず、私たち日本人に最も身近な「異文化」の一つとしてアメリカを取り上げ、社会的現状とその歴史的背景を題材に日本との関連を学び、その手法を東南アジア諸国、ヨーロッパ（欧州連合）に視野を広げながら国際社会の今を捉えていく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
世界情勢、とくに世界経済に関する日々のニュースを理解するための基本的な概念や用語をしっかりとおさえることができる。	目標	A C J
国際社会の状況や変化が、私たちの生活とけっして無関係ではないことをさまざまな事例を通じて実感することができる。	目標	A C J
指定されたテーマに関して、文献やネットから必要な情報を収集し、論理的な文章で自分の見解としてまとめることができる。	目標	A C D J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・本科目の留意点 地図・データを「読む」(テスト)	授業計画 地図帳(テキスト)持参のこと	教科書に指定した地図帳に目を通しておく
2	現代世界を知るためのキーワード —2017年の世界①	配布資料/地図帳 パワーポイント(以下PP)・スライド/映像	今週の国際ニュースをチェック教科書を復習

3	現代世界を知るためのキーワード —2017年の世界②	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
4	いま世界は(1) —2017年の世界③	配布資料/地図帳 PPスライド/映像 ディスカッション	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
5	アメリカを見る眼(1) —アメリカは広い国である①	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
6	アメリカを見る眼(2) —アメリカは広い国である②	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
7	アメリカを見る眼(3) —アメリカは古い国である	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
8	アメリカを見る眼(4) —アメリカには「国」が沢山ある	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
9	アメリカを見る眼(5) —アメリカは「人種のるつぼ」か?	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
10	アメリカを見る眼(6) —アメリカと世界	配布資料/地図帳 PPスライド/映像 ディスカッション	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
11	アメリカを見る眼(7) —日本・日本人とアメリカ	配布資料/地図帳 PPスライド/映像 ディスカッション	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
12	多極化する世界と日本(1) —アジアの国際関係	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
13	多極化する世界と日本(2) —ヨーロッパの変貌	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
14	多極化する世界と日本(3) —世界経済の現状と日本	配布資料/地図帳 PPスライド/映像	今週の国際ニュースをチェック 教科書を復習
15	いま世界は(2) —世界史の中の2017年	配布資料/地図帳 PPスライド/映像 ディスカッション	レポート提出
期末 試験	前期末試験		ノート・配布資料等 を整理しておく
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>原則として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業冒頭に行う小テスト 40% ・レポート 10% ・期末試験 50% の比重で評価し、これに授業への参加態度等を加・減点して最終的な評価とする。 <p>詳細は初回の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
書名：今がわかる時代がわかる世界地図 2017年版 著者名：成美堂出版編集部（編纂） 発行所：成美堂出版 価格：1,600円（税別）		授業中に適宜紹介する。	
その他補足事項			
世界情勢、とくに世界経済に関する基礎的な理解は社会人としての職業生活に不可欠である。日頃から新聞・テレビ・ネット等の国際ニュースに関心をもって接してもらいたい。また、科目の性格上学期中の国際情勢の推移によっては授業計画を変更することもありうる。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	国際理解演習 (シンガポール)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1・2・3・4年次
担当教員	職名:兼任教授 氏名:中丸 一志 職名:兼任准教授 氏名:呂 学如	開講期	時間割外
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。また、それについての個別指導も行う。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案等を学習できる。	目標	L
ホスピタリティとインバウンドのあり方、イノベーションを学べる。	目標	H J L
各自の興味ある分野(ビジネス、観光、デザイン、建築など)を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。	目標	J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配布資料	シンガポールへの興味・関心を確認
2	シンガポール共和国の歴史(歴史・人種・言語)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの経済・産業(貿易・観光)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
6	シンガポールの交通事情	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査

7	シンガポールの食文化	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
8	シンガポールの法律・入国手続きほか事前準備について	配布資料、インターネット検索	海外旅行の調査
9	現地での行動について(渡航前の最終確認)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
10	現地体験①(4コマ)合同研修 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研修
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	現地体験②(4コマ)合同研修 マーライオンパーク、幼稚園視察	〃	〃
15	〃	〃	〃
16	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	現地体験③(4コマ) テーマ別研修	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	現地体験④(4コマ) テーマ別研修	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	現地体験⑤(4コマ) テーマ別研修	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	最終レポート発表	プレゼン発表、事後指導	体験談発表
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート 事前20%、最終レポート40%で評価する。 (2) 旅行中の行動態度 団体行動・グループ行動のあり方で40%評価する。			
教科書			
プリント資料を適宜配布し、各自の研究テーマに沿って指導する。			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となります。 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> (1) 最少催行人数を15名、最多催行人数を20名程度とする。なお、履修者が15名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が15名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となる。 (2) 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月初旬より指導を開始する。 (3) 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位に含めないこと。 <p>※国際情勢により中止もありえます。そのため、卒業に必要な単位数の積算には注意が必要です。</p>			

授 業 科 目 名	国際理解演習 (バリ島)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	時間割外
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
1. 音楽や踊りを通して、現地の幼稚園や村の子どもたちと交歓交流を行う。 2. 現地でのバリダンスレッスン、模擬結婚式、ミスター&ミズバリコンテストに参加する等、バリ島の芸術文化を体験し、人々と触れ合うことにより、日本文化との比較研究を行う。 3. ガムラン音楽や踊りを通しての心の癒しを体験する。 4. ハラパン幼稚園（本学認定こども園の姉妹園）を訪問して、バリ島幼児教育の実際について学ぶ。 5. 毎週1回の練習（時間割外）および事前指導に必ず参加する。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1.バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につけることができる。		目標 E F
2.バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、保育者としての表現力の向上を図ることができる。		目標 G I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義・概要について 渡航手続き(1)	授業計画 資料配付	バリ島の事前学習をする
2	交歓交流について 渡航手続き(2)	〃	音楽交流について考えておく
3	バリ島の宗教・歴史(1) バリ島の芸術・文化、レポート提出について	〃	バリ島の事前学習をする
4	バリ島の地理(概説) 渡航手続き(3)	〃	〃
5	交流の練習(1) 渡航手続き(4)	ゲストスピーカーによる ダンス指導	交流の練習 時間外にも練習する

6	バリ島の宗教・歴史(2) 交流の練習(2)(アクティブ・ラーニング)	〃	〃
7	交流の練習(3)(アクティブ・ラーニング)	練習	〃
8	交流のダンス指導(1)	特別講師による特別講義	〃
9	交流の練習(4)(アクティブ・ラーニング)	練習・打合せ	〃
10	交流の練習(5)(アクティブ・ラーニング)	〃	〃
11	交流のダンス指導(2)	ゲストスピーカーによる ダンス指導	〃
12	交流のダンス指導(3)		〃
13	交流の練習(6)	歌とダンスの練習	交流の練習・渡航手 続き
14	交流の練習(7)	〃	〃
15	交流の練習(8)	〃	〃
16	交流の練習(9)	〃	〃
17	交流の練習(10)	〃	〃
18	研修旅行の実施(1) バリダンスレッスン①(1コマ)	バリ島海外研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研究
19	研修旅行の実施(2) タガス村での交流など(2コマ)	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	研修旅行の実施(3) ハラパン幼稚園訪問、園児との交流(1コマ)	〃	〃
22	研修旅行の実施(4) バリダンスレッスン②(1コマ)	〃	〃
23	研修旅行の実施(5) ケランビタン宮殿訪問他(5コマ)	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	事後指導(1)	レポート作成	レポートのまとめ
29	事後指導(2)	〃	〃
30	事後指導(3)(レポート発表)	レポート提出	〃
到達度の評価（評価方法・基準）			
1. 旅行前の事前研究(10%) 2. 現地で実施する交流の練習意欲と参加態度(15%) 3. 授業の出席、および事前練習への参加態度(20%) 4. 旅行中の参加態度(35%) (集団行動の円滑化への努力、マナー、現地バリ島の人々との交流への積極性、友人との協調性) * 旅行中の参加態度の詳細については、別途説明する。 5. 最終レポートの内容(20%) ※海外研修における現地研修については、病気等やむを得ない場合を考慮して5分の4以上の日数及び時数を出席すること。			

その他補足事項

- 1.履修届は5月20日までに行うこと。
- 2.ゲストスピーカー等による特別講義、交歓交流の練習など、授業時間外に実施する場合がある。
- 3.全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回実施する。
- 4.渡航手続は、全学科の空き時間等に設定するので、週に1回は参加すること。
- 5.現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておくこと。(現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい)
- 6.研修旅行中、持病(乗り物酔いを含む)のある方は、各自の責任において薬を持参すること。
- 7.団体で行動するので協調性を身に付けておくこと。(現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とする)
- 8.現地での体調管理については、最大限サポートをするが、自己管理、自己責任とする。
- 9.研修旅行参加に伴う「承諾書」は、必ず提出すること。
- 10.ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催する。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合がある。
- 11.最少催行人数は10名、最高催行人数は16名とする。

※海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化(テロ等)や、強度性の鳥インフルエンザが発症する等、十分な安全を確保できないと判断した場合、海外研修の実施を中止、または延期する場合がある。
なお、平成29年度の海外研修実施の有無、研修日程は4月中に決定する。

授 業 科 目 名	体育実技 I	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:兼任准教授 職名:兼任講師 氏名:藤本 要 氏名:島田 貴広	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>体育実技 I では、健康・体力の維持向上を図りながら、継続して運動やスポーツに親しむ習慣や態度を身につけることをねらいとする。年間で4つのスポーツ種目を設定し、それぞれ基本技能の課題、チームワークの課題を設定し、学生が自立してスポーツ活動を行うための基本的な力を養っていく。また、試合形式で行う授業については、準備から審判を含めた試合の管理運営までを学び、実践力を身につけていく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
スポーツのルールやマナーについて理解し実践できるようになる。	目標	A
スポーツ種目の基本技能を習得し、親しめるようになる。	目標	B
チーム戦術、あるいはグループ戦術を理解し、チームあるいはペアで協働して実践できるようになる。	目標	G L
自分やチームの課題を見つけて解決しようとする態度を養える。	目標	K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・グループ分け ・実施種目を選択し、年間の計画を決定 ・ウォーミングアップ、クールダウンの方法	講義・実技	次回の種目のルールについて予習しておく。
2	種目 I ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	

3	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
4	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
5	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
6	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	次回の種目のルールについて予習しておく。
7	種目Ⅱ ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
9	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
10	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
11	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく。
12	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施する)	実技試験	次回の種目のルールについて予習しておく。
13	種目Ⅲ ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
14	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
15	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
16	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
17	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	次回の種目のルールについて予習しておく。
18	種目Ⅳ ルールの確認・説明 基本技能の課題① 簡易ゲーム	グループワーク	
19	基本技能の課題② 簡易ゲーム	グループワーク	
20	チームワークの課題① 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	

21	チームワークの課題② 試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	
22	試合形式で実施(学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定する)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく。
23	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施する)	実技試験	
到達度の評価 (評価方法・基準)			
・技能・知識の習得度 60% ・授業への参加状況 30% ・特記事項 10%※ ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			
教科書			
使用しない			
その他補足事項			
<p>〈実施種目について〉 実施する種目Ⅰ～Ⅳについては、下記の種目の中から4つを選び実施する。その際にはクラスの学生数や運動経験・体力などの状況、教員の専門性、実施環境等を勘案する。(通年23コマを4単元に分け、1種目につき5～6回ずつ実施。)</p> <p>バレーボール バドミントン バasketボール 卓球 ユニホック ソフトバレーボール サッカーまたはフットサル フライングディスク(アルティメッドまたはディスクゴルフ)</p> <p>〈課題について〉 それぞれの種目の「基本技能の課題」「チームワークの課題」については、種目決定後に担当教員から説明を行い、スキルテストの内容も課題の中から実施する。</p> <p>〈服装持ち物について〉 服装はスポーツウェア上下、屋内用のスポーツシューズ持参。 ラケットやボールなどの用具については初回授業で説明する。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	バレーボールII	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名: 兼担講師 氏名: 島田 貴広 <small>しまだ たかひろ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	なし
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>前半はバレーボールのルールを理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。</p> <p>後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得することができる。	目標	B
オフェンスのコンビネーションやレシーブフォーメーションなどの戦術的理解を深め、それらを実践するための活動を通じて、チームづくりやチームワーク、スポーツマンシップやマナーを学ぶことができる。	目標	G K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能①サーブとレシーブ(サーブを中心に)	グループワーク	
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能②サーブとレシーブ(レシーブを中心に)	グループワーク	
4	基本技能③パスの技術と動き(オーバーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	

5	基本技能④パスの技術と動き(アンダーハンドパスを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	
6	基本技能⑤ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ミートを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	
7	基本技能⑥ボールコントロール(ボールヒット)とスパイクの動き(ステップを中心に) 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能⑦スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
9	基本技能⑧スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	
10	基本の戦術①チーム編成と各プレイヤーの役割(ローテーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
11	基本の戦術②チーム編成と各プレイヤーの役割(ポジションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
12	ディフェンスの戦術①サーブレシーブフォーメーション(5人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
13	ディフェンスの戦術②サーブレシーブフォーメーション(3~4人でのレシーブ) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
14	ディフェンスの戦術③ブロックとレシーブフォーメーション (マンアップフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
15	ディフェンスの戦術④ブロックとレシーブフォーメーション (マウンドフォーメーションの理解) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
16	オフェンスの戦術①スパイクのコンビネーション(クイック を絡めたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
17	オフェンスの戦術②スパイクのコンビネーション(移動を 加えたコンビネーション) 6人制の練習ゲーム	グループワーク	
18	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法①	グループワーク	
19	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法②	グループワーク	
20	公式戦の運営(リーグ戦)と審判法③	グループワーク	
21	公式戦の運営(トーナメント戦)と審判法④	グループワーク	
22	公式戦の運営(トーナメント戦)と審判法⑤	グループワーク	実技試験の準備
23	技能チェックと評価(ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) まとめのゲーム	実技試験	
到達度の評価(評価方法・基準)			
技能・知識の習得度	60%		
授業への参加状況	30%		
特記事項	10%		
<p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など 授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			
教科書		参考書	
特になし		特になし	
その他補足事項			
<p>・服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ(屋内用のスポーツシューズであれば可) ・バレーボールII(選択)では体育実技Iで習得した知識と技術を更に深めるために、より実践的な内容を中心に実施する。より 高度な技能習得、種目に対する興味を深めることで生涯スポーツに対するモチベーションを更に高めることをねらいとする。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	ボディ・コンディショニングⅡ	授業形態・単位数	実技・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名: 兼担講師 氏名: 島田 ^{しまだ} 貴広 ^{たかひろ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	23回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
レジスタンストレーニングでは主としてダンベルやチューブを利用したトレーニング種目、有酸素運動としてはジョギングやウォーキングを実施し、その正しい運動方法や適切な運動強度設定について学習する。また、自らの目的に応じた運動プログラムを立てて実践すると同時に、プログラムの見直しや達成感を味わうため、定期的に運動効果の測定と評価を行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
シェイプアップやダイエット、筋力アップなど、個別の目的に応じてコンディショニングプログラムを作成し、健康的、効果的かつ安全に運動が実践できるようになる。	目標	A B K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義	
2	身体測定と評価、個人目標の設定と運動処方基礎知識 ウォーミングアップの方法(ストレッチング)	グループワーク	
3	レジスタンストレーニング(大筋群のトレーニング) ・スクワット ・レッグランジ ・クランチ ・プッシュアップ ・バックエクステンション ・ダンベルプレス ・ベントオーバーローイング	グループワーク	
4	レジスタンストレーニング(大筋群のトレーニング) ・ダンベルフライ ・ワンハンドダンベルローイング ・プルオーバー ・オーバーヘッドプレス ・サイドレイズ ・アップライトローイング	グループワーク	

5	レジスタンストレーニング(小筋群のトレーニング) ・アームカール ・フレンチプレス ・リストカール ・サイドベント ・カーフレイズ	グループワーク	
6	レジスタンストレーニング(チューブトレーニング)	グループワーク	
7	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成 (レジスタンストレーニングで)	グループワーク	
8	ウォーキング(3km)ペースと目標心拍数の設定(カルボーネン法)	グループワーク	
9	ウォーキング(3km)自分のペースで実施	グループワーク	
10	ジョギング(3km)ペースと目標心拍数の設定(カルボーネン法)	グループワーク	
11	ジョギング(3km)自分のペースで実施	グループワーク	
12	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成 (有酸素運動を含めて作成)	グループワーク	
13	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
14	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
15	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
16	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
17	測定評価とプログラムの見直し(体重、体脂肪率、BMI、基礎代謝について)	グループワーク	
18	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
19	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
20	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
21	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
22	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク	
23	まとめ 測定評価と反省 トレーニングレコードのチェック、提出	グループワーク	
到達度の評価 (評価方法・基準)			
技能・知識の習得度 60点 授業への参加状況 30点 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。 (例)・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。			
教科書		参考書	
特になし		特になし	
その他補足事項			
・服装はスポーツウェア上下、屋内用または屋外用のスポーツシューズを用意しておくこと。 ・ボディコンディショニングII(選択)では体育実技Iで習得した知識と技術を更に深めるために、より高度な内容を中心に実施する。自らの身体に対する興味関心を深め、健康や体力の向上について生涯を通じて探求し続けるためのモチベーションを高めることをねらいとする。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	福祉心理学		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授	職名:非常勤講師	開 講 期	通年
	氏名:星野 仁彦	氏名:千葉 喜弘	授 業 回 数	30回
	本務先:しらかわ介護福祉専門学校 職名:校長		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス		授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー等については初回授業時に説明します。			
卒業・資格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目		必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>本授業は2名の教員によるオムニバス形式で行う。</p> <p>前期は、千葉が担当し、福祉の対象となる児童・障がい・精神・老人などの対象者側の「心」に焦点を当てた部分と支援される側と支援する側の心理背景と心理的アプローチの両輪について学ぶ。</p> <p>福祉心理とは何か、福祉の価値と倫理、自己理解と他者理解、相談援助面接、ソーシャルアセスメントとアプローチの実践について学び体験する機会を、講義・演習・DVDを活用した演習を取り入れて展開する。</p> <p>後期は、星野が担当し、心の諸問題や精神障害をもった人々への社会福祉やメンタルケア向上のため、精神保健のあり方と心理的援助技術について教授する。</p>	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ソーシャルワーカーの倫理や価値、基本的視点・技術を学ぶ	目標	A C
援助する側とされる側の双方の心理的動向を学ぶ	目標	A B C
人を理解する力と援助実践の心理的効果について学ぶ	目標	A B E J
初期的な相談援助面接ができるようになる	目標	B E J
福祉心理学に必要な精神保健の基礎知識を理解する	目標	A C J
ライフサイクルにおける精神保健の問題点について事例を提示しながら理解を深める	目標	A C J
発達障害の心理療法・行動療法について実際の事例を通じて学ぶ	目標	A B J
家族、学校、職場の福祉心理学のあり方について実際の事例を通じて理解する	目標	A B J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	福祉を学ぶ人の心とは(担当:千葉)	講義・パワーポイント ミニレポート「福祉を学ぼうとしたのか」	
2	対人援助専門職の倫理及び価値(担当:千葉)	講義・パワーポイント グループ討議	次週のレクチャーの内容について調べてくる。

3	相談援助職としての基本的視点(担当:千葉)	講義・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
4	自己覚知と他者理解について(担当:千葉)	講義・パワーポイント グループ討議	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
5	ソーシャルワークの原理原則(担当:千葉)	講義・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
6	児童・障がい者心理とソーシャルワーク実践(担当:千葉)	講義・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
7	高齢者心理とソーシャルワーク実践(担当:千葉)	講義・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
8	認知症へのソーシャルワーク実践(担当:千葉)	講義・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
9	施設や機関における心理的支援(担当:千葉)	講義・パワーポイント MSWの業務実例	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
10	相談援助面接・演習 I (担当:千葉)	講義・パワーポイント DVD「面接への招待」15分	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
11	相談援助面接・演習 II (担当:千葉)	講義・パワーポイント DVD「面接への招待」20分	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
12	相談援助面接技術のロールプレイ(担当:千葉)	講義・演習・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
13	相談援助とスーパービジョン(担当:千葉)	講義・パワーポイント	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
14	実践事例によるソーシャルワークの視点(担当:千葉)	講義・パワーポイント グループ討議	次週のレクチャーの内容について調べてくる。
15	福祉心理のまとめ(担当:千葉)	講義・パワーポイント ミニレポート「支援者の心構え」	全体のまとめができるよう復習してくる。
16	正常児の発育と発達 その I (担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
17	正常児の発育と発達 その II (担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
18	言葉の発達の遅れ8つの原因(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
19	子どもの発達の遅れを見分けるポイント(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
20	自閉症(主に低機能自閉症)(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
21	アスペルガー症候群(高機能自閉症)(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
22	母性剥奪症候群(反応性愛着障害)(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
23	小児のADHDについて(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
24	成人(アダルト)のADHDについて(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
25	LD(学習障害)について(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる
26	てんかん(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容について調べてくる

27	障害児の家族指導(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容 について調べてくる
28	障害児の社会適応への援助(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容 について調べてくる
29	人間の脳「脳」の話 そのI(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	次週のレクチャーの内容 について調べてくる
30	人間の脳「脳」の話 そのII(担当:星野)	資料(レジюме)を用いて 講義	全体のまとめができる よう復習してくる。
期末 試験	後期末筆記試験(担当:星野)		
期末試験の講評			
試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>詳細は前期の初回と後期の初回で説明するが、以下のとおりである。</p> <p>前期で実施するミニレポート2回・授業中の演習ロールプレイ実践の取り組み態度 DVDの個人課題演習の参加態度(50%) 後期で実施する豆テスト・レポート(30%)、後期末試験(20%) なお、前期後期共に、欠席、理由なき遅刻・早退は規程に従って減点する。 出席表は毎回配布回収。</p>			
教科書		参考書	
後期	書名:機能不全家族 著者名:星野仁彦 発行所:アートヴィレッジ 価 格:1,600円(税別)	前期	書名:「福祉心理学」改訂版 著者名:佐藤康正・山根律子編書 発行所:学芸図書株式会社 価 格:2,200円(税別)

授 業 科 目 名	発達心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:西村 ^{にしむら} 學 ^{まなぶ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では、生涯発達の視点から発達心理をとらえ、代表的な発達観（ピアジェ、ヴィゴツキー、エリクソン等）について学ぶと共に、発達を規定する要因、特に環境及び人間の主体的活動が発達にとってもつ意味について学ぶ。また、幼児期の発達を主導する遊びの発達過程、他者と共生するうえで欠くことのできない社会性、コミュニケーションの道具である言語の発達過程について学ぶ。さらに知的障害のある子どもの学習の特徴について学ぶ。また障害のある子どもの「気になる行動」の意味及び対応、不適切な育児環境が心理発達に及ぼす影響や支援について学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
子どもの行動が心理発達にとってどんな意味をもっているか、洞察できる。	目標	A C D
子どもの心理発達の状況を把握したうえで、的確な発達支援ができる。	目標	A C D
障害のある子どもを理解し、的確な支援ができる。	目標	A C D
不適切な育児環境が心理発達に及ぼす影響をふまえ、的確な支援ができる。	目標	A C D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1.授業の概要と目標(授業内容) 2.評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	
2	発達とは ○発達心理学とは、生涯発達心理学、発達の区分	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	・教科書の事前学習 ・資料の復習

3	遺伝と環境① ○双生児法	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「双生児研究」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
4	遺伝と環境② ○野生児、刻印づけ	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「刻印づけ」	〃
5	遺伝と環境③ ○有機体論と学習論、主体的活動の構造	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「初期経験」	〃
6	遺伝と環境④ ○生得論、獲得論、スウォドリング(Swaddling)	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(10分)「Swaddling」	〃
7	有能な存在としての子ども① ○乳児の能力、生理的早産	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「乳児の脳」	〃
8	有能な存在としての子ども② ○原始反射、胎児・幼児の感覚	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「乳児の成長」	〃
9	胎児期・乳児期の身体と運動機能の発達 ○把握の発達、手と言語との関連、障碍児親支援	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「運動の発達」	〃
10	発達の原理① ○フロイトの理論及びエリクソンの理論	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	・教科書の事前学習 ・資料の復習
11	発達の原理② ○ピアジェの理論及びヴィゴツキーの理論	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃
12	子どもの居場所 ○人間発達の生態学、退行現象	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃
13	愛着 ○愛着の発達、虐待、障碍児の「きょうだい」	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「虐待」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
14	ひとみしり ○ひとみしりの原因、3歳児神話と母性神話	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	・教科書の事前学習 ・資料の復習
15	新奇な他者や物との関係づくり ○コンフリクト事態、同化不能、社会的参照	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃
16	遊びの発達 ○遊びの定義、遊びの発達、ひとり遊びの意味	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「遊び」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
17	仲間関係 ○いざこざ、異年齢、役割取得、ジェンダー	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	・教科書の事前学習 ・資料の復習
18	自己の発達 ○身体的自己、生理的微笑と社会的微笑	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃
19	反抗期 ○第一次反抗期、第二次反抗期、第三次反抗期	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃
20	自己制御、評価 ○自己主張、自己抑制、理想自己、現実自己	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃

21	情緒発達、感情の種類、情緒理解 ○情緒、情緒調整、一次感情、二次感情	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	〃
22	二項関係から三項関係へ ○会話の原型、身振り(指さし)	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(15分)「共同注意」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
23	ピアジェの発達理論 ○発達段階、保存、自己中心性	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(30分)「思考の発達」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
24	心の理論 ○心の理論の発達、誤信念課題	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(15分)「心の理論」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
25	記憶・時間 ○時間概念、エピソード記憶、イベント記憶	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	・教科書の事前学習 ・資料の復習
26	模倣・想像力・描画 ○模倣の発達と役割、遊びと想像力、描画の発達	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(15分)「描画の発達」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
27	言語発達、言い誤り ○前言語期のやりとり、象徴機能、過剰般化	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・DVD(15分)「言語の発達」	・教科書の事前学習 ・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
28	はなし言葉・読み書きことば ○一語から多語へ、一次的事ことばと二次的事ことば	・教科書の要点及び補助教材(イラスト)を映像で提示 ・エピソードの感想を発表	・教科書の事前学習 ・資料の復習
29	知的障害児の発達と学習支援 ○発達論モデルと差異論モデル	・要点を映像で提示 ・資料の配付 ・DVD(15分)「障害児の保育」	・資料の復習 ・視聴映像レポ作成
30	知的障害児の「気になる行動」の理解と対応 ○「気になる行動」の意味、「対症療法」の結果	・要点を映像で提示 ・資料の配付	・資料の復習
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1.筆記試験 70点満点のテストを学期末に実施			
2.レポート 「映像から何を学んだか」というテーマで提出してもらったレポート(15本)を30点満点で採点			
教科書			
書名:エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学 著者名:岡本依子他 発行所:新曜社 価格:1,900円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	臨床心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本科目では、臨床心理学における様々な援助理論とその技法、病理、そしてどのような領域で実践が行われているかについて、基礎的な知識を解説していく。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
臨床心理学とはどのような学問か説明できる。	目標	A J
心理療法の基本的な理論について説明できる。	目標	A
人を援助する際の心構えについて、自分なりの判断ができる。	目標	C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 臨床心理学の定義と歴史	シラバス 配布資料	
2	人の話を聞くということ カウンセリングの基礎的技法	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
3	精神分析	配布資料	配布資料を事前に読む
4	学習理論と行動療法	配布資料	配布資料を事前に読む
5	認知行動療法	配布資料	配布資料を事前に読む

6	来談者中心療法	配布資料	配布資料を事前に読む
7	家族療法	配布資料	配布資料を事前に読む
8	短期療法	配布資料	配布資料を事前に読む
9	その他の心理療法(1) 森田療法、自律訓練法など	配布資料	配布資料を事前に読む
10	その他の心理療法(2) 遊戯療法、芸術療法	配布資料	配布資料を事前に読む
11	事例検討	配布資料 グループワーク	ここまでの資料を読み返しておく
12	パーソナリティ(1) 理解の方法と形成過程	配布資料	配布資料を事前に読む
13	パーソナリティ(2) 変容可能性/人格障害	配布資料	配布資料を事前に読む
14	アセスメント	配布資料	配布資料を事前に読む
15	前期のまとめ	配布資料	前期の資料を読み不明点を確認しておく
16	人の発達と発達課題	配布資料	配布資料を事前に読む
17	正常と異常、精神病について	配布資料	配布資料を事前に読む
18	神経症水準の病について(1)	配布資料	配布資料を事前に読む
19	神経症水準の病について(2)	配布資料	配布資料を事前に読む
20	学校臨床(1) 学校臨床心理学とは	配布資料	配布資料を事前に読む
21	学校臨床(2) 開発的カウンセリング	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
22	学校臨床(3) 緊急支援	配布資料	配布資料を事前に読む
23	学校臨床(4) 保護者対応、学内外の連携	配布資料	配布資料を事前に読む
24	病院臨床(1) 病院臨床とは	配布資料	配布資料を事前に読む
25	病院臨床(2) 各科における実践	配布資料 ビデオ視聴「回想法」	配布資料を事前に読む
26	福祉、司法領域における実践	配布資料	配布資料を事前に読む
27	産業領域における実践 地域援助	配布資料	配布資料を事前に読む
28	臨床心理学における倫理	配布資料 グループワーク	配布資料を事前に読む
29	臨床心理学における研究活動	配布資料	配布資料を事前に読む
30	1年間のまとめ	配布資料	これまでの配布資料を読み直しておく
期末 試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
到達度の評価（評価方法・基準）	
前後期末試験70% 随時行う小テスト合計20% 事例検討についてのレポート10%	
教科書	参考書
使用しない	書名:よくわかる臨床心理学(改訂新版) 著者名:下山晴彦 発行所:ミネルヴァ書房 価格:3,000円(税別)

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	社会福祉原論	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{さいとう} 齊藤 ^{たかゆき} 隆之 本務先:東北文化学園大学 職名:講師	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室等で質問等に対応する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>現代社会は多くの社会問題・社会変動が起き、それに伴って生活問題の発生、生活（福祉）ニーズの多様化や高度化が進んでいる。このような背景の中、社会福祉に携わる者に求められるものもまた多様化し、高度化しているといえる。本講義では、現代社会と福祉についての多角的理解と考察を通して、社会福祉への関心と理解を深めると共に、多様化・高度化する福祉問題の解決の基礎を身につけるものである。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
(1) 現代社会と福祉制度・福祉政策の関係について理解することができる。		目標 A
(2) 社会福祉の意義・基本原理と思想・形成過程を理解することができる。		目標 A J
(3) 相談援助と福祉政策の関係について理解することができる。		目標 A I J
(4) 今後社会福祉を学んでいく上での基礎的知識を身につけることができる。		目標 A J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉を学ぶ意義とソーシャルワーカー	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
2	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
3	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅱ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
4	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅲ	ディスカッション	講義時に指示
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示

6	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅱ	ディスカッション	講義時に指示
7	福祉制度の発達過程Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
8	福祉制度の発達過程Ⅱ	VTR鑑賞	講義時に指示
9	福祉制度の発達過程Ⅲ	ディスカッション	講義時に指示
10	子育て支援と児童福祉の歴史	VTR ディスカッション	講義時に指示
11	福祉政策におけるニーズと資源Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
12	福祉政策におけるニーズと資源Ⅱ	ディスカッション	講義時に指示
13	福祉政策の課題Ⅰ	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
14	福祉政策の課題Ⅱ	ディスカッション	講義時に指示
15	前期のまとめ	レジュメ配布、対話	レポート作成準備
16	前期末試験		
17	福祉政策の構成要素Ⅰ (気候等に応じてⅡ・Ⅲと順番の入れ替えあり)	PPT,レジュメ配布、対話	講義時に指示
18	福祉政策の構成要素Ⅱ	リサーチ	講義時に指示
19	福祉政策の構成要素Ⅲ	リサーチ結果の解説	講義時に指示
20	法律を作ってみようⅠ	これまでの資料、作成用紙	講義時に指示
21	法律を作ってみようⅡ	これまでの資料、作成用紙	講義時に指示
22	法律を作ってみようⅢ	発表・解説	発表準備
23	戦後日本の福祉①	VTR	講義時に指示
24	戦後日本の福祉②	VTR	講義時に指示
25	これからの福祉を考える	ディスカッション	講義時に指示
26	これからの社会福祉を担う者としてⅠ (福祉新聞をつくる)	グループワーク	講義時に指示
27	これからの社会福祉を担う者としてⅡ (福祉新聞をつくる)	グループワーク	講義時に指示
28	これからの社会福祉を担う者としてⅢ (福祉新聞をつくる)	発表・解説	発表準備
29	福祉の原点とは	ディスカッション	講義時に指示
30	まとめ	これまでの資料	既習内容の振り返り
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
〈基礎点〉定期試験100点(a) 〈加算点〉討論参加点(上限5点)(b)、GoodQP(上限5点)(c)、課題点(5点×3回)(d) 〈評価〉(a)+(b)+(c)+(d)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。			
教科書		参考書	
使用しない		書名:チャレンジ現代社会と福祉 著者名:久塚純一・森田慎二郎・金川めぐみ 発行所:法律文化社 価格:2,700円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	福祉キャリア研究		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名:教授 ふじわら まさこ 氏名:藤原 正子	職名:教授 すぎやま まさひこ 氏名:杉山 雅彦	開講期	通年
	職名:教授 くさか てるみ 氏名:日下 輝美	職名:准教授 くろつ こうじ 氏名:黒津 康司	授業回数	15回
	職名:講師 きたもと あすか 氏名:北本 明日香		期末試験の有無	無
	職名:非常勤講師 えんどう きよし 氏名:遠藤 潔	本務先:福島市社会福祉協議会 職名:事務局長		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス		授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。			
卒業・資格・免許	授業科目区分		必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目		必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「(臨床) 心理士」の職業及び資格とその取得方法についての理解を深め、学生がいずれかの専門職に就いたとき、他職種と必要な連携をスムーズにとれるよう、ゲストスピーカーとして実際に現場で活躍する専門家を招聘して話を聞くこと等から、学生個人がより主体的に自分の興味や関心にあった進路選択をできるよう支援していく。</p>	○	A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
進路選択に向けて、自分の趣味、関心、希望を再確認することができる。	目標	A H	
図書館を活用し、身近な課題や問題(社会問題等も含む)を調べる力を身につけることができる。	目標	C K	
各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認することができる。	目標	A K	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉学部で目指すことのできる資格について キャリアデザインを考える (1)今現在、自分はどんな仕事をしたいと考えているのか	担当:日下 キャリアポートフォリオ	

2	社会人基礎力について キャリア形成における自己理解～価値観交流～	担当:日下 プリント配布	
3	対人援助職として求められる人材像とは～地域福祉の仕事と求められる人材～ フィールドワークの連絡	担当:遠藤 プリント配布	
4	社会福祉施設訪問 社会福祉施設の社会的役割と介護職員の仕事を知る 「社会福祉法人 まちなか宝生園」	担当:遠藤 フィールドワーク プリント配布	まちなか宝生園について調べる
5	キャリアデザインを考える(2) 社会福祉士について 社会福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当:日下 DVD「社会福祉士の仕事」 (30分) プリント配布 レポート提出	予習:社会福祉士について調べる レポート作成
6	キャリアデザインを考える(3) 精神保健福祉士について 精神保健福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当:北本 プリント配布 レポート提出	予習:精神保健福祉士について調べる レポート作成
7	職場で働く専門家の話を聞く① 社会福祉士 フィールドワークの連絡	社会福祉士ゲストスピーカー(担当:日下) レポート提出	レポートの完成
8	ハンディキャップ体験学習①	担当:日下 アクティブラーニング	事前に調べる
9	ハンディキャップ体験学習②	担当:日下 アクティブラーニング レポート提出	レポート作成
10	振り返る 「社会福祉法人 まちなか宝生園」と「ハンディキャップ体験学習」での実践活動について	担当:遠藤 グループディスカッション	レポートを完成させる
11	意見をまとめ発表する 「社会福祉法人 まちなか宝生園」と「ふれあいひろば」での実践活動	担当:遠藤	フィールドワークの発表会
12	職場で働く専門家の話を聞く② 精神保健福祉士	精神保健福祉士ゲストスピーカー(担当:藤原) レポート提出	レポートを完成させる
13	キャリアデザインを考える(4) 公務員の仕事について 職域、資格の説明、進学、過去の就職の状況について	担当:黒津	予習:職場について調べる レポート
14	キャリアデザインを考える(5) 心理の仕事と資格について 専門家としての職域、資格の説明、進学、過去の就職の状況について	担当:杉山	予習:心理職の職場について調べる レポートを完成
15	まとめ 1年間、自分のキャリアと向き合って考えること	担当:日下 レポート提出	レポートを完成
到達度の評価（評価方法・基準）			
出席と提出レポートで評価を行う。各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認する。 また、本科目は点数ではなく「認定の可否」を評価とするためGPAには反映されない。			
教科書			
使用しない			
その他補足事項			
学びの集大成として、福祉キャリア研究専用のレポートファイルをつくり、各自が授業内で作成したレポートを一年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認していきたい。ファイルの様式については、初回講義時に説明を行う。 本科目は、原則としてクラスセミナーと交互に開講する。ただし、クラスセミナーは、事務局各課の連絡や行事も入るため、そちらの予定によって本科目の開講週が変わることを予め断わっておく。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	コミュニケーション演習	授業形態・単位数	演習・4単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名:准教授 氏名:渡部 敦子 職名:助教 氏名:木村 泰博	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目は1年次の導入教育として、大学における基礎的な学習スキル（情報検索・収集など）、ディスカッションや発表のスキル、レポートの書き方などの習得を目指す。また、人間関係の形成に必要な基礎的なコミュニケーションスキルを習得することも目指す。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①情報検索や資料収集の適切な方法を知ることができる。	目標	B C
②ディスカッションや発表において相手にわかりやすく伝えることができる。	目標	I
③レポートを適切に書くことができる。	目標	C
④自分と他者との違いを理解し、コミュニケーションを図ることができる。	目標	L
⑤集団の中でチームワークに力点を置きながら、目的達成のため行動することができる。	目標	L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 大学で学ぶということ	授業計画 資料配布	
2	タイムマネジメントについて	資料配布	配布資料を読む 前期の計画を立てる
3	情報とは 情報検索の仕方	資料配布	配布資料を読む 情報検索の実践

4	「気になること」を学問と結びつける	資料配布	情報検索 論文のアブストラクトを読む
5	ノートの取り方と授業の受け方	資料配布	配布資料を読む 発表準備
6	レジュメの作り方	資料配布	配布資料を読む 発表準備
7	発表の仕方	資料配布	配布資料を読む 発表準備
8	発表の聞き方と質問の仕方	資料配布	配布資料を読む 発表準備
9	グループワーク(1) 発表とディスカッション	資料配布 グループワーク	配布資料を読む
10	グループワーク(2) 発表とディスカッション	資料配布 グループワーク	配布資料を読む
11	グループワーク(3) 発表とディスカッション	資料配布 グループワーク	配布資料を読む
12	グループワーク(4) 発表とディスカッション	資料配布 グループワーク	配布資料を読む
13	レポートの書き方(1) 事実と意見を区別する	資料配布	配布資料を読む
14	レポートの書き方(2) 引用の仕方 図表の使用	資料配布	配布資料を読む
15	前期のまとめ	資料配布	レポート作成
16	後期授業のオリエンテーション		
17	コミュニケーションとは	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
18	良いディスカッションとは	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
19	ディベート①	ディベート	復習) 授業内容の振り返り
20	ディベート②	ディベート	復習) 授業内容の振り返り
21	自己理解①	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
22	自己理解②	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
23	自己理解③「自分のクセを知る」	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
24	自己理解④「自分のこれから」	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
25	自己理解⑤「自分を変えるとは」	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
26	他者理解①	グループワーク	復習) 授業内容の振り返り
27	他者理解②	DVD視聴	復習) 授業内容の振り返り
28	協力、チームワーク①	グループワーク	後期レポートに取り組む
29	協力、チームワーク②	グループワーク	後期レポートに取り組む
30	まとめと振り返り		

到達度の評価（評価方法・基準）
毎回の感想レポートまたは課題の提出 50% ワーク、ディスカッション、発表などにおける積極的発言、質問 20% 期末レポート 30%（前期 15%、後期 15%） 詳しくは第1回目授業にて説明する
参考書
書名: 大学生の学びのハンドブック3訂版 著者名: 世界思想社編集部 発行所: 世界思想社 価格: 1,200円(税別)

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	医学一般	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:茂木 積雄 <small>もてき せきお</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	
精神保健福祉士	〃	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士、精神保健福祉士および心理関係専門職として医療・保健・福祉・教育および産業保健などの種々の現場で就業する際に、チーム医療の一員として専門性を如何なく発揮し、患者・家族・等を心理学的側面からの的確で効果的に支援する上で必須となる、ヒトの体と医学的知識に関する概要の理解に努める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
医療の現場で比較的高頻度に見られる疾患の種類、原因および病像について自分の言葉で説明できるようになる。		目標 A C
社会的に問題となっている医学や医療の状況についての原因や対策などを考える上で必須となる知識を習得する。		目標 A C
疾病に関する理解を深めることにより、疾病を抱える患者および家族が直面している様々な問題点を系統的および論理的に把握するための基礎を習得する。		目標 A G J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	

2	第1章 人の成長・発達と老化 身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化	教科書補足資料1	教科書P1～24を事前に読む。
3	第2章 身体構造と心身の機能(1) 身体部位の名称 各器官の構造と機能(1)	教科書補足資料2-1	教科書P25～33を事前に読む。
4	第2章 身体構造と心身の機能(2) 各器官の構造と機能(2)	教科書補足資料2-2	教科書P34～52を事前に読む。
5	第3章 疾病の概要(1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍	DVD視聴「メタボリック症候群」(映像利用)	教科書P53～P60を事前に読む。
6	第3章 疾病の概要(2) 脳血管疾患	DVD視聴「脳梗塞」(映像利用)(映像利用)	教科書P61～65を事前に読む。
7	第3章 疾病の概要(3) 心疾患 高血圧	DVD視聴「心筋梗塞」(映像利用)(映像利用)	教科書P66～71を事前に読む。
8	第3章 疾病の概要(4) 糖尿病と内分泌疾患	DVD視聴「糖尿病の最新治療」(映像利用)(映像利用)	教科書P72～75を事前に読む。
9	第3章 疾病の概要(5) 呼吸器疾患 消化器疾患	DVD視聴「慢性閉塞性肺疾患」(映像利用)	教科書P76～79を事前に読む。
10	第3章 疾病の概要(6) 消化器疾患	DVD視聴「出血性胃潰瘍の内視鏡的治療」(映像利用)	教科書P80～83を事前に読む。
11	第3章 疾病の概要(7) 血液疾患と膠原病	教科書補足資料3	教科書P84～P86を事前に読む。
12	第3章 疾病の概要(8) 腎臓疾患	教科書補足資料4	教科書P87～P90を事前に読む。
13	第3章 疾病の概要(9) 泌尿器疾患	DVD視聴「尿失禁」(映像利用)	教科書P91～94を事前に読む。
14	第3章 疾病の概要(10) 骨・関節疾患 目・耳の疾患	DVD視聴「白内障と緑内障」(映像利用)	教科書P95～102を事前に読む。
15	第3章 疾病の概要(11) 感染症	DVD視聴「インフルエンザ」(映像利用)	教科書P103～106を事前に読む。
16	第3章 疾病の概要(12) 神経疾患と難病 先天性疾患	DVD視聴「ALS(筋委縮性側索硬化症)」(映像利用)	教科書P107～116を事前に読む。
17	第3章 疾病の概要(13) その他の高齢者に多い疾患	DVD視聴「摂食嚥下障害」(映像利用)	教科書P117～128を事前に読む。
18	第4章 障害の概要(1) 視覚障害 聴覚障害	DVD視聴「障害者ランナー・リオへの道」(映像利用)	教科書P129～136を事前に読む。
19	第4章 障害の概要(2) 平衡機能障害 肢体不自由	教科書補足資料5	教科書P137～145を事前に読む。
20	第4章 障害の概要(3) 内部障害 知的障害	教科書補足資料6	教科書P146～151を事前に読む。
21	第4章 障害の概要(4) 発達障害	DVD視聴「発達障害」(映像利用)	教科書P152～155を事前に読む。
22	第4章 障害の概要(5) 認知症	DVD視聴「アルツハイマー病」(映像利用)	教科書P156～161を事前に読む。

23	第4章 障害の概要 (6) 高次機能障害 精神障害	DVD視聴「脳血管障害」 (映像利用)	教科書P162～172 を事前に読む。
24	第5章 リハビリテーションの概要(1) リハビリテーションとは リハビリテーションにおける障害評価	教科書補足資料7	教科書P173～182 を事前に読む。
25	第5章 リハビリテーションの概要(2) リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションにかかわる専門職 リハビリテーションの4つの側面	教科書補足資料8	教科書P183～192 を事前に読む。
26	第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ の変遷 心身機能と身体構造・活動・参加の概念 背景因子 健康状態と生活機能低下の概念	教科書補足資料9	教科書P193～203 を事前に読む。
27	第7章 健康のとらえ方(1) 健康の概念とプライマリヘルスケア 日本の人口統計 人口の高齢化と家族	教科書補足資料10	教科書P204～217 を事前に読む。
28	第7章 健康のとらえ方(2) 国民健康づくり対策 感染症対策	教科書補足資料11	教科書P218～224 を事前に読む。
29	第7章 健康のとらえ方(3) 産業保健 歯科保健	DVD視聴「うつ病の治療」 (映像利用)	教科書P225～231 を事前に読む。
30	まとめ	教科書補足資料12	教科書既習内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。		
(3) その他	授業内容の理解度を確認するために2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名:新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,200円(税別)			
その他補足事項			
授業の進捗程度、等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	精神医学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 <small>ほしの</small> 仁彦 <small>よしひこ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	必修	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
精神医学全般と様々な精神疾患・精神障害者の概念、診断、治療についての理解を深める。	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
精神医学・精神医療の歴史を理解することができる。	目標	A C D J	
脳および神経の生理解剖の基礎を理解することができる。	目標	A C H	
精神医学の概念について理解することができる。	目標	C D H J	
精神医学診断の基本的な方法について理解することができる。	目標	A C H	
代表的な精神障がいについて理解することができる。	目標	C D J	
治療の概要について理解することができる。	目標	A D H	
病院精神医学および地域精神医学について理解することができる。	目標	A C H J	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神医学・精神医療の歴史	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習
2	脳および神経の生理・解剖	資料、レジュメ	
3	精神医学の概念、精神障害の原因と分類	資料、レジュメ	当日レクチャーの復習

4	診断の手順と方法、精神症状と状態像のとらえ方	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習	
5	心理検査(知能検査、生活検査、身体的検査)	資料、レジュメ		
6	認知症その他の器質性精神障害(脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症)	資料、レジュメ ケーススタディ		
7	統合失調症(精神分裂病)	ビデオ供覧『統合失調症を理解する』(30分)		
8	気分(感情)障害、うつ病、躁うつ病、季節性うつ病、仮面うつ病	資料、レジュメ		
9	神経症(不安障害)、不安神経症(パニック障害)、強迫神経症、対人恐怖症、離人神経症	資料、レジュメ		
10	ストレス関連障害、PTSD(心的外傷後ストレス障害)	資料、レジュメ ケーススタディ		
11	身体表現性障害、心身症、心気症、ヒステリー、心因性疼痛	資料、レジュメ		
12	パーソナリティ障害(境界性、自己愛性、スペクトラム障害、演技性パーソナリティ障害)	資料、レジュメ		
13	知的障害(精神遅滞)、自閉症、アスペルガー症候群	資料、レジュメ		
14	ADHD(注意欠陥・多動性障害)、LD(学習障害)	資料、レジュメ		
15	不登校、ひきこもり、家庭内暴力	資料、レジュメ ケーススタディ		
16	摂食障害(拒食症と過食症)	資料、レジュメ		
17	性同一性障害、異常性愛(性的倒錯)、ED(勃起障害)	資料、レジュメ ケーススタディ		
18	各種依存症、嗜癖行動(ギャンブル依存、買物依存、恋愛依存)	資料、レジュメ		
19	多重人格、解離性障害、憑依(つきもの)状態、自己催眠後遺症	資料、レジュメ		
20	児童虐待、被虐待児症候群	資料、レジュメ ケーススタディ		
21	睡眠障害(睡眠覚醒リズム障害、ナルコレプシー、睡眠発作、不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群)	資料、レジュメ		
22	非行、性非行、犯罪精神医学	資料、レジュメ		
23	アダルトチルドレン(機能不全家族に育った人)、共依存症	資料、レジュメ		
24	てんかん、その他の神経系疾患	資料、レジュメ ケーススタディ		
25	精神科救急医療、自殺の予防と対応	資料、レジュメ		
26	薬物乱用と薬物依存(覚せい剤、シンナー、マリファナ、コカインなど)	資料、レジュメ		
27	夫婦間暴力(ドメスティック・バイオレンス)、老人虐待、ストーカー	資料、レジュメ		
28	精神科リハビリテーション、デイケア、SST、家族療法、環境調整療法	資料、レジュメ		
29	精神科薬物療法、電気ショック療法 地域精神医療と病院精神医学	資料、レジュメ		
30	精神医学に関する各種法令	資料、レジュメ		
期末試験	期末筆記試験			
期末試験の講評				
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。				
到達度の評価(評価方法・基準)				
毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。				
教科書				
書名:精神疾患とその治療 第6版 著者名:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所:へるす出版 価格:3,200円(税別)				

授 業 科 目 名	精神薬理学	授業形態・単位数	授業・4単位
		開 講 年 次	3・4年次 (平成26年度入学生まで)
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{もてき} 茂木 ^{せきお} 積雄	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では、精神科疾患をはじめとする臨床の現場で広く使用されている薬の意義、役割および病態生理との関係などを正しく理解するとともに、私たちの健康と深く関わっている様々な疾患における薬の使われ方に関する基本的な事項の習得に努める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
・精神科疾患と関連した薬および臨床の現場で広く使用されている主な薬の作用機序と基本的な薬理作用を理解する。	目標	A C
・精神科疾患に合併する可能性がある疾患の基本的な病像と関連付けたいうえで、使用される薬の薬理作用に関する基本的な理解を深める。	目標	A C
・臨床の現場で薬を処方する際の医師の思考過程と投薬される患者・家族の立場と心理、等を理解することにより、チーム医療に参画するための意識向上に努める。	目標	A C G J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	
2	薬が作用する仕組み 薬と受容体・薬の血中濃度 薬の投与方法	教科書補足資料1	教科書P1～8を事前に読む。
3	自律神経(1) 交感神経と副交感神経・交感神経作動薬	DVD視聴(30分)「自律神経失調症」(映像利用)	教科書P9～13を事前に読む。

4	自律神経(2) α作用・β作用 交感神経遮断薬・副交感神経遮断薬	教科書補足資料2-1 「心不全、気管支喘息」	教科書P14～19を 事前に読む。
5	自律神経(3) 抗コリン薬 抗コリンエステラーゼ阻害薬と筋弛緩薬	教科書補足資料2-2 「畜尿と排尿、前立腺肥大症」	教科書P20～24を 事前に読む。
6	アレルギー プロスタグランディン・ヒスタミンとセロトニン 抗アレルギー薬	教科書補足資料3-1 「花粉症、アナフィラキシーショック」	教科書P25～33を 事前に読む。
7	炎症(1) 炎症と糖質コルチコイド・副腎皮質ステロイド薬 副腎ステロイド薬の種類と副作用	教科書補足資料4-1 「アジソン病とクッシング症候群」	教科書P34～40を 事前に読む。
8	炎症(2) 非ステロイド系抗炎症薬の作用 非ステロイド系抗炎症薬の種類と副作用	教科書補足資料4-2 「感冒、頭痛、腰痛」	教科書P41～47を 事前に読む。
9	炎症(3) 抗リウマチ薬・免疫抑制薬	教科書補足資料4-3 「関節リウマチ」	教科書P48～52を 事前に読む。
10	血液(1) 鉄欠乏性貧血・悪性貧血 その他の貧血	教科書補足資料5-1 「子宮筋腫、若年者の貧血、胃切除術と貧血」	教科書P53～57を 事前に読む。
11	血液(2) 血液凝固・抗凝固薬 輸血	教科書補足資料5-2 「HIV感染症、血友病」	教科書P58～64を 事前に読む。
12	輸液(1) 水分と電解質・輸液	教科書補足資料6-1	教科書P65～69を 事前に読む。
13	輸液(2) IVH(中心静脈栄養法)・ビタミン	DVD視聴(15分)「摂食嚥下障害」(映像利用)	教科書P70～74を 事前に読む。
14	循環器(1) 降圧薬・血管拡張薬・カルシウム拮抗薬 狭心症と心筋梗塞治療薬	DVD視聴(30分)「心筋梗塞」 (映像利用)	教科書P75～83を 事前に読む。
15	循環器(2) 心不全治療薬・抗不整脈薬 体液と利尿薬・利尿薬	教科書補足資料7-1 「浮腫、腹水、胸水」	教科書P84～92を 事前に読む。
16	呼吸器 気管支喘息治療薬(発作時) 気管支喘息治療薬(非発作時) 去痰薬・鎮咳薬・感冒薬	教科書補足資料8-1 「気管支喘息、肺気腫、肺炎」	教科書93～100を 事前に読む。
17	消化器(1) 胃液分泌の仕組み 消化性潰瘍治療薬 健胃薬・消化薬・制吐薬	DVD視聴(30分)「心身症」(映像利用)	教科書P101～107 を事前に読む。
18	消化器(2) 下剤・止痢薬・肝疾患 その他の消化性疾患	DVD視聴(30分)「下痢をきたす腸疾患」(映像利用)	教科書P108～116 を事前に読む。
19	代謝 糖尿病・インスリン製剤・経口血糖降下薬 痛風治療薬・抗脂質異常症(高脂血症)薬 骨粗鬆症薬	DVD視聴(30分)「糖尿病の最新治療」(映像利用)	教科書P117～130 を事前に読む。
20	中枢神経系(1) 脳のニューロン・神経伝達物質	教科書補足資料9-1	教科書P143～145 を事前に読む。
21	中枢神経系(2) パーキンソン病	教科書補足資料9-2	教科書P146～147 を事前に読む。
22	中枢神経系(3) パーキンソン病治療薬	DVD視聴(30分)「パーキンソン病の治療」(映像利用)	教科書P148～149 を事前に読む。

23	中枢神経系(4) 抗不安薬	DVD視聴(30分)「不安障害」(映像利用)	教科書P150～151 を事前に読む。
24	中枢神経系(5) 睡眠薬(1)	教科書補足資9-3	教科書P152～153 を事前に読む。
25	中枢神経系(6) 睡眠薬(2)	DVD視聴(30分)「睡眠障害」(映像利用)	教科書P152～153 を事前に読む。
26	中枢神経系(7) 抗精神病薬	教科書補足資料9-4 DVD視聴(30分)「統合失調症」(映像利用)	教科書P154～155 を事前に読む。
27	中枢神経系(8) 抗うつ薬(1)	教科書補足資料9-5	教科書P156～157 を事前に読む。
28	中枢神経系(9) 抗うつ薬(2)	教科書補足資料9-6 DVD視聴(30分)「うつ病」(映像利用)	教科書P156～157 を事前に読む。
29	中枢神経系(10) 抗てんかん薬	教科書補足資料9-7 DVD視聴(30分)「小児のてんかん」(映像利用)	教科書P158～159 を事前に読む。
30	まとめ	振り返り資料	教科書既習内容ポイントを再確認。
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験：70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート：レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 (3) その他：授業内容の理解度を確認するために2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			
教科書		参考書	
書名：イラストでまなぶ薬理学 著者名：田中越郎 発行所：医学書院 価格：2,600円(税別)		書名：わかりやすい薬理学 著者名：安原 一、小口勝司 発行所：ヌーヴェルヒロカワ 価格：2,300円(税別)	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	心理学研究法	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{あべ} 阿部 ^{つねゆき} 恒之 本務先:東北大学 職名:教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	30回(2コマ連続)
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学研究の基礎的な方法を講義で学び、実習を通じて体得する。具体的には、①「謎」を「課題」として立てるスキル、②その課題を解決するためのスキル（観察法・調査法・面接法・実験法など）、③科学的論述としてまとめるスキル、④大勢の前でわかりやすくプレゼンテーションするスキルなど、心理学研究を行うための具体的手法を修得する。授業は2コマ連続で行う。ほぼ毎回、指定されたテーマに関する班別の実習(小研究)を行い、授業時間外も活用してまとめてもらう。なお、班毎に自由にテーマを決めて心理学研究法を活用した研究を行い(大研究)、期末に発表してもらう。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心理学の研究を遂行するために必要な基本的な方法論を身につける。	目標	A
心理学的謎を見つけ、研究課題として立てることができるようになる。	目標	C K
心理学の研究を実際に行えるようになる。	目標	A B C
グループでの討議を通じて討議能力を身につける。	目標	I
自ら行った研究をわかりやすく発表できるようになる。	目標	D I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス	(全ての授業で資料を投影しながら進める)	
2	授業内容の全体概説		
3	文献調査法1	班編成	これ以降、大研究のテーマを班毎に随時討議のこと
4	文献調査法2	班別討議	
5	文献調査法発表、面接法1	小研究発表1	班毎に小研究をまとめて参加のこと
6	面接法2	班別討議	

7	面接法発表、観察法1	小研究発表2	班毎に小研究をまとめて参加のこと
8	観察法2	ビデオを用いた観察法実習	
9	観察法3	ビデオを用いた観察法実習、班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
10	観察法発表1、観察法4	小研究発表3、班別討議	
11	観察法5	フィールドワーク(現実場面における観察実習)	班毎に観察テーマ・分担等を決定して参加のこと
12	観察法6	フィールドワークの続き	
13	観察法発表2	小研究発表4	班毎に小研究をまとめて参加のこと
14	プレゼンテーションスキル	コンピュータ実習	
15	中間試験	試験による定着学修	ここまでの習得内容をよく復習しておくこと
16	中間試験の解答解説	試験の解答確認を通じた振り返り	
17	質問紙調査法1	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカーの講義復習
18	質問紙調査法2	班別討議	
19	質問紙調査法発表1	小研究発表5	班毎に小研究をまとめて参加のこと
20	質問紙調査法3	班別討議	
21	質問紙調査法発表2、実験法1	小研究発表6	班毎に小研究をまとめて参加のこと
22	実験法2	班別討議	
23	実験法3	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
24	実験法発表、検査法1	小研究発表7	
25	検査法2	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
26	検査法発表	小研究発表8	
27	大研究の班別実習1	班別討議による総仕上げ	十分な討議を行うこと
28	大研究の班別実習2	班別討議による総仕上げ	
29	大研究発表	発表	全員が発表に貢献するよう役割を分担すること
30	大研究発表・講評	相互評価(各人が他班の発表と自班のメンバーの貢献を評価)	
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、期末試験の講評・説明を実施。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 授業中の活動(小・大研究発表、班別討議への参加)40%			
(2) 中間試験30%			
(3) 期末試験30%			
以上の配分に基づき、総合的に評価する。			
教科書		参考書	
使用しない		授業中に適宜指示	
その他補足事項			
データ解析・プレゼンテーションなどでコンピュータを多用する。 各自、事前にエクセル・パワーポイントの習熟に努めて欲しい。 得るものは多いと思われるが、授業時間外の学修負担は大きい。授業への不参加、小・大研究分担の不履行は自分のみならず班員への迷惑になるので、履修する場合は相応の覚悟をして、欠席しないよう努めること。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	人格心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	3・4年
担当教員	職名:兼担教授 氏名: ^{たなべ} 田辺 ^{みのる} 稔	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー・メールアドレスについては初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>人格（性格）の諸理論に関する全般的な理解をテーマに、人格研究の歴史的な経緯から、各理論の基本的な着眼点、研究方法を学んでいく。また各研究や各理論相互の結びつきや誕生の経緯、各理論が果たしてきた役割に注目し、人格（性格）の理解をキーワードに心理学全体の流れを把握できる知識を獲得していく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
人格研究に関する流れ(歴史)を習得し説明できる	目標	A
各理論相互の誕生の経緯を説明できる	目標	A C
各理論相互の関連・結びつきを把握し説明できる	目標	A C
受講者一人一人が最も注目する理論(研究者)に関して、自分の観点で論じることができるようになる	目標	A C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション: 年間授業の流れと留意点。講義課題、授業の進め方、評価方法に関するガイダンス		

2	人格に関する一般的とらえ方:	体系的な学びの前に、受講者各人がとらえる人格(性格・パーソナリティ・個性)について議論していく。(履修者数により同単元が2回に渡る場合もある)	
3	人格研究の歴史: 人格・性格に関する興味関心から哲学的問題、さらに現代心理学との出会いに至る経緯について学ぶ	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	心理学概論－心理学の歴史を復習のこと教科書p1～11
4	人格のとらえ方: 人格、性格、パーソナリティをどう考えるか。日常的な「表出行動」と「対処的行動」の相違点から「行動」のとらえ方について学ぶ	個人差を行動上の相違から如何に捉えていくか、履修者自身の日常的行動から探っていく	
5	人格研の理論:帰属理論① 行動の認知と原因の解釈	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p103～119を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	人格研の理論:帰属理論② 帰属理論から見たパーソナリティ 原因帰属のモデル 外的帰属と内的帰属 帰属の個人差	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p103～119を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。可能であれば社会心理学－帰属過程を調べておくこと。
7	人格の理論:類型論① 類型の意味ととらえ方。クレッチマーの気質類型論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p13～20を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	人格の理論:類型論② 類型の意味ととらえ方。アイゼンク・シェルドンの類型論。類型論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p13～20を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	人格の理論:特性論① 特性の意味ととらえ方。尺度、因子分析の研究	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p20～27を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
10	人格の理論:特性論② 特性の意味ととらえ方。オールポートの理論、キャッテル、ギルホードの理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p20～27を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	人格の理論:特性論③ 具体的な人格測定を通してみた特性論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定 ・他授業で実施された性格テストについて改めて考察する。実施されたテストを持参するとお良。	
12	人格の理論:特性論④ 因子分析の研究進化に伴って注目され始めた特性の「ビッグファイブ」について	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p20～27を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	人格の測定: 人格の測定Ⅰ。類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	
14	人格の測定: 人格の測定Ⅱ。類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	教科書p31～44を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。

15	前期部分のまとめ 前期の各人格論に関する知識を前提に改めて、人格研究の流れを復習する	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p103～119、p13～27、p31～44のまとめ。
16	前期部分のまとめと中間テスト テストと解説(採点は自己採点とし、論述試験の回答方法を併せて学ぶ。)	中間に相当する回数は授業進行状況(第2回目のコマ数の増加分)で前後する場合がある。	
17	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ① フロイトのパーソナリティ。構造体としてのパーソナリティ理論と精神分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p49～55を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
18	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ② フロイトのパーソナリティ。パーソナリティの発達	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p49～55を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
19	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ③ ユングのパーソナリティ。精神分析と分析心理学	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p55～59を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
20	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p55～59を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
21	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ⑤ フロイト、ユング以降の精神分析的パーソナリティ理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p59～66を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
22	人格の理論:フロイトからの流れ⑥ エリック・バーンによる交流分析 ゲーム分析、脚本分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
23	人格の理論:学習理論① 行動主義とパーソナリティⅠ 行動の獲得と学習。学習の基本的なメカニズムの理解 ワトソンとレイナーの理論	事前配布資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
24	人格の理論:学習理論② 行動主義とパーソナリティⅡ 行動の獲得と学習。学習メカニズムの理解 ミラーの行動獲得過程	事前配布資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
25	人格の理論:学習理論③ 行動主義とパーソナリティⅢ 学習理論的パーソナリティ理解の問題点と可能性	事前配布資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	資料を事前に配布する。講義前に読み疑問点などを明確にしておく。
26	人格の理論:現象学的人格論① 現象学・実存哲学の影響と人格論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p69～82を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
27	人格の理論:現象学的人格論② 現象学的パーソナリティ理論。ロジャーズの人間理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p69～82を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
28	人格の理解:状況論① 状況論:改めてパーソナリティの有無に関する観点を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p27～p29を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
29	人格の理解:状況論②と5因子モデル 状況論を踏まえて、5因子研究の問題点と展望を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p26・27～p29を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。

30	総括:全体の振り返り 個人差を如何に理解するのか	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>①筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施。</p> <p>②レポート 期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。</p> <p>③その他 授業内容の理解度あるいは授業項目展開上必要とされる事前の知識等の確認のため、2回から3回程度小テストを実施する。小テストの採点は授業内で答え合わせの形式で行い、不足していると思われる事項を直ぐに授業で反映できるよう計画していく。</p> <p>なお、前期部分のまとめとして、中間テスト形式の課題を提示する。答え合わせは自己添削形式とし、論述試験の回答方法を併せて学ぶ。</p>			
教科書			
<p>書名: パーソナリティ・プロフィール 著者名: 乾原 正・中山 信夫 他</p> <p>発行所: 八千代出版 価格: 2,300円(税別)</p>			
その他補足事項			
<p>本科目では、コンピュータを用いたスライド(パワーポイント)を中心に展開していく。実習等で欠席の場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配布できるので申し出ること。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	認知心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: <small>わだ ゆういち</small> 和田 裕一 本務先:東北大学 職名:准教授	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
われわれは自己をとりまく環境の情報をどのようにして認識し、そこから新しい知識を獲得し、適応的な行動へとつなげているのであろうか。こういった「知のしくみ」を研究する心理学の一分野が認知心理学である。本講義では、人間の認知機能について、以下のトピックを中心に概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
認知心理学の代表的な研究テーマに関する研究成果を体系的に学習し、われわれの「知」の仕組みの特性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A C D J
心理実験のデモンストレーションを体験し、それが何を意味するかについて自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C D
人間の認知機能に関する諸現象とその機序を理解し、われわれの生活とどのように関連するかについての洞察を得る。	目標	A C D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション —認知心理学とは—	簡単なアンケートを予定	
2	脳の構造と機能 —大脳の基本構造・機能局在—	資料映像(幻肢痛)	
3	脳の構造と機能 —大脳半球の機能差—	簡易実験	確認テストのための復習

4	視知覚のメカニズムと基本的特性 —網膜レベルの処理—	フラッシュ教材(網膜のし くみ)	
5	視知覚のメカニズムと基本的特性 —視覚情報処理経路—	資料映像(視覚情報処理)	
6	知覚の統合作用 —時間的統合作用—	実験デモ(錯視)	
7	知覚の統合作用 —空間的統合作用その1—	実験デモ(錯視)	
8	知覚の統合作用 —空間的統合作用その2—	実験デモ(錯視)	確認テストのための 復習
9	情報の符号化と記憶 —感覚記憶—	簡易実験(感覚記憶)	
10	情報の符号化と記憶 —注意による情報選択その1—	実験デモ(変化盲)	
11	情報の符号化と記憶 —注意による情報選択その2—	簡易実験(注意のスポッ トライト)	
12	情報の符号化と記憶 —短期記憶と情報の符号化—	簡易実験(処理水準)	
13	情報の符号化と記憶 —ワーキングメモリ—	実験デモ(メモリスパン テスト)	
14	情報の符号化と記憶 —エピソード記憶—	資料映像(目撃証言)	確認テストのための 復習
15	前期末試験		詳細に関して試験の 約1ヶ月前に告知す るので、試験当日ま でに各自そのため の準備を進めておく ことが求められる
16	情報の符号化と記憶 —意味記憶 その1—	簡易実験(意味的プライ ミング)	
17	情報の符号化と記憶 —意味記憶 その2—	簡易実験(潜在記憶)	
18	情報の符号化と記憶 —検索と忘却—	実験デモ(TOT現象)	確認テストのための 復習
19	高次の認知機能 —心的イメージ—	簡易実験(心的回転)	
20	高次の認知機能 —思考:古典的な思考研究—	思考クイズ	
21	高次の認知機能 —思考:認知心理学的アプローチ—	実験デモ(ハノイの塔の 問題空間)	
22	高次の認知機能 —思考:推論と類推—	実験デモ(確率推論)	確認テストのための 復習
23	高次の認知機能 —知能:知能の定義と知能検査—		
24	高次の認知機能 —知能:遺伝か環境か—	資料映像(知能テスト)	
25	高次の認知機能 —知能と創造性の関係—	簡易実験(創造性を測る)	確認テストのための 復習
26	高次の認知機能 —言語の脳内基盤—		
27	高次の認知機能 —言語の獲得:その1—	資料映像(言葉を話すチ ンパンジー)	
28	高次の認知機能 —言語の獲得:その2—	資料映像(ことばの不思議)	確認テストのための 復習

29	高次の認知機能 —認知と感情—	簡易実験(情動プライミ ング)	
30	これまでの総括とディスカッション		
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
筆記試験(前期末試験50%・後期末試験50%)の成績に基づいて評価する。ただし、最終的な成績評価には、課題の提出状況や授業時の積極的な発言、発表等への参加態度などが加味される。試験の形式等の詳細については、第1回目の授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。		適宜紹介する。	
その他補足事項			
授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。資料映像等のAV教材も利用するが、その内容は授業進度に応じて変わることが予想されるため、授業内容で示した資料名や確認テストの日程等は変更されることがある。また、授業中、その日の授業内容に関連する簡易実験やデモンストレーションを行う場合があるので、積極的な参加・協力をお願いしたい。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	子どもの心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業では、胎児期から児童期にかけての、身体・心の発達について解説していく。胎児期、乳児期、児童期それぞれの段階における発達の特徴を理解し、またどのような心理的問題が生じやすいかを把握することで、全体的に子どもを理解することを目的とする。	○ A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
子どもの心身の発達についての知識を獲得することができる。	目標	A J
子どもにまつわる様々な心理的問題について理解することができる。	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修(予習・復習)
1	オリエンテーション 子どもとは	授業計画	
2	発達の基礎の振り返り	配布資料	事前配布資料を読んでおく
3	胎児期・新生児期の発達	配布資料	事前配布資料を読んでおく
4	乳児期の発達	配布資料	事前配布資料を読んでおく
5	幼児期の発達(1) 知的能力、認知能力	配布資料	事前配布資料を読んでおく

6	幼児期の発達(2) 対人関係の始まり	配布資料	事前配布資料を 読んでおく
7	幼児期の発達(3) 自己のめばえ	配布資料	事前配布資料を 読んでおく
8	児童期の発達(1) 身体、ことば	配布資料 ディスカッション	事前配布資料を 読んでおく
9	児童期の発達(2) 知的能力、認知能力	配布資料	事前配布資料を 読んでおく
10	児童期の発達(3) 自己の育ち	配布資料	事前配布資料を 読んでおく
11	児童期の発達(4) 人間関係、学校での学び	配布資料	事前配布資料を 読んでおく
12	子どもの心理臨床(1) 子ども臨床の特徴	配布資料 事例検討(グループワーク)	事前配布資料を 読んでおく レポート作成
13	子どもの心理臨床(2) スクールカウンセリング	配布資料	事前配布資料を 読んでおく
14	子どもの心理臨床(3) 不登校、いじめ、虐待、子育て支援など	配布資料 事例検討(グループワーク)	事前配布資料を 読んでおく レポート作成
15	まとめ	配布資料 質疑応答	事前配布資料を 読んでおく
期末 試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験	60%		
レポート	20%		
小テスト(随時行う)	20%		
教科書		参考書	
使用しない		書名:手にとるように発達心理学がわかる本 著者名:小野寺敦子 発行所:かんき出版 価格:1,500円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	青年の心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名: ^{わたなべ} 渡部 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
子どもから大人への移行期である青年期においては、身体的、社会的、心理的に様々な変化が生じてくる。青年らしさとは何か、どのような時期であるのかについて学ぶ。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
青年期の特徴について理解する。	目標	A J
青年期に生じやすい心の問題についての基礎的な知識を身につける。	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 青年期とは	授業計画 自己分析(ワーク)	
2	発達の基礎理論の振り返り	配布資料	事前配布資料を読んでおく
3	青年期の思考について	配布資料	事前配布資料を読んでおく
4	青年期の感情について	配布資料	事前配布資料を読んでおく
5	性、恋愛、性役割について	配布資料	事前配布資料を読んでおく

6	青年期の自己	配布資料	事前配布資料を読んでおく
7	家族と青年	配布資料	事前配布資料を読んでおく
8	青年期の友人関係	配布資料	事前配布資料を読んでおく
9	青年期における学校生活、学習	配布資料	事前配布資料を読んでおく
10	社会における青年	配布資料	事前配布資料を読んでおく
11	進路と職業選択	配布資料	事前配布資料を読んでおく
12	青年期の病理(1) 引きこもり、摂食障害、対人恐怖など	配布資料 事例検討(グループワーク)	事前配布資料を読んでおく
13	青年期の病理(2) 非行、自殺・自傷など	配布資料 事例検討(グループワーク)	事前配布資料を読んでおく レポート作成
14	大人になるということ	配布資料 ディスカッション	事前配布資料を読んでおく
15	まとめ	配布資料	事前配布資料を読んでおく
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験	70%		
レポート	10%		
小テスト(随時行う)	20%		
教科書		参考書	
使用しない		書名:よくわかる青年心理学第2版 著者名:白井利明 編 発行所:ミネルヴァ書房 価格:2,500円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	老いの心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:岩佐 <small>いわさ はじめ</small> 一	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>超高齢社会を迎えるなかで、今後、多側面から高齢者を理解することが求められる。身体機能や精神機能の減退に関する知見、高齢者特有の心理に関する知見に加え、高齢者と社会の関わりにも焦点を当て、基礎的知見を整理する。教科書及び配布レジュメを用いて座学中心の講義を行うが、適宜、視聴覚教材の使用、レポート課題の提出を求める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
<p>高齢期・高齢社会における多様な特性や心理的問題について基礎的知見を学び、最終的に高齢者差別を低減するためにはどうしたら良いのか、学生自身が主体的に考えるための素養を身につけることを目標とする。</p>	目標	A C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 高齢者・高齢社会概論	教科書およびプリント	
2	高齢社会の進展	// 小テスト、答えあわせ	高齢社会の進展に関する復習
3	高齢期の健康と身体疾患	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の身体疾患と精神面への影響に関する復習
4	感覚、知覚機能の加齢変化	// 小テスト、答えあわせ	感覚、知覚機能の加齢変化に関する復習
5	高齢者の記憶能力	// 小テスト、答えあわせ	記憶の諸側面に関する復習

6	知能と加齢	// 小テスト、答えあわせ	知能の諸側面に関する復習
7	パーソナリティ	// 小テスト、答えあわせ	パーソナリティに関する復習
8	高齢期における心理的適応	// 小テスト、答えあわせ	高齢期における心理的適応等に関する復習
9	高齢期の対人関係・社会生活	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の対人関係・家族関係に関する復習
10	現代高齢者のライフスタイル	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の健康習慣や余暇活動に関する復習
11	高齢期の生活の質	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の要介護化に関する諸問題に関する復習
12	高齢期の精神疾患1	// 小テスト、答えあわせ	認知症をとりまく諸問題に関する復習
13	高齢期の精神疾患2	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の抑うつや自殺の問題に関する復習
14	高齢期の精神疾患3	// 小テスト、答えあわせ	高齢期の精神疾患への対応に関する復習
15	本講義のまとめ	// 小テスト、答えあわせ	高齢者差別低減のために身近な取り組みを考える
期末試験	後期末試験(筆記試験)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評についてメールにて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 筆記試験 50点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) 小テスト 毎回授業開始時点で、前回学習内容を復習するための小テストを行い、答えあわせを行う。 (3) その他 出席 30%、授業参加の取り組み課題の達成状況 20%			
教科書			
書名:「老年心理学(改訂版)」 著者名:下仲順子(編) 発行所:培風館 価格:2,100円(税別)			

授 業 科 目 名	職場の心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ないとう} 内藤 ^{てつお} 哲雄	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
多くの卒業生が関わる産業組織での心理学の主要テーマである、仕事の動機づけ、作業、集団と組織、リーダーシップ、職場ストレスとカウンセリング、キャリア開発、人事アセスメント、消費者行動の全般を取り上げる。概観的理解を得られるようにするための講義であるが、担当者内藤自身の民間企業向けの管理監督者訓練、性格検査や職業興味検査の作成、マーケティングを、担当教員内藤の実務体験での事例をまじえながら、現場のリアリティを感じられる授業を目指す。	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
仕事の動機づけの自身での高め方とストレスコーピングについて理解する	目標	A J L	
集団と組織の仕組み、リーダーシップについて、現場の例を聞き理解する	目標	A C G L	
管理・監督者訓練、研修のあり方について事例を聞きながら理解する	目標	A J L	
消費者の関心を引き出す製品開発・商品開発の実例を聞きながら理解する	目標	J L	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 序章 産業・組織心理学とは	授業計画 教科書補足資料	教科書p1~12を復習する
2	第1章 仕事への動機づけ 1.動機づけとは何か 2.モチベーションの理論	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p10~33を事前に読む
3	第1章 仕事への動機づけ 3.モチベーションの理論の発展	ディスカッションを挿入	教科書p34~40を事前に読む

4	第2章 作業の心理学 1.作業研究の始まり 2.作業負荷と疲労 3.作業分析	教科書補足資料利用、マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p41～55を事前に読む
5	第2章 作業の心理学 4.ヒューマン・エラーと事故 5.作業環境の快適性	ディスカッションを挿入	教科書p55～65を事前に読む
6	第3章 集団と組織 1.人々の認識とそのゆがみ 2.集団組織の議論過程の問題	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p67～83を事前に読む
7	第3章 集団と組織 3.集団状況におけるパフォーマンス	ディスカッションを挿入	教科書p83～96を事前に読む
8	第4章 リーダーシップ	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p97～116を事前に読む
9	第5章 職場ストレスとカウンセリング 1.職場ストレスの現況 2.医学的ストレス・モデルと心理学的ストレス・モデル 3.医学的視点に基づいた職業性ストレス理論	ディスカッションを挿入	教科書p117～124を事前に読む
10	第5章 職場ストレスとカウンセリング 4.心理学的視点に基づいた職業性ストレス理論 5.心理学的職場ストレス理論に基づいた産業カウンセリング	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p125～135を事前に読む
11	第6章 キャリア発達 1.加齢による変化 2.キャリアに関する主題	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p137～150を事前に読む
12	第6章 キャリア発達 3.キャリアの選択と意思決定 4.キャリアの成功	ディスカッションを挿入	教科書p150～162を事前に読む
13	第7章 人事アセスメント 1.人事アセスメントとは 2.採用選考 3.人事考課	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p163～173を事前に読む
14	第7章 人事アセスメント 4.教育研修 5.人事アセスメントの信頼性と妥当性	ディスカッションを挿入	教科書p174～185を事前に読む
15	第8章 消費者行動	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p186～211を事前に読む
期末試験	期末筆記試験	筆記試験	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
「授業アンケートカード」での授業への感想やコメント(20%)と試験(80%)によって評価する。			
教科書			
書名:産業・組織心理学への招待 著者名:白樫三四郎 編 発行所:有斐閣 価格:2,200円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	心理診断法	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	4年次 (平成26年度入学生まで)
担 当 教 員	職名:助教 氏名:木村 ^{きむら} 泰博 ^{やすひろ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では、心理診断・心理査定の意味、心理的問題を理解する観点と方法について学ぶ。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、解釈とその活用について実践的に学習する。</p> <p>また、心理学の一般的なレポート形式の書き方を習得することを目指す。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
心理診断・心理査定の意味を理解する。		目標 A
心理検査の各種方法を学ぶ。		目標 A
心理学の一般的なレポート構成に沿ってレポートが書ける。		目標 D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点		
2	臨床心理学の視点	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	異常心理学	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
4	臨床心理アセスメント	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	認知機能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
6	レポート作成の方法 レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる

7	知能検査 WISC-IV①	検査実習	知能検査を受ける
8	知能検査 WISC-IV②	検査実習	知能検査を受ける
9	知能検査結果の見方	解釈実習	復習) 授業内容の振り返り
10	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	発達検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法 症状検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	質問紙法 性格検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
14	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
15	前期のまとめと振り返り		復習) 授業内容の振り返り
16	投影法 SCT①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
17	投影法 SCT②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
18	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
19	投影法 バウムテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
20	投影法 バウムテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
21	投影法 P-Fスタディ①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
22	投影法 P-Fスタディ②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
23	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
24	投影法 ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
25	投影法 ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
26	ロールシャッハテストレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
27	内田クレペリン検査①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
28	内田クレペリン検査②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
29	面接法 MINI	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
30	後期のまとめと振り返り		復習) 授業内容の振り返り
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート(全6回)	60%		
(2) 毎授業ごとのコメントシート	30%		
(3) 授業に臨む姿勢	10%		
教科書			
使用しない			

授 業 科 目 名	心理診断法実習	授業形態・単位数	実習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:助教 氏名: ^{きむら やすひろ} 木村 泰博	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目では、心理診断・心理査定の意味、心理的問題を理解する観点と方法について学ぶ。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、解釈とその活用について実践的に学習する。</p> <p>また、心理学の一般的なレポート形式の書き方を習得することを目指す。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
心理診断・心理査定の意味を理解する。		目標 A
心理検査の各種方法を学ぶ。		目標 A
心理学の一般的なレポート構成に沿ってレポートが書ける。		目標 D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点		
2	臨床心理学の視点	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	異常心理学	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
4	臨床心理アセスメント	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	認知機能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
6	レポート作成の方法 レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる

7	知能検査 WISC-IV①	検査実習	知能検査を受ける
8	知能検査 WISC-IV②	検査実習	知能検査を受ける
9	知能検査結果の見方	解釈実習	復習) 授業内容の振り返り
10	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	発達検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法 症状検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	質問紙法 性格検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
14	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
15	前期のまとめと振り返り		復習) 授業内容の振り返り
16	投影法 SCT①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
17	投影法 SCT②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
18	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
19	投影法 バウムテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
20	投影法 バウムテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
21	投影法 P-Fスタディ①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
22	投影法 P-Fスタディ②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
23	レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
24	投影法 ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
25	投影法 ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
26	ロールシャッハテストレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
27	内田クレペリン検査①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
28	内田クレペリン検査②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
29	面接法 MINI	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
30	後期のまとめと振り返り		復習) 授業内容の振り返り
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート(全6回)	60%		
(2) 毎授業ごとのコメントシート	30%		
(3) 授業に臨む姿勢	10%		
教科書			
使用しない			

授 業 科 目 名	心理統計学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:和田 裕一 本務先:東北大学 職名:准教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学を学ぶ上で必要となる統計的手法に関する基礎知識と主要な統計技法について概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C
心理学実験や調査で扱う種々のデータの解析方法を会得し、データ解析を実践できるようになる。	目標	A B C
表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。	目標	B I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	イントロダクション —心理統計学とは—	エクセル実習(エクセル入門)	
2	データを表現する方法 —記述統計・尺度水準—	エクセル実習(数値計算)	
3	データを表現する方法 —図表化—	エクセル実習(グラフ)	授業時間内に実習課題が終わらなかった受講生は、次回までに各自完成させておくこと(以下同様)。

4	データを要約する方法 —代表値—	エクセル実習(基本的な関数)	
5	データを要約する方法 —散布度と標準化—	エクセル実習(分散・標準偏差)	
6	2つの変数の関係を求める —散布図—	エクセル実習(散布図)	相関に関する練習問題のプリント
7	2つの変数の関係を求める —相関—	エクセル実習(相関係数)	ここまでの範囲の確認テストを実施する予定
8	標本から母集団を推定する —推測統計とは—	エクセル実習(不偏分散)	
9	標本から母集団を推定する —標本統計量—	エクセル実習(標準誤差)	
10	統計学的仮説検定の考え方 —そのロジックとは—		
11	統計学的仮説検定の考え方 —有意水準—		
12	平均を比較する —平均の差の検定その1—	エクセル実習(母平均と標本平均)	平均の検定に関する練習問題のプリントその1
13	平均を比較する —平均の差の検定その2—	エクセル実習(t検定)	平均の検定に関する練習問題のプリントその2
14	いろいろな統計手法	エクセル実習(種々の統計関数を概観する)	
15	これまでの総括 —要点の整理と総復習—		
期末試験	期末筆記試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

到達度の評価(評価方法・基準)

筆記試験の点数(100%)を基本とするが、最終的な成績評価は学期中に何回か課されるレポートの提出状況や授業への積極的参加態度等を加味して決定する。なお受講者の人数や状況によっては、評価方法に変更を加える場合がある。詳しくは第1回目の授業時に説明する。

教科書

使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。

参考書

書名:よくわかる心理統計
著者名:山田剛史・村井潤一郎
発行所:ミネルヴァ書房 価格:2,800円(税別)

その他補足事項

本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合がある。講義の一部は、表計算ソフト(Excel等)を用いた実習形式で行うことを予定している。PCは大学に準備されているものを使用するが、必要なソフトウェアがインストールされていれば個人所有のノートPCを使用してもよい。受講生は基本的なPC操作(文字入力に困らない程度)が身につけていることが望ましいが、PC操作のスキルを学習する意欲があれば初学者も歓迎する。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	カウニング概論	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年
担当教員	職名:教授 氏名: <small>すぎやま まさひこ</small> 杉山 雅彦	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
カウニングを学ぶための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身に付けていく。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から（社会的な相互作用という点から）身に付ける。カウニングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つことができる。	目標	A B
カウニングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解することができる。	目標	A B L
カウニングの基礎的な技術を模擬的な状況で使用することができる。	目標	J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	配付資料(次回授業)の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と(資料に関する)討議	会話という相互作用の実施その検討	配付資料の学習
3	話すことと聞くこと (1) 話すことの実習 話すことの困難さ	話をすることを実施し、その困難性に関する検討	配付資料の学習 話すことの問題点の検討

4	カウンセリングの必要性 (1) カウンセリングの意味 クライアントから見て何が見えるのか	カウンセリングの意味の 討議	配付資料の学習
5	カウンセリングとは カウンセリングの基礎としての受容と共感	受容と共感の討議	配付資料の学習 自分にとって受容、 共感とは?の検討
6	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとっ て受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめ る
7	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感の実施、および共感 とは何かの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめ る
8	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をするこ とが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめ る
9	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で 何が起こっていたのかの 討論	カウンセリングとは 何かの印象をまとめ る
10	記録をとる カウンセリング場面の記録をとる(文字にする)	3人一組でのカウンセリ ング場面の設定	記録の整理
11	心理臨床相談センター見学 院生との討論	見学 院生とカウンセリングに 関して討論、質疑応答	見学のまとめと院生 との討論に関する整 理
12	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
13	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
14	カウンセリングの方法(1) カウンセリングにおける質問	質問に関する討議	配付資料の学習
15	カウンセリングの方法(2) カウンセリングにおける肯定	肯定の意味とは?の討議	配付資料の学習
16	変化することのカウンセリング 変化することの意味	変化とは何かの討議	配付資料の学習
17	困ったことを持つ人の心理	困ったことを持つ人が陥 る心理のグループワーク	まとめ 配付資料の学習
18	援助をするということ、その人にとって援助になるということ	クライアントから見て何 が援助になるかのグルー プワーク	まとめ 配付資料の学習
19	動機づけのカウンセリング カウンセリングを通して変化に動機づけられる過程の 検討	動機づけに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングを受 けることに関するま とめ
20	OARS(1) (1) 開かれた質問 (2) 賞賛	方法がどのように機能す るかの討議	配布資料の学習
21	OARS(2) (1) 振り返り (2) 要約	方法がどのように機能す るかの討議	配布資料の学習
22	うつの人へのカウンセリング	カウンセリングプロセス に関する討議	配布資料の学習 カウンセリングプロ セスのまとめ
23	不安が強い人へのカウンセリング	カウンセリングプロセス に関する討議	カウンセリングプロ セスのまとめ

24	問題への接近としてのカウンセリング	問題を中核に、カウンセリングプロセスの検討	問題を中核としてカウンセリングプロセスのまとめ
25	変化のためのカウンセリングを維持するために質問や反応の整理	カウンセリングを維持する要因の討論	維持するための方法のまとめ 模擬カウンセリングの準備
26	変化のための模擬カウンセリング(1)	模擬カウンセリング	模擬カウンセリングの記録の整理と分析
27	変化のための模擬カウンセリング(2)	模擬カウンセリング	配布資料の学習模擬カウンセリングの記録の整理と分析
28	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(1) 初回から問題解決までのプロセスを検討する	出会いからのカウンセリングに関する討論	配布資料の学習カウンセリングの過程のまとめ
29	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(2) 変化のためのサポートとして何が必要か検討する	変化のための条件に関する討論	サポートに関するまとめ
30	まとめ	カウンセリングの意味についての討論	まとめ
期末試験	期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	40点満点の筆記試験を学年末に実施する。		
(2) レポート	前期の模擬カウンセリング、後期の変化のための模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートとして提出する。各30点満点で採点する。		
教科書		参考書	
使用しない		使用しない	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	カウ ン セ リ ン グ 演 習	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : <small>すぎやま まさひこ</small> 杉 山 雅 彦	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	初 回 授 業 時 に 説 明 し ます		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	
認 定 心 理 士	//	選 択	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
カウ ン セ リ ン グ に 関 し て 基 本 的 理 解 と 、 カウ ン セ リ ン グ を 進 め て い く た め の 考 え 方 (理 論 も 含 む) や 方 法 そ し て そ の 適 用 に 関 し て 検 討 を 進 め て い く 。 特 に 本 授 業 は 発 表 と 討 論 そ し て 模 擬 カウ ン セ リ ン グ を 主 体 に 置 い て お り 、 カウ ン セ リ ン グ が ど の よ う な も の か を 体 験 し 、 自 ら 学 習 し 、 自 ら 深 め て い く こ と を 目 指 し て い る 。	<input type="checkbox"/>	A 知 識
	<input type="checkbox"/>	B 技 術 ・ 技 能
	<input type="checkbox"/>	C 論 理 的 思 考 力
	<input type="checkbox"/>	D 文 章 表 現 力
	<input type="checkbox"/>	E 表 情 及 び 身 体 表 現 力
	<input type="checkbox"/>	F 感 性 及 び 感 動 表 現 力
	<input type="checkbox"/>	G 協 働 能 力
	<input type="checkbox"/>	H ま ご こ ろ 、 思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力
	<input type="checkbox"/>	I 積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力
	<input type="checkbox"/>	J 多 様 性 へ の 理 解 力 、 応 用 力
	<input type="checkbox"/>	K 課 題 対 処 力
	<input type="checkbox"/>	L 人 間 関 係 、 対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
カウ ン セ リ ン グ が 「 困 っ た こ と 」 を 抱 え て い る 人 を サ ポ ー ト す る も の で あ る こ と を 理 解 し 、 そ の た め に 何 が 行 わ れ る か (方 法) ど ん な こ と を 目 指 し て 行 わ れ る か (目 的) を 理 解 す る 。	目 標	B C
模 擬 カウ ン セ リ ン グ の 場 面 に お い て 、 カウ ン セ リ ン グ の 基 礎 を 理 解 の 上 方 法 を 用 い る こ と が 出 来 る 。	目 標	B C J K
問 題 に 関 し て 自 ら 学 習 し 、 そ れ を 発 表 し あ る い は 傾 聴 し 、 質 疑 応 答 を す る 中 で 、 理 解 を 深 め る 。	目 標	C J K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (1) 授 業 の 概 要 と 目 標 (授 業 内 容) (2) 授 業 の 進 め 方 の 留 意 点	授 業 計 画	
2	初 期 カウ ン セ リ ン グ (1) 関 係 の 形 成 (2) 関 係 の 形 成 の た め の 条 件	カウ ン セ リ ン グ を 希 望 す る 方 の 特 徴 に 関 し て 討 論	配 付 資 料 の 学 習 授 業 の ま と め

3	受容と共感 (1) 受容の意味 (2) 共感の意味	受容と共感とは何か、討論	受容と共感をイメージ化する
4	受容と共感のワーク	グループで受容と共感を相互作用内で実施、それに関する討論	配付資料の学習 受容と共感、そして討論のまとめ
5	傾聴 傾聴の意味	傾聴とは何か、討論	傾聴をイメージ化する
6	傾聴のワーク	グループで受容と共感を相互作用内で実施、それに関する討論	配付資料の学習 傾聴、そしてその討論のまとめ
7	初期カウンセリングに関する模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
8	初期カウンセリングに関する模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	配付資料の学習 記録の整理と分析、レポート作成
9	変化に向かう方法としての動機づけカウンセリング (1) 変化に向かうことの難しさ	変化に関する討論	配付資料の学習
10	動機づけカウンセリングの方法 反応の拡大と質問 クライアントの努力とサポート、賞賛	クライアントをサポートするとはどういうことか、討論	配付資料の学習 サポートに関するまとめ
11	動機づけカウンセリングの方法から変化へ (1) 振り返る 要約	クライアントが決断に至るとはどういった過程か討論	配付資料の学習 変化への動機づけの分析
12	変化へのサポートと決断 決断への方法	変化する事への抵抗の討論	変化の分析とまとめ
13	変化への模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
14	変化への模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析 レポート作成
15	クライアントをサポートするとは?	サポートするとはどういう機能かの討論	カウンセリングに関するまとめ
16	問題が改善するとは	18回以降の発表に関する分担決定	発表の準備
17	問題が改善するための基本アプローチ (1) 行動の改善 クライアントさんの変化	変化するとはどういうことかの討論	発表の準備
18	状況別の変化へのカウンセリング-発表(1)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
19	状況別の変化へのカウンセリング-発表(2)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
20	状況別の変化へのカウンセリング-発表(3)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
21	状況別の変化へのカウンセリング-発表(4)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
22	状況別の変化へのカウンセリング-発表(5)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ

23	状況別の変化へのカウンセリング-発表(6)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
24	状況別の変化へのカウンセリング-発表(7)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
25	状況別の変化へのカウンセリング-発表(8)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
26	状況別の変化へのカウンセリング-発表(9)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
27	状況別の変化へのカウンセリング-発表(10)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
28	カウンセリングが出来ること カウンセリングの機能の分析	カウンセリングの機能に関する討論	まとめ
29	カウンセリングが考えなければならないこと 機能するための方法	カウンセリングの方法に関する討論	まとめ 配付資料の学習
30	まとめとして～ケーススタディ	ケースに関する討論	カウンセリングが役に立つためにどう考えれば良いかのまとめ
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート 前期の二回の模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートする。また後期の発表に関して、発表終了後、そこでの討論を含めてレポートする。三つのレポートをそれぞれ各30点で評価する。 (2) 発表 後期の発表に関して、その内容および質疑の応答に関して評価する。発表したものに関して理解できているか（質問された際に答えることが出来るか）、説明は明瞭であったか、参考文献の提示は適切であったかに関して10点満点での評価を行う。			
教科書		参考書	
使用しない		使用しない	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	心理学実験	授業形態・単位数	実習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{うめみや} 梅宮れいか	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	なし
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーを設けています。授業初回に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>この授業は、心理学の古典的実験や心理現象の解釈を実際に行うことで、“因果関係”を使って物事を説明する考え方と、それを科学的に記述する方法を学びます。</p> <p>きちんとした形のレポートに仕上げるトレーニングで、科学的な考え方や記述の仕方を身に付ける授業です。また、グループで実験を行うことで、協同してものを考えるトレーニングも行います。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
古典的な心理学実験について理解する	目標	A
論理的な思考を進める技術を学ぶ	目標	B
条件と因果を使った説明ができるようになる	目標	C
筋の通った表現でレポートが書けるようになる	目標	D
協同して課題に取り組むことができるようになる	目標	G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	モデル設計の基礎	VTR「割れるガラス」28分	復習: 視聴したビデオ内容と、授業内で行った解説をまとめておく
2	因果関係と独立変数、従属変数	VTR「超常現象科学者たちの挑戦」前半23分 グループワーク	予習: 教科書P.3-10 復習: ノートの整理

3	実験計画 レポート「科学者たちは何を証明しようとしたのか？」	VTR「超常現象科学者たちの挑戦」後半25分 グループワーク	予習:教科書P.11-16 復習:ノートの整理
4	レポートの作成 レポートの提出	グループワーク	予習:観点にしたがって資料のまとめ レポートの作成
5	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	予習:提出レポートを見直しておく 復習:模範例を元に自分のレポートを修正する
6	仮説と証明 レポート「原因と結果、その筋道を図示し、説明せよ」	VTR「CSI:NY」25分 グループワーク	予習:配布資料の通読 復習:レポートの作成
7	レポートの作成 レポートの提出	グループワーク	レポートの作成
8	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	予習:提出レポートを見直しておく 復習:模範例を元に自分のレポートを修正する
9	実験レポートの書き方 データの意味と統計量 データのまとめ方 (EXCELを使った統計)	講義	予習:教科書P.39-46 復習:課題を完成
10	ミュラー・リヤー錯視の実験	グループワーク 実験の実施	予習:教科書P.17-28 復習:実験の手順を確認
11		グループワーク 実験の実施	レポートの作成
12		グループワーク 実験の実施	レポートの作成
13	実験結果を基にレポートを作成する 作成途中で1回のレポート添削を行う	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
14	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	予習:レポートの作成 復習:提出レポートの見直しと追加点の検討
15	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	予習:提出レポートを見直しておく 復習:模範例を元に自分のレポートを修正する
16	初頭効果の実験	VTR「Village」前半40分 ディスカッション	予習:ノートの整理 復習:観点に従ったまとめ
17	初頭効果の実験	VTR「Village」後半40分 ディスカッション	予習:観点に従ったまとめの確認 復習:レポートの作成
18	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	予習:レポートの作成 復習:提出レポートの見直しと追加点の検討
19	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	予習:提出レポートを見直しておく 復習:模範例を元に自分のレポートを修正する

20	皮膚感覚(識別能)の実験	グループワーク 実験の実施	予習:実験内容に関する下調べ、教科書P.28-38 復習:実験の手順を確認
21	皮膚感覚(識別能)の実験	グループワーク 実験の実施	レポートの作成
22	皮膚感覚(識別能)の実験	グループワーク 実験の実施	レポートの作成
23	実験結果を基にレポートを作成する 作成途中で1回のレポート添削を行う	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
24	レポートの作成 レポートの提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	予習:レポートの作成 復習:提出レポートの見直しと追加点の検討
25	レポートの講評と模範例の解説	講義・ディスカッション	予習:提出レポートを見直しておく 復習:模範例を元に自分のレポートを修正する
26	実験における倫理と責任	VTR「スタンフォード監獄実験」45分 ディスカッション	予習、復習:レポートの作成
27	レポートの作成	図書館を使った調べ学習 ディスカッション	レポートの作成
28	レポートの作成	図書館を使った調べ学習 ディスカッション	レポートの作成
29	レポートの提出	図書館を使った調べ学習	レポートの作成
30	最終レポートの講評	ディスカッション 授業全体のまとめ	予習:提出レポートを見直しておく
到達度の評価(評価方法・基準)			
レポート各15点×6=90点、ディスカッション=5点、学習の熱心さ=5点の計100点満点で評価。なお、授業実施規定に則った減点がなされる場合がある。			
教科書			
書名:「心理学実験法・レポートの書き方」 著者名:西口利文・松浦均 編集 発行所:ナカニシヤ出版 価格:2,200円+税			
その他補足事項			
この授業は、小グループで与えられた課題を行い、考察を含めたレポートとして提出しなければなりません。そのため、実験レポートの制作で文献の検索とグループでの実験結果の検討が必要となります。ただ実験をするだけでなく、レポートを作るうえで、担当教員との質疑応答や図書館での文献検索、グループでの作業、ディスカッションを通して身に付く論理性の学習を重視して行います。			

授 業 科 目 名	社会心理学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ないとう} 内藤 ^{てつ お} 哲雄	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	//	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
福祉や心理臨床の実務との関わりが大きい「人間関係」を中心に講義する。また、外国人との交流が増えていること、内国でも地域による違いが大きいことから、「異文化間コミュニケーション」「異文化間対人葛藤」の授業を追加する。	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
日常生活を社会心理学の視点から見始めるようになること。	目標	A	
社会心理学の理論を日常生活で活用できるようになること。	目標	I J L	
自身の体験を「距離を置いて」客観的に眺められるようになること。	目標	L	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概説(社会心理学とは)	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	
2	序章	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p1~10を読んでおく
3	1章 社会性の発達と性格の形成 1.発達初期の人間関係	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p11~21を読んでおく

4	2. 発達段階と人間関係	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p22～31を 読んでおく
5	2章 人間関係を通しての学習 1. 基本的な学習のメカニズム	ディスカッションを加える	教科書p32～38を 読んでおく
6	2. 社会的学習のメカニズム	ディスカッションを加える	教科書p38～39を 読んでおく
7	3章 性格と対人行動 1. 精神分析的性格論 2. 性格特性論	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p40～50を 読んでおく
8	3. 臨床心理学からみた性格と人間関係 4. 自己特性と人間関係	ディスカッションを加える	教科書p50～54を 読んでおく
9	4章 人間関係の認知 1. 対人認知の内容	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p56～66を 読んでおく
10	2. 人間関係の帰属 3. 社会的比較	ディスカッションを加える	教科書p66～86を 読んでおく
11	5章 感情と人間関係 1. 対人好悪の感情	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p87～96を 読んでおく
12	2. 情緒と対人関係	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p96～104を 読んでおく
13	6章 態度と人間関係 1. 態度の特性 2. 態度の形成	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p105～110 を 読んでおく
14	3. 態度の変化	ディスカッションを加える	教科書p110～120 を 読んでおく
15	7章 社会的欲求と行動の分類 1. 欲求と行動のいろいろな関係	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p122～124 を 読んでおく
16	2. さまざまな欲求とマレーの欲求-圧力仮説 3. 社会的欲求は生得的か獲得的か	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p124～130 を 読んでおく
17	8章 対人的行動 1. 援助行動と攻撃行動	ディスカッションを加える	教科書p131～142 を 読んでおく
18	2. 達成行動と親和行動	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p142～152 を 読んでおく
19	3. 支配行動と服従行動	ディスカッションを加える	教科書p152～162 を 読んでおく
20	4. 協同的行動と競争的行動 5. フラストレーションとコンフリクト	ディスカッションを加える	教科書p162～174 を 読んでおく
21	9章 集団の構造と成員の行動 1. インフォーマル・グループとフォーマルグループ	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p176～178 を 読んでおく
22	2. インフォーマル・グループの構造 3. フォーマルグループの構造	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p178～185 を 読んでおく
23	10章 集団の形成と集団機能	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p186～197 を 読んでおく
24	11章 集団への同調と反発 1. 同調行動とその心理 2. 本心からの同調	ディスカッションを加える	教科書p198～202 を 読んでおく

25	3.非同調者への圧力 4.マイノリティ・インフルエンス	ディスカッションを加える	教科書p202～208 を読んでおく
26	12章 リーダーシップとフォロアーシップ 1.リーダーシップの機能 2.望ましいリーダーシップのあり方	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	教科書p209～212 を読んでおく
27	3.リーダーと成員の関係 4.交換型リーダーシップと変革型リーダーシップ	ディスカッションを加える	教科書p212～217 を読んでおく
28	13章 偏見とステレオタイプ	ディスカッションを加える	教科書p218～225 を読んでおく
29	補足:異文化間人間関係と葛藤	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	異文化での人間関係の多様性を振り返る
30	補足:異文化間コミュニケーション	マイクを持って机間巡回しながら質疑する双方向授業を加える	異文化でのコミュニケーションの多様性を振り返る
期末試験	期末筆記試験	筆記試験	
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
「授業アンケートカード」での授業への感想やコメント(20%)と試験(80%)によって評価する。			
教科書			
書名:人間関係の心理学(第2版) 著者名:齊藤 勇編 発行所:誠信書房 価格:2,200円(税別)			

授 業 科 目 名	障害児・者への心理援助	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:兼担准教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{ゆうき} 佑貴	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
子どもから大人まで、障害をもった人の理解と対応について学ぶ。目の前の当事者にフィットした支援方針を立案できるように、概念的理解に加え、体感的理解ができるようワーク等実体験学習を実施する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
(1) 子どもから大人まで、障害をもった人を理解するための基礎知識を説明できるようになる	目標	A B
(2) 知識にとどまらず、障害者の心理を感覚的にイメージできるようになる	目標	J L
(3) 障害者に対する実践についての方針を立てられるようになる	目標	B H L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 発達とつまずき	・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す
2	障害についての基本的考え方(1)	・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す
3	障害についての基本的考え方(2)	【小テスト】	【復習】配布プリントを読み返す
4	障害の体感的理解(1) 身体障害	・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す

5	障害の体感的理解 (2) 精神障害 (統合失調症)	DVD「水玉の女王 草間彌生の全力疾走」20分 ・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
6	障害の体感的理解 (3) 精神障害 (気分障害)	・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
7	障害の体感的理解 (4) うつ	【ワーク】アナグラムを解こう ・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
8	障害の体感的理解 (5) 知的障害	・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
9	障害の体感的理解 (6) ADHD	・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
10	障害の体感的理解 (7) LD	【ワーク】鏡映描写を体験しよう ・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
11	障害の体感的理解 (8) 自閉スペクトラム障害	DVD「発達障害のピアニスト」(15分) ・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
12	障害の体感的理解 (9) 二次的情緒障害	・コメントシート	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
13	障害の体感的理解 (10) 認知症	【小テスト】	【予習】取り上げる障害についてのネット上の記事を探す 【復習】配布プリントを読み返す
14	支援者支援 (1) 家族支援	・コメントシート	【復習】配布プリントを読み返す
15	支援者支援 (2) 専門的支援者	【小テスト】	【復習】配布プリントを読み返す
期末試験	前期末筆記試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
1. 筆記試験 60% 70点満点の試験を期末に実施する。 2. 小テスト 30% 学期内に単元の理解度を確認するテストを3回(各10点満点)実施する。 3. ワークやディスカッションへの参加度 10% 積極的にコミュニケーションを取り、体験学習ができているか確認する。
教科書
使用しない。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	障害児への心理援助	授業形態・単位数	講義・3単位
		開講年次	4年次
担当教員	職名: 兼担教授 氏名: <small>いたがき</small> 板垣 <small>けんたろう</small> 健太郎	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	「授業説明」で説明予定。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心身障害(児)の概念、原因、症状、および心理臨床的アプローチについて概説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
・障害の概念や分類について基礎的なことを理解する。		目標 A J
・障害の行動特徴、原因、援助原理について基礎的なことを理解する。		目標 A C J
・家族への援助について、考え方を理解する。		目標 A C J
・援助者自身が抱える問題があることを知る。		目標 A

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	・授業説明 ・障害(児・者)の概念	講義(資料使用)	「授業内容要約集」による復習
2	・障害の種類と分類 ・主な障害①～知能障害、言語障害、運動障害	〃	「授業内容要約集」による予習と復習
3	・主な障害②～視覚障害、聴覚障害、発達障害	〃	〃
4	・情緒障害①概念、分類	〃	〃
5	・情緒障害②対応	〃 VTR「箱庭療法」(15分)	〃

6	・自閉症スペクトラム障害① ～VTRにみるその姿	VTR「心の窓を開け翔くん」(45分)	〃
7	・自閉症スペクトラム障害② ～行動特徴	講義(資料使用)	〃
8	・自閉症スペクトラム障害③ ～原因、対応	〃	〃
9	・知的障害児①～概念、原因	〃、VTR「ダウン症児伸びやかに育て」(15分)	〃
10	・知的障害児②～知能指数について	講義(資料使用) TKB検査器具使用	〃
11	・知的障害児③～程度、対応	講義(資料使用)	〃
12	・注意欠陥多動性障害	〃	〃
13	・障害児援助の考え方①目的、内容、方法	〃	〃
14	・障害児援助の考え方②問題行動、援助者の問題	〃	〃
15	・親、兄弟姉妹への援助		「授業内容要約集」 による復習
期末 試験	期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
・期末試験(筆記試験)の評価に、遅刻、早退、欠席による減点、質問応答による加・減点を総合して評価する。 ※遅刻・早退は1回につき1点の減点、欠席は1回につき3点の減点。			
その他補足事項			
・教科書は使いませんが、予習・復習用に、授業内容を要約した「要約集」を配布します。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	障害者への心理援助	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:兼担教授 氏名: ^{いたがき} 板垣 ^{けんたろう} 健太郎	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	「授業説明」で説明予定。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
認定心理士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心身に障害を持つ人の理解と心理援助を中心にした援助原理について概説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
・「心」についての一般概念を知る。	目標	A J
・障害の概念や種類、行動特徴、原因について理解する。	目標	A
・障害者の援助原理を理解する。	目標	A C
・障害受容とその援助の考え方を理解する。	目標	A C
・援助者自身の抱える心理的問題について知る。	目標	A

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	・授業説明 ・心とは何か①～意識、無意識	VTR「ジグモント・フロイト」(25分)	「要約集」による予習と復習
2	・心とは何か②～無意識と自己実現	資料(カウンセリングの事例)	〃
3	・心とは何か③～行動	VTR「行動分析」(15分)	〃
4	・障害(児・者)の概念、分類		〃

5	・障害の種類		〃
6	・自閉症スペクトラム障害①～VTRに見る自閉症スペクトラムの姿	VTR「お仕事がんばります」(50分)	〃
7	・自閉症スペクトラム障害②～行動特徴		〃
8	・自閉症スペクトラム障害③～原因	VTR「ようこそ私の世界へ」(50分)	〃
9	・自閉症スペクトラム障害④～援助原理		〃
10	・知的障害①～概念、定義	VTR「目指せ豆腐職人」(20分)	〃
11	・知的障害②～程度による分類		〃
12	・知的障害③～援助原理		〃
13	・障害の受容①障害受容の過程	VTR「左手のピアニスト」	〃
14	・障害の受容②障害受容の援助		〃
15	・援助者が抱える問題		〃
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
・期末試験の評価に、遅刻、早退、欠席による減点、質問応答による加・減点を総合し評価する。 ※遅刻・早退は1回につき1点の減点、欠席は1回につき3点の減点。			
その他補足事項			
教科書は使いませんが、予習・復習用に、授業内容を要約した「要約集」を配布します。			

授 業 科 目 名	犯罪行動と心理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名:黒津 康司	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>犯罪は、我々の日常生活において身近なものであり、不幸にして犯罪の被害に遭う方も少なくない。また、福祉等の現場においても「犯罪事象」はしばしば見られる厄介かつ深刻な出来事である。このため、日常的に発生しているさまざまな犯罪を我々の日常生活における重要な政策課題としてとらえ、「福祉と犯罪」をキーワードに、犯罪(少年非行を含む。)の現状、犯罪に係る法知識、福祉社会に潜む(或いは顕在化している)犯罪事象等、犯罪に関するさまざまな基礎知識を習得する。さらには、警察、児童福祉等の関係機関(いずれか1施設)の見学及び研修を通して、犯罪を予防する(惹起させない)社会システムの役割と福祉的案件との関連性についても理解を深める。</p> <p>本授業は、2年次で学ぶ「犯罪行動と心理演習」と連動している授業であり、1年次では「犯罪」に係る基礎的な知識を習得することを目標としている。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福祉心理学科の学生として、福祉等に関連する犯罪事象及び関連する法手続等についての知識が身に付く。	目標	A C K
関係機関を見学することにより、将来進路選択する際の動機付けとなる。	目標	A L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1 オリエンテーション ～「犯罪行動と心理」において何を学ぶか? (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(受講時の留意点等) 2 犯罪とは何か? (1) 犯罪の定義と成立要件 (2) 犯罪がもたらすもの	○授業方法 ・各回ともレジュメ、参考資料を配布して行う。 ・発表も求める。 ・適宜DVDを使用する。	○日々の犯罪報道に関心を持ち、授業内容との関連性を考える習慣を身に付けること。 ○次回のテーマについては事前に指示するので、予習をし、意見等をまとめておくこと。 ○配布した資料は必ず読了すること。

2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	1 犯罪者(非行少年)はどのように処罰(処遇)されるのか ～成人犯罪者の刑事手続 ～非行少年の保護手続 2 福祉と関わりの深い犯罪者等処遇機関 ・警察の組織と役割 ・更生保護機関の組織と役割 *4回続けて実施	・講義 ・「刑事訴訟法」「少年法」 (小六法) ・各種公刊資料	○日本の刑罰の種類について調べておくこと。 ○別途指示する少年事件の審判経緯について調べ、非行少年の保護手続を事前学習のこと。
6 ・ 7	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際 ・関係機関(1所程度)の見学 ・担当職員との意見交換 *2コマをまとめて実施	・警察施設又は児童福祉施設の見学と担当職員による特別講義	事前に見学先の組織・業務内容等について調査し、質問事項を整理しておくこと。
8 ・ 9	○犯罪の現状 ～指数治安・体感治安を巡る諸問題 ・日本における犯罪の現状 ・福祉に関連する犯罪の現状 ・犯罪の現状分析に基づく社会安全政策的課題 *2回続けて実施	・講義 ・「警察白書」「犯罪白書」 ・各種統計資料	配布資料(「警察白書」の抜粋等)を事前学習のこと。
10 ・ 11	○福祉社会に潜む「事件」について考える(1) ～高齢者はなぜ詐欺の被害に遭うのだろうか? ・高齢者の犯罪被害の現状 ・振込め詐欺の実態とその対策 *2回続けて実施	・講義 ・配付資料 ・レポートの発表と討議	事前に授業で討議するテーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
12 ・ 13	○福祉社会に潜む「事件」について考える(2) ～君たちの現場には虐待されている多くの子どもたちがいる ・児童虐待の現状と対策 *2回続けて実施	・講義 ・配付資料 ・DVD(20分) ・「児童を虐待の被害から守るために」 ・レポートの発表と討議	事前に授業で取り上げる事件を指示するので、調べておくこと。
14 ・ 15	○福祉社会に潜む「事件」について考える(3) ～暴力に怯える女性たち ・ストーカー犯罪の現状と態様 ・ストーカー犯罪への対応 *2回続けて実施	・講義 ・配付資料 ・DVD(30分) 「ストーカー」	近年社会的問題となったストーカー犯罪の概要について調べておくこと。
到達度の評価(評価方法・基準)			
100点満点とし、その割合は、小論文・レポートの結果:70%、ミニテストの結果:30%とする。 (1)小論文・レポート:授業内容に沿って3回くらい課題を与えて行う。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (2)ミニテスト:授業内容の理解度を確認するため、4～5回行う。問題との整合性、構成、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (3)その他:遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない		1 書名:犯罪心理学(心理学の世界専門編4) 著者名:大淵憲一 発行所:培風館 価格:2,400円(税別) 2 書名:犯罪・非行の心理学 著者名:藤岡淳子(編) 発行所:有斐閣ブックス 価格:2,200円(税別)	
その他補足事項			
(1)「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること(質の高いノートの作成に努めること)。 (2)授業順序及び内容は、学生の理解の進捗、見学先の都合、大学行事等により、変更する場合もあり得る。 (3)学外研修(施設見学)の際かかる交通費(往復のバス代)は、学生の自己負担とする。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	犯罪行動と心理演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:准教授 氏名:黒津 ^{くろつ} 康司 ^{こうじ}	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「福祉と犯罪」をキーワードに、実際に起きた事件を取り上げ、犯罪を惹起させた原因、犯罪行動に至る心理状況、事件の背景に見えてくるさまざまな政策課題等、福祉社会に潜む（或いは顕在化している）犯罪に関連する諸問題について考える。学生は、課題について研究、発表、討議等を行いながら理解を深める。</p> <p>ゲストスピーカーによる特別授業も行う予定である。また、半期ごとに、警察、行刑等の関係機関を見学し、授業で学んだ知識等が実務上どのように反映されているのかを体験する。</p> <p>本授業は、1年次で学んだ「犯罪行動と心理」と連動している授業であるが、1年次で履修していない者であっても理解できるように全体を構成している。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
○	K 課題対処力	
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
演習課題についての研究、発表、討議等が中心となることから、考察力、論文(レポート)作成能力、プレゼンテーション能力等が著しく高められる。	目標	A K
福祉社会に潜む(或いは顕在化した)実際の事件を研究課題とすることから、事件の背景に見えてくるさまざまな福祉的政策課題について考えることができる。	目標	A K
演習を通じて、犯罪を予防する(惹起させない)社会システムの重要性、刑事政策と福祉政策との連携のあり方等について理解を深めることができる。	目標	A K
関係機関を見学することにより、将来進路選択する際の動機付けとなる。	目標	A J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1 オリエンテーション ～「犯罪行動と心理演習」において何を学ぶか? (1) 授業概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(受講時の留意点等) 2 事件から「社会」を考える(1) ～高齢者はなぜ万引をするのだろうか?① ・高齢社会の現状と展望 ・高齢者犯罪の現状	○授業方法 ・各回ともレジュメ、参考資料等を配布して行うが、演習であるので、学生の発表と討議を中心に授業を進める。	○日々の犯罪報道に関心を持ち、授業内容との関連性を考える習慣を身につけること。 ○研究課題は事前に指示するので、必ず予習をし、意見・発表内容等をまとめておくこと。 ○配布した資料は必ず読了すること。
2 ・ 3 ・ 4	○事件から「社会」を考える(1) ～高齢者はなぜ万引をするのだろうか?② ・高齢者万引の現状 ・高齢者万引の行動と心理 ・高齢者犯罪対策 *3回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	○事件から「社会」を考える(2) ～精神障害者による放火事件の背景に見えるもの ・放火犯の心理特性 ・責任能力・精神鑑定を巡る問題 ・医療観察制度 *4回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
9 ・ 10	○事件から「社会」を考える(3) ～「累犯障害者」を読む ・累犯者の現状と課題 ・累犯者支援の現状 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に「累犯障害者」(山本謙司)を読み、発表レポートを作成しておくこと。
11	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(1) ～犯罪者と向き合う人たち(ゲストスピーカー①) ・更生保護の現状と課題 ・犯罪者の社会復帰支援について考える	関係する専門職員(保護観察官を予定)による特別授業を受け、その後討議(意見交換)を行う。	○事前にゲストスピーカーの業務内容等について調べ、質問事項を整理して討議に臨むこと。 ○受講後レポートを提出すること。
12 ・ 13	○事件から「社会」を考える(4) ～会社員はどうして魔がさしてしまったのだろうか? ・日常生活に潜む“転落”の危険 ・犯罪機会論 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
14 ・ 15	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(2) ～彼らはどのようなところで過ごしていたのか? ・刑事施設等関係機関の見学 ・刑事施設等の現状と課題 ・担当職員との意見交換 *2コマをまとめて実施	刑事施設等(刑務所、少年鑑別所等を予定)を見学し、その後担当職員による特別授業を受け、討議(意見交換)を行う。	○事前に見学先の業務内容等について調べ、質問事項を整理して見学に臨むこと。 ○見学後レポートを提出すること。
16 ・ 17 ・ 18 ・ 19	○事件から「社会」を考える(5) ～無差別殺人事件の背景に見えるもの ・被疑者の人生のアウトライン ・犯行動機等 ・犯罪・非行理論との関係 *4回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。

20 ・ 21	○事件から「社会」を考える(6) ～死刑制度と終身刑導入の問題 ・死刑制度を巡る諸問題 ・無期徒刑及び仮釈放を巡る諸問題 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
22 ・ 23	○事件から「社会」を考える(7) ～組織ぐるみで犯罪を行うとき ・ホワイト・カラー犯罪とは? ・組織人として荷担する心理 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
24 ・ 25	○警察も福祉も人を相手とする仕事である ～捜査員の面接技術に学ぶ ・認知面接と司法面接 ・取調べの実際 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	事前に研究テーマを指示するので、発表レポートを作成しておくこと。
26 ・ 27	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(3) ～科学捜査とは何か? ・捜査機関の見学 ・捜査機関における犯罪心理学活用の実際 ・担当職員との意見交換 *2コマをまとめて実施	捜査機関(科学捜査研究所を予定)を見学し、その後専門研究員による特別授業を受け、討議(意見交換)を行う。	○事前に見学先の業務内容等について調べ、質問事項を整理して見学に臨むこと。 ○見学後レポートを提出すること。
28 ・ 29	犯罪被害者等に対する支援 ～加害者にばかり囚われると被害者及びその家族・遺族のことを忘れてしまう ・犯罪被害者等基本法ができるまで ・犯罪被害者等支援の現状と今後の課題 *2回続けて実施	・配付資料 ・レポートの発表と討議 ・解説	・犯罪被害者等支援に関係するいくつかの事件を指示するので、調べておくこと。
30	○犯罪者等の処遇に携わる機関の実際(4) ～犯罪被害者等と向き合う人たち(ゲストスピーカー②) ・犯罪が被害者等にもたらすものについて考える ・被害者等が抱える様々な問題 ・警察における犯罪被害者支援の実際	関係する専門職員(警察職員を予定)による特別授業を受け、その後討議(意見交換)を行う。	○事前にゲストスピーカーの業務内容等について調べ、質問事項を整理して討議に臨むこと。 ○受講後レポートを提出すること。
到達度の評価(評価方法・基準)			
100点満点とし、その割合は、前期小論文:30%、後期小論文:40%、その他のレポート提出、プレゼンテーション及び討議態度:30%とする。 (1)前・後期小論文:前期・後期の終了時に、期末試験に替えて、まとめとしての小論文を提出してもらう。小論文の課題は、授業内容に沿った自由課題とする予定である。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。 (2)レポート、プレゼンテーション及び討議態度:研究課題については、その都度指示するが、レポートは、発表者に限らず全員に提出してもらう。レポートは、課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。また、発表者については、プレゼンテーション力を評価し、発表後の討議への参加態度については、全員を評価する。 (3)その他:遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない		1 書名:犯罪心理学(心理学の世界専門編4) 著者名:大淵憲一 発行所:培風館 価格:2,400円(税別) 2 書名:犯罪・非行の心理学 著者名:藤岡淳子(編) 発行所:有斐閣ブックス 価格:2,200円(税別)	

その他補足事項

- (1) 学外研修(施設見学)やゲストスピーカーによる特別授業も組み込まれているため、授業内容は年間を通じて変化に富んでいるが、演習形式で行うため、履修者は、意欲を持って、授業に積極的かつ自主的に参加することが望まれる。
- (2) 「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること(質の高いノートの作成に努めること)。
- (3) 授業順序及び内容は、見学先・ゲストスピーカーの都合、討議の展開、学生の理解の進度等により、変更する場合もあり得る。
- (4) 学外研修(施設見学)の際かかる交通費(往復のバス代)は、学生の自己負担とする。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	映画・ドラマにみる 行動と心理分析	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次 (平成26年度入学生まで)
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{きし} 岸 ^{よしのり} 良範 本務先:高輪心理臨床研究所 職名:主宰・臨床心理士	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>様々な場面における人間の行動をとらえ、その心理状況を理解する。何本かの教材を視聴し、その解説とディスカッション、まとめの講義というスタイルで講義する。</p> <p>特に思春期・青年期のアイデンティティの形成の時期を中心とする。</p>		A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
人間の行動の背景にある様々な心理状況(こころのあり方)に向き合うようになる。	目標	C H J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1 2	映画「転校生」を取り上げ、思春期のこころのあり方を理解する。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジメの読み直しとフィードバックレポートの作成
3 4	映画「ニューシネマパラダイス」を取り上げ、家族のあり方、また、他者とのつながりを知る。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジメの読み直しとフィードバックレポートの作成
5 6	映画「下妻物語」を取り上げ、行動の背景にあるひたむきな自己探求を知る。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジメの読み直しとフィードバックレポートの作成
7 8	映画「少年H」を取り上げ、「Identity」と人間の「影」の問題を取り上げる。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジメの読み直しとフィードバックレポートの作成
9 10	映画「フライドグリーンマト」を取り上げ、他者とのつながりを考える。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジメの読み直しとフィードバックレポートの作成

11 12	映画「レインマン」を取り上げ、「自閉的世界」といかに向き合っていくかを考える。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジユメの読み直しとフィードバックレポートの作成
13 14	映画「ボクのバラ色の人生」を取り上げ、「性的同一性障害」について考える。	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジユメの読み直しとフィードバックレポートの作成
15	アニメ「サウスパーク」を取り上げ、「防衛機制」について考える(まとめ)	講義の視聴、ディスカッションが中心となる	レジユメの読み直しとフィードバックレポートの作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
授業内容のフィードバックによる			
教科書			
毎回プリントを配布する。			
その他補足事項			
講義の進み具合により、多少の変更あり。			

授 業 科 目 名	癒しと心	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{うめみや} 梅宮れいか	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	なし
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーを設けています。授業初回に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>ストレスと人体、社会生活との関係を理解し、ストレスマネジメントの方略について、被災地に癒しを届けるプロバイダー活動をグループワークで設計するPBLを通して学ぶ。</p> <p>授業は前半を知識習得の授業、後半をPBLのためのワークを行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ストレスに関する正確な知識を身に付ける	目標	A
ストレスマネジメントの初歩的な方略を身に付ける	目標	B
グループワークで課題に取り組み、問題解決の提案ができるようになる	目標	G I
まごころを持って、癒しを提供できるセンスを磨く	目標	H I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	癒しの定義 ～いやしの予防医学的位置づけの講義	課題、グループワークの説明	身の回りの癒しについて考えをまとめておく
2	ストレス理解の基礎 ～ホメオスタシスが人を守る	グループワーク VTR NHK「生命」20分	用語の理解
3	ストレスと自律神経 ～ストレスが生まれるシステム(ワーク)癒し概念のKJ法ワーク	グループワーク 発表 VTR「キラーストレス」15分	KJ法で出た項目を整理しておく

4	ストレスと生活習慣病 ～ストレスが生活習慣病を作り出す (ワーク)癒しプロバイダーの企画設計	グループワーク、ディスカッション VTR「ストレスの不思議」20分	空き時間にグループで企画内容を検討しておく
5	ストレスと老化 ～ストレスホルモンと老化、がんの関係 (ワーク)癒しプロバイダーの企画設計	グループワーク、ディスカッション VTR「ストレスと老化」15分	空き時間にグループで企画内容を検討しておく
6	ストレスと健康格差 ～経済力と健康について (ワーク)癒しプロバイダー企画書作成	グループワーク VTR「現代社会とストレス」30分	企画書提出
7	アロマテラピー ～アロマテラピーの歴史、香料の抽出方法 (ワーク)レポートの作成	VTR「香料抽出法」20分 図書館を使った調べ学習 レポートの作成	レポート作成
8	アロマテラピーの手技 1 ～芳香浴、室内環境での活用法	図書館を使った調べ学習 レポートの作成	レポート作成
9	(ワーク)レポートの作成	香料の使用 グループワーク	レポートの提出 復習:配布資料の確認
10	PTSDとEMDR ～最新のストレス対処法 1 (ワーク)癒しプロバイダー企画の発表用スライド作成	VTR「PTSD イラク帰還兵」	予習:配布資料の確認 復習:手技についてもう一度振り返る
11	マインドフルネス ～最新のストレス対処法 2 (ワーク)癒しプロバイダー企画の発表用スライド作成	VTR「キラーストレス」15分 グループワーク	空き時間にグループでスライドの作成を進める
12	ユマニチュード ～最新のストレス対処法 3 (ワーク)癒しプロバイダー企画の発表用スライド作成	VTR「ユマニチュード」20分 グループワーク	空き時間にグループでスライドの作成を進める
13	(ワーク)癒しプロバイダー企画の発表用スライド作成	グループワーク	空き時間にグループでスライドの作成を進める
14	企画発表会 各グループで作った企画内容に関して発表する	プレゼンテーション	グループで役割を決め、発表の予行練習をする
15	総合レポートの作成 ～授業を振り返っての自己発問レポート		空き時間に実際に機材を使って発表の練習をしてみる
到達度の評価（評価方法・基準）			
癒しプロバイダー企画書＝10点、レポート＝50点、発表＝10点、グループワークの積極さ＝30点（減点法）の計100点満点で評価する。なお、授業実施規定による減点をする場合がある。			
教科書			
使用しない			
その他補足事項			
この授業は、被災地に癒しを提供する企画を作ってもらって課題を解決することを通して、癒しとストレスについての知識を学びます。授業の前半部分で得た新しい知識を、後半部分のグループワークを使って企画を考えます。よくわからないことや新しく見つけた問題は、担当教員に質問したり、積極的に図書館で調べることで解決していきながら、よりよい企画に練り上げてください。			

授 業 科 目 名	育児ストレス	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{おだ} 織田 ^{まさあき} 正昭	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回講義時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
学生による指定教科書の分担発表をもとに、育児に対してまだ実感がなく、感覚的にストレスを理解できない段階にある学生に対して、育児及びストレスに関する基礎知識をスライドを用いて講義する。毎回、関連するビデオを視聴し、学生間で意見や考え方を述べ合う。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1) 育児ストレスの原因・成り立ち、背景要因に関する基礎知識を理解することができる。		目標 A
2) 育児期の母親に対するストレス対応と指導法が理解できる。		目標 H L
3) 近未来の親子備軍である多くの受講生にとって、将来の自分の育児に応用できる知識と態度を習得できる。		目標 C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業概要と目標について説明 (2) 評価の方法と授業の進め方の説明	授業テーマ・方法とテキストについてスライドで説明	
2	テキスト分担箇所の発表 ～3歳までの子どもの脳(1), (2), (3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
3	テキスト分担箇所の発表 ～理想的なコミュニケーション(1), (2), (3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
4	テキスト分担箇所の発表 ～理想的なコミュニケーション(4), (5), (6)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成

5	テキスト分担箇所の発表 ～子どもが心地よい環境と生活リズム(1) 第1回中間ミニテスト	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
6	テキスト分担箇所の発表 ～子どもが心地よい環境と生活リズム(2),(3),(4)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
7	テキスト分担箇所の発表 ～毎日の健やかな食(1),(2) ～3歳までの体と健康(1)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
8	テキスト分担箇所の発表 ～3歳までの体と健康(2) ～心豊かに家庭を運営するために(1),(2)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
9	テキスト分担箇所の発表 ～10歳までがなぜ大切なのか(1),(2),(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
10	テキスト分担箇所の発表 ～頭のいい子が育つ生活習慣(1),(2) 第2回中間ミニテスト	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
11	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(1),(2),(3)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
12	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(4),(5),(6)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
13	テキスト分担箇所の発表 ～できる子になるための家庭学習マニュアル(7) ～教えて!子育ての新常識Q&A～(1&2),(3&4)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
14	テキスト分担箇所の発表 ～教えて!子育ての新常識Q&A～(5&6),(7&8),(9&10)	分担発表に関する討論 スライドによる解説 関連VTRの視聴	分担発表箇所予習 VTR感想文作成
15	まとめ 総合討論	スライドによるまとめ 関連VTRの視聴 学生間の総合討論	VTR感想文作成
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う。		
(2) 課題発表	テキストをもとにあらかじめ割り振った分担箇所の発表を評価する。		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。		
(4) 授業態度	知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。		
最終的に	(1) 60%	(2) 10%	(3) 20% (4) 10%の割合で総合評価する。
教科書		参考書	
【教科書①】書名:3歳までの子育ての教科書 著者名:茂木健一郎、林成之 ほか 発行所:アスコム 価格:1,100円(税別)		書名:最新科学でハッピー子育て～夜泣き・イヤイヤ・人見知りにも理由があった! 著者名:NHK出版 編 発行所:NHK出版 価格:1,000円(税別)	
【教科書②】書名:10歳までの子育ての教科書 著者名:篠原菊紀、池田清彦 ほか 発行所:アスコム 価格:1,100円(税別)			
その他補足事項			
毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べあう。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	心理療法	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 ^{ほしの} 仁彦 ^{よしひこ}	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
各種の精神障害、特に児童・思春期・青年期の心理療法と発達障害の心理療法、「広義の心理療法」としての家族療法、行動療法、集団心理療法などについても教授。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
児童・思春期・青年期の心理療法を学べる。	目標	A J
家族療法と家族の療育指導を学べる。	目標	A C J L
行動療法・認知行動療法を学べる。	目標	A L
集団心理療法、集団家族療法を学べる。	目標	C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	行動療法(オペラント、系統的脱感作、モデリングなど)	資料とレジюме	豆テストを実施するので毎回授業内容を復習しておくこと。テストの範囲については授業内で指示する。
2	認知(ものの考え方)の歪みと認知療法	資料とレジюме	
3	家族療法の原則とシステムズアプローチ	資料とレジюме ケーススタディ	
4	不登校の家族療法	資料とレジюме	
5	摂食障害の家族療法	資料とレジюме ケーススタディ	
6	夫婦療法(マリタルセラピー)	資料とレジюме	
7	発達障害(ADHD、LD、自閉症など)児の家族指導	資料とレジюме	

8	集団心理療法(グループサイコセラピー)	資料とレジュメ	豆テストを実施するので毎回授業内容を復習しておくこと。テストの範囲については授業内で指示する。
9	集団家族療法(グループファミリーセラピー)	資料とレジュメ	
10	各種のセルフサポート(自助)グループ	資料とレジュメ	
11	発達障害(ADHD、LD、自閉症など)児のSSTソーシャルスキルズ・トレーニング	資料とレジュメ ケーススタディ	
12	発達障害児の指導における構造化とTEACCHプログラム	資料とレジュメ ケーススタディ	
13	学校の教師と心理・福祉・医療医のチームアプローチ	資料とレジュメ	
14	学校・職場の環境調整療法(ミリュー・セラピー)	資料とレジュメ	
15	障害児の家族の悩みとカウンセリング	資料とレジュメ	
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。 詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名:機能不全家族 著者名:星野仁彦 発行所:アートヴィレッジ 価格:1,600円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	医療福祉論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: <small>ほんだ るみこ</small> 本田 ルミ子 本務先: 芦ノ牧温泉病院 職名: ソーシャルワーカー	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問等については対応します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
本講義は医療制度の成り立ち、保健医療サービスの講義を理解したうえで、特に保健医療機関でのソーシャルワークを展開する留意点を学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1、保健医療と福祉の関係について理解する。	目標	A
2、保健医療機関でのソーシャルワーク実践の方法及び留意点を理解する。	目標	A
3、生命、健康、人生に対する倫理や価値について考える。	目標	A I J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	医療と社会福祉	レジュメ・レポート	復習
2	業務指針	資料配布	復習
3	保健医療福祉機関における援助方法の実際①	資料配布	復習
4	保健医療福祉機関における援助方法の実際②	資料配布	復習
5	ライフステージ(子ども)と医療福祉	資料配布	復習
6	ライフステージ(成人期)と医療福祉	資料配布	復習
7	ライフステージ(高齢期)と医療福祉	資料配布	復習
8	ライフステージ(障がい)と医療福祉	資料配布	復習
9	ライフステージ(障がい)と医療福祉	視覚教材	復習

10	疾患によるソーシャルワークの実践①	資料配布	復習
11	疾患によるソーシャルワークの実践②	資料配布	復習
12	疾患によるソーシャルワークの実践③	資料配布	復習
13	生命・医療・生活について考える	視覚教材・グループワーク	復習
14	倫理綱領	資料配布	復習
15	まとめ 医療と社会福祉	資料配布	復習
期末試験	終了筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1、年度末試験で80%			
2、前期終了後のレポート(休み明け提出)、授業の出欠等で20%			
教科書			
使用しない			

授 業 科 目 名	社会調査法	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{たかはし} 高橋 ^{かよ} 嘉代	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問を受け付けます。Eメールでの質問も可。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業では社会調査の成り立ちと方法、分析手法について学ぶ。併せて各種社会調査の実際や近年の社会福祉分野の研究動向などについても適宜紹介する。また、授業時間中に授業内容に関連する簡単な課題も出す予定である。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
広く社会に通用するリサーチリテラシーを身につける。	目標	A B C K
国家試験合格に必要な基礎知識を身につける。	目標	A B C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の概要と目標および評価方法・授業の進め方の留意点) 「実践の学としての社会福祉」	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第2週実施の小テスト対策
2	社会福祉と社会調査 テキスト第1章(p1-p30) ※小テスト1:第1週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	2010年代のわが国の社会福祉に関する政策の動向について確認しておくこと。
3	社会調査を取り巻く状況 テキスト第2章第3節(p45-p54) ※小テスト2:第2週・第3週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第4週実施の小テスト対策

4	社会調査を取り巻く状況 テキスト第2章第3節 (p45-p54) ※小テスト2: 第2週・第3週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	わが国の「統計法」の歴史を調べておくこと。
5	量的調査の方法 テキスト第3章第1節 (p55-p62)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第6週実施の小テスト対策
6	調査票の作り方・量的調査のデータ解析 テキスト第3章第2節・第3節・第4節 (p63-p75) ※小テスト3: 第4週・第5週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	「無作為抽出法」の「無作為」の意味を調べておくこと。
7	記述統計量(1) 1変量の性質を表す統計量 テキスト第3章第4節 (p76-p91)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第8週実施の小テスト対策
8	記述統計量(2) 2変量の関係を表す統計量 テキスト第3章第4節 (p91-p108) ※小テスト4: 第6週・第7週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	各種検定法について復習しておくこと。
9	質的調査の特徴と種類 テキスト第4章第1節・第2節 (p110-p121)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第10週実施の小テスト対策
10	対象者の選定と調査手続 テキスト第4章第3節・第4節 (p122-p129) ※小テスト5: 第8週・第9週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	「文章(論文)の書き方」に関する文献を読んでおくこと。
11	質的調査における調査の実施 テキスト第4章第5節 (p130-p150)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第12週実施の小テスト対策
12	質的調査における発表・報告 テキスト第4章第7節 (p151-p156) ※小テスト6: 第10週・第11週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	依頼状・礼状を書く際の注意事項をまとめておくこと。
13	社会調査における倫理と個人情報保護 テキスト第5章 (p157-p164)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	第14週実施の小テスト対策
14	社会調査実施にあたってのITの活用方法 テキスト第6章 (p165-p177) ※小テスト7: 第12週・第13週の範囲	教員作成の資料配布およびスライド上映。	社会調査におけるIT活用の利点と限界について調べること。
15	社会科学としての社会福祉・個人情報保護制度の概要 テキスト第7章 (p179-p188)	教員作成の資料配布およびスライド上映。	期末試験に向けて配布物・小テストを再度確認しておくこと。
期末試験	50点満点(1問1点×50問)の期末試験を実施。 試験は○×式、第1回～第7回の小テストを中心に出题予定。		期末試験の復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
評価は加点式(第1回授業開始時点での持ち点は0点とする)。課題(15点満点: 奇数回目の授業時に授業に関する簡単な課題を課す。初回時のみ1点、以後1回2点。8回実施)・小テスト(35点満点: 偶数回目の授業時に実施。5点満点、7回実施)・期末試験(50点満点)の総ての合計点をもって最終的な評価とする。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。			
教科書		参考書	
書名: 新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 著者名: 社会福祉士養成講座編集委員会 発行所: 中央法規 価格: 2,200円(税別)		特に指定しない。	
その他補足事項			
期末試験の問題の大半を小テストから出題するので、小テストの復習を必ず行うこと。 成績処理終了後、模範解答添付の上で期末試験の答案を返却する。知識の定着のために是非活用されたい。			

授 業 科 目 名	相談援助の基盤と専門職	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名:島野 光正 本務先:郡山市医療介護病院 職名:事務部次長兼地域ケア推進部次長 社会福祉士	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	毎回講義の最後の時間にフィードバックレポートの提出を求めます。質問等もあわせて記入して下さい。次の講義の際に答えます。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
<p>本講義で相談援助の専門職である社会福祉士の意義と役割について理解し、多様な生活上の問題（生活課題・福祉課題）に向き合うソーシャルワークの担い手である社会福祉士の実践を支える基盤や総合的かつ包括的な援助における専門的機能について理解を深めることを目的とする。特に、講義では現場実践事例を用いながら「人と環境の相互作用」に目を向ける社会福祉士の視点と相談援助の実際を通して社会福祉士像を伝えることも行う。また、ソーシャルワーク実践について理解するために、その形成過程にも目を向けながら相談援助の理念について理解する。併せて専門職として成立するための倫理について、日本社会福祉士会の倫理綱領を中心に解説し、ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマについても解説を行う。</p>	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		<input type="radio"/>	J
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
社会福祉士の役割と意義について理解し、多様な生活上の問題に向き合うソーシャルワークの担い手である社会福祉士を支える基盤(価値、知識、技術)について学びその意義を説明できるようになる。	目標	A J	
実践事例を通して相談援助の実際を学び、「人と環境の相互作用」について理解を深め、ソーシャルワーク実践についての視点を持つことができる。	目標	K	
講義を通じてソーシャルワーカーとしての社会福祉士像を具体的に持つことができ、資格取得の意欲を高め、資格取得後の障害を通じた研鑽の姿勢の必要性を理解することができる。	目標	A L	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ(はじめに) 社会福祉士の役割と意義(1) ・社会福祉士法及び介護福祉士法	・授業計画 ・プリント ・テキスト ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講師作成資料による復習(復習)

2	社会福祉士の意義と役割(2) ・社会福祉士法及び介護福祉士法 ・精神保健福祉士の意義と役割 ・現代社会と地域福祉 ・事例から考える	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
3	社会福祉士の意義と役割(3) ・事例を考える「生活上の問題」とソーシャルワーカーの役割	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
4	相談援助の定義と構成要素(1) ・ソーシャルワークの概念 ・国際ソーシャルワーカー連盟の定義	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
5	相談援助の定義と構成要素(2) ・ソーシャルワークの構成要素	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
6	相談援助の形成過程(1) ・ソーシャルワークの源流	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
7	相談援助の形成過程(2) ・ソーシャルワークの基礎確立期	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
8	相談援助の形成過程(3) ・ソーシャルワークの発展期	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
9	相談援助の形成過程(4) ソーシャルワークの展開期	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
10	相談援助の形成過程(5) ・ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
11	相談援助の理念(1) ・ソーシャルワーカーと価値 ・ソーシャルワーク実践と価値 ・事例から考える	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
12	相談援助の理念(2) ソーシャルワーク実践と権利擁護	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
13	相談援助の理念(3) ・クライアントの尊厳と自己決定 ・ノーマライゼーションと社会的包摂	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
14	専門職と倫理的ジレンマ(1) ・専門職倫理の概念 ・倫理綱領の意義と内容 ・事例から考える	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)

15	専門職と倫理的ジレンマ(2) ・ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
16	前期末筆記試験		
17	前期テストの解説(解答用紙の返却/コメント付) 総合的かつ包括的な相談援助の全体像(1) ・「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景 ・実践事例から考える①	・テキスト ・フィードバックレポート の提出 ・映像教材(実践事例) ・ワークシート	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
18	総合的かつ包括的な相談援助の全体像(2) ・地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ・事例から考える②	・テキスト ・フィードバックレポート の提出 ・映像教材(実践事例) ・ワークシート	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
19	総合的かつ包括的な相談援助の全体像(3) ・地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
20	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
21	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ・ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
22	相談援助にかかる専門職の概念と範囲(1) ・相談援助専門職の概念	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
23	相談援助にかかる専門職の概念と範囲(2) ・相談援助専門職の範囲 ・諸外国の動向	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
24	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ・予防機能	・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
25	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ・新しいニーズへの対応機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
26	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(3) ・総合的支援機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
27	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(4) ・権利擁護機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)
28	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(5) ・社会資源開発機能	・プリント ・テキスト ・フィードバックレポート の提出	・テキストによる事前 学習(予習) ・講義内容の整理 (復習)

29	ソーシャルワーク事例研究	・プリント ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
30	まとめ ・ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ(まとめ)	・プリント ・フィードバックレポートの提出	・テキストによる事前学習(予習) ・講義内容の整理(復習)
期末試験	学年末筆記試験		
期末試験の講評			
前期末筆記試験については、後期の最初の講義の時間に講師のコメントを記入した解答用紙を返却し、さらに振り返りの説明を行います。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
講義は事前にテキストを読んでいることを前提にすすめます。評価は前期末、期末の2回の試験と毎回の講義後のフィードバックレポートの提出、事例を用いた演習の際には講師作成のワークシートの提出を求めますので、その両者を総合的に判断します。詳しくは講義の際に説明します。 <ul style="list-style-type: none"> ・中間試験 35% ・期末試験 35% ・フィードバックレポート 30% 上記を評価の対象とし、100点満点で成績を出します。			
教科書			
書名:新・社会福祉士養成講座「相談援助の基盤と専門職」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価格:2,600円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	社会福祉援助技術論Ⅰ	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{さいとう} 齊藤 ^{たかゆき} 隆之 本務先:東北文化学園大学 職名:講師	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室等で質問等に対応する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目		
本講義では、ソーシャルワークにおける諸理論や基本的アプローチについての学びを深めるとともに、支援者として基本的視点の醸成を図る。加えて、単なる相談援助にとどまらない社会福祉援助の本来的意義についても理解を図るものである。	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)		
ソーシャルワーク専門職としての視点を醸成する。	目標	A B	
ソーシャルワーク専門職としての知識、技術の理解と活用。	目標	A B	
ソーシャルワーク専門職としての実践力を身につける。	目標	B J K	

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークとは何か	PPT ディスカッション	復習:ディスカッションの振り返り
2	ソーシャルワークの構成要素	PPT,教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
3	ソーシャルワークの構造と機能	PPT,教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載

4	ソーシャルワークの機能	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
5	ソーシャルワークにおけるニーズ	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
6	ソーシャルワークにおける対象	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
7	人と環境の相互作用	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
8	ソーシャルワークにおける実践モデル	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
9	ソーシャルワークにおける価値の創造①	グループディスカッション プレゼン準備	次回プレゼンの準備
10	ソーシャルワークにおける価値の創造②	プレゼンテーション	予習:教科書の該当箇所確認
11	ソーシャルワークのアプローチ①	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
12	ソーシャルワークのアプローチ②	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
13	ソーシャルワークのアプローチ③	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
14	ソーシャルワークのアプローチ④	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
15	まとめ・事例の確認	グループワーク	課題の次回までの完成
16	前期末試験	前期末試験	
17	SWとしての自分を見つめる	PPT. ディスカッション	予習:前期の振り返り
18	ソーシャルワークのプロセス①	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
19	ソーシャルワークのプロセス②	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
20	ソーシャルワークのプロセス③	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
21	ソーシャルワークのプロセス④	PPT.教科書 レジュメの配布	予習:プロセス部分の確認 復習:不要
22	事例を作ろう①(作成)	事例作成用プリント配布	予習:プロセス部分の確認 復習:不要
23	事例を作ろう②(作成・提出)	事例作成用プリント配布	事例検討の準備
24	事例を作ろう③(事例検討)	検討用事例プリント配布	復習:講義時未使用の事例を確認しておく

25	ソーシャルワークにおける面接	PPT.教科書 レジュメの配布 VTR	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
26	面接環境を考える	VTR	VTRの振り返り
27	まとめの課題	グループワーク	グループワークの準備
28	まとめの課題	グループワーク	グループワークの準備
29	課題の発表	グループ発表	グループ発表の準備
30	まとめ ソーシャルワーク実践における考え方	ディスカッション	教科書既修内容及びレジュメの再確認
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>〈基礎点〉定期試験100点(a) 〈加算点〉討論参加点(上限5点)(b)、GoodQP(上限5点)(c)、課題点(5点×3回)(d) 〈評価〉(a)+(b)+(c)+(d)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教科書			
<p>書名:ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 著者名:相澤譲治ら 発行所:(株)みらい 価格:2,000円(税別)</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	社会福祉援助技術論 II	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: <small>ほんだ るみこ</small> 本田 ルミ子 本務先:芦ノ牧温泉病院 職名:ソーシャルワーカー	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問等については対応します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本講義は「相談援助の基盤と専門職」「社会福祉援助技術論 I」で学んだ相談援助の諸原則、諸理論、アプローチをもとにコミュニケーション、面接、記録、個人情報保護などのクライアントへの関わり、そして、社会資源の活用を含むネットワーキング、ケアマネジメント、スーパービジョンの方法を学び、ソーシャルワークについて理解を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
ソーシャルワークにおける面接技術、記録について理解できる	目標	A B I
ソーシャルグループワークが理解できる	目標	A B I
社会資源について理解し、調整、ネットワーキングの方法が理解できる	目標	A B I
スーパービジョンを理解し、事例検討ができる	目標	A B C I J
ソーシャルワークの全体像が理解できる	目標	A C I J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ソーシャルワークとは何か	「相談援助の基盤と専門」「社会福祉援助技術論 I」の振り返り	「相談援助の基盤及び I」の復習をしてくる事
2	ソーシャルワークにおける知識と技術の意味①	教科書	教科書の確認
3	ソーシャルワークにおける知識と技術の意味②	教科書	教科書の確認
4	ソーシャルワークとコミュニケーション技術①	教科書	教科書の確認
5	ソーシャルワークとコミュニケーション技術②	教科書	教科書の確認

6	ソーシャルワークとコミュニケーション技術③	教科書	教科書の確認
7	ソーシャルワークと面接技術①	教科書	教科書の確認
8	ソーシャルワークと面接技術②	教科書	教科書の確認
9	ソーシャルワークと面接技術③	視聴覚教材・グループワーク	復習
10	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法①	教科書	教科書の確認
11	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法②	教科書	教科書の確認
12	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法③	教科書	教科書の確認
13	ソーシャルワークとICT技術の活用	教科書	教科書の確認
14	ソーシャルワークと個人情報の保護	教科書	教科書の確認
15	前期のまとめ	教科書	教科書の確認
16	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用①	教科書	教科書の確認
17	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用②	教科書	教科書の確認
18	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発の方法①	教科書	教科書の確認
19	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発の方法②	教科書	教科書の確認
20	ソーシャルワークにおけるネットワーキングの方法①	教科書	教科書の確認
21	ソーシャルワークにおけるネットワーキングの方法②	教科書	教科書の確認
22	ケアマネジメントの方法①	教科書	教科書の確認
23	ケアマネジメントの方法②	教科書	教科書の確認
24	スーパービジョンの方法①	教科書	教科書の確認
25	スーパービジョンの方法②	視聴覚教材・グループワーク	復習
26	スーパービジョンの方法③	教科書	教科書の確認
27	事例研究の方法	教科書	教科書の確認
28	自己決定・権利擁護	事例検討	復習
29	自立支援・尊厳の回復・エンパワメント	事例検討	復習
30	社会正義・まとめ	事例検討・教科書	教科書の確認
期末試験	年度末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1、年度末試験で80% 2、前期終了後のレポート(休み明け提出)、授業の出欠等で20%			
教科書			
書名:ソーシャルワークの理論と方法II 著者名:監修 相澤譲治 編集 大和三重 発行所:(株)みらい 価格:2,300円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	地域福祉論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>地方分権化、社会サービスシステム、コミュニティワーク、住民参加の視点から地域福祉をとらえ、その理念、対象、政策展開、構成要件、財源、主体、推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動（経済・地域社会・家族関係）を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について学習する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
地域福祉の歴史的展開(法律、制度等)過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。		目標 A C K
地域福祉の基本的な考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む)について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。		目標 A C I
ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。		目標 A C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<p>オリエンテーション</p> <p>(1)授業の概要と目標(授業内容) (2)評価方法・授業の進め方の留意点</p> <p>現代の地域生活と地域福祉</p> <p>1)現代社会における生活上の問題 2)地域社会とコミュニティの問題</p> <p>3)地域福祉の基本的な考え方</p>	講義・教科書	復習:現代の地域生活と地域福祉の整理

2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の形成と発展の整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	講義・教科書 小テスト・グループワーク	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の法律と組織の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	ゲストスピーカー招聘	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:社会福祉協議会の整理とレポート作成
6	地域福祉の主体と対象 1) 地域福祉における主体の考え方 2) 地域福祉における対象の考え方 3) 社会福祉法における地域福祉の主体と対象	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の主体と対象の整理
7	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉の専門職の整理
8	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉に関連する社会資源の整理
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉ニーズの把握方法について整理
10	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	講義・教科書 小テスト・グループワーク	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域トータルケアシステムの整理
11	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉サービスの評価方法について整理
12	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:社会福祉計画について整理
13	地域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	講義・教科書	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:福祉教育の整理

14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングcommons)	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉とNPO・ボランティア活動課題の整理
15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて	講義・教科書 小テスト・グループワーク	予習:教科書の該当箇所を読む 復習:地域福祉推進のための財源基盤の整理
期末試験	前期期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配布された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書		参考書	
書名:地域福祉の原理と方法(第2版) 著者名:井村圭壯 編著 発行所:学文社 価格:2,200円(税別)		書名:地域福祉の理論と実際 著者名:都築光一監修 発行所:建帛社 価格:2,520円(税別)	
その他補足事項			
・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用いる。 ・小テスト・グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配布する。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	コミュニティーソーシャルワーク	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>コミュニティーソーシャルワークの役割と機能について理解し、事例を通してその実践方法・展開過程についての知見を得る。</p> <p>それらによって、社会福祉におけるコミュニティーソーシャルワークの重要性および実用性について理解することを目的とする。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
コミュニティーソーシャルワークの特徴を理解するため、身近な地域に焦点を当てながら、「地域包括ケアシステム」の視点で説明できるようになる。		目標 A H K
地域における社会資源を把握し、事例を基にその活用・調整・開発の重要性について自分の視点で論じることができる。		目標 A I
地域における福祉ニーズの把握の方法について、身近な地域に焦点を当てながら、自分の視点で説明できるようになる。		目標 A

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 地域福祉とは何か	授業計画 教科書補助資料1	
2	第2章 地域福祉のあゆみ 1.デンマーク 2.イギリス 3.アメリカ 4.日本における地域福祉の歴史①	教科書補助資料2-1	教科書P28～40を事前に読む

3	第2章 地域福祉のあゆみ 1.日本における地域福祉の歴史② 2.今日における地域福祉の課題	教科書補助資料2-2	教科書P40～46を事前に読む 課題(宿題)レポートの作成
4	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1.社会福祉協議会 2.民生委員・児童委員	教科書補助資料3 小テスト・グループワーク	教科書P48～66を事前に読む
5	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1.各種福祉関係団体 2.ボランティア・NPO組織	課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P67～89を事前に読む 課題(宿題)レポート作成
6	第4章 住民による地域福祉活動 1.地域福祉活動計画 2.地域福祉活動プログラム	教科書補助資料4	教科書P102～127を事前に読む
7	第4章 住民による地域福祉活動 住民による地域福祉活動の課題	教科書補助資料5	教科書P127～130を事前に読む
8	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1.専門機関および専門職による相談支援の実際と地域福祉 2.ニーズ把握と社会資源	教科書補助資料6	教科書P136～146を事前に読む
9	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法①	教科書補助資料7	教科書P146～162を事前に読む
10	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法②	教科書補助資料8 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	配布資料を読む 課題(宿題)レポート作成
11	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1.地域トータルケアシステムの実際 2.福祉教育 3.福祉サービスの提供と評価	教科書補助資料9 小テスト・グループワーク	教科書P162～191を事前に読む
12	第6章 地域福祉の財源 1.地域福祉推進の基盤に関する財源措置	教科書補助資料10	教科書P200～217を事前に読む
13	第7章 これからの地域福祉に向けて 地域福祉と社会福祉に関する統計指標	教科書補助資料11 課題について図書館で調べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P218～225を事前に読む
14	第7章 これからの地域福祉に向けて 東日本大震災と地域福祉	教科書補助資料12 小テスト・グループワーク	配布資料を読む
15	第7章 これからの地域福祉に向けて 現代社会と地域福祉の現状と課題	教科書補助資料13	配布資料を読む
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価 (評価方法・基準)			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配布された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書名:地域福祉の理論と実際 著者名: 都築光一編集 発行所:建帛社 価格:2,400円(税別)			
その他補足事項			
・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用いる。 ・小テスト・グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配布する。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	福祉行財政と福祉計画	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{くさか} 日下 ^{てるみ} 輝美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>福祉行政には、福祉事務所や児童相談所をはじめとして各種の相談機関があり、私たち国民の生活を支えている。また、国や自治体の財政の現状においては、社会保障・社会福祉関連の予算が大きな比重を占めている。</p> <p>さらに90年代頃から、高齢者・障がい者・児童をはじめとして福祉計画の策定がすすみ、計画的で中長期的な福祉政策が期待されている。</p> <p>そこで、この授業では福祉行財政および福祉計画を中心に、その現状と課題を学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。	目標	A C
福祉行財政の実際について理解し、自分の言葉で他者に説明することができる。	目標	A C I
福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。	目標	A C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標(授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 福祉行政と国の役割 ① 1. 社会福祉と日本国憲法	授業計画 教科書補助資料1-1	
2	第1章 福祉行政と国の役割 ② 2. 国と地方公共団体 3. 国の役割	教科書補助資料1-2	教科書P1~9を事前に読む

3	第2章 福祉行政と地方公共団体の役割 社会福祉行政における役割分担 社会福祉行政における地方公共団体 3.事業者に対する指導監督 4.介護保険制度における保険者 5.今後の課題	教科書補助資料2	教科書P12～37を 事前に読む 課題(宿題)レポート の作成
4	第3章 国と地方公共団体の関係 1.地方分権の推進 2.地方分権一括法の制定と行政改革 3.地方分権一括法の主要な改革 4.今後の課題	教科書補助資料3 小テスト・グループワーク	教科書P40～48を 事前に読む
5	第4章 福祉の財源 1.社会福祉の費用と財源の動向 2.社会福祉の動向 3.社会福祉の各財源の特徴 4.民間の財源その他	教科書補助資料4	教科書P50～70を 事前に読む 課題(宿題)レポート 作成
6	第5章 福祉行政の組織および団体の役割 1.福祉行政の組織の概要 2.国の組織 3.地方公共団体の組織 4.民間の組織	課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P72～81を 事前に読む
7	第6章 福祉行政における専門職の役割 1.福祉事務所の査察指導員および現業員の役割 2.児童福祉司の役割 3.身体障害者福祉司 4.知的障害者福祉司 5.その他の役割	教科書補助資料5	教科書P84～94を 事前に読む
8	第7章 福祉行財政の動向 1.福祉国家の歴史的展開 2.日本の福祉行財政の歴史的展開 3.日本の福祉行政の今後	教科書補助資料6	教科書P96～112 を事前に読む
9	第8章 福祉計画の意義と目的 1.福祉計画の背景と意義 2.福祉計画の目的 3.福祉計画の展望	教科書補助資料7 課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P114～131 を事前に読む
10	第9章 福祉行財政と福祉計画の関係 1.行政計画としての福祉計画 2.財政的視点の福祉計画	教科書補助資料8	教科書P134～150 を事前に読む
11	第10章 福祉計画の主体 1.福祉計画の主体 2.その他福祉計画の主体	教科書補助資料9 小テスト・グループワーク	教科書P152～160 を事前に読む
12	第11章 福祉計画の種類 1.地域福祉計画 2.老人福祉法ならびに老人保健法に基づく法律 3.介護保険事業計画 4.障害福祉計画 5.その他の福祉計画——次世代育成支援行動計画	教科書補助資料10	教科書P162～172 を事前に読む 課題(宿題)レポート 作成
13	第12章 福祉計画の策定方法 1.地域福祉計画にみる問題分析と合意形成過程の特徴 2.分野別福祉計画にみる問題分析と合意形成過程の特徴 3.策定の留意点	教科書補助資料11 課題について図書館で調 べディスカッションを行う (ラーニングコモンズ)	教科書P174～186 を事前に読む
14	第13章 福祉計画の評価方法 1.評価の必要性 2.評価の種類と方法 3.評価の尺度	教科書補助資料12 小テスト・グループワーク	教科書P188～196 を事前に読む

15	第14章 地方自治体における福祉計画の実際 1.市町村地域福祉計画の策定状況 2.地域福祉計画策定の実態	教科書補助資料13	教科書P198～210 を事前に読む
期末 試験	前期期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の記述方式のテストを学期末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配布された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書		参考書	
書 名:社会福祉士シリーズ 福祉行財政と福祉計画 第3版 著者名:福祉臨床シリーズ編集委員会編 発行所:弘文堂 価 格:2,500円(税別)		書 名:社会福祉士養成講座(10)福祉行財政と福祉計画 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,200円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用いる。 ・小テスト・グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配布する。 			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	社会福祉運営管理	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名:山村 ^{やまむら} 達夫 ^{たつお} 本務先:(社福) 講義会 職名:理事長	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業内容、その他就職活動等の質問は、メールで受け付けます。メールアドレス等については初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>1：社会福祉施設は、制度改革により多くの試みがなされるようになってきている。テキストに基づきながら、「社会福祉施設の今」をネットワークカメラやビデオを用い、学生がイメージを持ちながら講義に取り組むことができるようにする。</p> <p>2：福祉施設、とりわけ身体障害者を対象とした施設や保育所、認定こども園を取り上げ、その組織運営について講義を行う。</p> <p>3：授業は対話を中心に行うが、学生の状況を見て、研修ゲームなどを取り入れる。</p> <p>4：授業の中では、その都度就職活動に直結する話題を提供する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1 福祉施設の組織運営マネジメントの基礎を理解すること	目標	A G J K
2 問いを立て、論理的思考とはどういうものかを体験し、表現する力を身につける	目標	A G J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	福祉サービスに係る組織や団体 1) 社会福祉法人制度・定義、役割、税制、実際・その他	テキスト VTR視聴	授業前にテキストを読んでおくこと
2	福祉サービスに係る組織や団体 2) 特定非営利活動法人制度・定義、役割、税制、実際・その他	テキスト	授業前にテキストを読んでおくこと
3	福祉サービスに係る組織や団体 3) その他の組織や団体: 医療法人、公益法人、営利法人、市民団体、自治会、その他	テキスト	授業前にテキストを読んでおくこと
4	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 1) 組織に関する基礎理論 2) 経営に関する基礎理論	テキスト	授業前にテキストを読んでおくこと

5	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 3) 管理運営に関する基礎理論 4) 集団の力学に関する基礎理論	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
6	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 5) リーダーシップに関する基礎理論	テキスト グループ討議	授業前にテキストを 読んでおくこと
7	福祉サービス提供組織の経営と実際 1) 経営体制・理事会の役割・その他 2) 財源・自主財源、寄付金、補助金、介護報酬	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
8	福祉サービス提供組織の経営と実際 3) 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
9	福祉サービス提供組織の経営と実際 4) 福祉サービス提供組織における人材の養成と確保・社会福祉事業に従事するものの確保を図るための措置に関する基本的な指針 5) 福祉サービス提供組織の経営の実際・財務諸表の理解	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
10	福祉サービスの管理運営の方法と実際 1) 適切なサービス提供体制の確保・スーパービジョン体制・サービスマネジメント	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
11	福祉サービスの管理運営の方法と実際 チームアプローチ・苦情対応、リスクマネジメントの方法	テキスト グループ討議 VTR視聴	授業前にテキストを 読んでおくこと
12	福祉サービスの管理運営の方法と実際 働きやすい労働環境の整備 ・キャリアパス ・OJTやOFF-JT ・育児・介護休暇 ・メンタルヘルス対策	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
13	福祉サービスの管理運営の方法と実際 働きやすい労働環境の整備 ・キャリアパス ・OJTやOFF-JT ・育児・介護休暇 ・メンタルヘルス対策	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
14	福祉サービスの管理運営の方法と実際 福祉サービスの管理運営の実際	テキスト	授業前にテキストを 読んでおくこと
15	福祉サービスの管理運営の方法と実際 補足並びに質疑応答		授業前にこれまでの 内容を振り返っておくこと
到達度の評価（評価方法・基準）			
1 授業内における発表や意見を述べること 40%			
2 レポート 60%			
詳しくは初回授業時に指示する			
教科書		参考書	
書 名:福祉サービスの組織と経営 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価 格:2,200円(税別)		書 名:24の瞳が輝く場 著者名:山村達夫監修 発行所:CRT栃木放送 価 格:1,200円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	社会保障	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名:森田 慎二郎 もりた しんじろう 本務先:東北文化学園大学 職名:教授	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目は、社会福祉士国家試験科目「社会保障」の出題基準と出題実績に基づきながら、社会保障5制度の具体的な内容、社会保障の概念と理念、財源と費用、諸外国の事例、現代社会における課題などを理解・修得していく。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
社会福祉士国家試験「社会保障」の出題を解けるようになる。	目標	A C
現代社会における社会保障制度の課題を理解できるようになる。	目標	C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会保障制度の概要	授業計画 教科書補足プリント資料1	プリントで復習する
2	第5章 医療保険 医療保険制度の概要 国民皆保険の意義	教科書補足プリント資料2 DVD視聴(20分)「ジョンQ」	教科書p71~75を 事前に読む プリントで復習
3	第5章 医療保険 国民健康保険のしくみ	教科書補足プリント資料3	教科書p76~79を 事前に読む プリントで復習
4	第5章 医療保険 健康保険のしくみ	教科書補足プリント資料4 小テスト1	教科書p79~82を 事前に読む プリントで復習

5	第5章 医療保険 高齢者医療制度のしくみ	教科書補足プリント資料5	教科書p82～88を 事前に読む プリントで復習
6	第5章 医療保険 診療報酬と医療供給	教科書補足プリント資料6	教科書p76を事前 の読む
7	第5章 医療保険 近年の医療制度改革	教科書補足プリント資料7 DVD視聴「沢村村乳児死亡 ゼロ」 小テスト2	プリントで復習
8	第8章 介護保険 介護保険制度の概要	教科書補足プリント資料8	教科書p127～132 を事前に読む プリントで復習
9	第8章 介護保険 要介護認定とケアマネジメント	教科書補足プリント資料9	教科書p143～146 を読む プリントで復習
10	第8章 介護保険 介護保険のサービス内容と今後の課題	教科書補足プリント資料10 小テスト3	教科書p143～146 を読む プリントで復習
11	第7章 雇用保険 雇用保険制度の概要	教科書補足プリント資料11	教科書p114～120 を読む プリントで復習
12	第7章 雇用保険 雇用保険二事業と今後の課題	教科書補足プリント資料12	教科書p120～125 を読む プリントで復習
13	第6章 労災保険 労働基準法の全体像 労災保険制度の概要	教科書補足プリント資料13	教科書p95～105 プリントで復習
14	第6章 労働保険 労災保険の給付 労災保険の費用負担	教科書補足プリント資料14	教科書p105～112 を読む プリントで復習
15	まとめ		教科書既習内容ポ イントを再確認
16	オリエンテーション 第4章 年金制度 年金制度の概要	授業計画 教科書補足プリント資料1	教科書p49～54を 事前に読む
17	第4章 年金制度 老齢給付	教科書補足プリント資料2	教科書p55～59を 事前に読む
18	第4章 年金制度 障害給付、遺族給付	教科書補足プリント資料3 小テスト1	教科書p59～63を 事前に読む プリントで復習
19	第4章 年金財政のしくみ	教科書補足プリント資料4	教科書p63～65を 事前に読む プリントで復習
20	第4章 年金制度 年金改革の歴史	教科書補足プリント資料5	プリントで復習
21	第4章 年金制度 2004年改正とその後	教科書補足プリント資料6	教科書p65～68を 事前に読む プリントで復習
22	第4章 年金制度 3階建て構造と企業年金の基礎	教科書補足プリント資料7 小テスト2	教科書p51を事前 に読む プリントで復習
23	第4章 年金制度 社会保険の理論	教科書補足プリント資料8	教科書p51を事前 に読む プリントで復習

24	第2章 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(世界)	教科書補足プリント資料9 DVD視聴(20分)「オリバー ツイスト」	教科書p25～30を 事前に読む プリントで復習
25	第1章 社会保障の理念 諸外国における社会保障制度の概要	教科書補足プリント資料10 DVD視聴(30分)「福祉国 家スウェーデン」 小テスト3	プリントで復習
26	第2章 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(日本)	教科書補足プリント資料11 DVD視聴(15分)「戦後の 社会保障の歴史」	教科書p19～25を 事前に読む プリントで復習
27	第3章 社会保障給付費の財政 日本の社会保障給付費の特徴	教科書補足プリント資料12	教科書p33～45を 事前に読む プリントで復習
28	第1章 社会保障の理念 社会保障の理念 社会保障の機能	教科書補足プリント資料13	教科書p4～16を事 前に読む プリントで復習
29	社会保険事務と年金記録問題	教科書補足プリント資料14	プリントで復習
30	まとめ		教科書既習内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	70点満点の○×問題、穴埋め問題の方式のテストを学年末に実施		
(2) レポート	レポートは30点満点の採点とする。内容は、授業内容に沿い、興味関心を持った領域について、各自で課題を設定する方式とする。		
(3) そ の 他	授業内容の理解度を確認するため、4回の小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名: 社会保障法解体新書(第4版) 著者名: 久塚純一・山田省三編 発行所: 法律文化社 価 格: 2,400円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	高齢者に対する支援と 介護保険制度	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 <small>えんどう としみ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>超高齢社会となった我が国においては、介護需要に 応えるだけでなく、介護予防の視点を重視した幅広 い高齢者福祉実践に関する理解が求められている。中 核となる介護保険制度は制度開始から改正が重ねら れ、近年は、地域包括ケアシステムの構築と認知症対 策を中心として、医療・保健・住まい等の分野との連 携が重視されている。本講義においては、高齢者及び 高齢者福祉を取り巻く社会状況、諸制度や関連機関、 高齢者分野におけるソーシャルワーク実践活動に必要 な知識・技術等に関する理解を深め、社会に出た際 に十分対応できる多様な専門知識の修得を図っていく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
①高齢者の生活実態、高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できるようになる。	目標	A D G I
②介護保険制度の全体像を把握し、具体的な支援機関とその役割について理解できるようになる。	目標	A
③高齢者の福祉・介護に係るさまざまな法制度について理解できるようになる。	目標	A
④高齢者虐待防止を含む、高齢者の権利擁護について理解できるようになる。	目標	A
⑤高齢者自身が望む生活スタイルに合わせた支援のあり方について考えられるようになる。	目標	A D
⑥介護の概念や対象及びその理念等について理解できるようになる。	目標	A
⑦介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解できるようになる。	目標	A

授業計画			
回 数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラー ニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要 な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と評価方法、授業の進め方等の説明 高齢者の特性①	オリエンテーション 講義(配布資料)	
2	高齢者の特性②	講義(配布資料)	

3	少子高齢化と高齢者① ・高齢者の生活実態と社会情勢	講義(配布資料)	
4	少子高齢化と高齢者② ・高齢者の福祉需要・介護需要	講義(配布資料)	復習プリント
5	高齢者の保健福祉の発展① ・高齢者保健福祉の起源と生成	講義(配布資料)	
6	高齢者保健福祉の発展② ・高齢者保健福祉制度の発展 ・法改正等の最近の動向	講義(配布資料)	
7	高齢者支援の関係法規① ・高齢者保健福祉の法体系 ・老人福祉法①	講義(配布資料)	
8	高齢者支援の関係法規② ・老人福祉法②	講義(配布資料)	復習プリント
9	高齢者支援の関係法規③ ・高齢者の医療の確保に関する法律	講義(配布資料)	グループ課題の提示 グループ課題のまとめ
10	高齢者支援の関係法規④ ・バリアフリー法 ・高齢者住まい法	講義(配布資料)	グループ課題のまとめ
11	高齢者支援の関係法規⑤ ・高齢者虐待防止法①	講義(配布資料)	グループ課題のまとめ
12	高齢者支援の関係法規⑥ ・高齢者虐待防止法②	講義(配布資料)	グループ課題のまとめ
13	高齢者支援の関係法規⑦ ・成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義(配布資料)	グループ課題のまとめ
14	グループ課題プレゼンテーション①	グループ発表 質疑応答	
15	グループ課題プレゼンテーション②	グループ発表 質疑応答	夏期休暇中課題の 提示
16	夏期休暇中課題のプレゼンテーション 介護保険法① ・介護保険制度の概要、基本的枠組み、制度の目的	グループ発表 講義(配布資料)	
17	介護保険法② ・介護保険制度の仕組みとサービス体系① (保険者と被保険者、保険料、財源)	講義(配布資料)	
18	介護保険法③ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系② (介護給付、予防給付、地域支援事業の概要)	講義(配布資料)	
19	介護保険法④ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系③ (財政安定化基金、介護報酬等)	講義(配布資料)	
20	介護保険法⑤ ・介護保険制度の運営と行政機関の役割	講義(配布資料)	復習プリント
21	介護保険法における組織及び団体の役割と実際 ・国民健康保険団体連合会 ・社会福祉協議会	講義(配布資料)	
22	地域包括支援センターの役割と実際① ・地域包括支援センターの組織体系	講義(配布資料)	
23	地域包括支援センターの役割と実際② ・地域包括支援センターの活動とネットワーク	講義(配布資料)	事例課題①配布 (24回授業時間に 演習実施)
24	地域包括支援センターの役割と実際③ ・社会福祉士に求められる支援の視点(事例検討)	グループディスカッション	事例に関する課題 に取り組む

25	介護保険法における専門職の役割と実際① ・介護支援専門員とケアマネジメント ・ケアプランの種類	講義(配布資料)	事例課題②配布
26	介護保険法における専門職の役割と実際② ・社会福祉士とその他の専門職 ・高齢者支援における連携とチームアプローチ	講義(配布資料)	
27	介護の概念および介護の対象	講義(配布資料)	
28	介護の方法と福祉用具の活用、住環境整備	講義(配布資料)	
29	介護過程とケアマネジメントとの関係	講義(配布資料)	
30	認知症とそのケア 終末期ケア まとめ	講義(配布資料)	
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>下記の方法で総合的に評価する。 評価割合は、筆記試験30%、グループ課題40%、その他授業中に課したレポート等の提出30%。 (1) 筆記試験: 100点満点の記述方式の筆記試験を後期末に実施。 (2) グループ課題への取り組みとプレゼンテーション: 前期1回、夏期休暇明け後期1回実施。 (3) レポート課題: 授業中に随時課題を提示する。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。毎回、資料を配布する。		<p>書名: 高齢者に対する支援と介護保険制度第5版 (2016年1月発行) 著者名: 社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所: 中央法規出版 価格: 2,600円(税別)</p> <p>書名: 介護保険制度とは? 著者名: 東京都社会福祉協議会・編集 発行所: 東京都社会福祉協議会 価格: 400円(税別)</p>	
その他補足事項			
参考書として挙げた「高齢者に対する支援と介護保険制度第5版」をベースにして、配布資料により授業を実施する。介護保険制度は改正が多く、教科書の内容も随時変わっていくため、国家試験受験の際に必要な者は、新しい版がでているかどうか確認の上で購入することを勧める。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:非常勤講師 氏名: ^{さいとう} 齊藤 ^{たかゆき} 隆之 本務先:東北文化学園大学 職名:講師	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室等で質問等に対応します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>障害者福祉は近年大きな制度的変革の波にさらされている。一方で、その歴史の変遷に源流を置く基本理念や概念は、揺らぐことない共通基盤として、障害者福祉を理解しようとする者に、代えがたい示唆を与えてくれる。本講義では、障害者福祉の歴史的展開、基本理念、諸概念への理解を深めた上で、法制度の実態とその課題を学ぶことで、障害者ソーシャルワークの射程である「障害者の生活」について実践的視座を身につけるものである。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)
(全体)「障害者の生活を支援すること」について、その本来の意味をソーシャルワークの視点で理解し、実践的視座を養うことができる。		目標 A J L
(1) 障害者福祉の歴史的展開からその理念、諸概念の本質を理解することができる。		目標 A
(2) 障害者福祉を取り巻く法制度、サービス、各種組織、専門職等について理解することができる。		目標 A J
(3) 障害者ソーシャルワークの視点を醸成し、その生活を支援することについて考察することができる。		目標 B J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 障害者福祉の視点	教科書、PPT、レジュメ配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載
2	障害者福祉の歴史的展開と社会情勢	教科書、PPT、レジュメ配布	予習:教科書の該当箇所確認 復習:講義資料に記載

3	障害者福祉の基本理念	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
4	障害の概念と障害者の定義	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
5	障害者の基本的理解と法体系①	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
6	障害者の基本的理解と法体系②	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
7	障害者総合支援法によるサービス体系①	教科書、PPT、レジュメ配布	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
8	障害者総合支援法によるサービス体系②	教科書、PPT、レジュメ配布 映像資料	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
9	障害者の生活保障	教科書、PPT、レジュメ配布 映像資料	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
10	障害者をささえる人々と社会参加	教科書、PPT、レジュメ配布 映像資料	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
11	障害者のケアマネジメント	教科書、PPT、レジュメ配布 映像資料	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
12	権利擁護と差別解消法	教科書、PPT、レジュメ配布 映像資料	予習：教科書の該当箇所確認 復習：講義資料に記載
13	障害者ソーシャルワークの実際①	プリント グループワーク	復習：講義資料に記載
14	障害者ソーシャルワークの実際②	プリント グループワーク	復習：講義資料に記載
15	まとめ 「生活する」ということ	ディスカッション	
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
〈基礎点〉定期試験100点(a) 〈加算点〉討論参加点(上限5点)(b)、GoodQP(上限5点)(c)、課題点(5点×3回)(d) 〈評価〉(a)+(b)+(c)+(d)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。			
教科書			
書名：新・初めて学ぶ社会福祉3障害者福祉論 著者名：杉本敏夫ら 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,400円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	児童・家庭福祉	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:客員講師 氏名: ^{かとう} 加藤 とよ	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 E-mail:初回授業時に提示します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科では、子ども、子育て家庭をめぐる社会情勢について概説し、子ども家庭福祉の状況、具体的課題を理解したうえで、子ども家庭福祉の理念、法体系、実施体制、諸支援制度について理解し考察を深める。</p> <p>より効果的な援助活動を展開するため、必要な児童家庭福祉の基本的内容を習得していく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
子ども、子育て家庭をめぐる社会情勢について焦点を当て、子ども子育て家庭福祉の状況、具体的課題を自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A C
子ども観や子どもの権利の重症性の観点から、子ども家庭福祉の理念について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A C J
援助活動を展開するために必要な法体系、実施体制、支援制度がわかり、実践に備えることができるようになる。	目標	A J K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標(授業の内容) 評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画 教科書 補足資料 振り返りレポート	P1～P10を読みポイントを整理しておく
2	現代社会と子ども家庭の状況 ① 少子高齢社会と次世代育成支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P11～P22を読みポイントを整理しておく

3	② 現代社会と子ども家庭の問題	教科書 補足資料 振り返りレポート	P23～P29を読み ポイントを整理して おく
4	③ 子どもの育ち、子育てのニーズ	教科書 補足資料 振り返りレポート 理解促進テスト G・W	P31～P36を読み ポイントを整理して おく
5	子ども家庭福祉とは ① 子ども家庭の福祉の原理	教科書 補足資料 振り返りレポート	P37～P40を読み ポイントを整理して おく
6	② 子ども家庭の福祉の理念	教科書 補足資料 振り返りレポート	P41～P48を読み ポイントを整理して おく
7	③ 子どもと家庭の権利保障	教科書 補足資料 振り返りレポート	P49～P57を読み ポイントを整理して おく
8	④-1 子ども家庭福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	
9	④-2 子ども家庭福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート 理解促進テスト G・W	P60～P68を読み ポイントを整理して おく
10	子ども家庭福祉にかかわる法体系 ① 児童福祉法	教科書 補足資料 振り返りレポート	
11	② 関連法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P69～P82を読み ポイントを整理して おく
12	子ども家庭福祉の実施体制 ① 行政機関、関連機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	
13	② 関連機関・福祉機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P83～P86を読み ポイントを整理して おく
14	③ 子ども家庭福祉の財政	教科書 補足資料 振り返りレポート	前期のまとめ・整理 をする
15	振り返り・小テスト	教科書 まとめ小テストG・W	P87～P94を読み ポイントを整理して おく
16	④ 子ども家庭福祉の専門職	教科書 補足資料 振り返りレポート DVD「子どもの権利」20分	P95～P98を読み ポイントを整理して おく
17	⑤ 苦情解決と権利擁護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P99～P111を読み ポイントを整理して おく
18	子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健 ① 母子保健	教科書 補足資料 振り返りレポート	P112～P125を読 みポイントを整理し ておく
19	② 障害児と家族への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P126～P135を読 みポイントを整理し ておく
20	③ 児童健全育成	教科書 補足資料 振り返りレポート	P136～P148を読 みポイントを整理し ておく
21	④ 保育	教科書 補足資料 振り返りレポート	P149～P157を読 みポイントを整理し ておく

22	⑤ 子育て支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P158～P169を読み みポイントを整理し ておく
23	⑥ ひとり親家庭への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P170～P188を読み みポイントを整理し ておく
24	⑦-1 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート 理解促進テスト G・W	
25	⑦-2 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P189～P200を読み みポイントを整理し ておく
26	⑧ 非行・情緒障害児への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P201～P215を読み みポイントを整理し ておく
27	⑨ 児童虐待対策	教科書 補足資料 振り返りレポート	P216～P223を読み みポイントを整理し ておく
28	⑩ 女性の福祉	教科書 補足資料 振り返りレポート	P226～P245を読み みポイントを整理し ておく
29	子ども家庭の援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P247～P260を読み みポイントを整理し ておく
30	子ども・子育て支援制度	教科書 補足資料 振り返りレポート	振り返りまとめ、整理 をする
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施 (2) レポート 30点満点の採点とする。 (3) その他 理解度を確保のため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、各自理解不足の箇所を各自強化する資料とする。			
教科書		参考書	
書名:新・社会福祉士養成講座 15「児童や家庭 に対する支援と児童・家庭福祉制度」 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会編集 発行所:中央法規 価格:2,200円(税別)		書名:子ども家庭福祉論 著者名:柏女霊峰 発行所:誠信書房 価格:2,400円(税別)	
その他補足事項			
* 授業内容 G・W(グループワーク)			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	低所得者に対する 支援と生活保護制度	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{おぶち たかし} 小 淵 高 志 本務先:東北文化学園大学 職名:准教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>公的扶助は、現に生活に困窮している人たちに対して、国が「健康で文化的な」最低生活の保障を目的として行う無拠出の所得保障です。歴史的に見ると、戦前の恤救規則、救護法や、旧・新生活保護法などの変遷過程をたどります。</p> <p>授業では、公的扶助制度の歴史や現代社会における役割、貧困に対する基本的視点や生活保護制度の利用層の実態から現行制度の仕組みや主な内容を概観した上で、生活保護制度の原理や実施過程、低所得者対策などを解説します。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
ソーシャルワーク実践に必要な、公的扶助制度の知識を獲得します。	目標	A
低所得者に対する支援とともに社会保障制度への理解を深めます。	目標	B
低所得者の抱える問題の解決策を論理的に考える力を養います。	目標	C
専門職同士の連携を通して問題解決を図るチームアプローチを学びます。	目標	G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	低所得者に対する支援の制度と方法を学ぶ前に	授業計画を説明し学習方法を指示します。	低所得者と貧困問題を整理しておこう。
2	低所得階層の生活実態と貧困	低所得階層の生活実態と貧困を格差社会論の視点から考えます。	低所得階層が生まれる背景と問題とを考えてみよう。

3	社会保障制度と公的扶助	社会政策における社会保障制度と公的扶助との位置づけについて考えます。	社会保障制度の仕組みと公的扶助制度との関係を調べておこう。
4	生活保護の実施体制	行政サービスの視点から生活保護の実施体制についてとらえます。	国と自治体との役割を整理しておこう。
5	生活保護制度の原理・原則(1)	生活保護制度の原理・原則の解説を行い、制度の運用について考察します。	生活保護法の基本原則を押さえておこう。
6	生活保護制度の原理・原則(2)	生活保護制度の原理・原則の解説を行い、制度の運用について考察します。	生活保護法の原則を押さえておこう。
7	生活保護基準と要否判定	生活保護基準と要否判定について考察します。	最低生活保障水準と保護基準の設定方式を調べてみよう。
8	生活保護の動向と財源	生活保護の動向と財源について解説します。	生活保護費の財源と動向を調べておこう。
9	専門職の役割と相談援助活動	専門職の役割と相談援助活動の実際について、理解を深めます。	専門職の役割と支援過程を整理しておこう。
10	自立支援プログラムによる相談援助	自立支援プログラムによる相談援助の方法論について解説します。	プログラムの策定と支援過程を整理しておこう。
11	ホームレスの生活と相談援助	ホームレスの生活と相談援助の活動がどのように展開されているかを解説します。	ホームレスの現状と生活への理解を進めておこう。
12	低所得者への社会福祉サービス	低所得者への社会福祉サービスにどのような制度があるのか、制度の内容を紹介します。	生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度について調べてみよう。
13	所得者への就労支援サービス	所得者への就労支援サービスにどのような制度があるのか、制度の内容を紹介します。	雇用・就労の動向と労働政策について調べておこう。
14	公的扶助制度の歴史	海外と日本における公的扶助制度の歴史を学びます。	イギリスの救貧制度や日本の歴史を調べてみよう。
15	生活保護制度を活用した相談援助活動	生活保護制度を活用した相談援助活動の方法を解説します。	保健・医療との連携、就労支援プログラムによる労働施策との連携について理解を深めよう。
期末試験	前期期末筆記試験		日ごろからの復習を心掛け、万全の態勢で臨むこと。
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
定期試験を中心とする（評価の60%）が、出席と授業中の課題提出（30%）、意見交換や質問などの発言（10%）を含め、総合的に評価する。			

教科書	
書名:『低所得者への支援と生活保護制度』	著者名:渋谷哲
発行所:みらい	価格:2,300円(税別)
その他補足事項	
授業の最後に、次回の学習範囲を予告します。そのときに、必読文献や作業課題などを提示します。そして、復習のための作業課題なども同時に提示します。指示に従って、必ず予習と復習をしてください。	

授 業 科 目 名	保健医療サービス	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{ほんだ るみこ} 本田 ルミ子 本務先:芦ノ牧温泉病院 職名:ソーシャルワーカー	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に質問等については対応します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
①相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む)や保健医療サービスについて理解する。 ②保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。	○ A	知識
		B 技術・技能
	○ C	論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1、保健医療の動向について他者に説明することができる。	目標	A C J
2、医療と福祉の関係、連携について理解し、事例を使用し説明することができる。	目標	A C J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	保健医療サービスの変化と社会福祉①	教科書	予習・復習
2	保健医療サービスの変化と社会福祉①	教科書	予習・復習
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	教科書	予習・復習
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	教科書	予習・復習
5	保健医療サービスを提供する施設とシステム③	視聴覚教材	予習・復習
6	保健医療サービスを提供する施設とシステム④	教科書	予習・復習
7	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割①	教科書	予習・復習

8	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割②	教科書	予習・復習
9	保健医療サービスの専門職①	教科書	予習・復習
10	保健医療サービスの専門職②	教科書	予習・復習
11	保健医療サービスの提供と経済保障①	教科書	予習・復習
12	保健医療サービスの提供と経済保障②	教科書	予習・復習
13	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践①	事例検討	予習・復習
14	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践②	教科書	予習・復習
15	まとめ	教科書	予習・復習
期末試験	前期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
1、年度末試験で80%			
2、前期終了後のレポート(休み明け提出)、授業の出欠等で20%			
教科書			
書名:新・社会福祉士養成講座 保健医療サービス 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価格:2,200円(税別)			

授 業 科 目 名	就労支援	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{みうら つよし} 三浦 剛 本務先:東北福祉大学 職名:教授	開 講 期	後期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
(1) 就労の意味や社会福祉との関係、現代の労働を取り巻く状況を学ぶ (2) 働くものの権利を保障する法律と制度を学ぶ (3) 障害者や低所得者を対象とした就労支援の現状と課題について学ぶ	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
労働の意味と社会福祉と労働の関係が説明できる。		目標 A J K L
就労支援の社会福祉における位置づけが説明できる。		目標 A J K L
現代の労働を取り巻く状況が説明できる。		目標 A J K L
労働者の権利を保障するための法制度が説明できる。		目標 A J K L
障がい者や低所得者への就労支援の方法と実際が説明できる。		目標 A J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	労働の意味 働くことの意味から就労支援の目的を考える	講義およびディスカッション	予習:プリントの該当箇所 復習:ノート整理
2	社会福祉と就労支援 ソーシャルワークにおける就労支援の意味を考える	講義 教科書pp.1-6	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理

3	現代の労働を取り巻く状況 就業率や就業構造の変化などを視点に、労働環境の現状を分析する	講義 教科書pp.8-29	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理
4	労働に関する法制度 労働関連法規や労働保険などを学び、3との関連から労働者のおかれている実情を理解する	講義 教科書pp.8-29	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理
5	障がいがある人と就労支援の現状と課題 有給雇用を目指す支援、福祉的就労支援それぞれの方法および現状と課題を学ぶ	講義 教科書pp.32-79	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理
6	低所得者を対象とした就労支援の現状と課題 生活保護受給者だけではなく、生活困窮者をも視野に入れた就労支援の方法、および現状と課題を学ぶ	講義 教科書pp.82-100	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理
7	就労支援におけるケアマネジメント 就労支援の方法をケアマネジメント過程ととらえ、その過程と社会資源開発の必要性、および方法を学ぶ	講義 教科書pp.112-151	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理
8	就労支援における連携、ネットワーク 就労支援にかかわる専門職、専門機関の連携、ネットワーク形成の方法と現状と課題を学ぶ	講義 教科書pp.112-151	予習:教科書の該当箇所 復習:ノート整理
期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評についてメール等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末テスト80%、小テスト20%			
教科書			
書名:新・社会福祉士養成講座「就労支援サービス・第3版」 著者名:新・社会福祉士養成講座編纂委員会 発行所:中央法規 価格:1,600円(税別) (プリントも使用する)			

授 業 科 目 名	権利擁護と成年後見制度	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{とみた てつ} 富田 哲 本務先:福島大学 職名:教授	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
この授業においては、「社会福祉士」等の試験科目に対応した形での授業とします。①憲法をはじめとする公法および裁判法関係、②民法のうち基本的な制度である、契約、不法行為、家族、相続等、③成年後見制度については、行為無能力制度の沿革から始め、現行の成年後見制度および任意後見制度を解説し、時間に余裕があれば、諸外国の制度もとりあげます。	○ A	知識
		B 技術・技能
	○ C	論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
社会福祉士の試験に対応できる程度の法的知識を身につけること	目標	A
法的な思考方法を培うこと	目標	C K
社会人としての基本的な法的素養を養うこと	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス・日本国憲法①統治の機構－立法・内閣・裁判所	プリント配布 最初の授業の際に15回分のプリントおよび資料を配布する。プリントにはその回の課題を記載しておきますから、自主的に取り組んでください。 法学は対話から発達した学問ですから、授業時間中にこちらから質問を発して、答えてもらいます。 以下、同じ。	

2	日本国憲法②基本的人権－自由権と社会権	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
3	裁判員制度－最高裁判所が作成したDVDを見る	DVDを見る	感想文を提出してもらいます。 レポートの一部として評価します。
4	日本民法典の構成(パンデクテン体系)とその内容	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
5	契約法の基礎－契約の成立と効力	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
6	不法行為の基礎－損害賠償制度	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
7	家族法の基礎－契約の成立と効力	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
8	私的扶養制度の基礎	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
9	法定相続－相続人と相続分	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
10	家庭裁判所－人事訴訟と家事審判	プリント配布	プリントを事前に読んでくること
11	成年後見制度①－禁治産・準禁治産制度から成年後見制度へ	プリント・資料配布	プリントを事前に読んでくること
12	成年後見制度②－成年後見・補佐・補助	プリント・資料配布 成年後見に関するDVDを見る。(20分程度)。	プリントを事前に読んでくること
13	成年後見制度③－成年後見人等による財産管理と人身監護	プリント・資料配布	プリントを事前に読んでくること
14	成年後見制度④－任意後見制度	プリント・資料配布	プリントを事前に読んでくること
15	成年後見制度⑤－今後の課題	プリント・資料配布	プリントを事前に読んでくること
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
筆記試験	配点は80点。記述式。前期末試験として行う。		
レポート	配点は20点。テーマについては、授業の中で指示する。		
教科書		参考書	
使用しない		配布プリントに記載するか、または授業の中で指示する。 なお、小さいものでもよいから、六法を購入することが望ましい。試験勉強にも有益である。	

授 業 科 目 名	更生保護制度	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{にいむら} 新村 ^{しげふみ} 繁文 本務先:福島大学 職名:特任教授	開 講 期	後期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	メールアドレス等については初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
社会福祉士の受検用テキストに沿いつつ、更生保護制度の重要な論点について、順次講義・解説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
更生保護制度の基本的な考え方、主要な論点の概略について理解することを目標とする。	目標	A J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1.オリエンテーション(授業概要、目標、評価法等) 2.更生保護制度へのガイダンス	講義・レジュメとテキスト	必要時、内容等を指示する。
2	仮釈放制度	同上	同上
3	保護観察	同上	同上
4	生活環境の調整	同上	同上
5	更生緊急保護	同上	同上
6	犯罪被害者等施策・恩赦	同上	同上
7	更生保護制度の担い手	同上	同上
8	医療観察制度	同上	同上
期末試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、メールにより説明します。
到達度の評価（評価方法・基準）
期末試験の得点で評価。100点満点、択一式で実施。
教科書
書名:更生保護制度 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規 価格:1,600円(税別)

授 業 科 目 名	相談援助演習Ⅰ	授業形態・単位数	演習・1単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{ふなやま しんご} 舟山 信悟 本務先:けやきの村 職名:施設長	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回の授業で詳しく説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得するとともに、専門的援助技術としての概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を行う。③②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
相談援助の基盤となる自己覚知、他者理解への洞察を深め、基本的な面接技術(コミュニケーション技術、面接技法等)を身に付けることができる。	目標	A E F L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1)相談援助演習の位置づけ (2)相談援助演習を学ぶ意義 (3)相談援助演習を進める視点	講義・演習	予習:pp.3-8 復習:ノート整理
2	アイスブレイキング～演習に向けての準備体操 2-1 自己紹介-自分を知ってもらう方法 2-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:pp.9-12 復習:自分を他者に伝えるという体験レポート
3	自己理解 3-1 「わたし」がみる私像-自己概念を学ぶ 3-2 私のルーツ-自分の家族関係を知る 3-3 ふりかえりとまとめ	個別ワーク	予習 :pp.13-20 復習:ジェノグラム表記の基本を整理する

4	自己開示と他者理解 4-1 自己開示 4-2 共感の意味と共感の深さ 4-3 価値観の違い 4-4 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:pp.21-34 復習:「共感」と「同情」についてまとめ、その違いを整理する
5	コミュニケーション 5-1 コミュニケーションの基本 5-2 言語的コミュニケーション 5-3 非言語的コミュニケーション 5-4 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:pp.35-45 復習:多様な価値観の自己評価
6	ソーシャルワークの価値と倫理 6-1 ソーシャルワークの価値とは何か 6-2 ソーシャルワークの倫理とは何か 6-3 ふりかえりとまとめ	個別ワーク 配布資料:「ソーシャルワーカーの倫理綱領」	予習:pp.47-54 復習:「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の整理
7	他者理解・疑似体験 7-1 ブラインドウォークによる援助関係の理解 7-2 車椅子体験による障がい理解 7-3 ふりかえりとまとめ	グループ演習	宿題:疑似体験レポート作成
8	相談援助者と福祉サービス利用者との関係づくり ゲストスピーカー招聘	相談援助者の話を聞く 質問する	宿題:感想と学びのまとめレポート
9	基本的なコミュニケーション技術の習得① 9-1 コミュニケーション技術の本質と理解 9-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:pp.35-45 宿題:「他者理解とは何か」ミニレポート提出
10	基本的なコミュニケーション技術の習得② 10-1 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの理解 10-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	復習:「私のコミュニケーション・スタイル」の整理
11	基本的なコミュニケーション技術の習得③ 11-1 他者をどう見るか 11-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	復習:ストレングス視点の整理
12	基本的な面接技術の習得① 12-1 面接って何だろう? 12-2 面接場面の観察1 12-3 ふりかえりとまとめ	面接場面のDVD視聴 「信頼関係を結ぶ面接技術」	予習:pp.55-56 復習:ノート整理
13	基本的な面接技術の習得② 13-1 面接の基本的スキルを身に付ける 13-2 面接場面の観察2 13-3 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:pp.56-59 復習:ノート整理
14	基本的な面接技術の習得③ 14-1 ロールプレイを通して面接を体験する 14-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:pp.60-65 復習:ノート整理
15	ソーシャルワーク演習のまとめ 15-1 演習Ⅰのふりかえりとまとめ 15-2 最終課題レポート	グループ演習	予習:授業全体の要点等の整理 復習:ノート整理

到達度の評価（評価方法・基準）

演習中の参加態度(自発的発言・意欲的取り組み) 10%、宿題・レポート50%、提出課題の評価40%により評価する。欠席1回につき3点減点。遅刻1回につき1点減点。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合には1回につき2点加点。以上の評価により総合的に採点するため、期末試験は行わない。

詳細は1回目の授業において説明する。

教科書	参考書
書名:ソーシャルワーク演習ワークブック 著者名:ソーシャルワーク演習教材開発研究会(編集) 発行所:(株)みらい 価格:2,200円(税別)	書名:社会福祉士相談援助演習 著者名:社会福祉士養成講座編集委員会 発行所:中央法規出版 価格:2,500円(税別) 書名:支援者が成長するための50の原則 あなたの心と力を築く物語 著者名:川村隆彦 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別)
その他補足事項	
ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘を大切にしてこそ成立する授業である。遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	相談援助演習 II	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 職名:教授 氏名:日下 輝美	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
○ K	課題対処力	
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①相談援助の過程（インテーク、アセスメント、エンゲージメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア等）において、社会福祉士に求められる基本的な援助技術を身につける。	目標	G I J K L
②相談援助事例（グループに対する援助事例を含む）課題への取り組み及びロールプレイングを通して、総合的かつ包括的な援助方法を理解する。	目標	G I J K L
③社会福祉士に求められているアウトリーチやソーシャルアクション等の活動について学び、実践につなげられるようになる。	目標	G I J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<p>オリエンテーション</p> <p>1-1 相談援助演習 I のふりかえり</p> <p>・援助の原則(自己覚知等)</p> <p>・ソーシャルワーカーの価値と倫理</p> <p>・基本的な面接技法(バイステックの7原則を含む)</p> <p>1-2 ふりかえりとまとめ</p>	<p>講義</p> <p>個別ワーク</p> <p>グループ演習</p>	

2	記録技法① 2-1 記録の種類と方法 2-2 面接場面での記録 2-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	教科書の予習
3	記録技法② 3-1 ケース記録の作成 3-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	教科書の予習
4	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク) 課題の把握とニーズの確定 4-1 インテークとエンゲージメント 4-2 倫理的配慮とアカウンタビリティ 4-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク	教科書の予習
5	アセスメント① 5-1 アセスメント面接の意味 5-2 アセスメント面接ロールプレイの準備 5-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	教科書の予習
6	アセスメント② 6-1 アセスメント面接ロールプレイ① 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	教科書の予習
7	アセスメント③ 7-1 アセスメント面接ロールプレイ② 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
8	プランニング① 8-1 プランニング演習 8-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 (障害者事例)	教科書の予習
9	プランニング② 9-1 プランニング演習 9-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 (障害者事例/続き) (高齢者事例)	
10	プランニング③ 10-1 プランニング演習 10-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 (高齢者事例/続き)	
11	ケースカンファレンス 11-1 模擬ケースカンファレンス体験 11-2 ふりかえりとまとめ	講義 模擬ケースカンファレンス演習	教科書の予習
12	評価と効果測定(モニタリング)① 12-1 効果測定演習(利用者満足度) 12-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	教科書の予習
13	評価と効果測定(モニタリング)② 13-1 効果測定演習(支援内容評価)① 13-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	教科書の予習
14	評価と効果測定(モニタリング)③ 14-1 効果測定演習(支援内容評価)② 14-2 ふりかえりとまとめ	個別ワーク グループ演習 配布資料	教科書の予習
15	再アセスメントと支援の強化、終結とアフターケア 15-1 再アセスメントの視点と支援の変更 15-2 終結の判断、アフターケア 15-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習 配布資料	
16	集団援助(グループワーク) 16-1 グループ(集団)への援助方法 16-2 セルフヘルプグループへの支援例 16-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配布資料	
17	コミュニティワークのプロセス① 17-1 地域の福祉ニーズ(課題)の明確化の方法 17-2 福祉ニーズの分析方法 17-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	教科書の予習

18	コミュニティワークのプロセス② 18-1 地域社会の社会資源 18-2 サービスの開発と地域への働きかけ 18-3 地域活動プログラムの立案体験①	講義 個別ワーク	教科書の予習
19	コミュニティワークのプロセス③ 19-1 地域活動プログラムの立案体験② 19-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	教科書の予習
20	ソーシャルアクション 20-1 福祉計画の策定とソーシャルワーク 20-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配布資料	
21	事例研究① 21-1 事例研究の意味と方法 21-2 ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ 21-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	教科書の予習
22	事例研究② 22-1 認知症高齢者への生活支援 22-2 権利擁護と自己決定を支える 22-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	教科書の予習
23	事例研究③ 23-1 障害者の自立支援(ストレンクス視点) 23-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	教科書の予習
24	事例研究④ 24-1 児童と家庭への支援(児童虐待) 24-2 共感的理解 24-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習 配布資料	予習:児童虐待防止法
25	事例研究⑤ 25-1 家庭内暴力(D.V.)への支援 25-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習 配布資料	予習:DV防止法
26	事例研究⑥ 26-1 高齢者虐待への対応 26-2 チームアプローチと権利擁護 26-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習 配布資料	予習:高齢者虐待防止法
27	事例研究⑦ 27-1 低所得者(ホームレス、生活困窮者、生活保護受給者等)への支援 27-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習 配布資料	予習:生活困窮者自立支援法、生活保護法
28	事例研究⑧ 28-1 危機的状態にある人への支援 28-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習 配布資料	
29	事例研究⑨ 29-1 権利擁護活動 29-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配布資料	予習:成年後見制度
30	事例研究⑩ 30-1 地域組織化(ネットワーキング) 30-2 ふりかえりとまとめ 相談援助演習II全体のふりかえり	講義 グループ演習 配布資料	

到達度の評価（評価方法・基準）

下記により、総合的に評価する。

- (1) 演習中の参加態度(自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献):40%
- (2) 課題への取り組み:30%
- (3) レポート課題の提出(宿題、予習課題等):30%

教科書	参考書
<p>書名:ソーシャルワーク演習ワークブック【第2版】 著者名:ソーシャルワーク演習教材開発研究会・編集 発行所:(株)みらい 価格:2,200円(税別) 平成28年度「相談援助演習Ⅰ」の教科書を引き続き使用する。</p>	<p>書名:社会福祉士相談援助演習 著者名:福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所:中央法規出版 価格:2,500円(税別)</p> <p>書名:支援者が成長するための50の原則 あなたの心と力を築く物語 著者名:川村隆彦 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別)</p> <p>書名:相談援助演習 著者名:福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所:弘文堂 価格:2,500円(税別)</p>

その他補足事項

ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にしてこそ成立する授業である。
 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 Ⅲ	授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
		開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{えんどう} 遠藤 ^{としみ} 寿海	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間
オ フィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	初 回 授 業 で 説 明 す る 。		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	
社 会 福 祉 士	//	必 修	

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークングについての内容を含める。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
<input type="checkbox"/>	K 課題対処力	
<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
①具体的な事例や援助場面を想定し、社会福祉援助技術に関する講義と現場実習とを関連づけながら、観察力、理解力、分析・応用力、理論化する力を身につける。	目 標	B I K
②計画・企画力、判断力、行動力を駆使できる高い自律性を身につけるとともに、主体的に行動する態度を身につける。	目 標	B I K L
③人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。	目 標	B I J K L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 、 使 用 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション (1) 相談援助演習Ⅲの位置づけ (2) 相談援助実習との関係	講義	予習: 相談援助の技術の体系を整理しておく。 復習: ノート整理

2	相談援助における価値と倫理① 2-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 2-2 バイステックの7原則	グループ演習	予習:「ソーシャルワーカーの倫理綱領」を読んでおく。 復習:ノート整理
3	相談援助における価値と倫理② 3-1 実践場面での活用 3-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:「ソーシャルワーカーの倫理綱領」「社会福祉士の行動規範」を読んでおく。 復習:ソーシャルワークの価値とは何か、まとめる。
4	事例からソーシャルワークの意味を知る① 4-1 人権 4-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
5	事例からソーシャルワークの意味を知る② 5-1 差別・偏見 5-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
6	事例からソーシャルワークの意味を知る③ 6-1 自立支援 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
7	事例からソーシャルワークの意味を知る④ 7-1 クライアントの利益の最優先 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
8	事例からソーシャルワークの意味を知る⑤ 8-1 倫理的ジレンマ 8-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
9	相談援助場面での実践① 9-1 アウトリーチ 9-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:アウトリーチについて調べる。 復習:ノート整理
10	相談援助場面での実践② 10-1 チームアプローチ 10-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:チームアプローチについて調べる。 復習:ノート整理
11	相談援助場面での実践③ 11-1 ネットワーキング 11-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:ネットワーキングについて調べる。 復習:ノート整理
12	相談援助場面での実践④ 12-1 社会資源の活用・調整・開発 12-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:社会資源について調べる。 復習:ノート整理
13	相談援助場面での実践⑤ 13-1 記録について① 13-2 ふりかえりとまとめ	配布資料 グループ演習	予習:相談援助場面で求められる記録の種類をまとめる。 復習:「記録を書く上での留意点」を整理する。
14	相談援助場面での実践⑥ 14-1 記録について② 14-2 ふりかえりとまとめ	配布資料 グループ演習	予習:前回授業内容を振り返る。 復習:「すぐれた記録の条件」についてまとめる。
15	ソーシャルワークのプロセスを理解する① 15-1 認知症の夫を介護する妻への支援事例 15-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
16	ソーシャルワークのプロセスを理解する② 16-1 知的障害者の地域生活移行支援事例 16-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理

17	ソーシャルワークのプロセスを理解する③ 17-1 リハビリテーション病棟での退院支援事例 17-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
18	ソーシャルワークのプロセスを理解する④ 18-1 非行の相談を受けた児童相談所が行う家族支援の事例 18-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
19	ソーシャルワークのプロセスを理解する⑤ 19-1 生活保護を受給している一人親世帯の自立支援の事例 19-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
20	地域福祉活動を理解する① 20-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例① 20-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 市町村地域福祉計画について調べる。 復習:ノート整理
21	地域福祉活動を理解する② 21-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例② 21-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
22	地域福祉活動を理解する③ 22-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例① 22-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:社会資源の活用についてまとめる。
23	地域福祉活動を理解する④ 23-1 災害時の要援護者支援ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例② 23-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習:教科書の該当部分を読んでおく。 復習:ノート整理
24	ケアマネジメントの過程を理解する① 24-1 支援計画作成演習① 24-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習 (高齢者または障害者の事例をグループで選択)	予習:高齢者ケアマネジメントの過程と障害者の計画相談支援についてまとめておく。 宿題:グループ活動によるプランの作成。
25	ケアマネジメントの過程を理解する② 25-1 支援計画作成演習② 25-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習	宿題:グループ活動によるプランの完成。
26	支援計画プレゼンテーション 26-1 模擬カンファレンスを体験する 26-2 ふりかえりとまとめ	カンファレンス形式によるグループで作成したプランの検討	宿題:模擬カンファレンスの感想提出。
27	サービス評価について理解する① 27-1 サービスの質を評価するしくみ 27-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習	予習:第三者委員制度について調べておく。 復習:ノート整理
28	サービス評価について理解する② 28-1 福祉サービスの自己評価・第三者評価 28-2 ふりかえりとまとめ	配布資料によるグループ演習	予習:事例課題に取り組む 復習:ノート整理
29	相談援助演習Ⅲのまとめ① 29-1 ソーシャルワークとは何か 29-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	
30	相談援助演習Ⅲのまとめ② 30-1 実習及び演習での体験を振り返る 30-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	

到達度の評価（評価方法・基準）

下記により、総合的に評価する。

- (1) 演習中の参加態度(自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献):40%
- (2) 課題への取り組み:30%
- (3) レポート課題の提出(宿題、予習課題等):30%

教科書	参考書
書 名:ソーシャルワーク演習ケースブック 著者名:ソーシャルワーク演習教材開発研究会・編集 発行所:(株)みらい 価 格:2,200円(税別)	書 名:ソーシャルワーク演習のための88事例 実践につなぐ理論と技法を学ぶ 著者名:田中英樹・中野伸彦・編集 発行所:中央法規出版 価 格:2,600円(税別) 書 名:社会福祉士シリーズ21 相談援助演習 第2版 著者名:福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所:弘文堂 価 格:2,500円(税別)

その他補足事項

ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にしてこそ成立する授業である。
 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。

授業科目名	相談援助実習指導	授業形態・単位数	演習・3単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 職名:教授 氏名:日下 輝美	開講期	通年
		授業回数	45回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	45時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>実習前には、実習の意義と目的及び方法、実習施設や分野の理解、実習に向けての対人援助技術の再確認、実習課題の設定と「実習計画書」の作成、実習の心構えと諸注意を学ぶ。</p> <p>実習後は、「実習日誌」「実習全体のまとめ」をもとに実習体験の振り返りと共有を行った後、実習反省会の開催、「実習報告書」の作成及び実習報告集のまとめを行う。</p> <p>通常の授業については、コース毎にクラスを分けて実施する。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①相談援助実習の意義について理解する。	目標	J
②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。	目標	C G I
③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深め、自己に求められる課題を把握して、実習に臨むことができるようになる。	目標	C G I J L
④具体的な実習体験や援助活動を、専門的技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる。	目標	G I J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会福祉士の役割と実習の目標と内容 実習前中後の流れ(全体像)と指導体制 他の科目との関連説明 実習契約構造の説明と実習の意義、実習生の権利	配布資料 教科書「相談援助実習の手引き」	予習:実習への動機と抱負整理 復習:実習先に関する資料収集

2	実習先の理解 実習の意義と目的 実習プログラム例 実習課題	教科書	予習:実習機関分析 の下書き 復習:実習課題の整 理
3	人とかかわるとは 自己覚知ワーク① 自己コンピテンスアセスメントシートの記入	教科書 自己コンピテンスアセス メントシート	予習:課題レポート 作成 復習:課題レポート の修正
4	日本社会福祉士会の倫理綱領 社会福祉士の行動規範	教科書	予習:倫理綱領・行 動規範の一読 復習:授業の整理
5	実習受け入れ施設・機関の理解① 機関分析(法的根拠・保健医療福祉制度)	配布資料 グループ学習	予習:実習先の情報 収集 復習:授業の整理
6	事前訪問の意義と事前準備 「実習生プロフィール」の作成方法	教科書	予習:実習先の情報 整理 復習:生活教養の復習 電話のかけ方の確 認
7	実習受け入れ施設・機関の理解② 機関分析(業務の整理)	配布資料 グループ学習	予習:実習先の概要 整理 復習:授業の整理
8	実習受け入れ施設・機関の理解③ 機関分析(利用者の理解)	配布資料 グループ学習	予習:学習成果報告 会発表内容の企画・ 整理
9	実習受け入れ施設・機関の理解④ 機関分析(実習先の地域性・地域特性・社会資源)	配布資料 グループ学習	予習:社会資源を調 べる
10	「実習分野と施設・機関の理解」の作成 誓約書・健康診断書・細菌検査(検便)について	教科書 グループ学習	予習:「実習生プロ フィール」の作成 復習:学習成果報告 会準備
11	「実習分野と施設・機関の理解」の完成 「実習生プロフィール」の提出	グループ学習	予習:学習成果報告 会準備
12	実習分野別の学習成果発表会 テーマ「実習分野と施設・機関の理解」	全体 グループ毎に発表	予習:過去の実習報 告集等の一読 復習:学習成果報告 会の整理
13	「実習計画書」の書き方① 「実習計画書」の視点と実習テーマの立て方	教科書 配布資料	予習:実習先地域の 歴史や現状を調べ る 復習:実習テーマの 決定
14	「実習計画書」の書き方② 実習目標と課題の明確化	教科書 配布資料	予習:実習課題の探 求 復習:目標と課題の 整理
15	「実習計画書」(案)の提出、個別指導① 実習目標と各段階の課題の設定	個別指導	予習:「実習計画書」 の下書き 復習:「実習計画書」 の修正
16	「実習計画書」(案)の提出、個別指導② 実習施設・機関の社会的役割と今後の課題等	個別指導	予習・復習:「実習計 画書」の修正

17	「実習計画書」(案)の提出、個別指導③ 実習指導担当者から助言・指導があった内容について調べ、自己の課題の再把握	個別指導	予習:実習への期待と不安について書き出しておく。 復習:事前訪問の連絡調整
18	「実習計画書」(案)の提出、個別指導④ 実習指導担当者から助言・指導があった内容について修正し、再提出	個別指導	実習先へ事前訪問(「実習計画書(案)」等への指導を受ける) 復習:実習計画書の修正
19	「実習計画書」の提出 「実習計画書」発表に向けた準備	グループ学習	復習:「実習計画書」の修正
20	「実習計画書」の発表会	グループ発表	復習:他者の実習課題を確認し、自己の新たな課題の発見
21	直前ガイダンス① 配属にあたっての注意事項・確認事項	教科書	予習:教科書の「実際編」の一読
22	直前ガイダンス② マナーの振り返り	グループ学習 ロールプレイ	復習:自己のマナーの再確認
23	「実習日誌」:記録の意義と作成方法①	グループ学習	予習:教科書「実習日誌」の一読
24	「実習日誌」:記録の実際①	グループ学習 配布資料(実習日誌の良い例、悪い例)	予習:課題「今日の出来事」を実習日誌スタイルで作成
25	「実習日誌」:記録の実際② 課題:「今日の出来事」実習日誌提出、添削指導	個別指導	復習:「実習日誌」の書き方の確認、添削内容の整理
26	実習中に学ぶグループ課題の設定 (実習反省会に向けて) 自己覚知ワーク② 自己コンピテンスアセスメントシートの再記入	グループ学習 自己コンピテンスアセスメントシート	予習・復習:シート記載内容の達成状況整理、グループ課題の資料収集
27	実習直前準備① 実習施設・機関等との実習計画書最終調整 実習終了時の諸注意・お礼状の書き方 実習自己評価表の書き方	グループ学習 個別指導	予習:教科書「お礼状の書き方」の一読
28	実習直前準備② 準備物の自己・他者チェック 巡回指導教員との事前打ち合わせ ソーシャルワーク技術チェック面接の準備	グループ学習	予習:ソーシャルワーク技術チェック面接の場面想定
29	実習直前準備③ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	予習:技術チェック面接準備
30	実習直前準備④ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	復習:自己覚知ワーク
	配属実習(180時間以上)	体調管理、時間厳守 日々の振り返りと実習日誌の記録	
31	実習の振り返り① 実習を終えての報告 自己覚知ワーク 自己コンピテンスアセスメントシートの記入 「実習自己評価表」の提出 「実習報告書」のフォーマット受領、提出方法確認	個別指導 自己コンピテンスアセスメントシート	予習:実習自己評価表の作成 復習:報告書等提出物の確認、「実習報告書」(下書き)作成

32	実習の振り返り② 実習体験の分かち合い 「実習報告書」(下書き)の提出	グループ学習	予習・復習:体験した内容のまとめと話し合った内容の整理
33	実習の振り返り③ グループ課題に沿った体験の分かち合い	グループ学習	予習:グループ課題のテーマに沿った資料収集
34	実習の振り返り④ 「実習報告書」添削指導	グループ学習	予習・復習:「実習報告書」(下書き)作成・修正
35	「実習反省会」の準備① テーマと発表方法の決定、発表概要の整理	グループ学習	予習・復習:実習反省会に向けた文献調査等
36	「実習反省会」の準備② 発表内容の情報収集と添削指導 「実習評価表」に基づく個別指導	グループ学習 個別指導	予習・復習:次週反省会発表内容のまとめ
37	「実習反省会」の準備③ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用資料の提出、配布資料等の作成	グループ学習	予習・復習:PPT等資料作成
38	「実習反省会」の準備④ 発表リハーサル	グループ学習	発表会用の配布資料、PPT資料作成、提出
39 ・ 40 ・ 41	「実習反省会」の実施 発表及び指導	グループ発表 実習指導担当者からの助言	復習:他グループの発表から学んだことを整理
42	「実習反省会」の振り返り	グループ学習	予習・復習:「実習報告書」(下書き)作成、修正
43	「実習報告書」の提出、指導	個別指導	予習:「実習報告書」の清書
44	「相談援助実習指導」の総合評価	個別指導	
45	「相談援助実習指導」のまとめ 授業への参加態度、グループ学習への貢献等の自己評価	グループ発表	
到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>社会福祉士及び介護福祉士の養成を行う学校指定の規定により、相談援助実習指導の評価には4/5以上の出席が必要である。出席基準を満たすこと。</p> <p>以下の観点から総合的に評価するが、詳細は初回授業時に説明する。</p> <p>(1) 授業時の参加態度:30%</p> <p>(2) 提出課題の評価:20%</p> <p>(3) 実習計画書及び実習日誌の記録状況:20%</p> <p>(4) 実習反省会:10%</p> <p>(5) 実習報告書の内容及び提出期限の遵守:20%</p>			
教科書		参考書	
書名:「相談援助実習の手引き」 著者名:福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室		書名:社会福祉士相談援助実習 著者名:日本社会福祉士養成校協会・監修 発行所:中央法規出版 価格:2,600円(税別)	
その他補足事項			
<p>主体的で十分な事前学習があつてはじめて意味のある実習ができ、事後学習によって社会福祉専門職を目指す上での価値ある体験として実習の意味が深まる。実習を行う上で中核となるものは学生自らの学習による「実習課題の設定・実習計画書の作成」である。実り多い実習にするためにも自己研鑽に励んでほしい。</p> <p>実習にあつては不安や心配もあると思われる。些細なことであっても、早めに実習指導担当教員や実習指導室に来て解決し、実習に臨んでほしい。また、実習前・実習後に、個別面談指導を実施するので、相談内容等の要点をまとめ、限られた時間を有効に活用してほしい。</p>			

授 業 科 目 名	相談援助実習	授業形態・単位数	実習・4単位	
		開 講 年 次	3・4年次	
担 当 教 員	職名:教授 氏名:遠藤 寿海 <small>えんどう としみ</small>	職名:教授 氏名:日下 輝美 <small>くさか てるみ</small>	開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	実習180時間以上
			期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
オフィスアワー・メールアドレス等	相談援助実習指導の時間に説明します。			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	//	必修		

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士の国家試験受験資格取得のために履修が義務付けられている配属実習（180時間以上）である。社会福祉が実践されている現場において、援助の対象者にどのように社会福祉の専門知識や専門技術をもって向き合い、課題解決を図るのか、また、社会資源がいかに活用されているか等を学んでいく。</p> <p>これまでに学んだ社会福祉援助に関する価値と倫理、専門知識、専門技術について、実習体験を通して主体的に学び、社会福祉専門職に求められる基本的な態度を育成することを目指す。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門的援助技術」及び「関連知識」の理解を深め、対象者と向き合うことができる。	目標	A B
②社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。	目標	B
③職業倫理を身につけ、福祉専門職としての行動ができるようになる。	目標	B
④自らの体験や活動を概念化、理論化、体系化していく力を養う。	目標	A B C D
⑤関連分野との連携のあり方と内容を理解する。	目標	A B
⑥支援計画の作成等を通して、本人・地域住民が主体となる支援の流れを理解する。	目標	B C D

授業計画	
授業テーマ・授業内容	
<p>相談援助実習(180時間以上)</p> <p>・実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、4週間以上で実日数23日以上となる。実習先によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合もある。</p> <p>・実習の内容については、実習先の分野や、施設・機関・団体によって異なるので留意されたい。</p> <p>・実習期間中は、配属実習先の実習指導担当者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や社会福祉援助のあり方等の理解に努める。</p> <p>・巡回指導教員による巡回指導を実施する。必要に応じて、実習指導担当者、巡回指導教員、実習生の三者で相談の上、実習計画の再検討を図る。</p>	
到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>実習指導担当者による実習生の実習態度や実習課題の達成状況等の評価に基づく。</p> <p>「実習評価表」による評価を基準とし、巡回指導時に話し合った実習指導担当者からの評価を参酌して、相談援助実習指導のクラス担当教員が本科目について成績評価を行う。</p>	
教科書	参考書
<p>書 名:相談援助実習の手引き</p> <p>著者名:福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室</p>	<p>書 名:社会福祉士相談援助実習</p> <p>著者名:日本社会福祉士養成校協会・監修</p> <p>発行所:中央法規出版 価 格:2,600円(税別)</p>
その他補足事項	
<p>* 実習における留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先の利用者やその関係者等と円滑な人間関係を形成するよう努めること。 2) 利用者を理解し、そのニーズを把握すること。 3) 利用者やその関係者などと援助関係を形成する能力を強めること。 4) 利用者やその関係者の課題解決能力を高める援助について学ぶこと。 5) 社会福祉専門職としての職業倫理や就業に関する規程を学び、組織の一員として働くことの意味を理解すること。 6) 実習先で行われている地域(コミュニティ)への働きかけを学ぶこと。 7) 社会福祉専門職としてのあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自分自身を客観的にみつめて自己覚知を深めるとともに、社会福祉援助業務を職業とすることへの理解を深めること。 8) 実習課題を常に意識し、社会福祉士の福祉実践を主体的に学ぶこと。 <p>* 実習費として、1日1,000円程度を徴収する。詳細は、相談援助実習指導の授業で説明する。</p> <p>* 施設によっては、事前に健康診断及び細菌検査等が必要である(対象学生のみ実費徴収)。実習先からの指示に従って、実習指導室を通して検査等を行い、診断結果を提出すること。</p> <p>* 実習前に実習先を訪問し(事前訪問)、実習先への挨拶、自己紹介、実習計画書の提出等を行う。</p>	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	精神保健学	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:星野 仁彦 <small>ほしの よしひこ</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
各ライフサイクルにおける精神保健と家庭・学校・職場・地域における精神保健について学ぶ	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健の基礎知識について理解することができる。	目標	A
各ライフサイクルにおける精神保健について理解することができる。	目標	A J K L
精神保健における個別課題への取り組みと実験を理解することができる。	目標	A J K
地域精神保健と地域保健について理解することができる。	目標	A
諸外国における精神保健の概要について理解することができる。	目標	J K L
関連法規および施策について理解することができる。	目標	A J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神保健の概要、意義と課題	資料、レジюме	次回予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習
2	小児心身症、異尿・夜尿・異糞症、夜驚症、分離不安(乳幼児期における精神保健)	資料、レジюме	
3	いじめ、チック・抜毛癖などの習癖異常、場面かん黙(学童期における精神保健)	資料、レジюме	
4	摂食障害(拒食症、過食症)、学校不適應の予防(思春期における精神保健)	資料、レジюме ケーススタディ	

5	学生無気力、青い鳥症候群、思春期挫折症候群(青年期における精神保健)	資料、レジュメ	
6	うつ病、心身症の予防、適正飲酒(成人期における精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴	
7	空の巣症候群、更年期障害、更年期うつ病(更年期における精神保健)	資料、レジュメ	
8	認知症の予防、もの忘れと認知症の鑑別(老年期における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	
9	マタニティ・ブルー、育児不安とストレス、産褥期うつ病(妊娠中、産褥期の精神保健)	資料、レジュメ	
10	不登校の予防、非行・怠学の予防(学校における精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴	
11	燃え尽き症候群、仕事中毒・過労死の予防(職場における精神保健)	資料、レジュメ	
12	健康な家庭のあり方、アダルトチルドレンと共依存(家庭における精神保健)	資料、レジュメ	
13	ガン患者のメンタルケア、死に至る患者のメンタルケア(ターミナルケア精神保健)	資料、レジュメ	
14	ひきこもりの予防と対策、現代の社会病理(地域における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	
15	DV(夫婦間暴力)の予防、単身赴任、離婚・別居の夫婦療法(夫婦関係の精神保健)	資料、レジュメ DVの対策と予防(30分)	
16	児童虐待の予防、健全なしつけ方(親子関係の精神保健)	資料、レジュメ	次回予定のテキスト予習
17	性非行の予防、売春対策、セックス依存、異常性愛(性に関する精神保健)	資料、レジュメ	当日レクチャーの復習
18	月経前不機嫌(PMS)、妊娠中絶、不妊症、レイプ・トラウマ、うつ病が女性に多い理由(女性の精神保健)	資料、レジュメ	
19	外国人花嫁、パリ症候群、外国人労働者のメンタルヘルス(外国人の精神保健)	資料、レジュメ	
20	教師のメンタルヘルス、校内暴力・学級崩壊の予防、様々な学校病理(教師の精神保健)	資料、レジュメ	
21	アルコール乱用・依存の予防と対策(アルコールと精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴、ケーススタディ	
22	老人虐待の予防、呆け老人をもつ家族の会(介護者の精神保健)	資料、レジュメ	
23	過度のダイエットの危険性、イメージトレーニング(スポーツ選手の精神保健)	資料、レジュメ	
24	自殺の危険因子と予防因子、いのちの電話、集団(群発)自殺	資料、レジュメ ケーススタディ	
25	心身症、自律神経失調症、ガン・心臓病になりやすい性格(リエゾン精神保健)	資料、レジュメ 心身症とは何か(30分)	
26	各種の自助グループ(アルコール、薬物・過食・ギャンブル依存)	資料、レジュメ	
27	精神保健施策の概要		
28	精神保健における関係法規	資料、レジュメ	
29	精神保健における関係施策		
29	諸外国における精神保健		
30	精神保健福祉法とその関連性	資料、レジュメ	
期末試験	後期末試験(ペーパーテスト)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名:精神保健の課題と支援 第6版 著者名:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所:へるす出版 価格:3,200円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	精神保健福祉に関する 制度とサービス	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：講師 氏名： ^{きたもと} 北本 ^{あすか} 明日香	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「精神障害者の生活支援システム」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。</p> <p>①精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法との関わりについて学ぶ。</p> <p>②精神障害者の支援に関連する制度、福祉サービス等について学ぶ。</p> <p>③更生保護制度と医療観察法について学ぶ。</p> <p>④社会調査の概要と活用について基礎的な知識を学ぶ。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①精神保健福祉法に至る法改正の変遷を理解し、人権擁護に関する手続きや現行法の問題点について述べることができる。	目標	A C
②精神障害者が置かれてきた歴史的背景の理解を深め、精神保健福祉士に求められる役割を説明することができる。	目標	A I
③障害者総合支援法に至る法改正と障害福祉サービスの具体的内容を述べるができる。	目標	A C
④更生保護制度と社会福祉との連携と医療観察法における関係機関との連携を自分の視点で論じることができる。	目標	A I
⑤精神保健福祉士にとっての社会調査の意義と目的を説明することができる。	目標	A C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバス 教科書補足資料 教科書	
2	社会福祉と精神保健福祉	教科書 教科書補足資料	教科書p1～6を事前に読む

3	精神保健福祉法成立までの経緯と歴史 精神病患者監護法	教科書 教科書補足資料	教科書p7～8を事前に読む
4	精神病院法と精神衛生法	教科書 新聞記事を使用しペアワークを行う	教科書p9を事前に読む
5	精神保健法	教科書 教科書補足資料	教科書p10を事前に読む
6	精神保健法	教科書 教科書補足資料	教科書p11を事前に読む
7	精神保健福祉法の構成	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「保護室について」(映像利用)	教科書p16～17を事前に読む
8	精神保健福祉法の構成	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「精神保健福祉法に至る法改正の変遷」(映像利用)	教科書p18～29を事前に読む 感想文の作成
9	精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p30～31を事前に読む
10	最近の動向	教科書 教科書補足資料 ワールドカフェにて、精神保健福祉法についてディスカッションを行う	教科書p32～36を事前に読む
11	精神障害者福祉制度の概要と福祉サービス 障害者基本法と精神障害者施策	教科書 教科書補足資料	教科書p38～41を事前に読む
12	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「障害者施策について」(映像利用)	教科書p43～49を事前に読む
13	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス	教科書 教科書補足資料	教科書p52～58を事前に読む
14	精神障害者を対象とした福祉施策・事業	教科書 教科書補足資料	教科書p60～73を事前に読む
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認
16	精神障害者に関連する社会保障制度の概要	教科書 教科書補足資料	教科書p76～85を事前に読む
17	医療保険制度・介護保険制度・経済的支援に関する制度	教科書 教科書補足資料	教科書p86～94を事前に読む
18	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 行政組織と民間組織	教科書 教科書補足資料	教科書p106～121を事前に読む
19	福祉サービス提供施設・専門職や地域の支援者	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書p123～133を事前に読む
20	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 刑事司法と更生保護	教科書 新聞記事を使用しペアワークを行う	教科書p136～138を事前に読む
21	保護観察所と更生保護の担い手	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「保護観察官の役割」(映像利用)	教科書p141～145を事前に読む
22	司法・医療・福祉の連携	教科書 教科書補足資料	教科書p146～159を事前に読む

23	医療観察法の概要と実際 審判と精神保健参与員	教科書 教科書補足資料	教科書 p162～ 163、p175～179 を事前に読む
24	指定入院機関における処遇	教科書 教科書補足資料	教科書p180～196 を事前に読む
25	地域処遇と社会復帰調整官	教科書 教科書補足資料 ゲストスピーカー招聘	教科書p170～172 を事前に読む
26	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 意義と目的	教科書 教科書補足資料	教科書p198～199 を事前に読む
27	対象と倫理	教科書 教科書補足資料	教科書p201～205 を事前に読む
28	量的調査法と質的調査法	教科書 教科書補足資料	教科書p205～216 を事前に読む
29	今後の制度の動向と精神保健福祉士	教科書 教科書補足資料	教科書 p217～ 221、p97～100を 事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート	レポートは50点満点の採点とする。課題は授業内容に沿った内容を設定する。		
(2) 筆記試験	50点満点の記述方式のテストを後期末に実施。		
(3) その他	授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名:精神保健福祉に関する制度とサービス		著者名: 古屋龍太編	
発行所: 弘文堂		価 格: 2,700円 (税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	精神障害者の生活支援システム	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>ソーシャルワークの原点である社会と人間の相互関係から対象者(精神障害者)の理解を深め、精神障害者を一人の生活者として捉える視点を涵養する。</p> <p>精神保健福祉法第38条において精神科病院等の医療を受けている精神障がい者やその家族等への社会復帰に関する相談援助をすることが医療提供施設の管理者に義務付けられている。それを担う職種の一つとして精神保健福祉士がある。精神保健福祉士国家資格誕生の背景には、わが国において平成23年に医療にかかっている精神疾患患者数320.1万人のうち、精神科病院に入院中の患者は32.3万人おり、その36.7%は5年以上の長期入院患者とされており、地域に受け入れ体制があれば退院が可能な「社会的入院者」は約7万人といわれている。その受け皿づくりを個人と周りの状況との全体的な視点から、退院・地域移行促進と地域生活支援の条件についてみていく。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神障害者の生活支援に向き合う精神保健福祉士の原点と視点を理解することができる。	目標	A J
精神障害者の生活実態や人としての権利が侵害されてきた状況と精神保健福祉士の立ち位置と活動について説明できる。	目標	J
居住支援、就労支援制度とそれを活用した相談援助や生活支援活動について説明できる。	目標	A J
地域生活支援システムとしてピア(当事者)活動をはじめ、各関係機関の役割・機能とソーシャルサポートネットワークについて学べる。	目標	B J
精神保健福祉士としての現代社会における問題意識と精神障害者の生活支援について学べる。	目標	A J

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 精神障がいとは①	画集『心像の世界』	精神障がいに関する記事を調べる
2	精神障がいとは②	ビデオ『名医にQ 統合失調症』20分	精神障がいについてまとめる
3	生活のしづらさ① 生活支援とは	ビデオ『幻聴から幻聴さんへ』37分	生活のしづらさについてまとめる

4	生活のしづらさ② 精神障がい者と社会	アクティビティ 動いて選択	社会的入院についてまとめる
5	生活者としての精神障がい者 精神障がい者の生活実態	ビデオ『藤原さんの事例』 30分	事例の感想文作成
6	社会的入院者の退院促進・地域移行の条件	ビデオ『精神科病院から 地域へ』30分	地域移行の条件を各自考える
7	精神障がい者のピアサポート	テキストpp.149-156	感想文作成
8	精神障がい者と家族	テキスト pp.156-161	テキストを読んでくる
9	精神障がい者の生活と人権	テキスト pp. 53-77	テキストを読んでくる
10	精神障がい者の居住支援①	テキスト pp. 79-109	テキストを読んでくる
11	精神障がい者の居住支援②	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
12	精神障がい者の就労支援	テキスト pp.111-140	テキストを読んでくる
13	地域社会における生活支援システム	テキスト pp.141-148、161-170	テキストを読んでくる
14	行政における相談援助	テキスト pp.170-217	テキストを読んでくる
15	ごくあたり前の生活をめざして	テキスト pp.219-236	テキストを読んでくる
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験60%、授業時の自主的な発言や発表等の参加態度・課題の取り組みおよび消化度・提出レポート内容40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書名：精神障害者の生活支援システム 著者名：上野容子・宮崎まさ江編 発行所：弘文堂 価格：2,700円(税別)		書名：精神保健福祉白書2016年版 著者名：精神保健福祉白書編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,520円(税別)	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の 基盤 (基礎)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
精神保健福祉士が行う相談援助の基盤について学ぶ。すなわち、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助（ソーシャルワーク）の定義と理念、相談援助の形成過程についての理解を深める。精神保健福祉相談援助場面を擬似体験することを通して相談援助活動について理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との 対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。	目標	A B
社会福祉士の役割と意義について理解することができる。	目標	A B
相談援助（ソーシャルワーク）の概念と範囲について理解することができる。	目標	A
相談援助（ソーシャルワーク）の理念について説明できる。	目標	A
相談援助（ソーシャルワーク）の形成過程について理解することができる。	目標	A
精神保健福祉相談援助場面を擬似体験することを通して相談援助活動を体感できる。	目標	F I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グループの力	NASA訓練	感想文作成
2	ピアカウンセリング①「ほめる」	W-up グルーピング、グループ活動	感想文作成
3	ピアカウンセリング②「ほめる」	グループ演習	小テスト

4	ソーシャルワークの価値	かちかち山 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	感想文作成
5	精神保健福祉士の役割と意義	テキストpp.1-13 精神保健福祉士法	教科書を読んでき
6	社会福祉士の役割と意義 精神保健福祉士と社会福祉士	ゲストスピーカー招聘	教科書を読んでき pp.14-18
7	現代社会と精神保健福祉士	テキスト pp.19-34	教科書を読んでき
8	SST① SSTであるために	グループ演習	感想文作成
9	SST② 「ほめる」	グループ演習	感想文作成
10	ソーシャルワークの定義 国際ソーシャルワーカー連盟の定義	テキスト pp.35-43	教科書を読んでき
11	ソーシャルワークの形成過程 ソーシャルワーク理論①	テキスト pp.43-48、pp.77-86	教科書を読んでき
12	ソーシャルワーク理論② 3方法の統合とジェネラリストソーシャルワーク	テキスト pp.87-108	教科書を読んでき
13	家族療法 思春期の事例	配布プリント	感想文作成
14	家族療法 スカルプティング ソーシャルワークの構成要素としての価値・知識・技術 ソーシャルワークの理念①ー人間尊重、社会正義	テキスト pp.49-63	教科書を読んでき
15	ソーシャルワークの理念②ー利用者主体、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション	テキスト pp.63-75	教科書を読んでき
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
期末試験60%、授業時の自主的な発言や発表等の参加態度・課題の取り組みおよび消化度・提出レポート内容40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門] 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所：へるす出版 価格：2,900円(税別)		書名：ソーシャルワーク協働の思想 著者名：柏木昭、佐々木敏明、荒田寛 発行所：へるす出版 価格：1,800円(税別) 書名：ソーシャルワークの理論と実践 著者名：岡本民夫監修 発行所：中央法規 価格：4,000円+税	
その他補足事項			
参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため、全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2/3以上の出席を最低限必要とする。グループ課題を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようにくれぐれも留意すること。			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名:講師 氏名: ^{きたもと} 北本 ^{あすか} 明日香	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。</p> <p>1.精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。</p> <p>2.精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。</p> <p>3.精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。</p> <p>4.精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向を理解し、ソーシャルワーカーの役割を説明することができる。	目標	A C
チームアプローチと多職種連携について理解し、精神保健福祉士の専門性を述べるができる。	目標	A B I
メンタルヘルス課題について理解し、精神保健福祉士の役割を論じることができる。	目標	A C I
精神障害者の権利擁護について理解し、その意義について説明することができる。	目標	A C

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバス 教科書補足資料 教科書	
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程 インターク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施	教科書 教科書補足資料	教科書p108～122を事前に読む

3	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの動向 導入期から拡大期	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(20分)「ソ シャルワーカーの役割」 (映像利用)	教科書p129～135 を事前に読む 感想文の作成をす る
4	精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワーク 相談援助に係る専門職の概念と範囲	教科書 教科書補足資料	教科書p139を事前 に読む 新聞記事を用いてレ ジュメを作成する
5	医療機関における専門職	教科書 新聞記事を使 用しペアワークを行う	教科書p140を事前 に読む
6	福祉関連行政機関における専門職	教科書 教科書補足資料	教科書p144を事前 に読む
7	民間福祉施設・組織における専門職	教科書 教科書補足資料	教科書p148を事前 に読む
8	チームアプローチと多職種連携	教科書 教科書補足資料	教科書p152～155 を事前に読む
9	相談援助専門職の連携と協働	教科書 教科書補足資料	教科書p162～165 を事前に読む 新聞記事を用いてレ ジュメを作成する
10	精神障害者の相談援助における権利擁護 精神保健福祉士の生活支援	教科書、新聞記事を使用 しディスカッションを行う	教科書p165～166 を事前に読む
11	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「精神 障害者の人権について」 (映像利用)	教科書p171～173 を事前に読む 感想文を作成する
12	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p177を事前 に読む
13	当事者を支える視点・アプローチ	教科書 教科書補足資料	教科書p178を事前 に読む
14	ライフステージごとのメンタルヘルス課題と精神保健福祉 士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p179～188 を事前に読む
15	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート	50点満点の採点とする。課題は授業内容に沿った内容を設定する。		
(2) 筆記試験	50点満点の記述方式のテストを後期末に実施。		
(3) その他	授業内容の理解度を確保するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名:精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門] 著者名:荒田寛 佐々木敏明 今井博康 他 発行所:へるす出版 価 格:2,900円(税別)			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	精神保健福祉の理論と 相談援助の展開 I	授業形態・単位数	講義・4単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名: 講師 氏名: <small>きたもと</small> 北本 <small>あすか</small> 明日香	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「精神保健福祉の理論と相談援助の展開II」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。</p> <p>①精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について学ぶ。</p> <p>②精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方や支援体制の実際について学ぶ。</p> <p>③地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開の理解を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
①精神保健医療福祉の歴史と動向を理解し、精神保健福祉士の専門性と倫理を説明することができる。	目標	A C F
②相談援助活動のための面接技術とソーシャルワークの展開過程を述べることができる。	目標	A B I
③スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について説明することができる。	目標	A B
④精神障害者のケアマネジメントの意義について説明することができる。	目標	A B
⑤チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割を各自の視点で論じることができる。	目標	A C I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバス 教科書補足資料 教科書	
2	障害者福祉の理念と精神障害者の人権 国連原則、精神医療における権利擁護	教科書 教科書補足資料	教科書p1～30を事前に読む

3	障害者権利条約、障害者差別解消法	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「障害者権利条約について」(映像利用)	教科書p37～50を事前に読む 新聞記事を基にレジュメを作成する
4	精神障害の概念、国際生活機能分類	教科書 新聞記事を基にディスカッションを行う	教科書p50～63を事前に読む
5	精神保健福祉の歴史と理念 精神病患者監護法	教科書 教科書補足資料	教科書p73～75を事前に読む
6	精神病患者監護法から精神衛生法	教科書 教科書補足資料	教科書p76～78を事前に読む
7	精神衛生法から精神保健福祉法	教科書 教科書補足資料	教科書p78～83を事前に読む
8	精神保健福祉の現状 精神医療の現状	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「精神科病院の現状について」(映像利用)	教科書p89を事前に読む 新聞記事を基にレジュメを作成する
9	精神医療の現状と地域生活支援の現状	教科書 教科書補足資料 レジュメを基にディスカッションを行う	教科書p90を事前に読む
10	精神保健福祉士の課題	教科書 教科書補足資料	教科書p91を事前に読む
11	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史 エリザベス救貧法から第一次世界大戦	教科書 教科書補足資料	教科書p95～96を事前に読む
12	リカバリーの時代	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「リカバリーについて」(映像利用)	教科書p97～99を事前に読む 感想文を作成する
13	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史	教科書 教科書補足資料	教科書p102～106を事前に読む
14	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史	教科書 教科書補足資料	教科書p107～110を事前に読む
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認
16	日本におけるソーシャルワークの歴史 PSW誕生、Y問題	教科書 教科書補足資料	教科書p111～116を事前に読む
17	国家資格としての精神保健福祉士の意義	教科書 教科書補足資料	教科書p119～126を事前に読む
18	精神保健福祉士の専門性と倫理	教科書 教科書補足資料 を基にペアワークを行う	教科書p129～143を事前に読む
19	ソーシャルワークの展開過程 受理面接(インテーク)から終結	教科書 教科書補足資料	教科書p151～156を事前に読む
20	ソーシャルワークの面接 面接の構造と技術	教科書 新聞記事を使用しペアワークを行う	教科書p156～161を事前に読む
21	面接の方法①	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(60分)「電話によるインテーク」(映像利用)	配付資料を事前に読む 感想文の作成
22	面接の方法②	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(60分)「訪問による面接」(映像利用)	配付資料を事前に読む 感想文の作成
23	フェイスシートの作成	教科書 教科書補足資料 フェイスシートを基にディスカッションを行う	教科書p162を事前に読む

24	個別支援 家族支援	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書p163～171 を事前に読む 感想文を作成する
25	グループを活用した支援	教科書 教科書補足資料	教科書p177～194 を事前に読む
26	地域を対象とした支援 災害時における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p195～219 を事前に読む
27	スーパービジョンとコンサルテーション ケアマネジメント	教科書 教科書補足資料	教科書p220～254 を事前に読む
28	チーム医療における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p263～267 を事前に読む
29	チームアプローチおよび生活支援の理念 精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書p270～279 を事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポ イントを再確認
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート	レポートは50点満点の採点とする。課題は授業内容に沿った内容を設定する。		
(2) 筆記試験	50点満点の記述方式のテストを後期末に実施。		
(3) その他	授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とする。		
教科書			
書 名:精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 著者名:荒田寛 佐々木敏明 助川征雄 田村綾子 他 発行所:へるす出版 価 格:3,100(税別)			

授 業 科 目 名	精神保健福祉の 理論と相談援助の展開 II	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の 必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
精神障がい者の疾病および障がいを考慮した上で、生活援助に必要なソーシャルケースワーク（個別援助技術）、ソーシャルグループワーク（集団援助技術）、コミュニティワーク（地域援助技術）などをふまえ、包括的な支援とリハビリテーションについて学ぶ。そのうえで、それらの技術における精神保健福祉士の役割・業務内容についての知識および技術を身につけ、さらには、障害特性に合わせた支援プロセスの実際について理解を深める。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神障がい者を対象とした相談援助技術(個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障がい者と家族の調整、及び家族支援を含む。)の展開について説明できる。	目標	A B I
精神障がい者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について説明できる。	目標	A B
精神障がい者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方とリハビリテーションの実際を説明できる。	目標	A B
地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と展開について説明できる。	目標	A K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークの支援レポーター	プリント	教科書pp.1-8を読んでくる。 配布資料予復習
2	個別支援の実際と事例分析	事例演習	教科書pp.9-27を読んでくる。 配布資料予復習

3	個別支援の実際と事例分析②	事例演習	教科書pp.28-33を 読んでくる。 発表準備
4	個別支援の実際と事例分析③	事例演習	教科書pp.34-37を 読んでくる。 発表準備
5	個別支援の実際と事例分析④	グループ発表	感想文作成
6	個別支援の実際と事例分析⑤	グループ発表	感想文作成
7	集団を活用した支援の実際と事例分析 デイケア	事例演習	教科書pp.38-52を 読んでくる。 配布資料予復習
8	集団を活用した支援の実際と事例分析②アルコール依存 症者ミーティング	事例演習	教科書pp.52-56を 読んでくる。 配布資料予復習
9	集団を活用した支援の実際と事例分析③心理教育	事例演習	教科書pp.57-60を 読んでくる。 配布資料予復習
10	集団を活用した支援の実際と事例分析④SST	事例演習	教科書pp.60-63を 読んでくる。 配布資料予復習
11	集団を活用した支援の実際と事例分析⑤ピアサポートプ ログラム、就労支援プログラム	事例演習	教科書pp.63-71を 読んでくる。 配布資料予復習
12	事例による相談援助活動の検討-危機介入、居住支援	事例演習	教科書pp.72-77を 読んでくる。 配布資料予復習
13	事例による相談援助活動の検討② 就労支援、権利擁護	事例演習	教科書pp.78-88を 読んでくる。 配布資料予復習
14	事例による相談援助活動の検討③ 権利擁護、医療観察 法対象者への支援	事例演習	教科書pp.88-90を 読んでくる。 配布資料予復習
15	前期のまとめ		前期のまとめをして くる。
16	精神保健福祉における精神障がい者と家族の関係		教科書pp.91-100 を 読んでくる。 配布資料予復習
17	家族支援の方法		教科書pp.101-108 を 読んでくる。 配布資料予復習
18	事例による家族調整・支援の検討	事例演習	教科書pp.109-115 を 読んでくる。 配布資料予復習
19	地域移行の対象、体制		教科書pp.117-128 を 読んでくる。 配布資料予復習
20	精神保健福祉士の役割と多職種との連携		教科書pp.129-141 を 読んでくる。 配布資料予復習
21	地域移行・地域定着支援の取り組み 事例による地域移行支援の検討	事例演習	教科書pp.142-169 を 読んでくる。 配布資料予復習

22	精神障がい者を取り巻く社会的状況		教科書pp.171-183 を読んでくる。 配布資料予復習
23	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討、災害時支援	事例演習	教科書pp.184-195 を読んでくる。 配布資料予復習
24	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方① 地域ネットワーク、アウトリーチ 精神科リハビリテーションの理念、意義、基本原則	プリント配布	教科書pp.197-224 を読んでくる。 配布資料予復習
25	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方② セルフヘルプグループ、家族会、ボランティア育成 リハビリテーション評価	プリント配布	教科書pp.225-244 を読んでくる。 配布資料予復習
26	ケアマネジメントの原則、意義と方法	事例演習	教科書pp.245-269 を読んでくる。 配布資料予復習
27	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク 事例による精神障がい者ケアマネジメントの検討	事例演習	教科書pp.270-294 を読んでくる。 配布資料予復習
28	地域を基盤にしたリハビリテーションの意義 地域ネットワーク		教科書pp.295-309 を読んでくる。 配布資料予復習
29	地域を基盤にした支援の具体的展開 事例による地域を基盤にした支援の検討	事例演習	教科書pp.310-335 を読んでくる。 配布資料予復習
30	地域精神保健福祉活動の意義と展開 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討	事例演習	教科書pp.338-355 を読んでくる。 配布問題学習
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
前期レポート30%、後期末試験30%、平常の授業参加態度（自主的な発言、発表等）、課題の消化度・レポート提出内容40%として評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別）		書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第6版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集 発行所：へるす出版 価格：2,900円（税別）	

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	精神保健福祉援助演習 (基礎)	授業形態・単位数	演習・1単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な援助場面を想定したロールプレイング等の演習を行う。 ア 自己覚知 イ 基本的なコミュニケーション技術の習得 ウ 基本的な面接技術の習得 エ グループダイナミクス活用技術の習得 オ 情報の収集・整理・伝達技術の習得 カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得 キ 記録の技術の習得 ②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげる。 事例演習にあたっては地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価についての内容を含める。	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することができる。		目標 B I K
精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な技術(自己覚知、他者理解、コミュニケーション技術、面接技法等)を習得すると共に基本的な面接技術を身に付けることができる。		目標 B D

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グルーピングのウォーミングアップ 他己紹介	グループ演習、良いコミュニケーションのポスター	感想文作成
2	社会資源ゲーム① 情報収集・整理	グループ演習	社会資源を調べてくる
3	社会資源ゲーム② 情報収集・整理	グループ演習	調べた社会資源を整理する

4	社会資源ゲーム③ 伝達・発表	グループ演習	発表原稿の推敲、 ポスターの作成
5	社会資源ゲーム④ 課題の発見・分析・解決	グループ演習	レポート作成
6	自己覚知① ワークショップ	紙粘土を使って	感想文作成
7	自己覚知② 人生の曲線、思い出の人への手紙	グリーンワーク	ワーク課題を完成さ せる
8	自己覚知③ ジェノグラム	ジェノグラム作成を通し て家族と自分を知る	ジェノグラムを完成 させる
9	集団援助技術 SST① 基本的なコミュニケーション技術の習得 基本訓練	グループ演習	感想文作成
10	集団援助技術 SST② グループダイナミクス活用技術の習得 問題解決	グループ演習	感想文作成
11	基本的な面接技術の習得① 面接を始める 非言語コミュニケーション 共感	ロールプレイ	感想文作成
12	基本的な面接技術の習得② 焦点を当ててついでいく 開かれた質問 傾聴	ロールプレイ	模擬問題
13	記録の技術の習得① 圧縮叙述体	ワークシート	事例記録を完成させる
14	記録の技術の習得② 要約体	ワークシート	事例記録を完成させる
15	地域福祉の基盤整備に係る事例演習	グループ演習	レポート作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
演習中の授業参加態度（自主的な質疑発言、グループへの貢献度、発表等）30%とワークシート等提出物 30%、レポート課題の消化度40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回に つき2点加点。詳しくは初回授業時に説明する。			
教科書		参考書	
使用しない。プリント配布		書 名：精神保健福祉援助演習（基礎・専門） 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価 格：2,700円（税別）	
その他補足事項			
参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため、全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも 2/3以上の出席を最低限必要とする。ロールプレイングやグループワークを含む授業での遅刻や欠席は他の 学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうようくれぐれも留意すること。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し、提 示する。			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	精神保健福祉援助演習（専門）	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	3年次
担当教員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助にかかる具体的な相談援助事例を体系的にとりあげる。 ② 具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。 ③ ②の事例演習にあたっては、アウトリーチ、ケアマネジメント、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発についての内容を含める。 ④ 精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう、精神保健福祉援助実習における体験も視野に入れて、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得すると共に、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	目標	A B
精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的技術（インテーク、契約、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア）を習得すると共に具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を通して総合的かつ包括的な援助技術を身につける。	目標	B I K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 精神保健福祉援助演習(専門)の位置づけ、精神保健福祉援助実習との関係	ワークシート	ワークシートを完成させる ノート整理

2	精神保健福祉士の価値・倫理と葛藤 守秘	教科書pp.1-9 日本精神保健福祉士協会倫理綱領、事例演習	ジレンマ状況アンケート作成
3	バイステックの7原則と人間尊重ー実習事例から援助関係を考える	配布プリント	バイステックの7原則について整理する
4	エンパワメント、ストレングス視点、リカバリーとは	教科書pp.10-23 演習課題への取り組み	演習課題を完成させる ワークシートを完成させる
5	相談援助の過程①(インテーク、契約、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア) 地域生活支援事例 ケアマネジメントとは	教科書pp.67-72 事例演習	演習課題を完成させる
6	相談援助の過程② 地域生活支援事例	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
7	精神障がい配慮したコミュニケーションー精神症状を尋ねる、生活者の視点	教科書pp.31-42 演習課題への取り組み	「生活のしづらさ」について考える 演習課題の完成
8	事例演習① その他の危機状態にある精神保健福祉	配布プリント 事例演習	演習課題完成 施設見学先希望調査
9	事例演習② 社会的排除	教科書pp.17-20 事例演習課題への取り組み	演習課題完成
10	事例演習③ 退院支援、地域移行	配布プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
11	事例演習④ 地域生活継続 エコマップ	教科書pp.109-116 演習課題への取り組み	地域生活上困った時の社会資源について調べる
12	事例演習⑤ リカバリー、ピアサポート	配布プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
13	事例演習⑥ 教育、就労(雇用)	教科書pp.14-17 演習課題への取り組み	演習課題完成
14	事例演習⑦ 貧困、低所得、ホームレス	配布プリント 演習課題への取り組み	演習課題完成
15	事例演習⑧ 精神科リハビリテーション、私メッセージ	教科書pp.61-66 演習課題への取り組み	演習課題完成 実習先希望施設種別調査
16	施設見学ー精神科医療機関、障害福祉サービス事業所等①	学外施設見学	見学施設の事前学習、見学レポートの作成
17	施設見学ー精神科医療機関、障害福祉サービス事業所等②	学外施設見学	見学施設の事前学習、見学レポートの作成
18	精神科医療機関、障害福祉サービス事業所の実際	施設見学レポート発表 グループ討議	感想文作成
19	集団援助事例①ーSST 実習場面で会話を始める	W-up、場面演習	SSTの流れを復習する
20	集団援助事例②ーSST 実習場面で断る プライバシー保護	W-up、場面演習	守秘義務レポート作成
21	集団援助事例③ーSST 就労支援	W-up、場面演習	就労支援のポイントをまとめる
22	事例演習⑨ 地域における精神保健(自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等) 課題の発見	事例演習 グループ分け、タイトル決定、シナリオ作成	事例を調べる
23	事例演習⑩ 地域における精神保健 情報収集・整理	事例演習 シナリオ作成、演劇の練習	事例を調べる
24	事例演習⑪ 地域における精神保健 課題の解決へ向けて グループ発表	事例演習 全体のまとめ・意見交換	感想文作成

25	精神障がい受容とグリーフワーク事例	『マイベストフレンド』	感想文作成
26	実習先種別および実習内容の事前理解－実習報告会	報告を聞いての質疑	実習報告会感想文作成
27	社会資源の活用・調整・開発 ネットワーキング	教科書pp123-127 事例演習 配布プリント	演習課題完成
28	連携・チームワークにおける精神保健福祉士の役割 役割ロールプレイ	教科書pp146-154 模擬チーム会議	PSWの役割について整理
29	実習におけるスーパービジョン事例	教科書pp155-166 事例演習	演習課題を完成させる
30	精神保健福祉援助実習に向けた展開－機関の分析、個別学習課題	教科書pp167-173 個別課題演習	機関分析と問題意識を深める課題に取り組む
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>演習中の授業参加態度（自主的な質疑発言、グループへの貢献度、発表等）30%とワークシート等提出物30%、レポート課題の消化度（「施設見学レポート」「精神保健福祉分野の図書感想文」「障がい受容とグリーフワーク」「実習報告会感想文」）40%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは初回授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：精神保健福祉援助演習－実践力を育てるためのワークブック 著者名：岩間文雄・金田知子・與那嶺司 共著 発行所：相川書房 価格：2,200円（税別）</p>		<p>書名：精神保健福祉援助演習（基礎・専門） 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別）</p>	
その他補足事項			
<p>参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。やむを得ない場合でも2/3以上の出席を最低限必要とする。ロールプレイングやグループワークを含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうようくれぐれも留意すること。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し、提示する。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	精神保健福祉援助実習指導	授業形態・単位数	演習・3単位
		開講年次	4年次
担当教員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開講期	通年
		授業回数	45回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	45時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>本科目は現場体験実習に向けて精神科医療機関および精神障害者を支援する障害福祉サービス事業を行う施設について学び、すでに学んだ講義(精神医学、精神保健学、精神障害者の生活支援システム、精神保健福祉に関する制度とサービス、精神保健福祉の理論と相談援助の展開等)内容を活用し、精神保健福祉士として必要な知識および技術の理解を深める。実習事前指導では、利用者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術の深化と修得、精神保健福祉士としての専門的援助技術や支援のあり方について概念化・理論化し、体系立てていく力を養う。また、職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるように努める。実習に先立ち、実習先事前訪問を行う。</p> <p>実習事後指導では、実習の振り返りを個別・グループ別に取り組み、それらのプレゼンテーションを経て報告集にまとめる作業を通じて精神保健福祉士になる素地を涵養していく。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力

授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神科病院および精神障害者社会復帰施設の歴史、目的、理念、関係施設の概略等について理解を深め、保健医療現場の実際を知る。	目標	A
保健医療現場の実際について理解を深め、援助のあり方や受療援助、退院援助、地域生活援助、医療・福祉制度の活用、チームによる援助活動などを踏まえた上で、実習計画の中の援助プログラムについて考えることができるようになる。	目標	A B
対象者の理解を深めつつ、援助活動の実際を知り、実習計画および実習課題を明確にし、自身の実習計画書を作成する。	目標	A D
実習上の留意点について、特に、援助対象者のプライバシーに対する配慮等について理解して守れる。	目標	A D
関連分野の専門職種との連携のあり方を修得する。	目標	G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習全体の流れと学習内容	シラバス、プリント	復習:春休みの課題の整理

2	実習の意義と目的 どのような援助者になりたいか	テキストpp.2-21	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:ワークを完成させる
3	実習を通して学ぶとは 実習したい機関・施設調べ 事前訪問の意義と事前準備 プロフィールの作成	テキストpp.23-29、 pp.64-68 実習先連絡票	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:機関分析の下書き、マナーの復習
4	実習施設理解と精神保健福祉援助① 医療機関	テキストpp.30-32、 pp.160-170 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:医療機関について整理する
5	実習施設理解と精神保健福祉援助② 精神科デイケア	テキストpp.170-176 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:精神科デイケアについて整理する
6	実習施設理解と精神保健福祉援助③ 就労支援事業	テキストpp.33-37、 pp.177-200 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:就労支援事業について整理する
7	実習施設理解と精神保健福祉援助④ 地域活動支援センター、相談支援事業	テキストpp.200-210 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:地域活動支援センターについて整理する
8	実習施設理解と精神保健福祉援助⑤ 多機能事業所、自立訓練	テキストpp.211-215 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:学習課題を探索
9	実習中に必要な医療福祉制度	プリント	予習:制度概要を調べる 復習:制度についてまとめる
10	医療福祉制度の活用事例 実習への期待と不安	プリント	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:感想文の作成
11	実習中の予想されるトラブルへの対処法 実習におけるスーパービジョン	テキストpp.104-113、 pp.89-103	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:感想文の作成
12	実習プログラム例 実習計画書の必要性	テキストpp.44-48	予習:テキスト該当箇所を読む 復習:自分なりの計画立案
13	実習における学習課題の設定 実習テーマの立て方	テキストpp.15-16、 pp.154-159 実習の手引き、プリント	予習および復習:実習テーマを探索
14	実習計画書作成個別指導① プロフィール表の作成	テキストpp.53-61 プロフィール表の清書	予習および復習:実習計画書の下書き
15	実習課題の設定	テキストpp.160-215 実習の手引き、プリント	予習および復習:実習課題を探索
16	実習計画書作成個別指導②	教員による個別指導	予習および復習:実習計画書の作成
17	実習計画書報告①	学生による個別報告	復習:報告を聞いての感想文の作成

18	実習計画書報告② 守秘義務と実習誓約書	テキストpp.61-63 実習の手引き、プリント 実習誓約書の作成	復習:報告を聞いて の感想文の作成
19	実習計画書作成指導③ 実習事前訪問について	テキストpp.53-68 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:実習計画書の 清書、実習先事前訪 問の準備
20	実習日誌の書き方①	テキストpp.79-88、 実習の手引き、プリント	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:記録の復習
21	実習日誌の書き方②	事例演習	復習:記録の模擬作成
22	「何かしてあげなければ。。。」から「寄り添い見守る」へ	テキストpp.17-22 プリント	復習:感想文の作成
23	個別支援計画作成演習①	ビデオ『精神障がい者ケ アマネジメント』実践編 38分	予習および復習:ケ アマネジメントにつ いて調べる
24	個別支援計画作成演習②	個別支援計画の作成	復習:個別支援計画 の加筆・修正
25	実習先で出会う医療用語・略語	プリント	医療用語・略語の整理
26	実習に向けた準備と心構え① 感染症予防、持ち物など	テキストpp.114-118 実習の手引き	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:準備物の自己 チェック
27	実習に向けた準備と心構え② 服装、名札、実習中の連絡 など	テキストpp.69-74 実習の手引き	服装等の自己チェック
28	実習日誌の書き方③	実習の手引き	場面の分析の模擬 作成
29	夏季休業中の国試受験申込手続へ向けての諸注意	受験の手引き	国家試験受験の事 前準備
30	実習終了時の諸注意、お礼状の書き方	実習の手引き	実習の事前準備を する
31	実習を振り返って①	グループワーク	実習全体のまとめを 作成する
32	実習を振り返って② 実習個別報告指導	過去の实習報告書等 テキストpp.120-128	予習:テキスト該当 箇所を読む 復習:個別報告書の 加筆・修正
33	実習個別報告① 医療機関	プレゼンテーション	予習:プレゼン資料 の準備 復習:実習個別報告 資料の作成
34	実習個別報告② 福祉サービス事業所	プレゼンテーション	予習:プレゼン資料 の準備 復習:実習個別報告 資料作成
35	実習報告発表指導①	実習日誌 グループワーク テキストpp.133-149	復習:感想文の作成
36	実習報告発表指導②	グループワーク	復習:今後の改善点 を考える
37	実習報告発表指導③	グループワーク	復習:報告内容の整理
38	実習報告会発表に向けて	グループワーク	復習:発表資料の作成

39	実習報告会発表①	グループ発表	プレゼンテーション
40	実習報告会発表②	グループ発表	プレゼンテーション 復習: 質疑課題への 取り組み
41	実習報告書作成指導①	pp.129-132 実習の手引き	復習: 実習報告書原 稿の作成
42	実習報告書作成指導② 場面の分析①	実習の手引き プリント	復習: 実習報告書の 作成
43	場面の分析②	グループワーク プリント	復習: 場面の分析 資料の準備
44	精神保健福祉士の役割と価値	グループワーク	復習: 精神保健福祉 士の役割についてま とめる
45	精神科医療現場で使われる医療看護用語 全体のまとめ	テキストpp.150-151 プリント	復習: 用語の整理、 今後の課題、自分な りの心構えについて まとめる
到達度の評価（評価方法・基準）			
評価対象には4/5以上の出席が必要である。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。授業時の参加態度(自主的な発言、グループへの貢献度、発表等)30%、提出課題の消化度20%、実習計画書20%、実習報告会10%、実習報告書20%として評価する。詳しくは第1回目の授業時に説明する。			
教科書		参考書	
書名: 精神保健福祉援助実習・実習指導 第2版 著者名: 日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所: 中央法規 価格: 2,700円(税別) 【教材】精神保健福祉援助実習の手引き		書名: PSW実習ハンドブック—実習生のための手引き 著者名: 荒田寛他 編集 発行所: へるす出版 価格: 2,400円(税別)	
その他補足事項			
<p>※参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。グループ活動を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようくれぐれも留意すること。</p> <p>※6月にソーシャルワーク面接チェックを行い、実習へ向けての一助とする。</p> <p>※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習	授業形態・単位数	実習・5単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名:藤原 正子 職名:講師 氏名:北本 明日香	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	実習210時間以上
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	//	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
①精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ②精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等が使える。	目標	A B
精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握できる。	目標	K L
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	目標	B K
総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	目標	K L

授業内容
<p>210時間以上の実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、5週間以上で実日数27日以上となる。実習は、相談援助の一連の過程を網羅的に学習できるよう、各実習生は、精神科病院等の医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等とで実施し、機能の異なる2以上の実習施設等で実習を行う。実習のうち精神科病院等の医療機関における実習を必須とし、90時間以上行う。実習施設・機関によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合もある。実習の内容については、実習先の種別や施設・機関・団体によって異なるので各自留意されたい。</p> <p>実習期間中は、配属先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や精神保健福祉援助業務を理解する。医療保健福祉関係の各機関や施設での現場実習を通して、対象者へのサービス業務の本質や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びながら、精神保健福祉士に期待される役割を明確化する。</p> <p>実習担当教員による巡回指導を実施する。その先に必要に応じて実習指導者、実習担当教員、実習生の三者で相談して実習計画の再検討を図る。</p>
到達度の評価（評価方法・基準）
<p>実習内容に関する評価50%（実習指導者40%、自己評価10%）、提出物に関する評価50%（実習日誌30%、場面の分析10%、個別支援ケースレポート10%）により評価する。</p>
教科書
<p>書 名：精神保健福祉援助実習の手引き 発行所：福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 実習指導室 教 材：「精神保健福祉援助実習 実習日誌」</p> <p>書 名：精神保健福祉援助実習・実習指導 第2版 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価 格：2,700円（税別）</p>
その他補足事項
<p>※実習費（実費徴収） 実習委託費として1,000円×27日間＝27,000円程度を徴収する。 ※実習施設によっては、事前に健康診断および、細菌検査等が必要である。 ※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスで実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。</p>

授 業 科 目 名	母子保健I	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: <small>おだ まさあき</small> 織田 正昭	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>基本的にはテキストを使用して講義するが、適宜配布資料を用いた解説、VTR やスライドを用いた視覚授業も行う。またデータ理解のために作図作表の作業も行う。母子保健は受講生の現在、将来にとってきわめて身近な分野であるので、授業の中では討論や意見・考え方を述べ合う場を積極的に取り入れる。なお概ね5回に1回の割合で、自己採点方式でミニテストを行い、理解度の確認を行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1) 母子保健に関わる領域が極めて広いことを講義を通じて理解することができる。	目標	C G
2) 母性を医学・生物学的に正確に理解し、自分の体を常に見つめる態度を養える。	目標	A
3) 母子保健から見た自分の将来像を描けるための基礎知識を習得することができる。	目標	C F
4) 国際化の進展を踏まえ、母子保健領域の国際協力について考えられるようになる。	目標	A

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法、授業の進め方の注意 (3) テキスト、参考書について		
2	母子保健統計 ～母子保健関連データの科学的解釈	テキストを用いた解説 課題に関する討論 スライドとVTRを使用	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出

3	リプロダクティブヘルス ～女性の生涯のライフステージにおける生殖の権利についての理解	スライド/VTRを使用。講義および、女性の生殖権利に関する条文を読む	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
4	女性の社会進出と母子保健 ～働く女性と母性保健に関する理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義および、女性の就労と育児、母性保護に関する意見を受講者間で出し合う	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
5	母性の解剖生理と生殖生理 ～女性生殖器、乳房の構造と機能および生殖のホルモン生理	スライド/VTRを使用。テキストおよび関連配布資料を用いた講義をする。ミニテストの実施	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
6	妊娠分娩産褥とその異常 ～妊娠と出産に関する正常と異常の理解	スライド/VTRを使用。テキスト使用による講義、および妊娠出産に対する期待と不安について意見を述べ合う	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
7	胎児の成長生理と異常 ～胎児の成長過程と妊娠中の母体の異常の理解	スライド/VTRを使用。胎児の成長、安産祈願、里帰り分娩などについて、地域の風習を調べてみる	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
8	先天異常 ～主な先天異常症の原因と症状の理解、染色体異常・奇形の理解、遺伝子と分子遺伝学的基礎の理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義、および周囲で見聞きした先天異常児について意見を述べ合う	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
9	小児の成長と発達生理 ～子どもの成長発達過程の理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義と配布資料を用いた解説を行う	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
10	母子の感染症と予防接種 ～主な感染症とその予防に関する理解および予防接種の基礎的理解	スライド/VTRを使用。主要な子どもの感染症とその対応をテキストで学び、予防接種の効果と副反応のバランスについて討論する ミニテストの実施	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
11	小児の悪性腫瘍と生活習慣病 ～小児がん、小児生活習慣病、慢性疾患の理解	スライド/VTRを使用。テキストによる講義、および小児がん関係のVTRをみて感想を述べあう	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
12	児童虐待の現状と要因の理解、および子どもの事故、自殺の現状と原因予防に関する理解	スライド/VTRを使用。テキスト使用に加え、児童虐待の統計的現状について作図して見る	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出
13	母子保健行政、子育て支援 ～母子保健行政の現状を関連法規、子育て支援策の現状とあわせて理解	スライド/VTRを使用。母子保健及び関連領域の法律を学び、自治体ごとによいような行政サポートがあるか調べて発表しあう	復習に重点を置き、次の講義と課題に向けて事前学習を行う。 VTRの感想を次回提出

14	母子保健と国際協力 ～母子保健関連の国際組織、わが国のODA、NGOによる国際協力の現状理解	スライド/VTRを使用。テキストとスライドを用いて、母子保健領域における国際協力の現状を調べてみる	復習に重点を置き、次回の講義と課題に向けて事前学習を行う。VTRの感想を次回提出
15	補足講義と総まとめ 総合討論	受講生間での討論	総合討論で意見を述べられるよう準備しておく。
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う。		
(2) 課題発表	内容に関する課題の発表を評価する。		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。		
(4) 授業態度	授業中の態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。		
最終的に	(1) 60%	(2) 10%	(3) 20% (4) 10%の割合で総合評価する。
教科書			
書名: 母子保健学	著者名: 海野信也、渡辺 博		
発行所: 診断と治療社	価格: 2,900円(税別)		
その他補足事項			
毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べあう。			

授 業 科 目 名	母子保健Ⅱ	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	1・2年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: <small>おだ まさあき</small> 織田 正昭	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回時に説明します		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
『母子保健Ⅰ』で学んだ基礎知識を基に、社会における母子保健の役割とかかわり方について、テキストと配布資料、スライド、ビデオをもちいて講義を進める。併せて事前に提示した課題に関し受講者間で討論しあう。また内容に応じて実技的な経験を試みる。なおおおむね5回ごとに、ミニテストを行い、自己採点と解説をもとに内容の理解度の確認を行う。	A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1) 母子保健を、社会的トピックスや実例を通して学び、それらに対して自分の意見が述べられるようになる。	目標	G
2) 母子保健の視点から女性の社会進出を理解することができる。	目標	C
3) 母性をキーワードにして自分のこれからのライフサイクルを考えることができる。	目標	F
4) 国際的視点から母子保健のあり方を考えることができる。	目標	C I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法、授業の進め方の注意 (3) テキスト、参考書について		
2	家族計画と避妊	家族計画の意味と避妊法についてスライドと配布資料を用いて講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と今回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。

3	母子保健事業	母子保健法の条文理解、母子医療対策を中心に、資料を用いて講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
4	女性のライフサイクル(1)	出生・乳幼児期・学童期・思春期における女性のライフサイクルについてテキストと配布資料を中心に学び、意見を述べあう。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
5	女性のライフサイクル(2)	結婚・妊娠・出産・育児期の女性のライフサイクルについてテキストと配布資料を中心に講義し、意見を述べ合う。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。 理解度チェックのため自己採点式のミニテストを行う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
6	胎児・乳幼児期の母子保健	胎児期から乳幼児期にいたる過程での母子保健対策を、資料を基にして受講者間で討論する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
7	学童期の母子保健	体格の変化、初潮など、この時期の母性の捉え方についてテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
8	思春期の母子保健、性教育	性教育に関する資料を用いて、小学校～中学、高校、大学ごとに性教育の内容とありかたを配布資料を中心に考える。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
9	こどもの心の保健～虐待、いじめ	虐待の現状をテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
10	予防接種各論	ワクチンに関するスライド、テキストと配布資料を用いて講義する。理解度チェックのための自己採点式ミニテストを行う。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。

11	こどもの事故防止と安全教育 ～事例を通して学ぶ	子どもの事故に関するマスコミ報道(新聞記事など)を通して事故予防策を考える。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
12	母子の疾病と異常(1)	母親の疾病に関してテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
13	母子の疾病と異常(2)	子どもの疾病に関してテキストと配布資料を中心に講義する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
14	障害児の母子保健～事例	障害児の母子保健について、テキストと配布資料を中心に講義し、あわせて事例を通してそのあり方を考える。自己採点式のミニテストを実施する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	前回の復習と次回の予習を行い、内容に関して自分の意見を述べられるようしておく。
15	これからの母子保健の課題、まとめ	母子保健の今後の課題について討論する。また関連ビデオを視聴して考えを述べ合う。	今回の講義シリーズを振り返ってこれからの母子保健のあり方に関して自分の意見を述べられるようにする。
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価(評価方法・基準)			
(1) 筆記試験	講義全範囲を対象として期末テストとして行う。		
(2) 課題発表	内容に関する課題の発表を評価する。		
(3) 中間ミニテスト	理解度確認のために講義3～4回ごとに1回ミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。		
(4) 授業態度	授業中の態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。		
最終的に(1)60% (2)10% (3)20% (4)10%の割合で総合評価する。			
教科書			
書名: 母子保健学 著者名: 海野信也、渡辺 博 発行所: 診断と治療社 価格: 2,900円(税別)			
その他補足事項			
毎回、講義内容に関するビデオを視聴し、意見を述べあう。			

授 業 科 目 名	福祉住環境演習	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: <small>なかまる かずし</small> 中丸 一志	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>わが国は、世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入している。このような状況下、福祉を学ぶ者として、医療、福祉住環境について、総合的な知識を身につけておく必要がある。この演習では、福祉住環境コーディネーターの学習を通して、高齢者や障害者の住環境を構築するうえで、福祉住環境整備を統括して見わたることができる人材としての知識を学ぶ。また、アクティブラーニングとして、福祉住環境コーディネーター検定試験問題の検討を行い、施設見学及び福祉用具ショールーム視察の事前・事後学習のレポートを作成する。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
福祉住環境コーディネーター2級の資格取得を目指す。	目標	A
高齢者や障害者に対し、できるだけ自立した、いきいきと生活できる住環境を提案できる。	目標	A J K L
コーディネーターとして、福祉に関わる各職種間のコミュニケーションが取れる。	目標	J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・演習の目標、進め方 ・演習選択の理由・目標	授業計画・映像プレゼンテーション・配布資料	演習選択理由及び目標確認
2	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査
3	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査
4	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査
5	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション・配布資料	高齢者・障害者の環境調査

6	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション・配布資料	自立支援のあり方について調査
7	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション・配布資料	自立支援のあり方について調査
8	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	疾患・障害に関する調査
9	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	疾患・障害に関する調査
10	疾患別・障害別に見た不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	疾患・障害に関する調査
11	相談援助の考え方と福祉住環境整備の考え方	映像プレゼンテーション・配布資料	相談援助に関する調査
12	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備に関する調査
13	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備についての調査
14	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備についての調査
15	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉住環境整備についての調査
16	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉用具に関する調査
17	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション・配布資料	福祉用具に関する調査
18	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
19	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
20	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
21	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
22	福祉住環境コーディネーター検定筆記試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
23	本学建築(宮代キャンパス)視察	身障者用トイレ・スロープ・介護実習室	事前・事後学習レポート提出
34	福祉用具ショールーム視察	福祉用具の実際を視察	事前・事後学習レポート提出
25	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
26	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
27	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
28	福祉住環境事例の検討 福祉関係ビデオ閲覧	配布資料 映像プレゼン	福祉住環境整備に関する調査
29	福祉住環境コーディネーター検定記述試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
30	福祉住環境コーディネーター検定記述試験問題の検討	配布資料	試験問題の調査
期末試験	問題集・事例・福祉関係ビデオから筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 筆記試験 80点満点の記述方式テストを学期末に実施。			
(2) レポート レポートは20点満点とする。(視察時の事前・事後学習レポート)			

教科書	参考書
使用しない	書名:福祉住環境コーディネーター検定試験2級 公式テキスト 改訂5版 著者名:東京商工会議所 発行所:東京商工会議所 価格:4,500円(税別)
その他補足事項	
視察場所への交通費(1,100円程度)は学生個人負担となります。	

授 業 科 目 名	保育相談支援	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^の ぎき ^み きこ 野崎 美紀子	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応します。初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
保育士	〃	必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
複雑・多様化している社会状況の中で、子育て期における家庭・保護者は様々な問題に直面している。保護者に対する保育相談支援の必要性とその意義を、事例検討・演習等により理解し、考察を深めていく。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
自分たちの生きる社会の現状を認識し、課題を考察する過程を重要視することができるようになる。	目標	A C J L
保護者の置かれている社会的背景と個性を理解し、支援の基本を学ぶことができる。	目標	A C J L
保育の専門性を生かした保護者支援の遂行のために求められる基礎としての「個別援助技術」、保護者との信頼関係構築のための知識・技術を学ぶことができる。	目標	A C J K L
保護者の困難を正しく共感・受容する態度を専門性のあり方として学びながら、学生自ら、自身の人間性を高める重要性に気づくことができるように一人ひとりの資質向上を目指す。	目標	A C J K L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標について (2) 評価方法・内容についての留意点	授業計画 教科書	
2	家庭の意義と機能について 「私の育った環境・成育歴」—成長過程を振り返る(就学前・学童期・中高時代一人との関わり)	教科書 保育所保育指針 演習	「私の育った環境・成育歴」 レポート提出①

3	保育相談支援の意義 子ども・家庭をとり巻く社会状況・その変容の背景・「保育所保育指針」の内容の骨子等	教科書 保育所保育指針 新聞記事資料・資料①	教科書予習 p.17～22 新聞記事感想 レポート提出②
4	保育相談支援の基本Ⅰ—子どもの最善の利益— (1) 保育士の倫理及び実践上の価値 (2) 子どもの人権と権利	教科書 全国保育士会倫理綱領 資料② ③ 演習	教科書予習 p.25～30
5	保育相談支援の基本Ⅱ—保護者との共感 保育相談支援の基本Ⅲ—信頼関係の形成	教科書 新聞記事資料 事例検討	教科書予習 p.33～44
6	保育相談支援の基本Ⅳ —地域の関係機関との連携・協力	教科書 資料④ 事例検討・エコマップ作成	教科書予習 p.49～55 次週小テスト
7	保育相談支援の実際Ⅰ・Ⅱ —保育に関する保護者に対する支援—その内容 小テスト	教科書 保育所保育指針	教科書予習 p.64～70
8	保育相談支援の実際Ⅲ —保護者支援の方法と技術—	教科書 演習・ロールプレイ	教科書予習 p.73～80
9	保育相談支援の実際Ⅳ —保護者支援の計画・記録・評価・カンファレンス	教科書 演習・グループ討議 ワーク・シート作成	教科書予習 p.81～86
10	児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ —保育所における保育相談支援の実際— 意義と方法	教科書 ワーク・シート	教科書予習 p.89～95
11	児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ —保育所における特別な対応を要する家庭への支援	教科書 資料⑤ 演習	教科書予習 p.97～103
12	児童福祉施設における保育相談支援Ⅲ —障がい児施設における保育相談支援 —母子生活支援施設における保育相談支援	教科書 新聞記事資料	教科書予習 p.105～116 記事資料を読む
13	児童福祉施設における保育相談支援Ⅳ —児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援	教科書 新聞記事資料 演習・グループ討議	新聞記事について レポート提出③
14	保育士に求められる保育相談支援	教科書 保育所保育指針 事例討議・グループ討議	全体の復習
15	まとめ(授業の振り返り・総括)	資料⑥ 教科書	
期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
到達度の評価（評価方法・基準）			
筆記試験：期末試験 40%			
課題レポート・小テスト 40%			
演習等受講の姿勢 20%			
教科書		参考書	
書名：保育相談支援 著者名：大嶋恭二・金子恵美 編著 発行所：建帛社 価格：1,800円(税別)		書名：家庭支援論 著者名：小田 豊・日浦直美・中橋美穂 編著 発行所：北大路書房 価格：1,700円(税別)	
その他補足事項			
参考とする文献・図書については随時講義において紹介し、提示する。			

授 業 科 目 名	施設防犯防災対策	授業形態・単位数	講義・1単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:非常勤講師 氏名: ^{やまむら たつお} 山村 達夫 本務先:(社福) 藹藹会 職名:理事長	開 講 期	後期
		授 業 回 数	8回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問を受け付ける。 オフィスアワー等については初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
キーワード：危機管理 利用者の安全管理および衛生管理 組織防衛 自己の危機管理 いま、福祉、および就学前教育の世界は、制度改革において大きな転換期を迎えようとしている。筆者は、保育園、幼稚園、障害者施設を運営管理する立場にあり、新卒の学生等を採用する立場でもある。そこでは、学生が理論や理想のみで就職し、現実と向き合った時に戸惑う姿を数多く見ている。その理由のひとつは、現実をイメージできる機会が少ないこと、組織防衛にのみならず、学生自身のコミュニケーション能力の欠如、すなわち自己の危機管理の不足ということがあげられる。本講座では、実践現場で起こっているエピソードやネットワークカメラを使用し、現実を紹介しながら組織防衛について考える。講義を聞きながら関心のあるテーマを各自見つけ、危機管理について理解を深めるためにレポートする。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1 将来、福祉の現場等に就職した際に直面する危機管理の重要性について理解を深め、実践に役立てることができる。	目標	J K
2 授業では、対話を重視し、コミュニケーション能力の向上に資することができる。	目標	I L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 危機管理の必要性 福祉施設におけるコンプライアンスについて	PP ネットワークカメラ	復習：講義ノートの整理 予習：新聞の記事から危機管理に関する事柄を読む
2	安全、防災管理の原理、原則	ネットワークカメラ	復習：講義ノートの整理 予習：新聞の記事から危機管理に関する事柄を読む

3	子ども、利用者自身の事案への対応	ネットワークカメラビデオ 「安全に関する幼稚園の 避難訓練の実例」(5分)	復習:講義ノートの 整理 予習:新聞の記事か ら危機管理に関する 事柄を読む
4	子どもと子どもの関係、利用者間のなかで起きる事案への対応	ネットワークカメラビデオ 「安全に関する幼稚園の 避難訓練の実例」(5分)	復習:講義ノートの 整理 予習:新聞の記事か ら危機管理に関する 事柄を読む
5	子ども(利用者)と保育者(職員)との関係のなかで起きる 事案への対応	ネットワークカメラビデオ 「安全に関する幼稚園の 避難訓練の実例」(5分)	復習:講義ノートの 整理 予習:新聞の記事か ら危機管理に関する 事柄を読む
6	衛生管理の原理、原則	ネットワークカメラビデオ 「安全に関する幼稚園の 避難訓練の実例」(5分)	復習:講義ノートの 整理 予習:新聞の記事か ら危機管理に関する 事柄を読む
7	危機管理とアカウントビリティ	ネットワークカメラビデオ 「安全に関する幼稚園の 避難訓練の実例」(5分)	復習:講義ノートの 整理 予習:新聞の記事か ら危機管理に関する 事柄を読む
8	実践対応マニュアルを読む危機管理と内部監査	ネットワークカメラビデオ 「安全に関する幼稚園の 避難訓練の実例」(5分)	レポート作成
到達度の評価 (評価方法・基準)			
学生の授業態度(主体的な発言、発表等)40%、レポートの提出60%により評価する。 詳細は初回時に説明する。			
教科書			
使用しない			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	施設実習 II	授業形態・単位数	実習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{えんどう としみ} 遠藤 寿海	開 講 期	時間割外
		授 業 回 数	実習10日間
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—
オフィスアワー・メールアドレス等	実習事前指導の際、詳しく説明する。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
保育士	〃	選択必修	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>保育士資格取得のための学外実習として、保育所以外の児童福祉施設等にて10日間の実習を行うものである。施設実習IIの実習形態は観察実習、部分実習、責任実習となる。実習形態のほか、実習時間、実習クラス等について、実習先施設の指示に従うこととする。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。	目標	K
2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。	目標	G J K L
3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目標	E G J K L
4.保育士としての自己の課題を明確化する。	目標	G J K L

実習の内容
<p>10日間の実習期間中、次の内容について学び、理解する。</p> <p>1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</p> <p>2. 施設における支援の実際</p> <p>(1) 受容し、共感する態度</p> <p>(2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</p> <p>(3) 個別支援計画の作成と実践</p> <p>(4) 子どもの家族への支援と対応</p> <p>(5) 多様な専門職との連携</p> <p>(6) 地域社会との連携</p> <p>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</p> <p>4. 保育士としての自己課題の明確化</p>
到達度の評価（評価方法・基準）
<p>施設の評価に準じる。</p>
その他補足事項
<p><input type="checkbox"/> 実習施設の配当は、学生の希望を考慮しながら決定する。</p> <p><input type="checkbox"/> 実習に係る費用として実習委託費を別途徴収する。また、健康診断費用、腸内細菌検査費用、麻疹抗体検査費用等の自己負担がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 履修要件に満たないものは履修することはできない。詳細は「福島学院大学履修規程」にて確認をすること。</p>

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ 「ソーシャルワーク研究」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{えんどう としみ} 遠藤 寿海	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択	
精神保健福祉士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士、精神保健福祉士養成課程での学びの集大成として、国家試験指定科目のうち「共通科目」の振り返りとまとめを行う。グループ単位でのレポート作成及び成果発表による学び合いを通して、ソーシャルワーク実践に必要なとされている基礎的知識の蓄積と定着を図る。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①国や地方自治体が公表しているデータ等から現代社会における様々な福祉課題を推察することができるようになる。		目標 A C
②グループ学習を通して、自己の知識や経験を発揮しつつ、他者の行動や意見を受け入れながら、協力して課題を解決する力を身につける。		目標 A C D G
③様々な興味関心をもつ他者に対して、自分自身の学修成果を論理的に分かりやすく説明し、理解を得られる工夫ができるようになる。		目標 C G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーションとグループ編成 社会福祉士・精神保健福祉士に求められる基礎的知識	講義 配布資料	国家試験の出題傾向を理解する
2	第29回国家試験問題(共通科目)の振り返り①	個別ワーク 配布資料	
3	第29回国家試験問題(共通科目)の振り返り②	個別ワーク 配布資料	

4	人体の構造と機能及び疾病① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
5	人体の構造と機能及び疾病② グループレポートの発表 ミニテスト①	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
6	社会理論と社会システム① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
7	社会理論と社会システム② グループレポートの発表 ミニテスト②	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
8	現代社会と福祉① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
9	現代社会と福祉② グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
10	福祉行財政と福祉計画① グループレポートの発表 ミニテスト③	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
11	社会保障① 社会保障制度	配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
12	社会保障② 社会保険の概要／介護保険 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
13	社会保障③ 労災保険／雇用保険 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
14	社会保障④ 年金保険 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
15	社会保障⑤ 医療保険 グループレポートの発表 ミニテスト④	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
16	社会福祉法の理解 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
17	生活保護制度と生活保護の動向 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
18	成年後見制度と後見制度活用の動向 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
19	児童・障害者・高齢者虐待、DVの動向 グループレポートの発表 ミニテスト⑤	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
20	医療法改正及び医療費の動向 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
21	保健医療制度の概要 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
22	障害者総合支援法の概要① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
23	障害者総合支援法の概要② グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
24	発達障害者支援法の概要 グループレポートの発表 ミニテスト⑥	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
25	心理学理論と心理的支援① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
26	心理学理論と心理的支援② グループレポートの発表 ミニテスト⑦	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
27	地域福祉の理論と方法 地域包括ケアシステム グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習

28	地域福祉の理論と方法 地域福祉の推進方法 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
29	総括とふりかえり① 福祉制度の発展過程Ⅰ	配布資料	
30	総括とふりかえり② 福祉制度の発展過程Ⅱ ミニテスト⑧	配布資料	
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>グループによるレポート発表とそれに対するコメントを中心とした授業であるため、以下の観点から総合的に評価する。</p> <p>(1) グループ活動への参加態度と貢献度：30%</p> <p>(2) 発表レポートの充実度：30%</p> <p>(3) ミニテスト結果：40%</p>			
教科書		参考書	
<p>指定しない。 この授業や上級生からの情報等を吟味し、参考書、ワークブック等の購入を検討すること。</p>		<p>※2018年度版の出版時期を確認の上、購入を検討すること。</p> <p>書名：社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2018 共通科目編 著者名：社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：3,000円(税別)</p> <p>書名：社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2018 著者名：医療情報科学研究所・編集 発行所：メディックメディア 価格：4,800円(税別)</p> <p>書名：見て覚える！ 社会福祉士国試ナビ 2018 著者名：いとう総研資格取得支援センター 発行所：中央法規出版 価格：2,800円(税別)</p> <p>書名：見て覚える！ 精神保健福祉士国試ナビ 2018 著者名：いとう総研資格取得支援センター 発行所：中央法規出版 価格：2,800円(税別)</p> <p>その他、厚生労働白書、地方行政白書ビジュアル版、少子化社会対策白書、障害者白書、高齢社会白書等の白書・年次報告書がインターネット上で公表されているので、随時、参照すること。授業でも活用する。 官公庁、裁判所等が公表している最新データをチェックする習慣をつけること。</p>	
その他補足事項			
<p>社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験希望学生を履修対象として開講する科目である。 本科目を平成28年度以前に履修した学生に関しては、すでに単位認定されているため、履修の対象とならないが、自主的な学習を望む者の自由参加を認める。ただし、正規履修生と同様に、確実な出席と積極的な授業参加を求める。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	特別研究 「ソーシャルワーク研究」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{えんどう としみ} 遠藤 寿海	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	〃	選択	
精神保健福祉士	〃	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>社会福祉士、精神保健福祉士養成課程での学びの集大成として、国家試験指定科目のうち「共通科目」の振り返りとまとめを行う。グループ単位でのレポート作成及び成果発表による学び合いを通して、ソーシャルワーク実践に必要なとされている基礎的知識の蓄積と定着を図る。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
①国や地方自治体が公表しているデータ等から現代社会における様々な福祉課題を推察することができるようになる。	目標	A C
②グループ学習を通して、自己の知識や経験を発揮しつつ、他者の行動や意見を受け入れながら、協力して課題を解決する力を身につける。	目標	A C D G
③様々な興味関心をもつ他者に対して、自分自身の学修成果を論理的に分かりやすく説明し、理解を得られる工夫ができるようになる。	目標	C G

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーションとグループ編成 社会福祉士・精神保健福祉士に求められる基礎的知識	講義 配布資料	国家試験の出題傾向を理解する
2	第29回国家試験問題(共通科目)の振り返り①	個別ワーク 配布資料	
3	第29回国家試験問題(共通科目)の振り返り②	個別ワーク 配布資料	

4	人体の構造と機能及び疾病① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
5	人体の構造と機能及び疾病② グループレポートの発表 ミニテスト①	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
6	社会理論と社会システム① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
7	社会理論と社会システム② グループレポートの発表 ミニテスト②	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
8	現代社会と福祉① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
9	現代社会と福祉② グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
10	福祉行財政と福祉計画① グループレポートの発表 ミニテスト③	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
11	社会保障① 社会保障制度	配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
12	社会保障② 社会保険の概要／介護保険 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
13	社会保障③ 労災保険／雇用保険 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
14	社会保障④ 年金保険 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
15	社会保障⑤ 医療保険 グループレポートの発表 ミニテスト④	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
16	社会福祉法の理解 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
17	生活保護制度と生活保護の動向 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
18	成年後見制度と後見制度活用の動向 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
19	児童・障害者・高齢者虐待、DVの動向 グループレポートの発表 ミニテスト⑤	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
20	医療法改正及び医療費の動向 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
21	保健医療制度の概要 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
22	障害者総合支援法の概要① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
23	障害者総合支援法の概要② グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
24	発達障害者支援法の概要 グループレポートの発表 ミニテスト⑥	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
25	心理学理論と心理的支援① グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
26	心理学理論と心理的支援② グループレポートの発表 ミニテスト⑦	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
27	地域福祉の理論と方法 地域包括ケアシステム グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習

28	地域福祉の理論と方法 地域福祉の推進方法 グループレポートの発表	グループ学習 配布資料	予習・復習：授業範囲外の自主的な学習
29	総括とふりかえり① 福祉制度の発展過程Ⅰ	配布資料	
30	総括とふりかえり② 福祉制度の発展過程Ⅱ ミニテスト⑧	配布資料	
到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>グループによるレポート発表とそれに対するコメントを中心とした授業であるため、以下の観点から総合的に評価する。</p> <p>(1) グループ活動への参加態度と貢献度：30%</p> <p>(2) 発表レポートの充実度：30%</p> <p>(3) ミニテスト結果：40%</p>			
教科書		参考書	
<p>指定しない。 国家試験受験に向けて、自分に合った参考書、ワークブック等を購入すること。</p>		<p>※2018年度版の出版時期を確認の上、購入を検討すること。</p> <p>書名：社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2018 共通科目編 著者名：社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：3,000円(税別)</p> <p>書名：社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2018 著者名：医療情報科学研究所・編集 発行所：メディックメディア 価格：4,800円(税別)</p> <p>書名：見て覚える！ 社会福祉士国試ナビ 2018 著者名：いとう総研資格取得支援センター 発行所：中央法規出版 価格：2,800円(税別)</p> <p>書名：見て覚える！ 精神保健福祉士国試ナビ 2018 著者名：いとう総研資格取得支援センター 発行所：中央法規出版 価格：2,800円(税別)</p> <p>その他、厚生労働白書、地方行政白書ビジュアル版、少子化社会対策白書、障害者白書、高齢社会白書等の白書・年次報告書がインターネット上で公表されているので、随時、参照すること。授業でも活用する。 官公庁、裁判所等が公表している最新データをチェックする習慣をつけること。</p>	
その他補足事項			
<p>社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験希望学生を履修対象として開講する科目である。 本科目を平成28年度以前に履修した学生に関しては、すでに単位認定されているため、履修の対象とならないが、自主的な学習を望む者の自由参加を認める。ただし、正規履修生と同様に、確実な出席と積極的な授業参加を求める。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	特別研究 「臨床心理学研究」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	4年次
担当教員	職名:教授 氏名: <small>すぎやま</small> 杉山 <small>まさひこ</small> 雅彦 職名:助教 氏名: <small>きむら</small> 木村 <small>やすひろ</small> 泰博	開講期	通年
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心理学に関連してさらに研究として深めていくために必要な知識技術を習得し、その上で臨床心理学を中心に学生それぞれの関心に沿っての研究課題あるいは論文に関して基礎的な知識及び研究の現状に関して検討していく。本授業の前半はそれらに関する発表と討論、そしてその上で自らの興味に接近していくための資料をまとめる。授業の後半では関心領域に関して明確にし、具体的に研究のプロセスに関する理解を深め、考察が出来るデータを形成していく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
研究に必要な知識技術を習得する	目標	A B
自らの興味に関して先行研究を調べるなど、状況を明確にすることが出来る	目標	C K
先行研究などをまとめた上で、興味のある領域等を明確にし、発表する	目標	C K
興味ある領域のデータを収集し、考察する	目標	C K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	心理学を研究するとは	心理学研究に関して討論	心理学の研究方法を調べる
3	心理学の研究法	研究法に関して発表	研究法に関してまとめる
4	研究法と結果の整合性－質的研究と量的研究(担当:佐藤祐貴)	結果を明らかにするための方法の討論	質的研究と量的研究に関して調べる

5	研究法と結果の関連－質的研究と量的研究 (担当:佐藤祐貴)	特定の研究法によって何が分かるかの討論	質的研究と量的研究のまとめ
6	先行研究の必要性	先行研究はなぜ必要とされるかの議論	本の参考文献欄の検討、調べるための領域決定
7	先行研究を調べる	図書館にて先行研究を検索する	ダウンロードした文献の購読
8	先行研究の報告	ダウンロードした文献を報告し、検討する	ダウンロードした文献の購読とまとめ
9	研究対象を先行研究からまとめる (担当:渡部敦子)	必要な先行研究や資料のピックアップ	収集した資料のまとめ
10	研究対象のまとめ、研究をするとはどういうことか? (担当:渡部敦子)	研究の意義に関する討論	研究対象のまとめ
11	インタビュー	インタビューの試行	インタビューのまとめ
12	仮のデータによる被験者内分析	データ分析をグループで行う	被験者内分析のまとめ
13	被験者内分析の結果の発表	分析されたデータを討論する	群間比較を調べる
14	仮のデータによる群間比較の分析	データ分析をグループで行う	群間比較のまとめ
15	群間比較の結果の発表	分析されたデータを討論する	分析法に関するまとめ 心理学研究と分析に関するレポート
16	研究の対象と研究のプロセス (担当:渡部敦子)	研究プロセスの討論	研究プロセスのまとめ
17	研究のための準備 (担当:渡部敦子)	グループで研究対象の検討	研究対象に関する資料収集
18	臨床心理学の研究 (担当:佐藤祐貴)	臨床心理学の研究の特性に関する討論	臨床心理学の研究に関する資料検討
19	臨床心理学の研究2 (担当:佐藤祐貴)	臨床心理学の研究に関して発表	研究の対象に関する資料収集
20	それぞれの領域に関して研究を開始	資料を収集する	資料のまとめ
21	研究のための資料収集	資料を収集しまとめる	資料のまとめ
22	研究のための資料収集	資料から、手続きを明記する	資料のまとめと方法の記述
23	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
24	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
25	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
26	研究データ収集	データを収集する	データのまとめ
27	研究データ分析	データをまとめる	方法と結果の記述
28	研究データ分析	データをまとめる	結果と考察の記述
29	レポート執筆	研究のまとめ	レポートまとめ
30	研究結果発表	研究の発表、討論	本授業のまとめ
到達度の評価（評価方法・基準）			
前半と最後にレポートを課す。基本的に最終のレポートを作成するために授業が構成されており、前半のレポート20点、後半のレポートを50点で採点する。また討論をしながらの授業であり、討論への参加態度に関して30点で採点する。			
教科書			
使用しない			

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ / 特別研究 「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:教授 氏名: ^{ふじわら} 藤原 ^{まさこ} 正子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
心の健康と精神障がい者の地域生活支援についての演習を行う。病気によって失われる命や障がいによって損なわれる健康生活というWHOの指標からも、国民の心の健康の推進が求められる。本科目では、子どもの心の発達と家族支援について理解し、また、たまたま精神疾患を患った人が地域でその人らしく当たり前生きる生活支援事例を見ていく。並行して履修者各自が自分の関心あるテーマについて授業で発表し学び合い、小論文にまとめていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
心の健康を推進するために、各自ができること、身近な家族や学校・職場や地域の周りの人々ができること、そして政策レベルの課題について考えることができるようになる。	目標	A
子どもの心の発達を促す家族関係やそれに準ずる養育環境のあり方について理解する。	目標	A
精神障がいの特徴を理解し、認知機能障害を持つ精神障がい者が地域で当たり前暮らしている事例を通して、一人ひとりのリカバリーとその人らしい生き方と生活支援のあり方について互いに学び合うことができるようになる。	目標	I K
履修者各自の研究テーマを見つけ出し、情報収集・資料検索等を通して自分で調べた内容を発表した上で小論文にまとめる。	目標	D K

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こころの健康と精神保健福祉		各自のテーマ設定準備
2	精神障がい者の地域生活支援 ①不思議なレストラン プロローグ	プリント	発表資料準備 資料確認と整理
3	精神障がい者の地域生活支援 ②クッキングハウス誕生物語	ビデオ「統合失調症を生きる」20分	〃

4	アディクションー止めたいのに 止められない罪悪感	プリント	〃
5	精神障がい者の地域生活支援 ③いくつになっても希望はある〈恵子さんのこと〉	〃	〃
6	精神障がい者の地域生活支援 ④青春時代は病院だった 〈ユミ子さんのこと〉	〃	〃
7	子どもの心の発達と家族支援 ①症状の見立て方、心の安全基地	〃	〃
8	子どもの心の発達と家族支援 ②親の役割 子どもの養育としつけ	〃	〃
9	子どもの心の発達と家族支援 ③親の強制と過保護 支配性とコミュニケーションのパターン	〃	〃
10	子どもの心の発達と家族支援 ④分離と喪失 崩壊家庭と家庭不和	〃	〃
11	子どもの心の発達と家族支援 ⑤単身家族 絆の欠如 特別研究の小論文作成に向けたテーマ設定	〃	〃 各自の研究テーマを探す
12	子どもの心の発達と家族支援 ⑥親の逸脱 世代間サイクル	〃	発表資料準備 資料の確認と整理
13	統合失調症の認知機能リハビリテーション	〃	〃
14	テクノロジーによるリハビリテーション範囲の拡大 精神障害の予防	〃	〃
15	リカバリーのための統合的な見方と使命 各自の研究テーマ中間発表①	〃	〃 発表準備と発表後の修正
16	各自の研究テーマ中間発表②	発表テーマ別グルーピング	発表準備と発表後の修正
17	研究個別報告①	発表と質疑応答	〃
18	研究個別報告②	〃	〃
19	研究個別報告③	〃	〃
20	研究個別報告④	〃	〃
21	研究個別報告⑤	〃	〃
22	研究個別報告⑥	〃	〃
23	研究個別報告⑦	〃	〃
24	研究個別報告⑧	〃	〃
25	研究個別報告⑨	〃	〃
26	研究個別報告⑩	〃	〃
27	研究成果報告準備①	グループ討議	発表資料準備
28	研究成果報告準備②	〃	〃
29	特別研究発表①	発表と質疑応答	発表準備と感想文作成
30	特別研究発表②	〃	発表準備と感想文作成
到達度の評価（評価方法・基準）			
授業における自主的な発言、発表等授業の参加度50%、発表時のレポート内容、特別研究小論文等の課題の消化度および提出期限を守っているか等50%により評価する。自発的かつ適切な質疑応答であると認められる場合1回につき2点加点。詳しくは第1回目の授業に説明する。			

教科書	参考書
書名:不思議なレストラン 著者名:松浦幸子 発行所:教育史料出版会 価格:1,500円(税別)	書名:子どもの精神医学 著者名:マイケル・ラター 発行所:ルガル社 価格:6,600円 書名:精神障害と回復—リバーマンのリハビリテーション・マニュアル 著者名:R.P.リバーマン 発行所:星和書店 価格:6,600円(税別)
その他補足事項	
初回授業時に履修希望理由について200字程度書いて持参してください。	

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

平成29年度

授 業 科 目 名	特別研究 I (バリ島) 特別研究(バリ島)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名:兼任教授 氏名: ^{さとう} 佐藤 ^{あつこ} 敦子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	時間割外
		期 末 試 験 の 有 無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
1. 音楽や踊りを通して、現地の幼稚園や村の子どもたちと交歓交流を行う。 2. 現地でのバリダンスレッスン、模擬結婚式、ミスター&ミズバリコンテストに参加する等、バリ島の芸術文化を体験し、人々と触れ合うことにより、日本文化との比較研究を行う。 3. ガムラン音楽や踊りを通しての心の癒しを体験する。 4. ハラパン幼稚園（本学認定こども園の姉妹園）を訪問して、バリ島幼児教育の実際について学ぶ。 5. 毎週1回の練習（時間割外）および事前指導に必ず参加する。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	○ E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)
1.バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につけることができる。		目標 E F
2.バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、保育者としての表現力の向上を図ることができる。		目標 G I

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義・概要について 渡航手続き(1)	授業計画 資料配付	バリ島の事前学習をする
2	交歓交流について 渡航手続き(2)	〃	音楽交流について考えておく
3	バリ島の宗教・歴史(1) バリ島の芸術・文化、レポート提出について	〃	バリ島の事前学習をする
4	バリ島の地理(概説) 渡航手続き(3)	〃	〃
5	交流の練習(1) 渡航手続き(4)	ゲストスピーカーによる ダンス指導	交流の練習 時間外にも練習する

6	バリ島の宗教・歴史(2) 交流の練習(2)(アクティブ・ラーニング)	〃	〃
7	交流の練習(3)(アクティブ・ラーニング)	練習	〃
8	交流のダンス指導(1)	特別講師による特別講義	〃
9	交流の練習(4)(アクティブ・ラーニング)	練習・打合せ	〃
10	交流の練習(5)(アクティブ・ラーニング)	〃	〃
11	交流のダンス指導(2)	ゲストスピーカーによる ダンス指導	〃
12	交流のダンス指導(3)		〃
13	交流の練習(6)	歌とダンスの練習	交流の練習・渡航手 続き
14	交流の練習(7)	〃	〃
15	交流の練習(8)	〃	〃
16	交流の練習(9)	〃	〃
17	交流の練習(10)	〃	〃
18	研修旅行の実施(1) バリダンスレッスン①(1コマ)	バリ島海外研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研究
19	研修旅行の実施(2) タガス村での交流など(2コマ)	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	研修旅行の実施(3) ハラパン幼稚園訪問、園児との交流(1コマ)	〃	〃
22	研修旅行の実施(4) バリダンスレッスン②(1コマ)	〃	〃
23	研修旅行の実施(5) ケランビタン宮殿訪問他(5コマ)	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	事後指導(1)	レポート作成	レポートのまとめ
29	事後指導(2)	〃	〃
30	事後指導(3)(レポート発表)	レポート提出	〃
到達度の評価（評価方法・基準）			
1. 旅行前の事前研究(10%) 2. 現地で実施する交流の練習意欲と参加態度(15%) 3. 授業の出席、および事前練習への参加態度(20%) 4. 旅行中の参加態度(35%) (集団行動の円滑化への努力、マナー、現地バリ島の人々との交流への積極性、友人との協調性) * 旅行中の参加態度の詳細については、別途説明する。 5. 最終レポートの内容(20%) ※海外研修における現地研修については、病気等やむを得ない場合を考慮して5分の4以上の日数及び時数を出席すること。			

その他補足事項

- 1.履修届は5月20日までに行うこと。
- 2.ゲストスピーカー等による特別講義、交歓交流の練習など、授業時間外に実施する場合がある。
- 3.全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回実施する。
- 4.渡航手続は、全学科の空き時間等に設定するので、週に1回は参加すること。
- 5.現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておくこと。(現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい)
- 6.研修旅行中、持病(乗り物酔いを含む)のある方は、各自の責任において薬を持参すること。
- 7.団体で行動するので協調性を身に付けておくこと。(現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とする)
- 8.現地での体調管理については、最大限サポートをするが、自己管理、自己責任とする。
- 9.研修旅行参加に伴う「承諾書」は、必ず提出すること。
- 10.ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催する。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合がある。
- 11.最少催行人数は10名、最高催行人数は16名とする。

※海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化(テロ等)や、強度性の鳥インフルエンザが発症する等、十分な安全を確保できないと判断した場合、海外研修の実施を中止、または延期する場合がある。
なお、平成29年度の海外研修実施の有無、研修日程は4月中に決定する。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

平成29年度

授業科目名	特別研究 I /特別研究 (シンガポール)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	3・4年次
担当教員	職名:教授 氏名:中丸 一志 職名:准教授 氏名:呂 学如	開講期	後期
		授業回数	30回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	

授業の概要	授業の概要との対応項目	
<p>「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。また、それについての個別指導も行う。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目(受講して得られる力)	
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案等を学習できる。	目標	L
ホスピタリティとインバウンドのあり方、イノベーションを学べる。	目標	H J L
各自の興味ある分野(ビジネス、観光、デザイン、建築など)を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。	目標	J L

授業計画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配布資料	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポール共和国の歴史(歴史・人種・言語)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの経済・産業(貿易・観光)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
6	シンガポールの交通事情	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査

7	シンガポールの食文化	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
8	シンガポールの法律・入国手続きほか事前準備について	配布資料、インターネット検索	海外旅行の調査
9	現地での行動について(渡航前の最終確認)	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
10	現地体験①(4コマ)合同研修 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	現地での学習・研究
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	現地体験②(4コマ)合同研修 マーライオンパーク、幼稚園視察	〃	〃
15	〃	〃	〃
16	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	現地体験③(4コマ) テーマ別研修	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	現地体験④(4コマ) テーマ別研修	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	現地体験⑤(4コマ) テーマ別研修	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	最終レポート発表	プレゼン発表、事後指導	体験談発表
到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) レポート 事前20%、最終レポート40%で評価する。			
(2) 旅行中の行動態度 団体行動・グループ行動のあり方で40%評価する。			
教科書			
プリント資料を適宜配布し、各自の研究テーマに沿って指導する。			
その他補足事項			
シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となります。			
・その他			
(1) 最少催行人数を15名、最多催行人数を20名程度とする。なお、履修者が15名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が15名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となる。			
(2) 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月初旬より指導を開始する。			
(3) 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位に含めないこと。			
※国際情勢により中止もありえます。そのため、卒業に必要な単位数の積算には注意が必要です。			

平成29年度 福祉学部 福祉心理学科 前期学事・行事日程【学生用】

日曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	日	
1	土	月	木	土	火	金	1	
2	日	火	金	日	水		2	
3	月	水	土	月	木		3	
4	火	木	日	火	金	★わらし祭	4	
5	水	金	月	水	土	★わらし祭	5	
6	木	土	火	木	日	★セタ祭	6	
7	金	日	水	金	月	★セタ祭	7	
8	土	月	木	土	火	★セタ祭	8	
9	日	火	金	日	水	【相談援助演習Ⅱ】「精神保健福祉施設見学およびNSWとのディスカッション」 【相談援助演習Ⅱ】「障害者対象福祉施設見学およびNSWとのディスカッション」	9	
10	月	水	土	月	木	ボランティア・地域振興活動	10	
11	火	木	日	火	金	山の日	11	
12	水	金	月	水	土		12	
13	木	土	火	木	日		13	
14	金	日	水	金	月	夏期休暇	14	
15	土	月	木	土	火	夏期休暇	15	
16	日	火	金	日	水	夏期休暇	16	
17	月	水	土	月	木	14 (海の日) ⇒5/1	17	
18	火	木	日	火	金	14	18	
19	水	金	月	水	土	14	19	
20	木	土	火	木	日	14	20	
21	金	日	水	金	月	14	21	
22	土	月	木	土	火		22	
23	日	火	金	日	水		23	
24	月	水	土	月	木	15	24	
25	火	木	日	火	金	15	25	
26	水	金	月	水	土	15	26	
27	木	土	火	木	日		27	
28	金	日	水	金	月		28	
29	土	月	木	土	火	駅前補講日	29	
30	日	火	金	日	水		30	
31	月	水	土	月	木	駅前補講日	31	
備	前期未試験 8月1日～3日および7日～8日							
考	回数		回数		回数		前期合計	
	月	3	月	4	月	4	月	15
	火	3	火	4	火	4	火	15
	水	3	水	4	水	4	水	15
	木	3	木	4	木	4	木	15
	金	3	金	5	金	5	金	15
	土	0/8	土	2/8	土	2/8	土	8/8

平成29年度 福祉学部 福祉心理学科 後期学事・行事日程【学生用】

日曜日	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	曜日	日	曜日	曜日	日	曜日	曜日	日	曜日	曜日	日	曜日	曜日	日	曜日	曜日	日	
1	日	水	5	金	8	月	元日 年始休暇	木	後期末試験	木	後期末試験	木	教職免許一括出願	1				
2	月	木	5	土		火	年始休暇	火	後期末試験	金	後期末試験	金	卒業学年成績発表	2				
3	火	金	文化の日	日	10	水	文化の日	水	年始休暇	土	年始休暇	土		3				
4	水	土		月	10	木		木		日		日		4				
5	木	日		火	10	金		金	※1 後期末試験	月	※1 後期末試験	月		5				
6	金	月	6	水	10	土		土	◆ 後期末試験	火	◆ 後期末試験	火		6				
7	土	火	6	木	9	日		日	後期末試験	水	後期末試験	水		7				
8	日	水	6	金	9	月	成人の日	月	後期末試験	木	後期末試験	木		8				
9	月	木	6	土		火	13	火	後期末試験	金	後期末試験	金		9				
10	火	金	5	日		水	13	水		土		土		10				
11	水	土		月	11	木	12	木	建国記念の日	日	建国記念の日	日		11				
12	木	日		火	11	金	12	金	振替休日	月	振替休日	月		12				
13	金	月	7	水	11	土		土		火		火		13				
14	土	火	7	木	10	日		日		水		水		14				
15	日	水	7	金	10	月	13	月	創立記念日	木	創立記念日	木		15				
16	月	木	7	土		火	14	火	◆	金	◆	金	学位授与式(会場未定)	16				
17	火	金	6	日		水	14	水		土		土		17				
18	水	土		月	12	木		木		日		日		18				
19	木	日		火	12	金	13	金	再試験①	月	再試験①	月		19				
20	金	月	8	水	12	土		土	再試験②	火	再試験②	火		20				
21	土	火	8	木	11	日		日		水		水	春分の日	21				
22	日	水	8	金	11	月	14	月		木		木		22				
23	月	木	勤労感謝の日	土		火	15	火		金		金		23				
24	火	金	7	日		水	15	水		土		土		24				
25	水	土	相談援助講習・講師修習研修会 （関係団体等）	月		木	14	木	天童誕生日 授業日(10/13金午後、 10/16月午前の授業分)	日		日		25				
26	木	日		火		金	14	金	補講日	月		月	成績発表・履修確認	26				
27	金	月	9	水		土		土	ご家族就職説明会(2、3年生)	火		火		27				
28	土	火	9	木		日		日		水		水		28				
29	日	水	9	金		月	15	月	年末休業	木		木		29				
30	月	木	8	土		火	15	火	年末休業	金		金		30				
31	火	金		日		水	15	水	年末休業	木		木		31				
備考			回数 月 4 火 4 水 4 木 4 金 3.5		回数 月 3.5 火 3 水 3 木 3 金 4.5		回数 月 3 火 3 水 3 木 4 金 4		後期末試験 2月1日～9日 ※1 ◆次年度履修登録期間(在学生)		回数 月 15 火 15 水 15 木 15 金 15		平成30年度入学式(案) 4月7日(土)会場未定					